

気仙沼市文化財調査報告書第11集

# 台の下遺跡

防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業

(大沢A地区)に伴う発掘調査報告書1

2018

気仙沼市教育委員会

# 台の下遺跡

防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業

(大沢 A 地区) に伴う発掘調査報告書 1



## 序　文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震が引き起こした巨大津波は、東日本の沿岸部を襲い、本市においても沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらしました。被災家屋約 26,000 棟、被災世帯約 9,500 世帯、1,300 人を超える尊い命が犠牲となりました。

未曾有の大震災からの一日も早い復旧・復興を目指し、個人での住宅再建をはじめ、高台への集団移転、各種産業施設やインフラ関係等で大規模な復興事業に伴い、埋蔵文化財とのかかわりが急増いたしました。

本市には、縄文時代の貝塚や集落跡、中世の城館跡など 180 ケ所以上の遺跡が知られていますが、これらの多くは沿岸部の丘陵地帯に立地しているため、津波の浸水域を避けた土地を求める場合、必然的に埋蔵文化財とのかかわりが発生する可能性が増大するという地理的な状況にあります。

気仙沼市教育委員会では、復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との両立を図るため、専門職員の新規採用や再任用、任期付職員の採用に加え、宮城県や他の自治体へ派遣要請を行い、埋蔵文化財に対応する専門職員を確保するほか、宮城県教育委員会はじめ関係機関に調査支援を要請するなど調査体制を整備してまいりました。

本書は、平成 25 年度に実施した大沢 A 地区の防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査成果を集成した報告書であります。収録した考古学的成果は、これまであまり知られていなかった当地域の歴史を解明する貴重な資料となるものです。太古から幾多の大津波や自然災害を克服しながら、手強い海と深くかかわる一方、豊かな海の恩恵を受け、この地に根差した文化を育んできた人びとの営みの一端を記録し伝えることが地域の再発見につながるとともに、大震災後の本市の復旧・復興に向けたまちづくりの一助となれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、発掘調査から報告書刊行まで御協力頂きました宮城県教育委員会、本市の埋蔵文化財発掘調査のため支援を頂いた派遣職員の皆様並びに派遣元自治体の皆様、発掘作業・整理作業に従事された方々など、多くの関係者・関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 30 年 3 月

気仙沼市教育委員会

教育長 斎藤 益男



## 例　　言

1 本書は、東日本大震災の復興事業である防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大沢A地区）に伴う台の下遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査は、気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の支援を受けて実施した。

3 整理・報告書作成作業は、平成25年度から開始し、平成26～29年度にかけて本格的に実施した。遺構は、各調査担当者の作成した記録に基づいて、古田和誠がまとめた。遺物の整理作業について、土器・石器等の人工遺物は原田享二・森幸一郎・永濱功治（鹿児島県派遣）、和田理啓（宮崎県派遣）、古田、動物遺存体は西村　力が行った。

4 本書で使用した測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。なお、方位Nは座標北を表している。使用した測量基準点の座標は以下のとおりである。

H24D-1301 : X = -114987.929      Y = 68712.183      Z = 19.757

D1A-014 : X = -114914.726      Y = 68778.507      Z = 34.089

5 本書の第4図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図「鹿折」「陸前広田」「今泉」「大船渡」を複製して作成した。

6 使用した遺構略号は以下の通りである。

SI : 堪穴建物跡    SB : 掘立柱建物跡    SK : 土坑    SD : 溝跡    P : 柱穴・ピット

SX : 堪穴状遺構・焼土遺構・性格不明遺構・遺物包含層・貝層・自然流路跡

7 土色の記述にあたっては、『新版標準土色帖』（小山・竹原 1996）を用いている。

8 遺構図及び遺物図の縮尺は、それぞれスケールを付して示しているが、原則として以下のとおりである。

遺構 堪穴建物跡・堪穴状遺構・土坑・溝跡：1/60、掘立柱建物跡・遺物包含層：1/100、

炉跡・焼土遺構：1/30

遺物 土器・円盤状土製品・石棒類：1/3、土製品・剥片石器・その他の石製品・古銭：2/3、

石斧：1/2、礫石器：1/3・1/4

9 遺物図において、土師器のスクリーントーンは内面の黒色処理、礫石器のスクリーントーンは磨面の範囲を示している。

10 発掘作業における実測図作成及び写真撮影は、調査担当者が行った。

11 一部の遺物を除く遺物の実測及び写真撮影業務は株式会社バスコに委託した。

12 本書の執筆は、第4章（1）④動物遺存体を西村、その他の執筆・編集を古田が行った。

13 出土遺物及び実測図・写真等の記録類は、気仙沼市教育委員会が保管している。

## 目 次

序文

例言

目次

第1章 経緯と経過	1
1. 調査の経緯	1
2. 発掘調査の方針	2
3. 調査の経過	2
4. 整理作業・報告書作成の経過	4
第2章 遺跡の概要	5
1. 遺跡の位置と地理的環境	5
2. 周辺の遺跡	6
第3章 調査の成果	9
1. 方法	9
(1) 調査の方法	9
(2) 整理の方法	9
(3) 報告書の記載について	10
2. 検出状況と基本層序	10
3. 発見された遺構と遺物	17
(1) 1区	17
① 土坑	17
② その他の遺構と遺構外出土遺物	38
(2) 2区	39
① 竪穴建物跡	39
② 土坑	42
③ その他の遺構	43
④ 遺構外出土遺物	45
(3) 3区	46
① 掘立柱建物跡	46
② 竪穴状遺構	49
③ 土坑	49
④ その他の遺構	61
⑤ 遺構外出土遺物	62

(4) 4 区	63
① 竪穴建物跡	63
② 挖立柱建物跡	107
③ 竪穴状遺構	110
④ 焼土遺構	112
⑤ 土坑	113
⑥ 遺物包含層	142
⑦ その他の遺構	152
⑧ ピットと遺構外出土遺物	154
(5) 5 区	156
第4章 総括	159
1. 縄文時代	159
(1) 遺物	159
① 縄文土器	159
② 土製品	166
③ 石器・石製品	168
④ 動物遺存体	171
(2) 遺構	172
① 竪穴建物跡	172
② 挖立柱建物跡	175
③ 竪穴状遺構	176
④ 土坑	176
⑤ 遺物包含層・貝層	177
(3) 遺構の変遷	177
2. 古代以降	180
(1) 平安時代の遺構と遺物	180
(2) その他の遺構と遺物	180
3. まとめ	180
引用文献	181
写真図版	183
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 事業概略図	1	第5図 台の下道路の基本層序	10
第2図 確認調査トレンチ配置図	3	第6図 1区遺構配置図	11
第3図 台の下道路の位置	5	第7図 2区遺構配置図	12
第4図 台の下道路の位置と周辺の遺跡	7	第8図 3区遺構配置図	13

第 9 図	4 区道構配置図 (1) .....	14
第 10 図	4 区道構配置図 (2) .....	15
第 11 図	5 区道構配置図 .....	16
第 12 図	1 区 SK01・02 土坑と出土遺物 .....	18
第 13 図	1 区 SK07 土坑と出土遺物 .....	19
第 14 図	1 区 SK09・10・13 土坑と出土遺物 .....	20
第 15 図	1 区 SK15 土坑と出土遺物 .....	21
第 16 図	1 区 SK15 土坑出土遺物 .....	22
第 17 図	1 区 SK21 土坑出土遺物 .....	23
第 18 図	1 区 SK21・22・28・29・30 土坑 .....	24
第 19 図	1 区 SK22 土坑出土遺物 .....	25
第 20 図	1 区 SK29 土坑出土遺物 .....	26
第 21 図	1 区 SK25 土坑 .....	27
第 22 図	1 区 SK25 土坑出土遺物 .....	28
第 23 図	1 区 SK24 土坑 .....	29
第 24 図	1 区 SK24 土坑出土遺物 (1) .....	30
第 25 図	1 区 SK24 土坑出土遺物 (2) .....	31
第 26 図	1 区 SK24 土坑出土遺物 (3) .....	32
第 27 図	1 区 SK12 土坑と出土遺物 .....	33
第 28 図	1 区 SK35・36 土坑と出土遺物 .....	34
第 29 図	1 区 SK57・58 土坑と出土遺物 .....	35
第 30 図	1 区 SK58 土坑出土遺物 .....	36
第 31 図	1 区 SK38・43 土坑と出土遺物 .....	36
第 32 図	1 区 SK59 土坑と出土遺物 .....	37
第 33 図	1 区道構外出土遺物 .....	38
第 34 図	2 区 SI101 壓穴建物跡 .....	39
第 35 図	2 区 SI101 壓穴建物跡出土遺物 .....	40
第 36 図	2 区 SI105 壓穴建物跡 .....	41
第 37 図	2 区 SI105 壓穴建物跡出土遺物 .....	42
第 38 図	2 区 SK114 土坑 .....	42
第 39 図	2 区 SX106 自然流路跡 .....	43
第 40 図	2 区 SX106 自然流路跡出土遺物 .....	44
第 41 図	2 区道構外出土遺物 .....	45
第 42 図	3 区 SB187 挖立柱建物跡と出土遺物 .....	46
第 43 図	3 区 SB187 挖立柱建物跡出土遺物 (1) .....	47
第 44 図	3 区 SB187 挖立柱建物跡出土遺物 (2) .....	48
第 45 図	3 区 SX152 壓穴状道構 .....	50
第 46 図	3 区 SX152 壓穴状道構出土遺物 .....	51
第 47 図	3 区 SK154・155 土坑 .....	52
第 48 図	3 区 SK154・155 土坑出土遺物 .....	53
第 49 図	3 区 SK156・165 土坑と出土遺物 .....	54
第 50 図	3 区 SK156 土坑出土遺物 (1) .....	55
第 51 図	3 区 SK156 土坑出土遺物 (2) .....	56
第 52 図	3 区 SK157・158 土坑と出土遺物 .....	57
第 53 図	3 区 SK159・160 土坑と出土遺物 .....	58
第 54 図	3 区 SK164・167 土坑 .....	59
第 55 図	3 区 SK164・166 土坑出土遺物 .....	60
第 56 図	3 区 SK166 土坑 .....	61
第 57 図	3 区 SD151 溝跡 .....	62
第 58 図	3 区道構外出土遺物 .....	62
第 59 図	4 区 SI61 壓穴建物跡 .....	64
第 60 図	4 区 SI61 壓穴建物跡複式炉 .....	65
第 61 図	4 区 SIG1 壓穴建物跡出土遺物 .....	66
第 62 図	4 区 SI62 壓穴建物跡 .....	67
第 63 図	4 区 SI62A 壓穴建物跡と複式炉 .....	68
第 64 図	4 区 SI62B 壓穴建物跡 .....	69
第 65 図	4 区 SI62B 壓穴建物跡複式炉 .....	70
第 66 図	4 区 SI62C 壓穴建物跡 .....	71
第 67 図	4 区 SI62C 壓穴建物跡複式炉 .....	72
第 68 図	4 区 SI63 壓穴建物跡 .....	73
第 69 図	4 区 SI62A・C 壓穴建物跡出土遺物 .....	74
第 70 図	4 区 SI62C 壓穴建物跡出土遺物 (1) .....	75
第 71 図	4 区 SI62C 壓穴建物跡出土遺物 (2) .....	76
第 72 図	4 区 SI63A 壓穴建物跡と複式炉 .....	78
第 73 図	4 区 SI63B 壓穴建物跡複式炉 .....	80
第 74 図	4 区 SI63B 壓穴建物跡と出土遺物 .....	81
第 75 図	4 区 SI63B 壓穴建物跡出土遺物 .....	82
第 76 図	4 区 SI63C 壓穴建物跡 .....	84
第 77 図	4 区 SI63C 壓穴建物跡複式炉 .....	85
第 78 図	4 区 SI63C 壓穴建物跡出土土器 .....	86
第 79 図	4 区 SI63C 壓穴建物跡出土土器 (1) .....	87
第 80 図	4 区 SI63C 壓穴建物跡出土土器 (2) .....	88
第 81 図	4 区 SI67 壓穴建物跡 .....	89
第 82 図	4 区 SI67 壓穴建物跡出土遺物 (1) .....	90
第 83 図	4 区 SI67 壓穴建物跡出土遺物 (2) .....	91
第 84 図	4 区 SI69 壓穴建物跡 .....	92
第 85 図	4 区 SI69A 壓穴建物跡 .....	93
第 86 図	4 区 SI69B 壓穴建物跡と複式炉 .....	95
第 87 図	4 区 SI69B 壓穴建物跡出土遺物 .....	96
第 88 図	4 区 SI71 壓穴建物跡と複式炉 .....	98
第 89 図	4 区 SI71 壓穴建物跡出土土器 .....	99
第 90 図	4 区 SI72 壓穴建物跡 .....	99
第 91 図	4 区 SI72A 壓穴建物跡と複式炉 .....	101
第 92 図	4 区 SI72A 壓穴建物跡出土遺物 .....	102
第 93 図	4 区 SI72B 壓穴建物跡と複式炉 .....	103
第 94 図	4 区 SI72B 壓穴建物跡出土土器 .....	104
第 95 図	4 区 SI72C 壓穴建物跡 .....	105
第 96 図	4 区 SI72C 壓穴建物跡出土遺物 .....	106
第 97 図	4 区 SI73 壓穴建物跡と複式炉 .....	108
第 98 図	4 区 SB243・244 挖立柱建物跡 .....	109
第 99 図	4 区 SB245 挖立柱建物跡 .....	110
第 100 図	4 区 SX70・SX87 壓穴状道構 .....	111
第 101 図	4 区 SX70 壓穴状道構出土遺物 .....	112
第 102 図	4 区 SX236 烧土遺構 .....	112
第 103 図	4 区 SK75・79 土坑 .....	114
第 104 図	4 区 SK75・76 土坑出土遺物 .....	115
第 105 図	4 区 SK76 土坑出土土器 .....	116
第 106 図	4 区 SK80・81 土坑 .....	117
第 107 図	4 区 SK77 土坑出土遺物 .....	118
第 108 図	4 区 SK78・79 土坑出土遺物 .....	119
第 109 図	4 区 SK82・83 土坑と出土遺物 .....	120
第 110 図	4 区 SK88・90 土坑 .....	121
第 111 図	4 区 SK88・89 土坑出土遺物 .....	122
第 112 図	4 区 SK90 土坑出土遺物 .....	123
第 113 図	4 区 SK91・92 土坑と出土遺物 .....	124
第 114 図	4 区 SK95・98・99 土坑 .....	125

第 115 図	4 区 SK95・98 土坑出土遺物	126
第 116 図	4 区 SK98 土坑出土遺物	127
第 117 図	4 区 SK99 土坑出土遺物	128
第 118 図	4 区 SK85 土坑と出土遺物	129
第 119 図	4 区 SK85 土坑出土遺物	130
第 120 図	4 区 SK86 土坑出土遺物	130
第 121 図	4 区 SK86 土坑	131
第 122 図	4 区 SK202・203 土坑と出土遺物	132
第 123 図	4 区 SK203 土坑出土遺物	133
第 124 図	4 区 SK206 土坑出土遺物	134
第 125 図	4 区 SK66 土坑と出土遺物	135
第 126 図	4 区 SK68 土坑	136
第 127 図	4 区 SK74 土坑	136
第 128 図	4 区 SK200 土坑と出土遺物	137
第 129 図	4 区 SK210・211・212 土坑と出土遺物	138
第 130 図	4 区 SK212 土坑出土遺物	139
第 131 図	4 区 SK214 土坑と出土遺物	140
第 132 図	4 区 SK212 土坑と出土遺物	140
第 133 図	4 区 SK242 土坑出土遺物 (1)	141
第 134 図	4 区 SK242 土坑出土遺物 (2)	142
第 135 図	4 区 SX65 遺物包含層・貝層の遺物取り上 げ単位と出土土器の点数	143
第 136 図	4 区 SX65 遺物包含層・貝層	144
第 137 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (1)	145
第 138 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (2)	146
第 139 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (3)	147
第 140 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (4)	148
第 141 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (5)	149
第 142 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (6)	150
第 143 図	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (7)	151
第 144 図	4 区 SR215 窒跡	152
第 145 図	4 区 ST201 墓跡と出土遺物	153
第 146 図	4 区 ピットと道構外出土遺物	154
第 147 図	4 区 道構外出土遺物	155
第 148 図	5 区 SK301・322 土坑	157
第 149 図	5 区 SK302・303 土坑	158
第 150 図	2 群土器	161
第 151 図	3 群土器	163
第 152 図	4 ~ 7 群土器	165
第 153 図	斧状土製品・三角彫形土製品	167
第 154 図	石器分類図	169
第 155 図	石製品分類図	170
第 156 図	SX65 貝層の貝類組成	171
第 157 図	中期後業～末葉の堅穴建物跡に伴う炉	174
第 158 図	複式炉の類例	175
第 159 図	4 区の道構変遷図	178
第 160 図	1 区東の道構変遷図	179

## 表目次

第 1 表	発掘調査と整理作業の経過	2
第 2 表	遺跡内容表	8
第 3 表	1 区土坑一覧表	17
第 4 表	3 区土坑一覧表	49
第 5 表	4 区土坑一覧表	113
第 6 表	5 区土坑一覧表	156
第 7 表	道構ごとの縄文土器出土点数表	159

第 8 表	土製品出土点数表	167
第 9 表	石器・石製品出土点数表	169
第 10 表	SX65 貝層の動物遺存体出土状況	172
第 11 表	堅穴建物跡属性表	173
第 12 表	掘立柱建物跡属性表	175
第 13 表	縄文時代の主な道構の時期と重複関係	177

## 写真図版目次

写真図版 1	遺跡遠景	184
写真図版 2	1 区の土坑 (1)	185
写真図版 3	1 区の土坑 (2)	186
写真図版 4	1 区の土坑 (3)	187
写真図版 5	2 区 SI101・SI105 堅穴建物跡	188
写真図版 6	2 区 SX106 自然流路跡、Ⅲ区全景ほか	189
写真図版 7	3 区の土坑と SX152 堅穴状道構	190
写真図版 8	3 区の土坑と SB187 掘立柱建物跡	191
写真図版 9	4 区 全景と堅穴建物跡	192
写真図版 10	4 区 SI61 堅穴建物跡	193
写真図版 11	4 区 SI62 堅穴建物跡	194
写真図版 12	4 区 SI63 堅穴建物跡	195
写真図版 13	4 区 SI67 堅穴建物跡	196
写真図版 14	4 区 SI69 堅穴建物跡	197
写真図版 15	4 区 SI71 堅穴建物跡、SX70 堅穴状道構	198
写真図版 16	4 区 SI72A 堅穴建物跡	199
写真図版 17	4 区 SI72B 堅穴建物跡	200

写真図版 18	4 区 SI72C 堅穴建物跡	201
写真図版 19	4 区 SI73 堅穴建物跡、SI243 掘立柱建物跡	202
写真図版 20	4 区の土坑 (1)	203
写真図版 21	4 区の土坑 (2)	204
写真図版 22	4 区の土坑 (3)	205
写真図版 23	4 区の土坑 (4) ほか	206
写真図版 24	4 区 SX65 遺物包含層	207
写真図版 25	4 区 ST201 墓跡、SR215 炭窯跡	208
写真図版 26	5 区全景、SK301 土坑	209
写真図版 27	5 区の土坑	210
写真図版 28	発掘調査風景	211
写真図版 29	1 区 SK01・02・07・13 土坑出土遺物	212
写真図版 30	1 区 SK12・21 土坑出土遺物	213
写真図版 31	1 区 SK15 土坑出土遺物	214
写真図版 32	1 区 SK24 土坑出土遺物	215
写真図版 33	1 区 SK22・24 土坑出土遺物	216
写真図版 34	1 区 SK25・29 土坑出土遺物	217

写真図版 35	1 区 SK35・36・38・43・57・58・59 土坑、遺構外出土遺物……………	218
写真図版 36	2 区 SI101・105 積穴建物跡出土遺物…	219
写真図版 37	2 区 SX106 自然流跡、遺構外出土遺物…	220
写真図版 38	3 区 SX152 積穴状遺構、SB187 挖立柱建物跡出土遺物 ………………	221
写真図版 39	3 区 SB187 挖立柱建物跡出土遺物…	222
写真図版 40	3 区 SK154・156 土坑出土遺物…	223
写真図版 41	3 区 SK155・156 土坑出土遺物…	224
写真図版 42	3 区 SK158・159・160・164・166 土坑、遺構外出土遺物……………	225
写真図版 43	4 区 SI61・62 積穴建物跡出土遺物…	226
写真図版 44	4 区 SI62 積穴建物跡出土遺物…	227
写真図版 45	4 区 SI63 積穴建物跡出土遺物 (1)…	228
写真図版 46	4 区 SI63 積穴建物跡出土遺物 (2)…	229
写真図版 47	4 区 SI67 積穴建物跡出土遺物…	230
写真図版 48	4 区 SI71・72 積穴建物跡、SX70 積穴状遺構出土遺物……………	231
写真図版 49	4 区 SI69 積穴建物跡、SK78 土坑出土遺物…	232
写真図版 50	4 区 SK75・77 土坑出土遺物 ………………	233
写真図版 51	4 区 SK76・79 土坑出土遺物 ………………	234
写真図版 52	4 区 SK83・88～91 土坑出土遺物 ………………	235
写真図版 53	4 区 SK85・92・99 土坑出土遺物 ………………	236
写真図版 54	4 区 SK95・98 土坑出土遺物 ………………	237
写真図版 55	4 区 SK200・202・203・206 土坑出土遺物…	238
写真図版 56	4 区 SK66・211・242 土坑出土遺物 ………………	239
写真図版 57	4 区 SK86・210・212・214 土坑、SX65 遺物包含層出土遺物……………	240
写真図版 58	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (1)…	241
写真図版 59	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (2)…	242
写真図版 60	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (3)…	243
写真図版 61	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (4)…	244
写真図版 62	4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (5)…	245
写真図版 63	4 区その他の遺構、遺構外出土遺物…	246

## 調査要項 (1 ~ 5 区)

遺 跡 名：台の下遺跡（宮城県遺跡地名表登載番号 63009）

所 在 地：宮城県気仙沼市唐桑町字台の下

調査原因：気仙沼市防災集団移転促進事業（大沢 A 地区）、灾害公営住宅整備事業（大沢 A 地区）

調査担当：気仙沼市教育委員会生涯学習課

調査協力：宮城県教育庁文化財保護課、気仙沼市防災集団移転促進課、大成建設株式会社

調査員：気仙沼市教育委員会生涯学習課

原田享二

宮城県教育庁文化財保護課

古田和誠、加藤勝仁（神奈川県派遣）、河村靖宏（広島県派遣）、佐々木好直（奈良県派遣）、中村幸弘（熊本県派遣）、伴瀬宗一（埼玉県派遣）、吉本健一（佐賀県派遣）、和田理啓（宮崎県派遣）

調査期間：平成 25 年 7 月 22 日～平成 26 年 1 月 24 日

調査面積：約 6,845m<sup>2</sup>

## 整理作業・報告書作成 (1 ~ 5 区)

平成 26 年度

担当 原田享二、森幸一郎（鹿児島県派遣）

協力 宮城県教育庁文化財保護課 和田理啓（宮崎県派遣）

委託 株式会社バスコ

平成 27 年度

担当 永濱功治（鹿児島県派遣）

協力 宮城県教育庁文化財保護課 和田理啓（宮崎県派遣）

委託 株式会社バスコ

平成 29 年度

担当 嘉野寛治

協力 宮城県教育庁文化財保護課 西村 力・古田和誠

# 第1章 経緯と経過

## 1. 調査の経緯

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の巨大津波により、三陸海岸の中央部に位置する気仙沼市は甚大な被害を受けた。約 9,500 世帯が被災し、住家約 12,000 戸が全半壊するなど、新たな居住地確保が必要となった。本市では平成 23 年 10 月 7 日に「気仙沼市震災復興計画」を策定し、いかなる規模の津波からも市民の生命及び財産を守ることができる安全なまちづくりを実現するため、高台や内陸部への防災集団移転や災害公営住宅整備を推進することとした。

台の下遺跡が所在する大沢地区は沿岸の平坦地に漁業集落が形成されていたが、浸水高 7m 以上の津波に襲われ、住家 114 戸が全壊した。本市は安心・安全な居住環境の整備を図るために地元の協議会と協議し、津波被害の恐れがない高台で既存集落や幹線道路に近い大沢地区の台の下（大沢 A 地区）と荒谷前（大沢 B 地区）への集団移転が計画された（第 1 図）。

平成 24 年 2 月 14 日、宮城県教育庁文化財保護課（以下県文化財保護課）、気仙沼市教育委員会（以下市教育委員会）、気仙沼市用地課の三者で集団移転候補地を踏査し、大沢 A 地区に周知の遺跡である台の下遺跡・台の下貝塚、大沢 B 地区に波怒棄館遺跡が所在することを確認した。市教育委員会・県文化財保護課は遺跡への影響が軽微となるような計画変更を要望した。

平成 24 年 4 月 19 日付けて、大沢地区防災集団移転事業計画と埋蔵文化財のかかわりについての協議書が提出された。埋蔵文化財発掘通知は平成 24 年 6 月 11 日付けて提出された。県文化財保護課、市教育委員会、気仙沼市防災集団移転促進課（以下市防災集団移転促進課）は三者で協議し、本事業に伴う発掘調査については、大沢 B 地区の波怒棄館遺跡を先行して調査し、調査終了後に継続して大沢 A 地区の台の下遺跡・台の下貝塚を調査することとなった。

平成 24 年 5 月 22 日に防災集団移転促進事業（大沢地区）が正式決定され、大沢 A 地区に住宅用地 30 区画と公営住宅用地を造成することとなり、測量、用地買収等に着手した。また、11 月 20 日には災害公営住宅事業（大沢地区）が正式決定され、災害公営住宅 28 戸が建設されることとなった。

確認調査は条件が整った平成 25 年 7 月 1 日から市教育委員会が主体で実施し、県文化財保護課が協力した。取付け道路部分からトレレンチを設定し調査したところ、台の下遺跡が所在する丘陵東側の平坦面（T1 ~ T7・11 ~ 13・19）で縄文時代の土坑や縄文土器・石器が確認された。この結果を受けて、平成 25 年 7 月 16 日に県文化財保護課、市教育委員会、市防災集団移転促進課の三者で協議・調整したが、復興事業を迅速に進めるため計画変更は困難と判断されたことから、遺構が検出された範囲に



第 1 図 事業概略図

ついて、市教育委員会が主体となり記録保存を目的とした本発掘調査を実施することとなった。また、調査期間を短縮するため、確認調査で遺構・遺物の分布が確認された範囲を隨時本発掘調査区に設定し、確認調査と併行して本発掘調査を実施することとした。

確認調査では最終的に 131 本のトレンチを設定し、約 3,500m<sup>2</sup>を調査した。本発掘調査が必要と判断された範囲は 8 地点（台の下遺跡 1～5 区、台の下貝塚 6～8 区）である（第 2 図）。

## 2. 発掘調査の方針

復興事業に伴う発掘調査の方法等については、宮城県教育委員会通知の平成 23 年 6 月 3 日付け文第 268 号「東日本大震災の復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて」において、「復興事業を円滑に推進するため、復興事業に伴う発掘調査等の実施にあたっては、宮城県発掘調査基準を弾力的に運用するものとする。」との基本方針が示された上、「本発掘調査は、工事による掘削が遺構を破壊する場合に限って行うものとする。」との取扱いが示されている。台の下遺跡・台の下貝塚については、取付け道路南東部の 7 区は盛土施工となるため部分的な断面調査にとどめ、その他は切土施工となることから全て完掘した。

## 3. 調査の経過

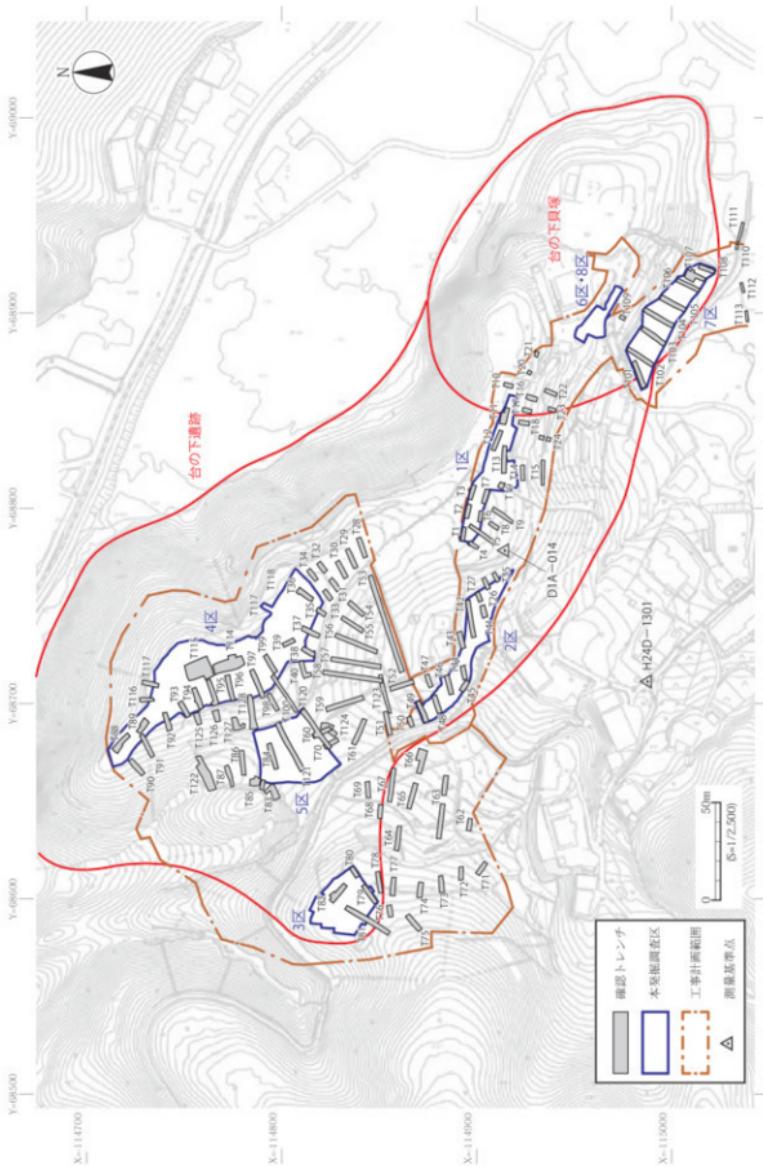
本発掘調査は平成 25 年 7 月 22 日に開始した。復興事業を早期に完了させるため、本発掘調査と工事を並行して実施できるよう市防災集団移転推進課と協議し、取付け道路部分から調査することとした。調査が完了した調査区から工事側に引渡し、10 月 1 日からは調査対象範囲でも本格的に工事が着手された。調査区は本発掘調査に着手した順に 1 区、2 区、3 区…と設定した（第 2 図）。表土の除去は重機を使用し、遺構検出は人力で行った。

1 区の調査は 7 月 22 日に開始した。南東方向に延びる丘陵東側の平坦面から斜面際に位置する 1 区では縄文時代の土坑 20 基やピットが発見されたほか、近世以降の焼上遺構や探査坑とみられる遺構を確認した。9 月 25 日に調査が完了した。調査面積は 840m<sup>2</sup>である。

2 区の調査は 7 月 30 日に開始した。南東方向に延びる丘陵の裾部にあたる 2 区では縄文時代の竪穴建物跡 1 棟、平安時代の竪穴建物跡 1 棟を発見した。狭小な谷の東斜面にあたる 2 区西では、堆積土に縄文時代と奈良時代の遺物を含む自然流路跡と近世以降の探査坑とみられる遺構を発見した。10 月 29 日に調査が完了した。調査面積は 886m<sup>2</sup>である。

第 1 表 発掘調査と整理作業の経過

	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度									
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8～3月	4～9月	10～3月	4～9月	10～3月	4～9月	10～3月		
本発掘 調査	確認調査			(1～5区)			■ (6区)															
	1区																					
	2区																					
	3区																					
	4区																					
	5区																					
	6区																					
	7区																					
整理作業 (1～5区)																						



第2図 検証調査トレーン配置図

3区の調査は9月13日に開始した。計画地の西端で北東方向に延びる丘陵の先端部に位置する3区では、縄文時代の掘立柱建物跡1棟、堅穴状遺構1基や土坑16基を発見した。11月28日に調査が完了した。調査面積は747m<sup>2</sup>である。

4区の調査は10月10日に開始した。計画地の北側で南東方向に延びる丘陵東側の平坦面に位置する4区では、縄文時代の堅穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、堅穴状遺構2基、焼土遺構1基、土坑39基、遺物包含層(貝層)1ヶ所のほか、近世以降の墓跡や近現代とみられる炭窯跡1基を発見した。平成26年1月24日に調査が完了した。調査面積は3,267m<sup>2</sup>である。

5区の調査は11月5日に開始した。計画地の北側で南から北に向かって傾斜する沢の頂部付近に位置する5区では、縄文時代とみられる土坑のほか、近現代の採掘坑(粘土採取遺構?)を発見した。平成26年1月22日に調査が完了した。調査面積は1,105m<sup>2</sup>である。

12月22日には4区の堅穴建物跡・土坑や5区の落し穴とみられる土坑の見学を中心とした地元向けの現地説明会を実施し、約90人の参加者があった。

6区は南東方向に延びる丘陵東部の東斜面に位置する。当初は重機が作業できるスペースが確保できなかったため、調査着手を延期していた。12月13日に4区の北側(計画地外)で電柱設置の工事立会を実施した際に縄文時代の貝層・包含層が分布していることが確認された。調査可能な平成26年1月8日から確認調査を実施した。その結果、遺構面の上部に盛土が厚く堆積していたことがわかり、東緩斜面の約140m<sup>2</sup>(6区)で遺構の分布を確認し、さらに東側の現道部分に遺構の分布が広がることが想定された。市防災集団移転推進課と協議した結果、現道部分(8区)については迂回道の設置後に調査することとなり、調査可能な6区の精査を先行した。6区の調査は1月27日に開始した。6区では縄文時代の堅穴建物跡3棟、土坑墓6基、土器埋設遺構3基、遺物包含層・貝層1ヶ所を見た。6区の調査は4月14日に完了した。調査面積は141m<sup>2</sup>である。

7区の調査は平成25年8月2日に開始した。計画地の南東部で丘陵南緩斜面に位置する7区では、縄文時代晩期主体の遺物包含層を見た。8月26日に調査が完了した。調査面積は257m<sup>2</sup>である。

8区の調査は平成26年6月2日に開始した。8区では縄文時代の土坑墓1基、遺物包含層・貝層1ヶ所を見た。調査は7月24日に完了した。調査面積は56m<sup>2</sup>である。

#### 4. 整理作業・報告書作成の経過

台の下貝塚(6区～8区)については現在も整理作業中であるが、台の下遺跡の本発掘調査分(1～5区)について報告書を先行してとりまとめることとした。

台の下遺跡本発掘調査分の整理作業は平成25年度～平成29年度にかけて実施した。平成25年度には遺構の基礎整理と一部の遺物洗浄作業を実施した。平成26年度には遺物の洗浄作業を実施し、遺物の注記・接合を株式会社バスコに委託した。平成27年度には掲載遺物の抽出作業を実施し、土器・石器の実測図作成、土器拓本、土器断面図作成、遺物観察表作成、遺物写真撮影を株式会社バスコに委託した。平成29年度には追加抽出した土器の実測・拓本・写真撮影、遺構の挿図作成・版組、写真図版作成を行い、総括を作成し、最後に全体の編集を行った。

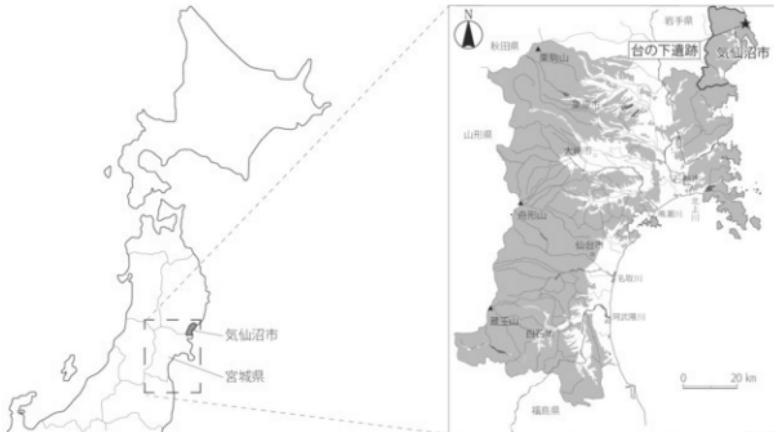
## 第2章 遺跡の概要

### 1. 遺跡の位置と地理的環境

台の下遺跡は、宮城県気仙沼市唐桑町字台の下に所在する。宮城県北東端に位置する気仙沼市は、岩手県の南東部に張り出るように位置している。北は笛長根山と松ノ坂峠の稜線によって岩手県陸前高田市と接し、南は南三陸町（旧津川町）に接する。西は君ヶ鼻山塊と大森山系によって岩手県一関市（旧室根村、旧藤沢町）と宮城県登米市（旧東和町）に接し、東は太平洋に面している。市の北部と西部は北上山地の支脈である標高500～700m級の山地が連なり、それに続いて南東方向に向かって緩やかな丘陵地から低地へと変化し、太平洋に接する地形となっている。

台の下遺跡が所在する唐桑町北部の大沢地区は、太平洋に張り出す唐桑半島と広田半島の間に広がる広田湾の西岸に位置しており、気仙沼市役所から北東に約8kmの距離にある。本遺跡は笛長根山（標高519m）から広田湾に向かって南東方向に延びる丘陵に立地しており、東側から谷が入り馬蹄状となる先端部の北側丘陵及び南斜面に立地している。大沢漁港のある現在の海岸線からは西に約500m奥まった位置にあり、海岸から遺跡が立地する丘陵までの間には、丘陵の北側を流れる小河川である青野沢川によって形成された狭い沖積地が広がっている。

遺跡の範囲は、東西550m、南北240mほどで、標高は12～56mである。調査前の遺跡の現況は、西側が杉や雜木からなる山林で、東側が山林、畑地、宅地であった。台の下遺跡は、縄文時代、弥生時代、古代、近世の複合遺跡である。今回の調査前は台の下館跡として登録されていたが、調査の結果館跡に伴う遺構・遺物が発見されなかったことから、台の下遺跡に名称変更した。遺跡範囲の東端は縄文時代の貝塚である台の下貝塚と重複している。



第3図 台の下遺跡の位置

## 2. 周辺の遺跡

台の下遺跡が立地する広田湾周辺には縄文時代から近世にかけての遺跡が多く分布しており（第4図）、特に陸前高田市では約270の遺跡が確認されている。ここでは、台の下遺跡に関連する縄文時代と古代の遺跡について発掘調査成果を中心に概観する。

**【縄文時代】** 波怒棄館遺跡（第4図3）（気仙沼市教育委員会 2013）、陸前高田市牧田貝塚（15）（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996）、貝畠貝塚（32）（陸前高田市教育委員会 1985a・1998）、川内遺跡（58）（岩手県埋蔵文化財センター 1984、陸前高田市教育委員会 2003）、堂の前貝塚（67）（陸前高田市教育委員会 1997・1999b）、門前貝塚（98）（陸前高田市教育委員会 1974・1992）、鶴沢貝塚（102）（陸前高田市教育委員会 2001・2007）、大陽台貝塚（123）（岩手県陸前高田市教育委員会 1979）、袖野I遺跡（126）（陸前高田市教育委員会 2010）、中沢遺跡（134）（陸前高田市教育委員会 2017）、中沢浜貝塚（135）（陸前高田市教育委員会 1985b・1986・1987・1988・1994・1999a・2000・2001）などがある。このうち、波怒棄館遺跡は前期初頭から中期初頭・晚期の集落遺跡で、前期後葉から中期初頭を主体とする貝層から縄文土器・石器のほか、骨角器や動物遺存体が出土している。貝畠貝塚は中期末を主体とする集落遺跡で、堅穴建物跡が22棟確認されており、12棟は複式炉を伴うものである。堂の前貝塚は中期後葉～後期中葉の集落遺跡で、堅穴建物跡・掘立柱建物跡・埋設土器・フ拉斯コ状土坑、後期初頭の遺物包含層が発見されている。また、復興事業に伴う平成24・25年度調査では、複式炉を伴う堅穴建物跡や貝層が確認されている（曳地 2014）。門前貝塚は中期末葉～後期初頭の集落遺跡で、後期初頭の「門前式」の標識遺跡として知られており、7ヶ所の貝層のほか、堅穴建物跡1棟、フ拉斯コ状土坑、土器埋設遺構、土坑墓（埋葬人骨）、弓矢状配石などの配石遺構が確認されている。中沢遺跡では後期中葉の堅穴建物跡1棟が確認されているほか、中期中葉の土坑に堆積した貝層から動物遺存体や骨角器が出土している。

**【古代】** 貝畠貝塚（32）（陸前高田市教育委員会 1985a・1998）、小泉遺跡（37）、松山前遺跡（74）（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2006）などがある。このうち、小泉遺跡では、「厨」「吉」などの墨書き土器（土師器・須恵器）が遺物包含層から112点出土しており、年代は8～9世紀代に位置づけられている（八木 2004）。小泉遺跡の性格は、古代の気仙郡衙に関連する遺跡の可能性が高いと考えられている（佐藤 2004・村木 2004）。松山前遺跡は奈良時代（7世紀後半～8世紀中葉）の集落跡で、堅穴建物跡8棟が発見されている。貝畠貝塚は奈良・平安時代の集落遺跡で、奈良時代の堅穴建物跡1棟、平安時代の堅穴建物跡9棟、鍛冶炉とみられる炉跡2基が発見されている。このほか、友沼Ⅲ遺跡（陸前高田市教育委員会 1990）では平安時代の集落跡が発見されており、羽口と共に刀子や鉄鎌といった鉄製品が出土している。また、西和野I遺跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2017）では平安時代の方形周溝1基や奈良・平安時代の木炭窯跡7基が発見されている。



第4図 台の下遺跡の位置と周辺の遺跡

第2表 遺跡内容表 (1~8が気仙沼市、9~146が岩手県陸前高田市)

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	台の下遺跡	集落	绳文・弥生・平安・近世	74	松山前遺跡	集落	绳文・古代
2	台の下貝塚	貝塚	绳文(中～後)・弥生	75	西之坊遺跡	散布地	绳文(後)・古代
3	波怒東洋遺跡	貝塚	绳文(前～中・後)	76	中野 I 遺跡	散布地	
4	朝日船跡	城館	中世	77	中野Ⅱ遺跡・上の坊遺跡	散布地	绳文(早・後)
5	出山船跡	城館	中世	78	後の坊遺跡	散布地	绳文
6	八幡船跡	城館	中世	79	両ノ原跡	城原跡	中世
7	岩井川遺跡	貝塚	绳文(晚)	80	村内遺跡	散布地	绳文
8	薪鉗骨塚	散布地	绳文	81	内舟跡	城原跡	中世
9	福伏者跡	散布地	绳文	82	鳥居前遺跡	散布地	
10	要宮船跡	城館	近世	83	鳥居Ⅱ遺跡	散布地	绳文(後)・古代
11	久六屋跡	石碑跡		84	鳥居 I 遺跡	散布地	古代
12	水上 I 遺跡	散布地		85	塩谷 I 遺跡	散布地	绳文(後)
13	水上 II 遺跡	散布地		86	塩谷Ⅲ遺跡	散布地	古代
14	上長部遺跡	城館	中世	87	塩谷Ⅳ遺跡	散布地	古代
15	牧田貝塚	貝塚	绳文・平安	88	小野敷遺跡	散布地	绳文(前・中)
16	二日市貝塚	貝塚	绳文(前～後)	89	只見Ⅱ遺跡	散布地	绳文
17	二日市船跡(八幡船・禪割船)	城館	中世	90	吉野前遺跡	集落	绳文(早・前・中)・弥生
18	川口遺跡	散布地	绳文	91	浦の前遺跡	散布地	绳文
19	安石谷 I 遺跡	散布地	奈良・平安	92	森谷 I 遺跡	散布地	古代
20	船ヶ島船跡	城館	中世	93	森谷Ⅲ遺跡	散布地	古代
21	東船跡(今草古跡)	城館	中世	94	森谷Ⅳ遺跡	散布地	古代
22	肥前船跡	城館		95	腰原 I 遺跡	散布地	古代
23	中井遺跡	散布地		96	腰原Ⅱ遺跡	散布地	绳文・古代
24	神崎遺跡	散布地	绳文	97	前田遺跡	散布地	古代
25	陣ヶ森遺跡	散布地・城館跡	中世	98	門田貝塚	貝塚	绳文
26	桟ヶ原船跡	貝塚		99	のの I 遺跡	散布地	绳文(前・中・後)
27	西浦遺跡	散布地	奈良・平安	100	ののⅢ遺跡	散布地	绳文
28	八幡船跡(高田城)	城館跡	中世	101	ののⅣ遺跡	散布地	绳文(後)
29	剣の穴船跡	散布地		102	船ヶ原貝塚	貝塚	绳文(晚)
30	下和野船跡	集落跡		103	船ヶ原 I 遺跡	散布地	绳文(晚)
31	西和野船跡	集落跡	绳文	104	船ヶ原Ⅱ遺跡	散布地	绳文(後・晚)
32	且須貝塚	貝塚		105	船ヶ原Ⅲ遺跡	散布地	
33	古桑船跡(東船)	城館	中世	106	只見船跡(漁船)	散布地・城館跡	绳文・中世
34	中和野船跡	散布地	绳文	107	只見 I 遺跡	散布地	绳文
35	太田遺跡	散布地		108	中野 I 遺跡	散布地	绳文
36	花園(飯森場遺跡)	城館跡・散布地	中世	109	中野Ⅱ遺跡	散布地	绳文
37	小泉遺跡	集落跡	平安	110	中野Ⅲ遺跡	散布地・集落跡	绳文
38	山岱代遺跡	散布地		111	腰原古墳群	散布地	绳文
39	豆の遺跡	全吹跡		112	腰原 V 遺跡	散布地	绳文
40	地竹 I 遺跡	散布地	奈良・平安	113	腰原Ⅲ遺跡	散布地	古代
41	地竹 II 遺跡	散布地	绳文・奈良・平安	114	只見 I 遺跡	散布地	绳文
42	松峰 I 遺跡	散布地	奈良・平安	115	只見Ⅱ遺跡	散布地	绳文
43	松峰 II 遺跡	散布地		116	小口 I 遺跡	散布地	古代
44	川崎遺跡	散布地	绳文・奈良・平安	117	民家跡 II 遺跡	散布地	绳文
45	中山船跡	城館	中世	118	小手川遺跡	散布地	绳文(晚期)・弥生・古代
46	野沢里遺跡	散布地	奈良・平安	119	長瀬遺跡	散布地	绳文・弥生
47	野沢里Ⅱ遺跡	散布地	奈良・平安	120	船野遺跡	散布地	绳文(後)
48	野沢里Ⅲ遺跡	散布地	绳文・奈良・平安	121	内吹遺跡	散布地	绳文(前・中)
49	野沢 I 遺跡	散布地	绳文・奈良・平安	122	大原貝塚	貝塚	绳文(前・後)
50	米ヶ崎船跡(浜町城)	城館	中世	123	大原台貝塚	貝塚	绳文(前・中)
51	米ヶ崎船跡(船貝塚)	貝塚	绳文	124	大原 II 遺跡	散布地	绳文
52	川西遺跡	散布地	绳文	125	大原里 I 遺跡	城原跡	中世・近世
53	監物船跡(鳥崎城)	城館	中世	126	袖野 I 遺跡	散布地	绳文・古墳(前・中)
54	津田遺跡	集落	奈良・平安	127	小野敷遺跡	散布地	绳文
55	中島 I 遺跡	散布地		128	大原崎遺跡	散布地	古代
56	中島 II 遺跡	城館	中世	129	植木道跡	散布地	
57	川向遺跡	散布地	绳文	130	小木内遺跡	散布地	绳文(後期)
58	川内遺跡	集落	奈良・平安	131	高野跡	城原跡	中世
59	佐野古遺跡	散布地	奈良・平安	132	泊野跡	散布地	绳文(後)
60	佐野 I 遺跡	散布地	奈良・平安	133	小野跡	城原跡	中世
61	佐野Ⅱ遺跡	散布地	绳文(後・晚)	134	中野 I 遺跡	散布地	绳文(中・後)
62	佐野Ⅲ遺跡	散布地	绳文・弥生	135	中野Ⅳ貝塚	貝塚	绳文(早・晚)・弥生
63	佐野 I 遺跡	散布地	绳文	136	平野遺跡	散布地	绳文
64	一粒船跡(一粒船)	城館	中世	137	丸越跡	城原跡	中世
65	高畠 I 遺跡	散布地	奈良・平安	138	分舟遺跡	散布地	绳文・弥生・奈良・平安
66	高畠 II 遺跡	散布地	绳文(後)	139	久保貝塚	貝塚	绳文(晚)・奈良・古代
67	堂の口 I 遺跡	集落・貝塚	绳文(中・後)	140	内舟遺跡	散布地	绳文(中)
68	金津遺跡	散布地	古代	141	八幡原跡	城原跡	中世
69	両替 I 遺跡	散布地	绳文・古代	142	丸野 I 遺跡	散布地	绳文(後)
70	両替 II 遺跡	散布地	绳文	143	金合遺跡	貝塚	绳文(前)
71	日山 I 遺跡	散布地	绳文	144	菊原跡	散布地	绳文(前)
72	二日市 I 遺跡	集落	绳文(中・古)	145	相田跡	散布地	绳文(中)
73	岩井沢遺跡	集落	绳文(中・古)	146	奥船跡	城原跡	中世

## 第3章 調査の成果

### 1. 方法

#### (1) 調査の方法

【表土除去】バックホーを使用した。生じた排土についてはクローラーダンプにより搬出し、工事範囲内に仮置きした。

【遺構検出・精査】遺構の検出と精査については人力で行った。

【遺構の登録】登録番号については、遺構の種類を問わず1から通し番号で登録した。番号の重複を避けるため、1区は1～59、2区は101～114、3区は151～193、4区は61～99、200～245、5区は301～322、6区は120～150、251～270、8区は281～291を使用した。遺構記号については例言に示したとおりである。

【遺物の取上げ】堅穴建物跡、土坑、遺物包含層からはまとまった量の遺物が出土した。これらのうち、特徴的な遺物や良好な状態で出土した遺物については、遺構ごとに1から通し番号で遺物取上げ番号を設定し、写真撮影、平面図作成、レベリングの後に取上げた。また、2区～5区では調査区ごとに国家座標に合わせた任意の10mグリッドを設定し、遺構検出時に出土した遺物をグリッドごとに取上げた。

【記録作成】精査した遺構については、平面図と断面図作成、写真撮影を行った。平面図については、東日本震災後に工事用に設定された3級基準点(H24D-1301)と4級基準点(D-1A014)を基準とし、株式会社CUBIC 製発掘調査関連測量専用ソフト「電子平板 遺構くん」と株式会社ソキア・トプロン製の自動追尾トータルステーションを用いて作成した。基準点の国家座標は例言に示したとおりである。ただし、堅穴建物跡やフラスコ状土坑(下端)の平面図や一部の遺物出土状況については、縮尺1/10の手実測で作成した。断面図は縮尺1/20の手実測で作成した。写真撮影には35mm一眼レフデジタルカメラ(NIKON D3200:2,416万画素、NIKON D7000:1,620万画素)を使用した。

#### (2) 整理の方法

【遺物】洗浄、注記、接合を行い、特徴的なものについて抽出した。この際、土器、土製品、石器、石製品、金属製品、動物遺存体については、遺物取上げ番号とは別に、遺物番号を設定した。SX65 遺物包含層・貝層で回収した貝層土壤サンプルについては、4mm、1mmメッシュの篩を用いて水洗により遺物を回収した。作成した実測図については、スキャナーで取り込み、その画像をAdobe社のIllustratorCS6・CCでトレースした。拓本図については、スキャナーで取り込み、その画像をAdobe社のPhotoshopCS6・CCで色調や濃度を加工した。報告書に掲載する遺物の写真撮影・写真加工作業の大半は業者に委託して行った。

【遺構】「電子平板 遺構くん」で測量した平面図をAdobe社のIllustratorCS6・CCに変換して作成し、断面図については実測図をスキャナーで取り込み同じくIllustratorCS6・CCでトレースした。

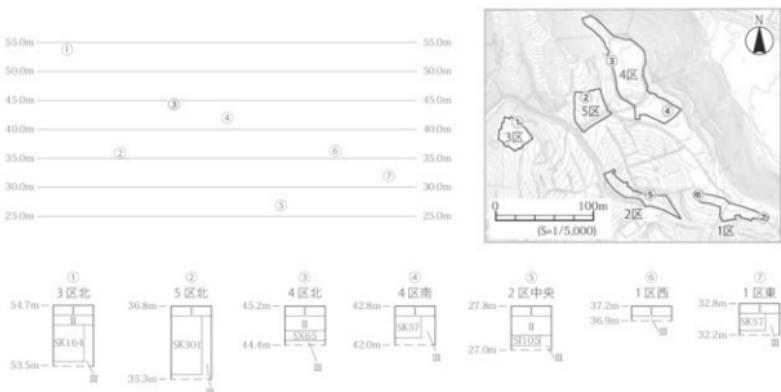
### (3) 報告書の記載について

本事業に伴う発掘調査は、平成25年7月から平成26年1月に台の下遺跡(1～5区)と台の下貝塚(7区)、平成26年1月から7月に台の下貝塚(6・8区)の調査が実施された。このうち、本報告書の内容は台の下遺跡(1～5区)にあたり、台の下貝塚(6～8区)は別途刊行予定である。

報告書の記載方法としては、精査した遺構について調査区ごとに項立てし、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、堅穴状遺構、焼土遺構、土坑、遺物包含層、それ以外の遺構という順で行う。また、遺構確認面や遺構に伴う搅乱、または表面採集遺物の中で特徴的なものについては、その他の出土遺物として補足的に掲載する。

## 2. 検出状況と基本層序

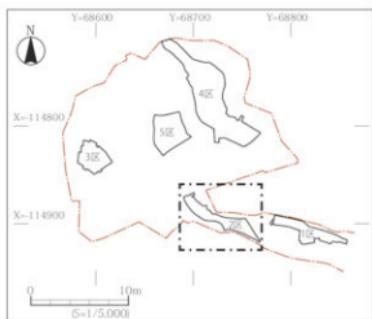
台の下遺跡が立地する丘陵先端部は東から谷が入り馬蹄状となっている。調査区は遺跡範囲中央やや南寄りにあたり、北側の丘陵頂部(1・3・4区)、北側の丘陵頂部に北から入る沢部(5区)、中央の谷部(2区)に位置する。調査区の標高は概ね東から西に向かって高くなり、谷部に位置する2区が最も低く標高26～32m、北側の丘陵頂部に位置する1区が標高32～37m、4区が標高41～47m、3区が標高53～57m、沢部に位置する5区が標高37～42mである。丘陵頂部～緩斜面部にかけては近現代の耕作や植林等による後世の削平を受けており、1区、2区東側、4区、5区の大半の遺構は地山で検出している。また、1区と2区の間や4区の南東調査区外では旧地形が残存しておらず遺構が検出されていないが、本来は遺構が分布していた可能性がある。調査区内の基本層序はI層：表土、II層：旧表土、III層：地山で(第5図)、各調査区の大部分は表土直下が地山・岩盤となり、大半の遺構は地山で検出している。



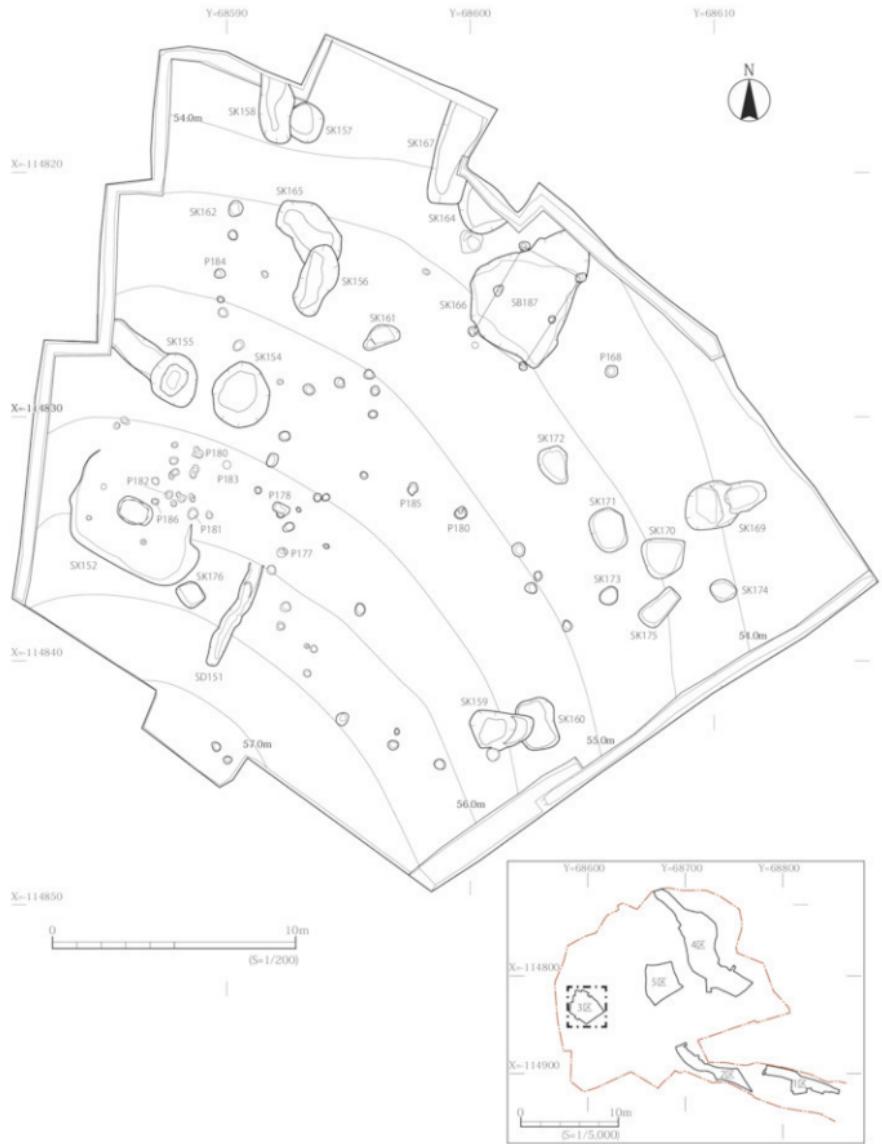
第5図 台の下遺跡の基本層序

第6図 1区道路配置図

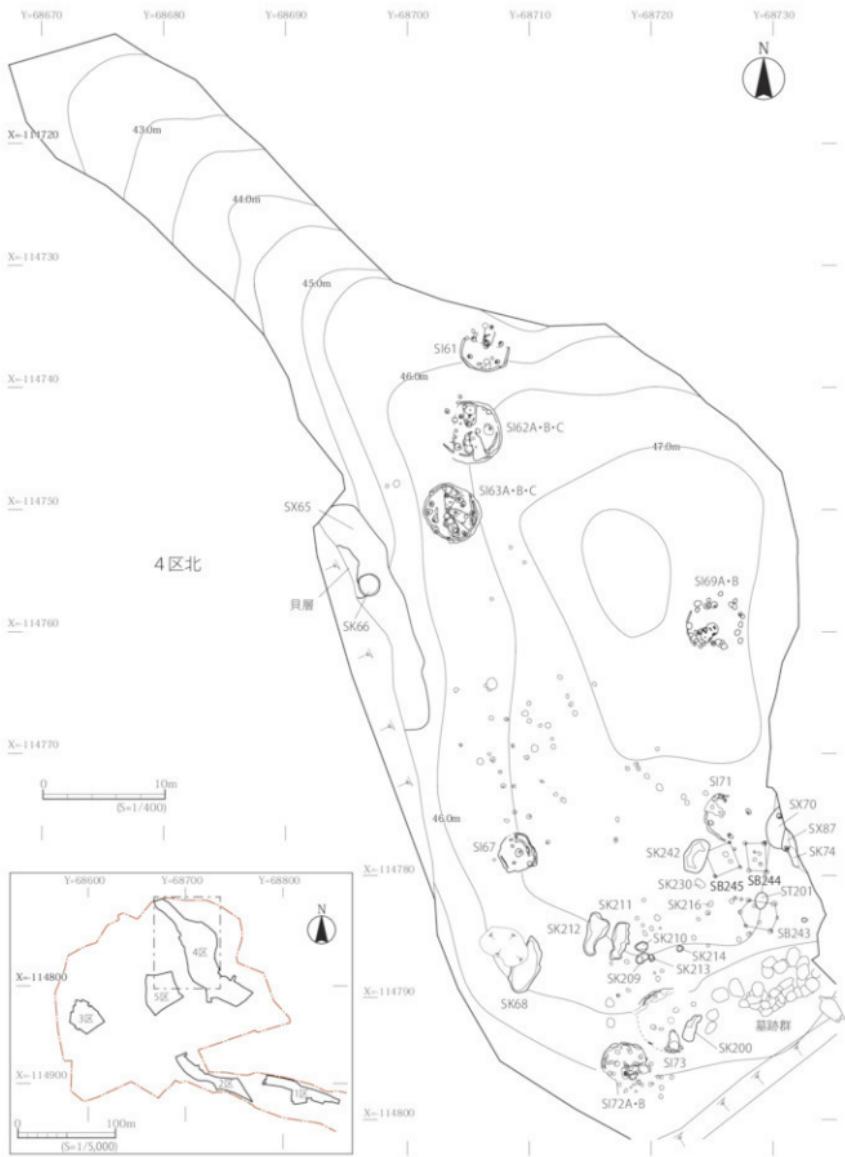




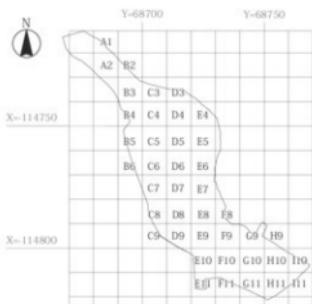
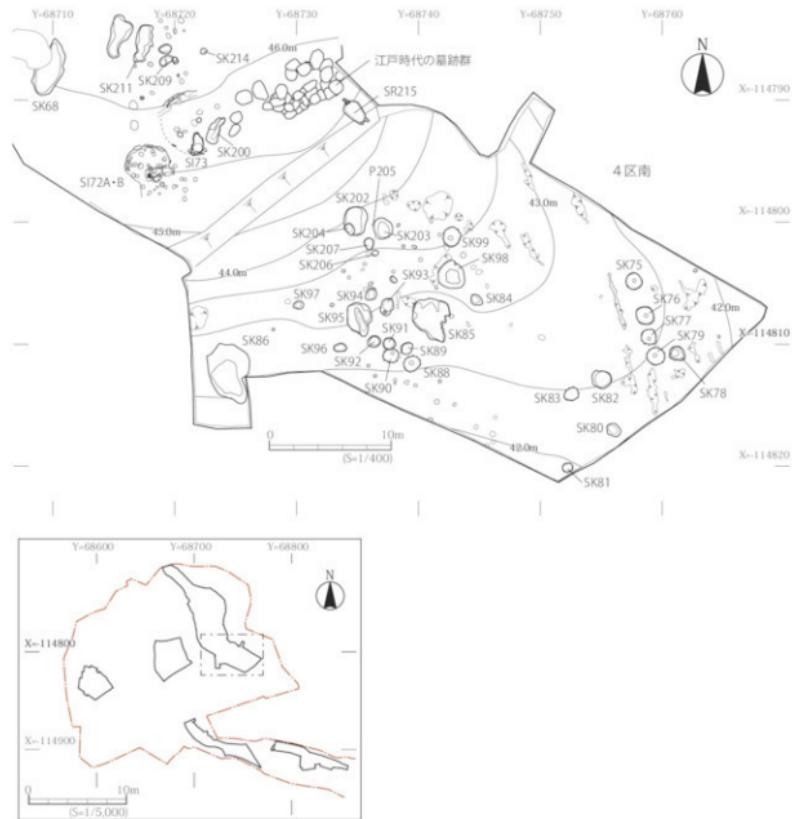
第7図 2区遺構配置図



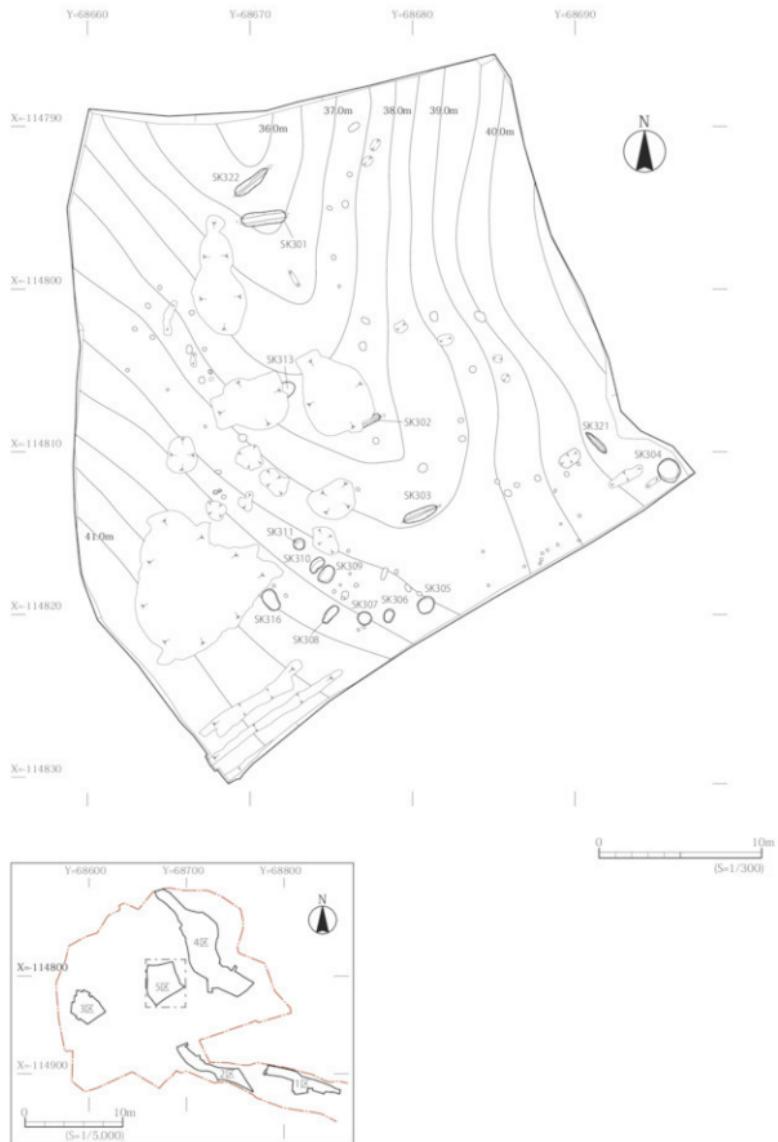
第8図 3区遺構配置図



第9図 4区遺構配置図(1)



第10図 4区遺構配置図(2)



第 11 図 5 区 遺構配図

### 3. 発見された遺構と遺物

#### (1) 土坑

検出された遺構には、土坑 25 基、柱穴、ピットなどがあり（第 6 図）、出土遺物には縄文土器・土製品、石器・石製品のほか、近世以降の瓦、煙管などがある。以下、主要なものについて説明する。

##### ① 土坑

土坑は 25 基検出しており、1 区東側では直径 1m を超える円形または楕円形の土坑を 20 基検出している。ここでは形態に特徴がみられる土坑や遺物が出土している主な土坑について記述し、その他は第 3 表に特徴をまとめた。

##### A. 1 区東

###### 【SK01 土坑】（遺構：第 12 図、遺物：第 12 図 1）

1 区東端に位置する。直径 1.1m の円形で、深さは 42cm である。断面形は逆台形である。底面の中央南側にピットが認められる。ピットは径 35cm の円形で、深さは 33cm である。堆積土は 4 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 12 図 1）が出土している。

###### 【SK02 土坑】（遺構：第 12 図、遺物：第 12 図 2～4）

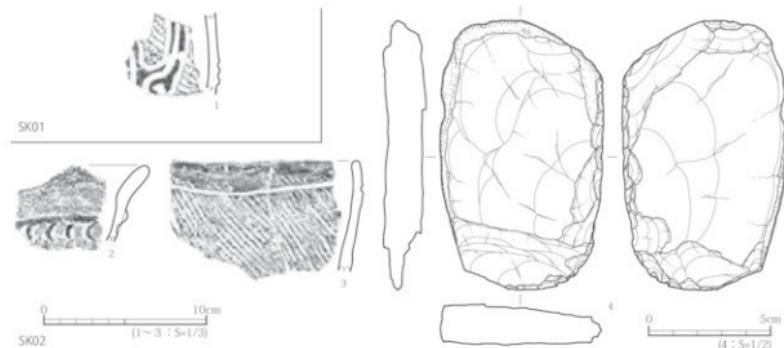
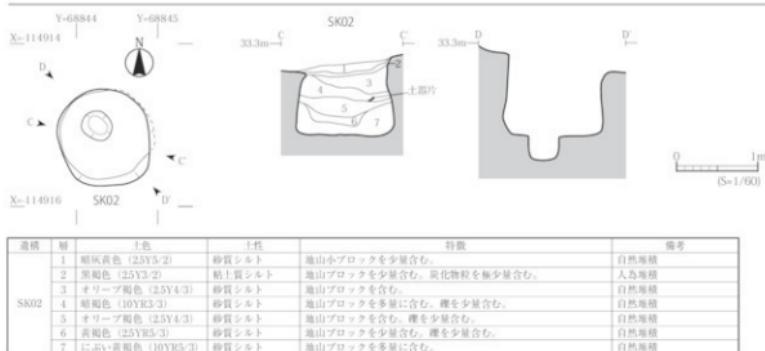
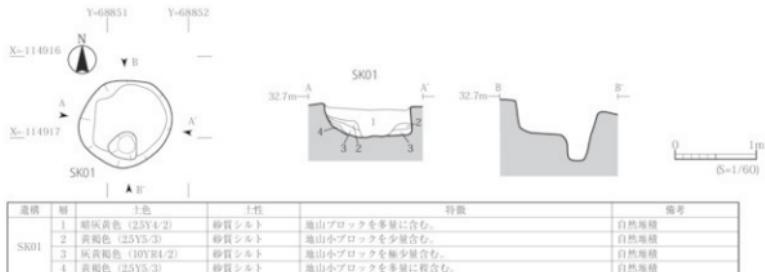
1 区東に位置する。上端は長軸 1.3m、短軸 1.2m の楕円形、下端は直径 1.2m の不整円形で、北東側には壁がオーバーハンプしておらず、外側に 3～7cm 広がる。深さは 101cm で、断面形はフラスコ状である。底面の中央や北寄りにピットが認められる。ピットは径 38cm の円形で、深さは 29cm である。堆積土は 7 層に分けられ、2 層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 12 図 2・3）、打製石斧（第 12 図 4）が出土している。

###### 【SK07 土坑】（第 13 図）

1 区東に位置する。上端は長軸 1.4m、短軸 1.2m の楕円形、下端は直径 1.3m の不整円形で、壁がオーバーハンプしておらず、外側に 3～8cm 広がる。深さは 71cm で、断面形はフラスコ状である。底

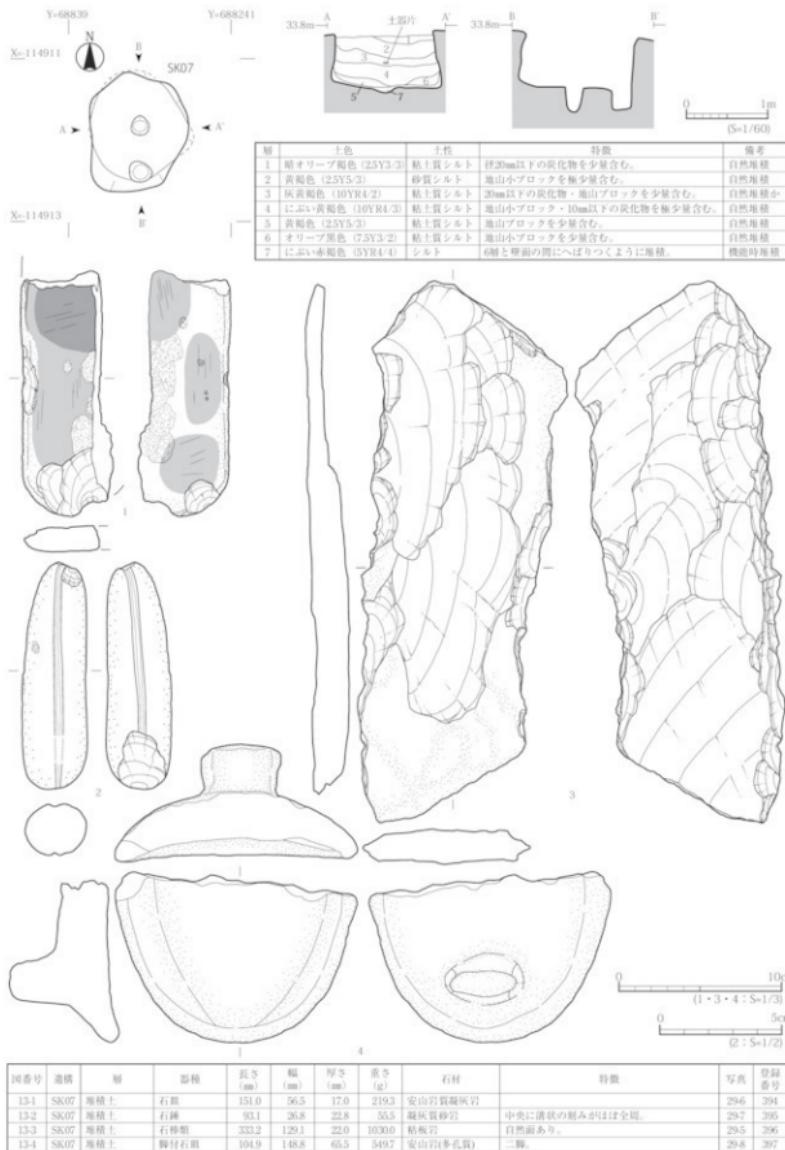
第 3 表 1 区土坑一覧表

遺構番号	位置	新旧関係	規模（上端） 長軸 (m) 短軸 (m)	深さ (cm)	平面形	断面形	特記事項	図番号
								遺構図 遺物図
SK01	1区東	—	1.1	—	42	円形	縄文土器出土。底面にピットあり。	第12回 第12回
SK02	1区東	—	1.3	12	101	楕円形	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第12回 第12回
SK07	1区東	—	1.4	12	71	楕円形	フラスコ状 石器出土。底面にピットあり。	第13回 第13回
SK09	1区東	SK10→SK09	1.1	0.8	27	楕円形	逆台形	—
SK10	1区東	SK10→SK09	1.5	—	44	円形	縄文土器出土。	第14回 第14回
SK12	1区東	—	1.8	1.6	105	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第27回 第27回
SK13	1区東	—	1.5	1.2	64	楕円形	縄文土器・石器出土。	第14回 第14回
SK15	1区東	—	1.5	1.3	114	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第15回 第15・16回
SK21	1区東	SK21→SK28	1.3	1.1	110	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第16回 第17回
SK22	1区東	SK29→SK22	1.5	1.3	63	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第16回 第19回
SK24	1区東	SK24→SK59	2.1	1.93	105	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第23回 第24・26回
SK25	1区東	—	1.8	1.7	98	不整円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。	第21回 第22回
SK28	1区東	SK21→SK28	1.7	—	50	不整円形	逆台形 丸井土・遺物隕。	第18回 —
SK29	1区東	SK29→SK22・SK30	2.13	1.7	70	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第16回 第20回
SK30	1区東	SK29→SK30	2.03	1.5	37	楕円形	逆台形 縄文土器・石器出土。近世以前。	第16回 —
SK35	1区東	SK35→SX34	1.6	1.33	33	楕円形	逆台形 石器出土。底面にピットあり。	第28回 第28回
SK36	1区東	—	1.0	—	53	円形	逆台形 石器出土。	第46回 第28回
SK38	1区西	—	0.9	0.6	53	楕円形	逆台形 土製品出土。	第31回 第31回
SK39	1区西	—	1.2	0.9	30	不整円形	逆台形 石器出土。	第46回 —
SK40	1区西	—	1.0	0.8	27	楕円形	逆台形	第66回 —
SK43	1区西	—	1.0	—	60	円形	逆台形 縄文土器出土。	第31回 第31回
SK51	1区西	—	0.8	0.7	43	不整円形	逆台形	第46回 —
SK57	1区東	—	1.4	1.3	32	楕円形	フラスコ状 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第29回 第29回
SK58	1区東	—	1.2	1.1	16	楕円形	逆台形 縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第29回 第29回
SK59	1区東	SK24→SK59	2.5	1.03	80	円形か	逆台形 縄文土器・石器出土。	第32回 第32回



図番号	造構	層	器種	特徴	写真	登録番号
12-1	SK01	堆積土	深溝	縦文 (LRL複屈) → 深溝、崩落	29-1	7
12-2	SK02	堆積土	深溝	波状口縁、発掘→倒立 (竹管状工具・押し引き)、口縁部に無文帶	29-2	12
12-3	SK02	堆積土	深溝	平縁、縦文 (L) → 深溝、崩落済、口縁部に無文帶	29-3	11
図番号	造構	層	器種	特徴	写真	登録番号
12-4	SK02	堆積土	打製石斧	110.5 67.0 17.5 182.7 砂板岩 自然面あり	29-4	203

第12図 1区 SK01・02 土坑と出土遺物



第13図 1区SK07土坑と出土遺物

面の中央と南壁際にピットが2個認められる。ピットは直径25～28cmの円形で、深さは26～30cmである。堆積土は7層に分けられ、7層は機能時堆積、その他は自然堆積である。堆積土から石皿（第13図1）、脚付石皿（第13図4）、石棒類（第13図3）、石錐（第13図2）が出土している。

#### 【SK09 土坑】（第14図）

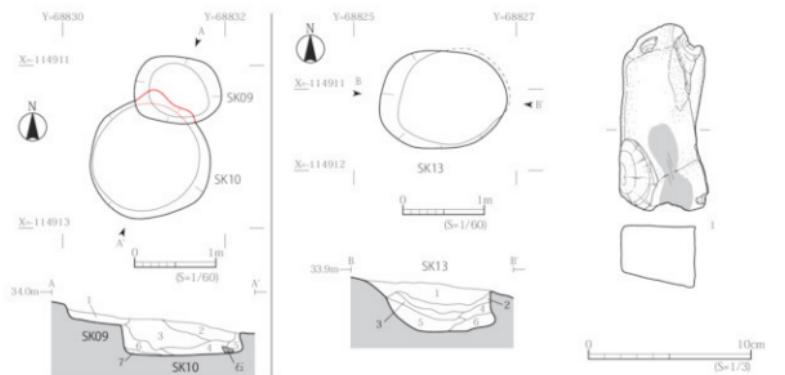
1区東の中央に位置する。SK10 土坑と重複関係があり、SK10より新しい。長軸1.1m、短軸0.8mの楕円形で、深さは27cmである。断面形は逆台形とみられる。堆積土は炭化物や焼土を含む砂質シルトで、人為堆積である。遺物は出土していない。

#### 【SK10 土坑】（第14図）

1区東の中央に位置する。SK09 土坑と重複関係があり、SK09より古い。直径1.5mの円形で、深さは44cmである。断面形は逆台形である。堆積土は6層に分けられ、いずれも自然堆積とみられる。堆積土から縄文土器小片が出土している。

#### 【SK13 土坑】（遺構：第14図、遺物：第14図1）

1区東の中央に位置する。上端は長軸1.5m、短軸1.2mの楕円形、下端は長軸1.4m、短軸1.1mの楕円形で、北東側の壁がオーバーハングしている。深さは64cmで、断面形は逆台形である。堆積土は6層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から磨石（第14図1）や縄文土器小片が出土



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK09	1	暗灰黄色 (25Y4/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。10mm以下の炭化物を少量含む。焼土を少量含む。	人為堆積
	2	オリーブ褐色 (25Y4/4)	砂質シルト	堆山小プロックを少量含む。炭化物粒を少量含む。	自然堆積
	3	オリーブ褐色 (25Y4/3)	砂質シルト	堆山小プロックを含む。炭化物粒を少量含む。	自然堆積
	4	灰・黄褐色 (10YR5-4)	粘土質シルト	堆山ブロックを少量含む。	自然堆積
	5	灰・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	10mm以下の炭化物を極少量含む。	自然堆積
	6	暗灰黄色 (25Y4/2)	粘土質シルト	堆山小プロックを含む。炭化物粒を極少量含む。	自然堆積
	7	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。	機械的堆積か
SK10	1	オリーブ褐色 (25Y4/3)	粘土質シルト	岩塊、堆山小プロックを含む。	自然堆積
	2	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	堆山小プロックを少量含む。	自然堆積
	3	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	堆山小プロックを極少量含む。	自然堆積
	4	灰・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	堆山ブロックを少量含む。	自然堆積
	5	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	堆山ブロックを含む。	自然堆積
	6	暗灰黄色 (25Y4/2)	粘土質シルト	堆山小プロックを極少量含む。	自然堆積
	7	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト		
SK13	1	オリーブ褐色 (25Y4/3)	粘土質シルト		
	2	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト		
	3	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト		
	4	灰・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト		
	5	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト		
	6	暗灰黄色 (25Y4/2)	粘土質シルト		
	7	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト		

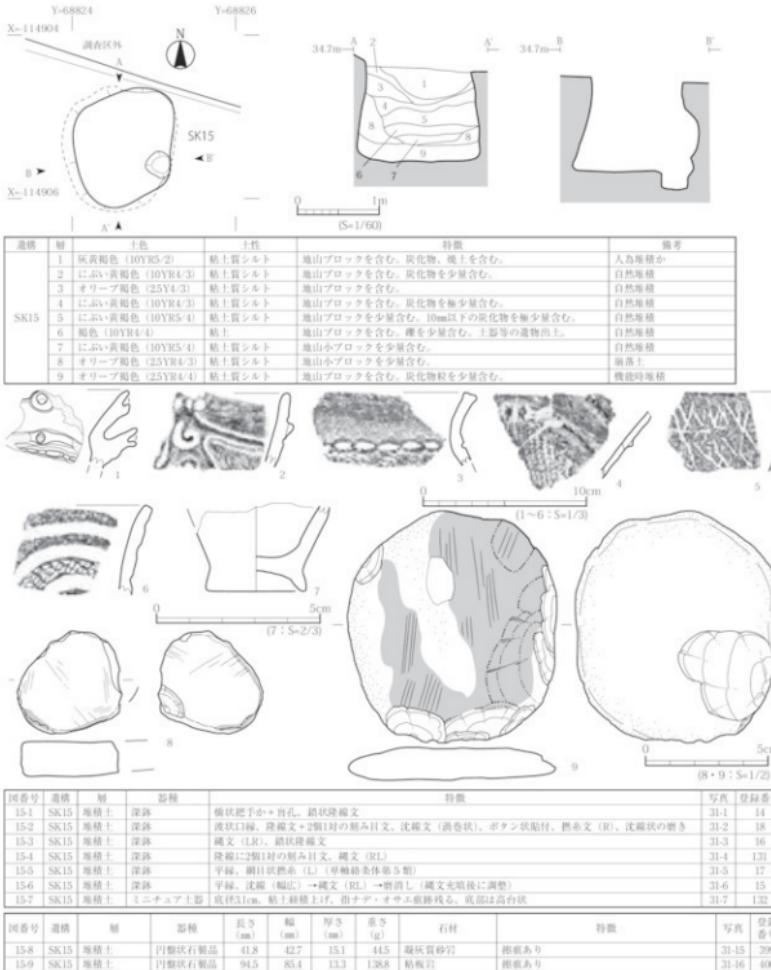
団番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	特徴	写真番号
14-1	SK13	堆積土	磨石	114.9	54.5	20.0	375.3	麻灰質砂岩		299 308

第14図 1区 SK09・10・13土坑と出土遺物

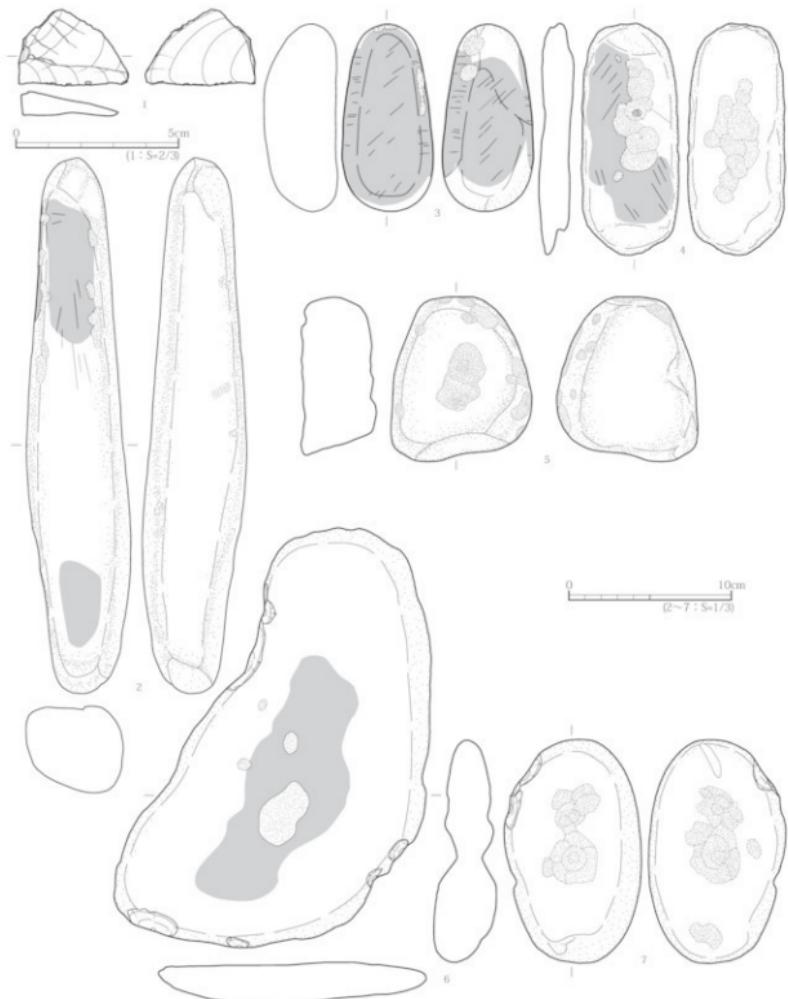
している。

### 【SK15 土坑】(遺構: 第 15 図、遺物: 第 15・16 図)

1 区東に位置する。上端は長軸 1.5m、短軸 1.3m の楕円形、下端は直径 1.5m の不整円形で、壁がオーバーハンプグしており、外側に 4 ~ 13cm 広がる。深さは 114cm で、断面はフラスコ状である底面の東壁際にピットが認められる。ピットは直径 34cm の円形で、深さは 23cm である。堆積土は 9 層



第 15 図 1 区 SK15 土坑と出土遺物



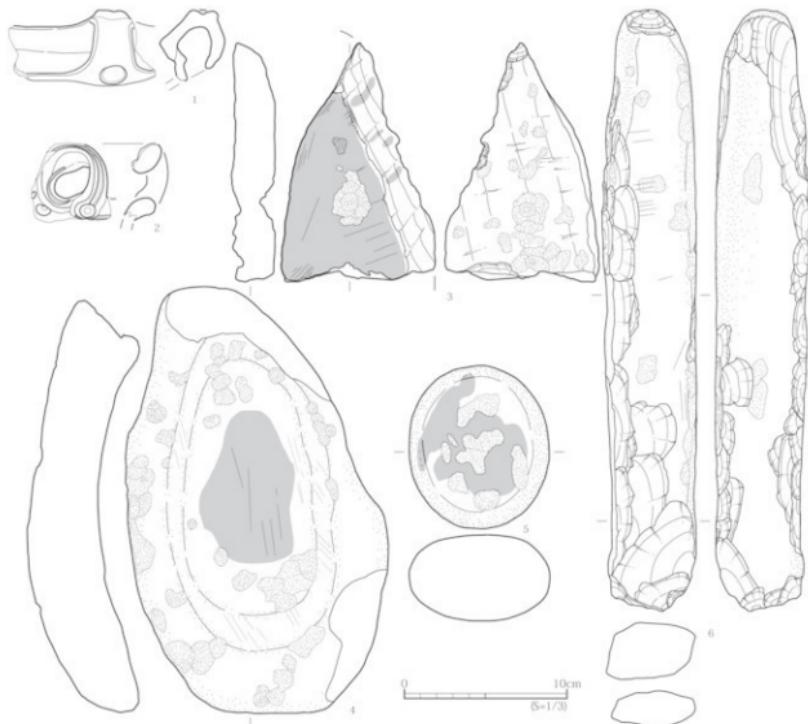
図番号	地質	種	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
16-1	堆積土		調片	23.4	33.8	7.5	42		微細調離石あり	31-8	401
16-2	堆積土		磨鑿石	329.2	64.3	60.0	16660.0	凝灰質砂岩	前面→敲打痕	31-10	402
16-3	堆積土		磨鑿石	115.1	56.3	46.0	486.0	花崗岩	前面→敲打痕	31-9	403
16-4	堆積土		磨鑿石	142.5	60.0	22.0	2396.6	鞍山岩質凝灰岩	前面→敲打痕	31-12	404
16-5	堆積土		磨鑿石	101.3	86.7	52.5	6660.0	凝灰岩		31-14	405
16-6	堆積土		石器	258.1	195.2	26.0	10060.0	凝灰質砂岩		31-13	406
16-7	堆積土		磨石	137.4	84.5	38.0	4015.5	凝灰岩		31-11	407

第16図 1区 SK15坑出土遺物

に分けられ、1層と6層は人為堆積、9層は機能時堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第15図1～6）、ミニチュア土器（第15図7）、微細剥離痕のある剥片（第16図1）、磨凹敲石類（第16図2～5・7）、石皿（第16図6）、円盤状石製品（第15図8・9）が出土している。

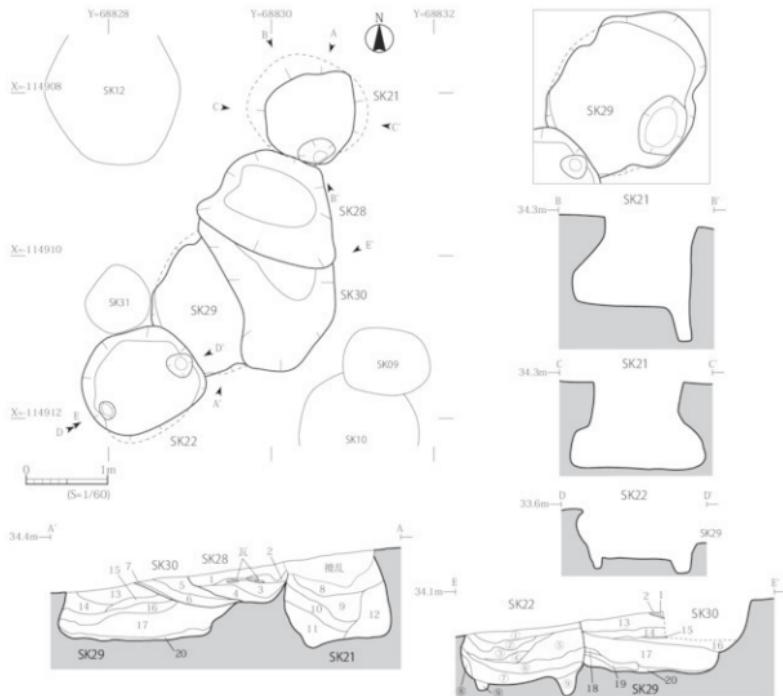
#### 【SK21 土坑】（遺構：第18図、遺物：第17図）

1区東の中央に位置する。SK28土坑と重複関係があり、SK28より古い。上端は長軸1.3m、短軸1.1mの楕円形、下端は直径1.5mの不整円形で、壁がオーバーハンプしておらず、外側に4～29cm広がる。深さは110cmで、断面形はフラスコ状である。底面の南壁際にピットが認められる。ピットは長軸45cm、短軸29cmの楕円形で、深さは41cmである。堆積土は5層に分けられ、3層（第18図10層）は人為堆積、



図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号
				長S (mm)	幅 (mm)	厚S (mm)	重さ (g)	石材		
17-1	SK21	堆積土	深鉢	縦状把手に貫通孔、突起の底部にボタン状附付					30-10	19
17-2	SK21	堆積土	深鉢	縦状把手に凸縄文+直角					30-9	20
図番号	遺構	層	器種	長S (mm)	幅 (mm)	厚S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真
17-3	SK21	堆積土	石盤	146.8	94.9	26.0	3302	麻灰岩		30-12 408
17-4	SK21	堆積土	石盤	262.3	161.8	72.5	21400	麻灰質砂岩		30-13 409
17-5	SK21	堆積土	磨敲石	100.4	86.2	53.0	7000	花崗岩	磨削→敲打痕	30-11 410
17-6	SK21	堆積土	石棒類	369.7	58.3	37.0	9755	安山岩質凝灰岩	自然面あり	30-14 411

第17図 1区 SK21 土坑出土遺物



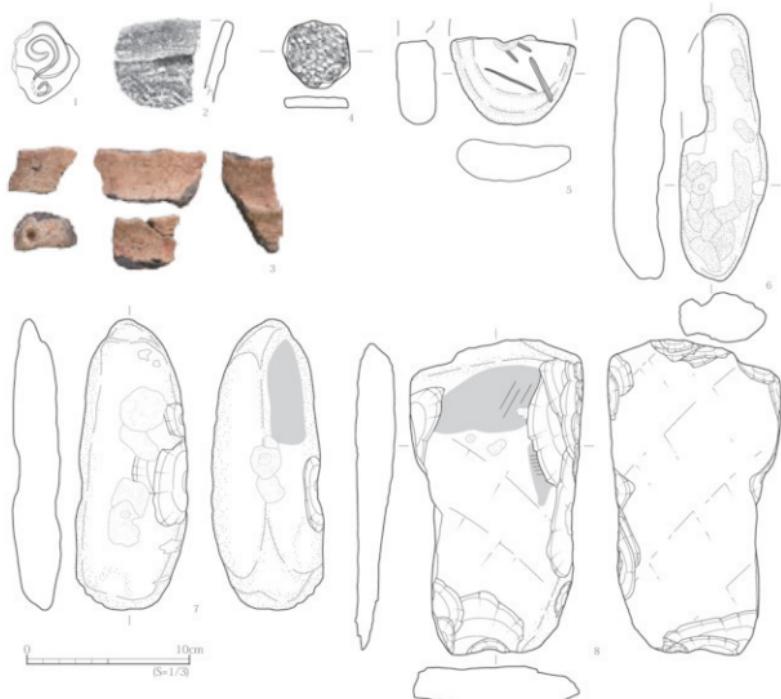
地塊	層	土色	土性	特徴		解釈
				A	E	
SK28	1	明褐色 (7.5YR5-6)	粘土質シルト	礫上層		人为堆積
	2	灰黄褐色 (10YR1'2')	粘土質シルト	10mm以下の礫上層、炭化物を少量含む。瓦が出土。		人为堆積
	3	にかく黄褐色 (10YR5-4)	粘土質シルト			人为堆積
	4	にかく黄褐色 (10YR5-4)	粘土質シルト	礫上ブロック、地山小ブロックを含む。		人为堆積
SK30	5	灰黃色 (25Y7-2)	粘土質シルト	地山ブロックを少量に含む。		人为堆積
	6	暗灰褐色 (25Y5-2')	粘土質シルト	地山ブロックを少量に含む。		自然堆積
	7	灰黃色 (25Y7-2')	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。		自然堆積
	8	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック・10mm以下の炭化物極少量含む。		自然堆積
SK21	9	オリーブ褐色 (2.5Y4/6)	粘土質シルト	10mm以下の炭化物・地山小ブロックを極少量含む。		自然堆積
	10	暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3')	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。炭化物粒を少量含む。		人为堆積
	11	黄褐色 (25Y5-3)	砂質シルト			自然堆積
	12	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。		自然堆積
SK29	13	灰黃褐色 (10YR6-2')	粘土質シルト	20mm以下の炭化物・地山小ブロックを少量含む。		人为堆積
	14	暗灰褐色 (10YR5-1')	砂質シルト	10mm以下の炭化物・地山小ブロックを少量含む。		人为堆積
	15	暗灰褐色 (10YR6-1')	粘土質シルト	地山ブロックを含む。最も部分に10mm程度の大きさで炭化物層あり。		人为堆積
	16	暗灰褐色 (25Y5-2')	粘土質シルト	地山ブロック・10mm以下の炭化物を少量含む。礫上を極少量含む。		人为堆積
SK22	17	黄褐色 (25Y5-3)	砂質シルト	地山ブロックを含む。地山と土は同質。		自然堆積
	18	にかく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。		自然堆積
	19	黄褐色 (25Y5-3)	粘土質シルト			自然堆積
	20	にかく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。		自然堆積
	①	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土質シルト	地山小ブロック・10mm以下の炭化物を少量含む。		人为堆積
	②	黄褐色 (2.5Y5-4)	粘土質シルト	地山小ブロックを多量に含む。炭化物粒を少量含む。		自然堆積
	③	暗灰褐色 (2.5Y4/2')	粘土質シルト	20mm以下の炭化物・地山小ブロックを少量含む。		人为堆積
	④	黄褐色 (25Y5-3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。		人为堆積
	⑤	オリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。		自然堆積
	⑥	灰黃褐色 (10YR4/2')	粘土質シルト	地山層・炭化物粒を少量含む。		自然堆積
	⑦	にかく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。		自然堆積
	⑧	黄褐色 (25Y5-4)	粘土質シルト			崩落土
	⑨	にかく黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。		自然堆積

第18図 1区 SK21・22・28・29・30 土坑

その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第17図1・2）、磨凹敲石類（第17図5）、石皿（第17図3・4）、石棒類（第17図6）が出土している。

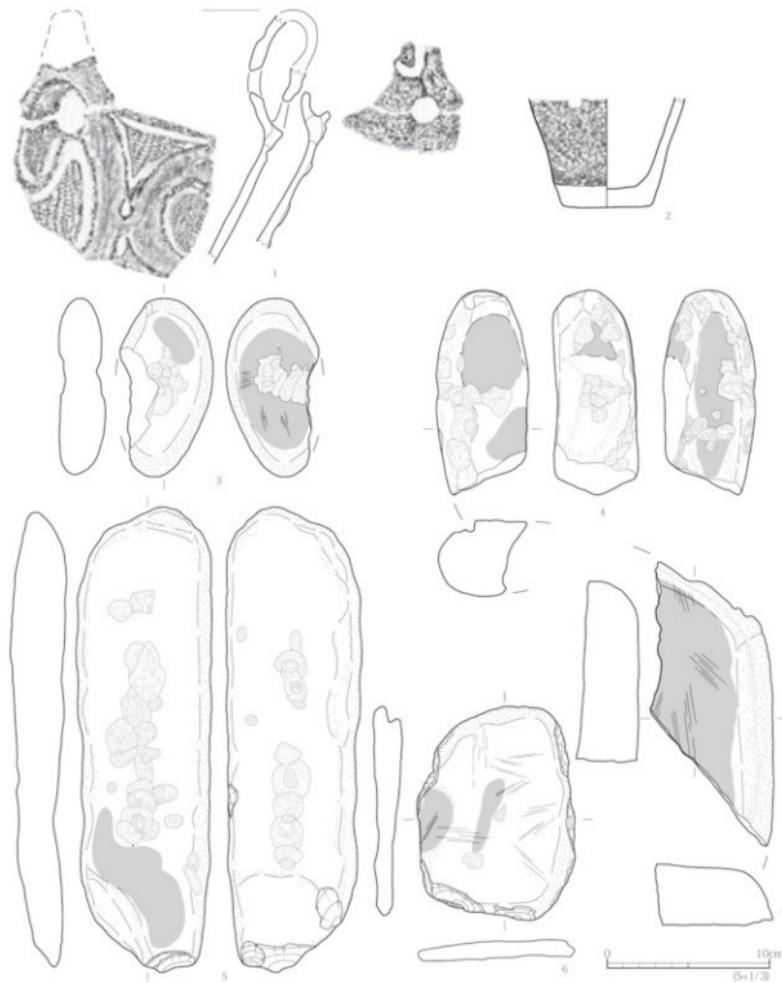
**【SK22 土坑】（遺構：第18図、遺物：第19図）**

1区東の中央に位置する。SK29 土坑と重複関係があり、SK29より新しい。上端は長軸1.5m、短軸1.3mの楕円形、下端は直径1.2mの不整円形で、南壁がオーバーハンプしておらず、外側に4~10cm広がる。深さは63cmで、断面形状はフラスコ状である。底面の西壁際と東壁際にはピットが2個認められる。西壁際のピットは直径23cmの円形で深さは12cm、東壁際のピットは直径32cmの円形で深さは28cmである。堆積土は8層に分けられ、1・3・4層（第18図①・③・④）が人為堆積、その他は



図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号	
19-1	SK22	堆積土	深鉢	尖起に凹面文（酒呑状）					33-9	24	
19-2	SK22	堆積土	深鉢	平底、縄文（IRL）					33-10	22	
19-3	SK22	堆積土	密か	赤褐色あり、疊縮文、ボタン状輪付					33-11	23	
19-4	SK22	堆積土	円盤状土器製品	最大径4.1cm、伴用破片利用、周囲を打ち欠き、一部研削、縄文（RLR）					33-12	21	
図番号	遺構	層	器種	長 S (mm)	幅 (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
19-5	SK22	堆積土	敲石	54.9	76.9	24.5	104.2	麻尾質砂岩			33-13 412
19-6	SK22	堆積土	門扇石	164.1	54.0	33.0	274.5	安山岩質凝灰岩			33-14 413
19-7	SK22	堆積土	磨凹石	178.9	69.1	28.5	374.7	安山岩質凝灰岩	磨面→敲打面、被熱あり		33-15 414
19-8	SK22	堆積土	石皿	193.9	106.5	24.5	612.0	粘板岩	被熱あり		33-16 415

第19図 1区 SK22 土坑出土遺物



図番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号
20-1	SK29	最下層	漆跡	メビウス状の環状突起(矢面)、隣接+2個1対の組み目文、沈織文、縦文(BL)、物消織文	34-12	61
20-2	SK29	堆積土	漆跡	底径5.5cm、縦文(LR)、底面に木葉痕	34-13	33
20-3	SK29	堆積土	磨四石	長さ110.0mm、幅57.3mm、厚さ179.1mm、凝灰質砂岩	34-14	416
20-4	SK29	堆積土	磨四礫石	125.8mm、56.8mm、55.0mm、326.4mm、凝灰質砂岩	34-17	417
20-5	SK29	堆積土	石盤	286.2mm、83.6mm、37.5mm、990.0mm、安山岩質凝灰岩	34-18	418
20-6	SK29	堆積土	石盤	131.6mm、97.5mm、18.5mm、280.9mm、安山岩質凝灰岩	34-15	419
20-7	SK29	堆積土	石盤	174.7mm、76.1mm、38.5mm、693.0mm、花崗岩	34-16	420

第20図 1区SK29土坑出土遺物

自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第19図1・2）、赤彩のみられる土器（第19図3）、円盤状土製品（第19図4）、砥石（第19図5）、磨凹敲石類（第19図6・7）、石皿（第19図8）が出土している。

#### 【SK28土坑】（第18図）

1区東に位置する。SK21・30土坑と重複関係があり、SK21・30より新しい。直径1.7mの不整形で、深さは50cmである。断面形は逆台形である。堆積土は4層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から近世以降の瓦が出土している。

#### 【SK29土坑】（遺構：第18図、遺物：第20図）

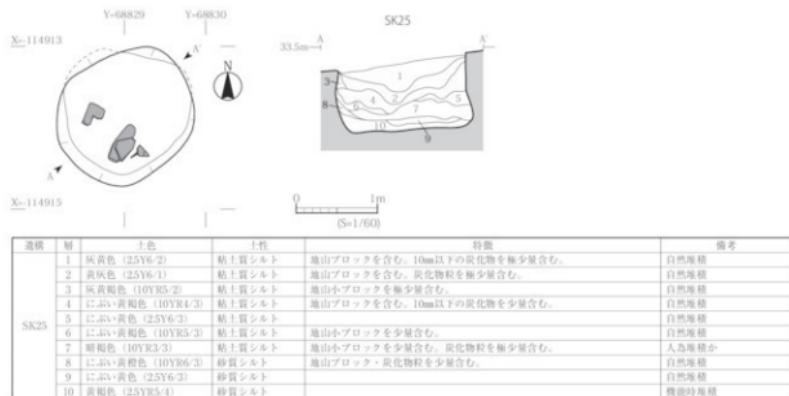
1区東に位置する。SK22・30土坑と重複関係があり、SK22・30より古い。西側をSK22に切られるため全体の平面形は不明であるが、長軸2.1m以上、短軸1.7mの楕円形とみられる。深さは70cmで、断面形はフラスコ状である。堆積土は8層に分けられ、1～4層（第18図13～16層）は人為堆積、5～8層（第18図17～20層）は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第20図1・2）、磨凹敲石類（第20図3・4）、石皿（第20図5～7）が出土している。

#### 【SK30土坑】（第18図）

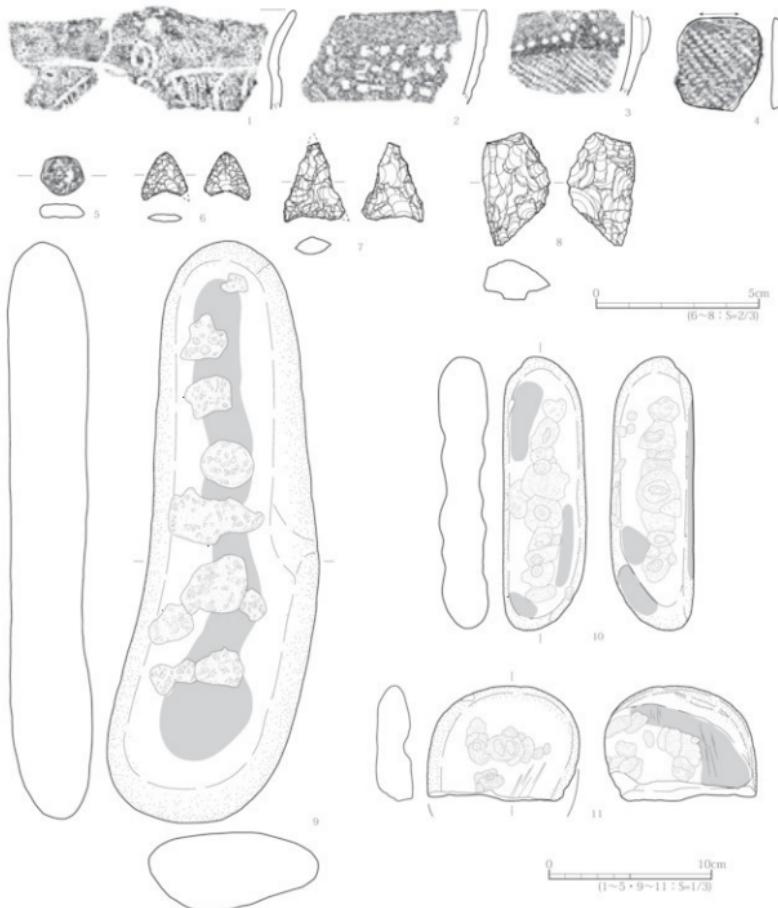
1区東に位置する。SK28・29土坑と重複関係があり、SK28より古く、SK29より新しい。長軸2.0m以上、短軸1.3mの楕円形で、深さは37cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器の小片が出土している。

#### 【SK25土坑】（遺構：第21図、遺物：第22図）

1区東に位置する。長軸1.8m、短軸1.7mの不整形円形で、深さは98cmである。北壁の一部がオーバーハングしており、断面形はフラスコ状である。堆積土は10層に分けられ、7層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第22図1～3）、円盤状土製品（第22図4・5）、石鏃（第22図6・7）、楔形石器（第22図8）、磨凹敲石類（第22図10・11）、石皿（第22図9）が



第21図 1区 SK25土坑



図番号	遺構	層	器種	長S (mm)	幅 (mm)	厚S (mm)	重量 (g)	特徴	写真 登録番号
22-1	遺構	堆积土	深跡					波状口縁、波面底部下に貫孔・沈殿物（褐色状）、熱余文（不明）→沈殿物	34-1 29
22-2	SK25	堆积土	深跡					平縁、断頭状痕（3回以上）	34-2 28
22-3	SK25	堆积土	深跡					波縁に沿う円形剝突（管状抜工具）、織文（LR）。	34-3 26
22-4	SK25	堆积土	円錐状土製品	最大155.6cm、厚3.07cm、体部破片利用、打ち欠き後に周縁研磨、織文（LR）→沈殿					34-5 131
22-5	SK25	堆积土	円錐状土製品	最大124.6cm、厚2.07cm、体部破片利用、打ち欠き後に一部研磨、織文（LR）					34-4 27
図番号	遺構	層	器種	長S (mm)	幅 (mm)	厚S (mm)	重量 (g)	石材	写真 登録番号
22-6	SK25	堆积土	石盤	14.6	14.1	2.0	0.4	黒曜石	347 421
22-7	SK25	堆积土	石盤	24.3	18.9	6.0	1.8	玉髓	348 422
22-8	SK25	堆积土	楔形石器	34.6	20.8	12.2	8.1	木質貝殻	346 423
22-9	SK25	堆积土	石盤	357.7	130.6	50.0	3470.0	安山岩	3411 424
22-10	SK25	堆积土	磨盤	168.2	51.6	32.5	367.8	凝灰質砂岩	3410 425
22-11	SK25	堆积土	門扇石	70.6	93.6	22.0	175.2	凝灰質砂岩	349 426

第22図 1区 SK25 土坑出土遺物

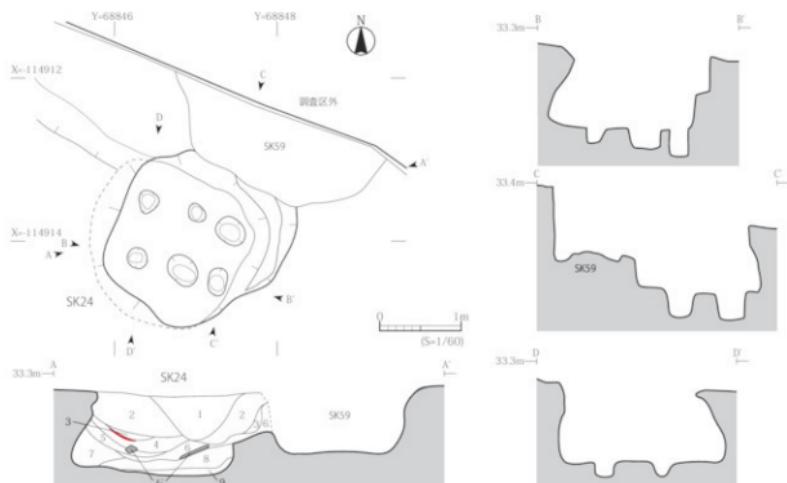
出土している。堆積土7層には石器や縄石器の素材とみられる礫が廃棄されている(写真図版3-8)。

**【SK12 土坑】(第27図)**

1区東の中央に位置する。上端は長軸1.8m、短軸1.6mの楕円形で、下端は長軸1.9m、短軸1.5mの楕円形で、北壁と南壁の一部がオーバーハングしており、外側に3~12cm広がる。深さは105cmで、断面形はフラスコ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは直径38cmの円形で、深さは21cmである。堆積土は14層に分けられ、11・12層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第27図1~3)、石鎌(第27図4)、磨凹敲石類(第27図5・6)、石皿(第27図8)、不明石製品(第27図7)が出土している。

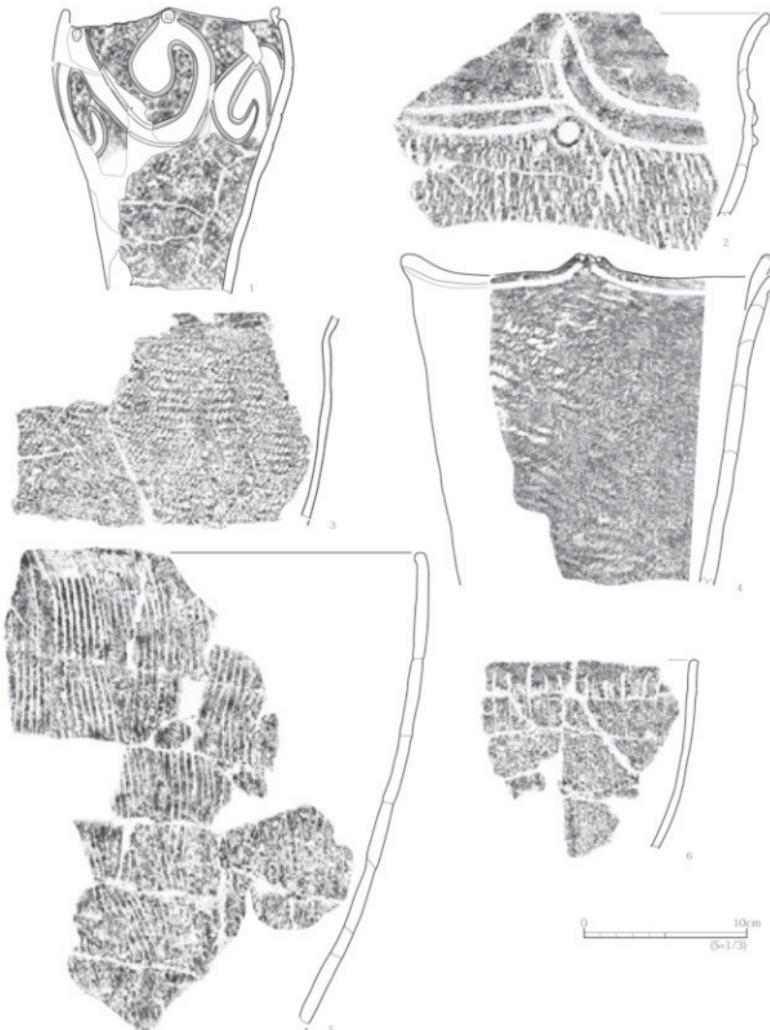
**【SK24 土坑】(遺構: 第23図、遺物: 第24~26図)**

1区東に位置する。SK59土坑と重複関係があり、SK59より古い。長軸2.1m、短軸1.9m以上の楕円形で、深さは105cmである。西壁がオーバーハングしており、断面形はフラスコ状である。底面にピットが6個認められる。ピットは直径25~41cmの円形で、深さは17~33cmである。堆積土は10層に分けられ、3~6層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第24図・第25図1)、石鎌(第25図2)、打製石斧(第25図5)、板状石器(第25図6)、磨製石斧(第25図4)、磨凹敲石類(第25図7~9)、石皿(第25図10、第26図2・3・4)が出土している。



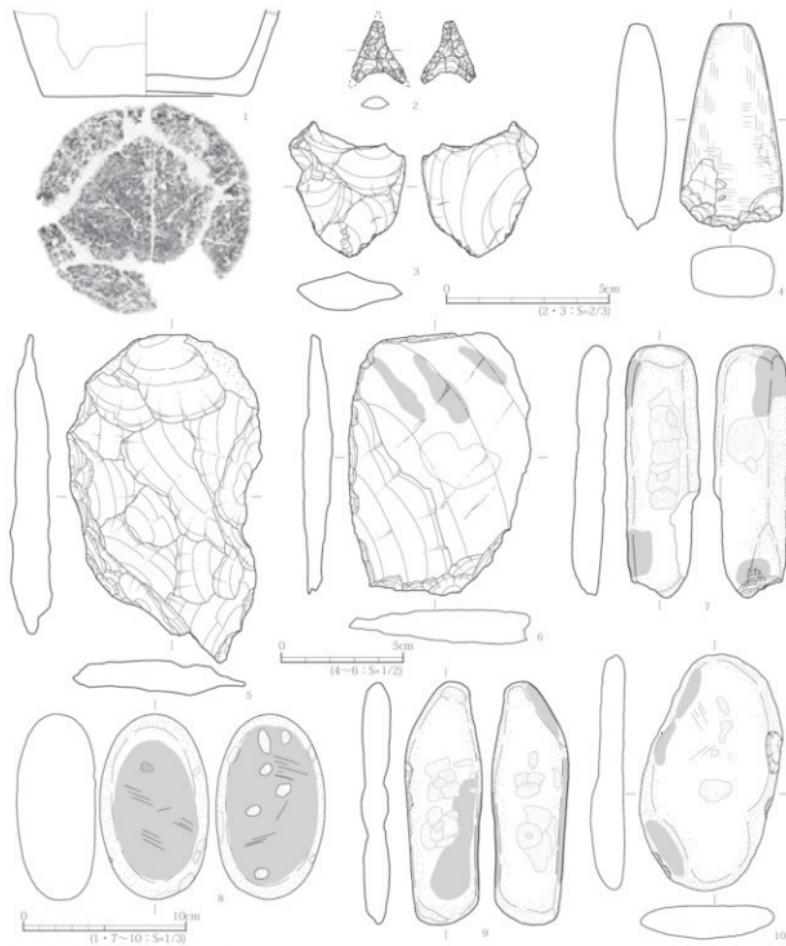
遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK24	1	黒褐色 (10YR2/3)	砂質シルト	礫塊を多量に含む。不腐土層、根張?	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	礫塊を多量に含む。φ5cm程度の礫を含む。	自然堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	礫塊を多量に含む。	人為堆積
	4	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	中礫を多量含む。炭化物を極多量に含む。上部に幾本ブロックの薄削あり。	人為堆積
	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中礫、炭化物を少量含む。	人為堆積
	6	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	中礫を少量含む。炭化物を極多量に含む。礫土を少量含む。	人為堆積
	7	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	粗礫を多量に含む。しきりなくばらばらしている。	自然堆積
	8	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中礫を少量含む。炭化物を少量含む。	自然堆積
	9	灰褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	中礫を少量含む。粘性あり。	自然堆積

第23図 1区 SK24 土坑



図番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号
24-1	遺構	6層	深鉢	口径13.6cm。流状口縁。圓文(LR)→沈縞→首孔	32-1	2
24-2	SK24	6層	深鉢	平縞、ボタン状貼付→熟糸文(L)→沈縞	32-2	6
24-3	SK24	6層	深鉢	圓文(LR)	32-6	4
24-4	SK24	6層	深鉢	復元口径22.9cm。波状口縁(突起4単位)、突起部に網み2個。圓文(L)、沈縞文	32-4	1
24-5	SK24	6層	深鉢	平縞、熟糸文(R)	32-5	3
24-6	SK24	堆積土	深鉢	平縞、粗筋文(先端2本少)	32-3	5

第24図 1区 SK24 土坑出土遺物 (1)



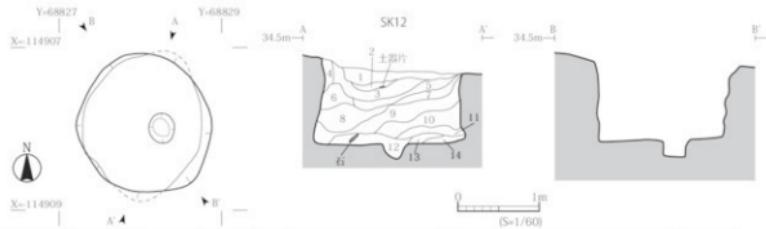
第25図 1区 SK24 土坑出土遺物 (2)

番号	規格	規	規格	特徴	写真	登録番号	
14番号	規格	規	規格	特徴	写真	登録番号	
25-1 SK24 6mm	深澤小	直径12.5mm、底面に木板面				32-7 133	
14番号	規格	規	規格	特徴	写真	登録番号	
25-2 SK24 2mm	石難	19.2	16.6	4.0	0.7	黒色 貝岩	32-8 428
25-3 SK24 地積上	銅片	41.4	35.7	11.9	13.0	貝殻	32-9 428
25-4 SK24 地積上	銅葉石斧	84.8	41.9	21.5	111.1	ドレーライト	32-10 429
25-5 SK24 地積上	打製石斧	134.5	80.0	18.4	161.1	粘板岩	32-12 430
25-6 SK24 地積上	砂器状器	107.6	74.7	13.8	117.0	粘板岩	32-11 431
25-7 SK24 8mm	磨削石	155.2	46.0	38.5	193.4	安山岩質灰岩	33-4 432
25-8 SK24 地積上	磨削石	113.8	66.9	67.5	539.1	石英質灰岩	33-1 433
25-9 SK24 8mm	磨削石	149.5	47.3	18.0	200.2	安山岩質灰岩	33-3 434
25-10 SK24 地積上	磨削石	147.0	82.0	21.0	306.5	安山岩質灰岩	33-2 435

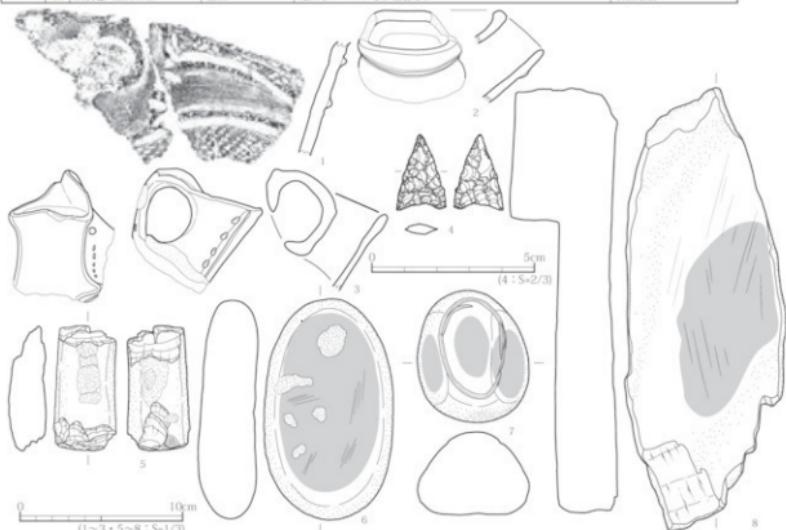


図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 登録 番号
26-1	SK24	堆积土	磨歎石	237.7	57.9	29.0	430.4	凝灰質砂岩	磨面→敲打面	335 436
26-2	SK24	8解	石器	101.0	113.5	106.5	1730.0	凝灰質砂岩	被熱あり	334 437
26-3	SK24	8解	石器	144.1	107.1	55.5	969.5	凝灰質砂岩		337 438
26-4	SK24	堆积土	石器	189.7	142.4	81.5	3180.0	花崗岩		338 439

第 26 図 1 区 SK24 土坑出土遺物 (3)



遺構	層	土性	特徴	参考
SK12	1	暗オリーブ褐色 (25Y3/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。10mm以下の炭化物を少量含む。遺物出土。
	2	オリーブ褐色 (25YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。遺物出土。
	3	暗灰褐色 (25Y5/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。10mm以下の炭化物を極少量含む。
	4	灰いわ黄褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	5	オリーブ褐色 (25Y4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。10mm以下の炭化物を少量含む。
	6	灰いわ黄褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。
	7	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。遺物出土。
	8	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。10mm以下の炭化物を少量含む。遺物出土。
	9	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	10	灰褐色 (25Y6/2)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。
	11	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。10mm以下の炭化物を極少量含む。
	12	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	10mm以下の炭化物を極少量含む。
	13	灰褐色 (25Y6/2)	粘土	縫を少部分含む。
	14	灰褐色 (25Y6/2)	粘土	地山小ブロックを少量含む。



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
ZT-1	SK12	堆積土	深鉢	隆縁に2個1対の崩れ口付。縄文 (LR1, 極板) →沈縁状の崩き						30.1	8
ZT-2	SK12	堆積土	深鉢	注口に把手付き(欠落)、縄文						30.2	10
ZT-3	SK12	堆積土	深鉢	注口に把手付き、隆縁に沿う溝輪突起。把手の系部に貫通孔。						30.3	49
国番号	遺構	層	器種								
ZT-4	SK12	堆積土	石瓶	23.2	15.1	3.9	0.9	珪質頁岩	円底	304	440
ZT-5	SK12	堆積土	門扇石	76.9	38.4	24.5	94.0	安山岩質輝石岩		305	441
ZT-6	SK12	堆積土	磨頭石	135.9	79.5	36.0	639.5	花崗岩	前面→敲打痕	307	442
ZT-7	SK12	堆積土	不明石製品	81.1	68.7	31.5	429.7	石英質岩	円形の縦筋幅2~3mm	306	443
ZT-8	SK12	堆積土	石瓶	272.5	99.3	64.0	191.0	安山岩質輝石岩		308	444

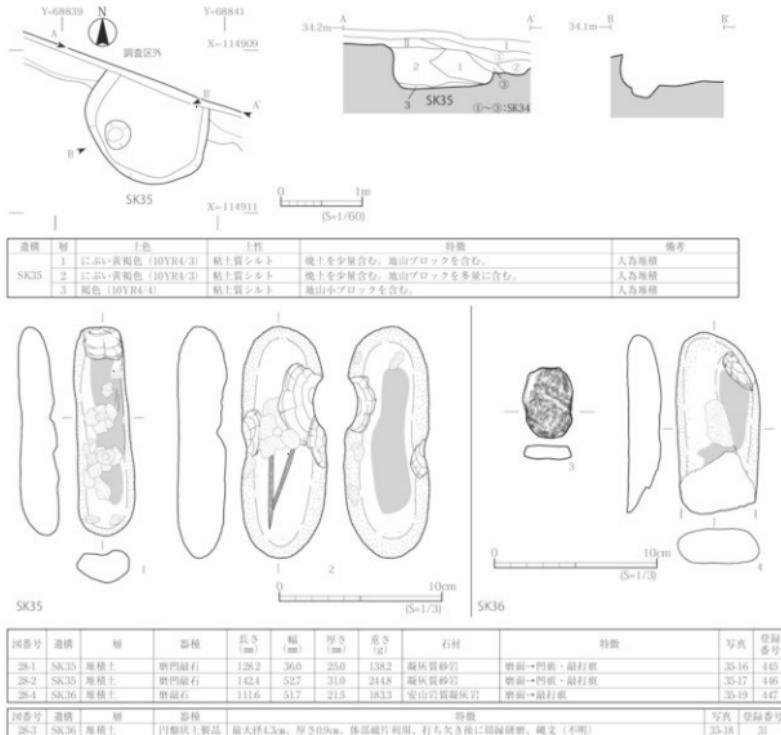
第27図 1区SK12土坑と出土遺物

【SK35 土坑】(遺構: 第28図、遺物: 第28図1・2)

1区東に位置する。SK34 土坑と重複関係があり、SK34より古い。北側が調査区外に延びるため全体の平面形は不明であるが、長軸 1.6m、短軸 1.3m 以上の楕円形とみられる。深さは 53cm で、断面形は逆台形である。底面の南壁際にピットが認められる。ピットは直径 36cm の円形で、深さは 14 cm である。堆積土は 3 層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から磨凹敲石類(第28図1・2)が出土している。

【SK36 土坑】(遺構: 第6図、遺物: 第28図3・4)

1区東に位置する。SK34 土坑と重複関係があり、SK34より古い。直径 1.0m の円形で、深さは 53cm である。断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。堆積土から円盤状土製品(第28図3)、磨凹敲石類(第28図4)が出土している。



第28図 1区 SK35・36土坑と出土遺物

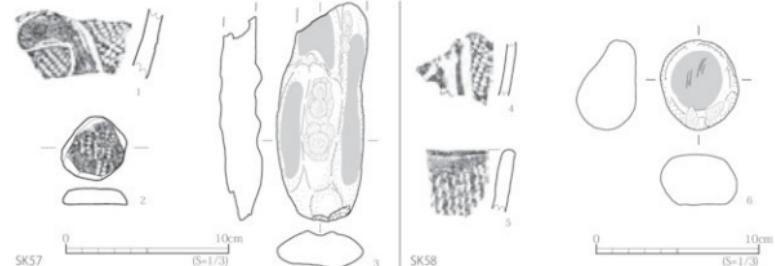
**【SK57 土坑】(遺構: 第29図、遺物: 第29図1~3)**

1区東端に位置する。長軸1.4m、短軸1.3mの楕円形で、深さは32cmである。断面形はフ拉斯コ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは径39cmの円形で、深さは13cmである。堆積土は4層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第29図1)、円盤状土製品(第29図2)、磨凹敲石類(第29図3)が出土している。

**【SK58 土坑】(遺構: 第29図、遺物: 第29図4~6、第30図)**

1区東端に位置する。長軸1.2m、短軸1.1mの楕円形で、深さは16cmである。断面形は逆台形である。底面の中央にピットが認められる。ピットは径52cmの円形で、深さは39cmである。堆積土は5層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第29図4・5)、磨凹敲石類(第29図6・第30図2)、石皿(第30図1)が出土している。

遺構	層	土色		土性		特徴	備考
		層	色	層	性		
SK57	1	オリーブ褐色	(25Y4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。	自然堆積	自然堆積
	2	黄褐色	(25Y5/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。		
	3	暗灰褐色	(25Y4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。		
	4	黄褐色	(25Y5/3)	砂質シルト	地山ブロックを含む。		
SK58	1	暗灰褐色	(25Y4/2)	砂質シルト	地山小ブロックを少量含む。炭化物粒を極少量含む。	自然堆積	自然堆積
	2	灰・黄褐色	(10YR4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。塵を少量含む。		
	3	灰褐色	(10YR4/2)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。		
	4	オリーブ褐色	(25Y4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。		
	5	灰・黄褐色	(10YR4/3)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。		



回番号	遺構	層	器種	特徴				写真 登録番号	
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
29-1	SK57	堆積土	深鉢	縄文(LR)→沈縄文、表面消褪文				35-1 38	
29-2	SK57	堆積土	円盤状土製品	最大径3.8cm、厚3.1cm。体部破片剥落、打ち欠き後に周縁研磨、縄文(LR)				35-2 39	
29-4	SK58	堆積土	深鉢	縄文、縄文(RLR複印)				35-11 37	
29-5	SK58	堆積土	深鉢	平縫、撚糸文(LR)				35-12 36	
回番号	遺構	層	器種	特徴				写真 登録番号	
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
				134.2	54.0	28.0	223.8	安山岩質凝灰岩 削面→門面	35-3 448
29-3	SK57	堆積土	磨削石	55.3	48.0	37.0	125.9	有茎四邊形 削面→前打痕	35-13 449
29-6	SK58	堆積土	磨削石						

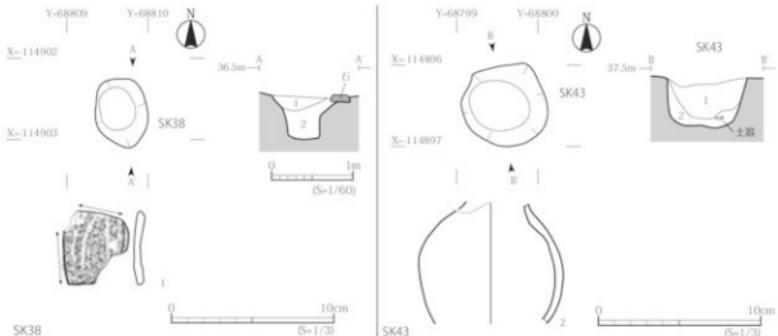
第29図 1区 SK57・58 土坑と出土遺物



第30図 1区 SK58 土坑出土遺物

【SK59 土坑】(第32図)

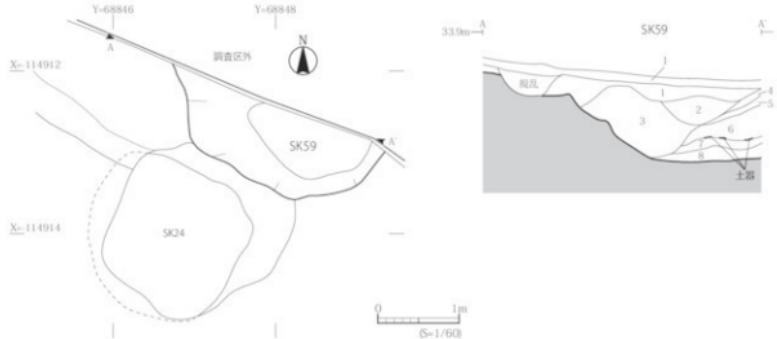
1区東に位置する。SK24 土坑と重複関係があり、SK24 より新しい。北側が調査区外に延びるため全体の平面形は不明であるが、長軸 2.5m、短軸 1.0m 以上で、円形または梢円形とみられる。深さは 80cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 8 層に分けられ、1～3 層と 7 層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第32図1～4)、石皿(第32図5)、磨凹敲石類(第32図6・7)が出土している。



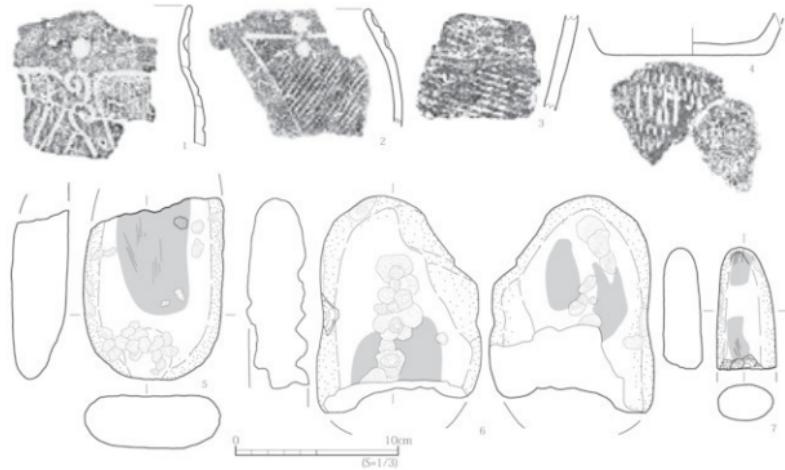
遺構	層	土色	土性	特徴	参考
SK38	1	棕褐色～黄褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	礫土・炭化物を少量含む。埴山松を含む。	人為堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	埴山松を少量含む。	自然堆積
SK43	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物を少量含む。埴山ブロックを多量に含む。	人為堆積
	2	明褐色 (2.5YR5/6)	粘土質シルト	埴山ブロックを多量に含む。	人為堆積

遺構	層	土色	特徴	写真	登録番号
SK38	堆積土	内盤状土製品	最大径 4.0m、厚さ 0.5m、体部破片利用、打ち欠き後に一部研磨、沈縄文	35-20	30
SK43	2層	等	部表面摩滅、沈縄文	35-21	13

第31図 1区 SK38・43 土坑と出土遺物



遺構	層	土色	土性	特徴		参考
				地山・施物	地山小ブロック	
SK59	1	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山・施物を含む。	地山小ブロックを含む。	人为堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山を少量含む。	地山小ブロックを多量に含む。	人为堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	粗石を少量含む。		人为堆積
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロックを多量に含む。	地山小ブロックを含む。	自然堆積
	5	にぶ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	地山小ブロックを多量に含む。	地山小ブロックを多量に含む。	自然堆積
	6	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロックを多量に含む。	地山小ブロックを含む。	自然堆積
	7	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山・施物を多量に含む。	地山小ブロックを含む。	人为堆積
	8	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山・施物を極少量含む。	地山小ブロックを含む。	自然堆積



図番号	遺構	層	器種	特徴				写真	登録番号		
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)				
32-1	SK59	6層	漆跡	波状口縁 (4重仕切)、波状面部に背孔・沈縞文 (渦巻き文)、体部は撚糸文 (不明) → 沈縞文				35-4	135		
32-2	SK59	6層	漆跡	波状口縁、撚文 (RL) → 沈縞文・背孔				35-5	136		
32-3	SK59	堆積土	漆跡	網文 (L)				35-6	34		
32-4	SK59	6層	漆跡	底径10cm、底面に網代痕 (1本横1本横1本逆か)				35-7	35		
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	特徴	写真	登録番号
32-5	SK59	堆積土	石器	111.8	85.0	34.0	393.8	凝灰質砂岩		35-10	452
32-6	SK59	堆積土	磨削歯石	133.3	101.4	38.5	501.6	凝灰質砂岩	側面・門前・敲打痕	35-9	453
32-7	SK59	堆積土	磨削石	75.3	36.5	22.0	78.1	凝灰質砂岩	側面・敲打痕	35-8	454

第32図 1区SK59土坑と出土遺物

## B. 1区西

### 【SK38 土坑】(遺構: 第31図、遺物: 第31図1)

1区西に位置する。長軸0.9m、短軸0.6mの楕円形で、深さは53cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分けられ、1層は人為堆積、2層は自然堆積である。堆積土から円盤状土製品（第31図1）が出土している。

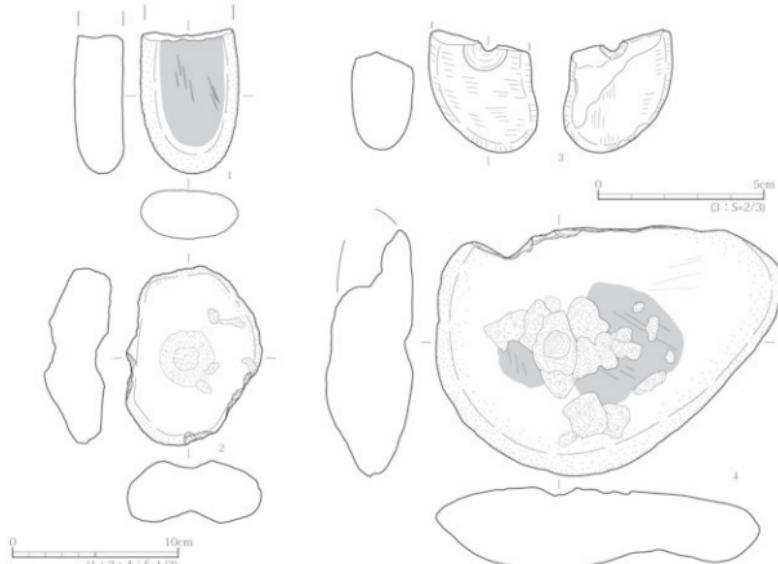
### 【SK43 土坑】(遺構: 第31図、遺物: 第31図2)

1区西に位置する。直径1.0mの円形で、深さは60cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から縄文土器壺（第31図2）が出土している。

#### ②その他の遺構と遺構外出土遺物

1区中央のSX37 焼土遺構は近世以降の陶器が出土しているほか、流れ込みとみられる有孔石製品（第33図3）が出土している。

遺構外出土遺物は、搅乱から磨頭敲石類（第33図1・2）、石皿（第33図4）のほか、縄文土器の小片が出土している。



回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
33-1	遺構外	搅乱	磨石	87.2	59.2	29.5	2696	石英斑岩		35-23 455
33-2	遺構外	搅乱	円石	110.0	82.2	40.0	3341	凝灰質砂岩		35-24 456
33-3	SX37	堆積土	有孔石製品	37.0	32.9	19.0	222	凝灰質砂岩	貫通孔あり(両側穿孔)	35-22 457
33-4	遺構外	搅乱	石皿	150.7	209.4	52.0	15208	凝灰質砂岩		35-25 458

第33図 1区遺構外出土遺物

## (2) 2区

検出された遺構には、堅穴建物跡2棟、溝跡1条、土坑6基のほか自然流路跡や近世以降の採掘坑に関連するとみられる遺構があり（第7図）、出土遺物には縄文土器・土製品・土師器、須恵器、石器・石製品、羽口、炉壁などがある。以下、主要なものについて説明する。

### ①堅穴建物跡

丘陵南緩斜面にあたる2区東で2棟の堅穴建物跡を検出している。

#### 【SI101 堅穴建物跡】（遺構：第34図、遺物：第35図）

2区東端に位置する。南西部は残存しておらず、約2/3を確認している。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 全体の平面形は不明であるが、平面形は直径3.5mの円形と推定される。

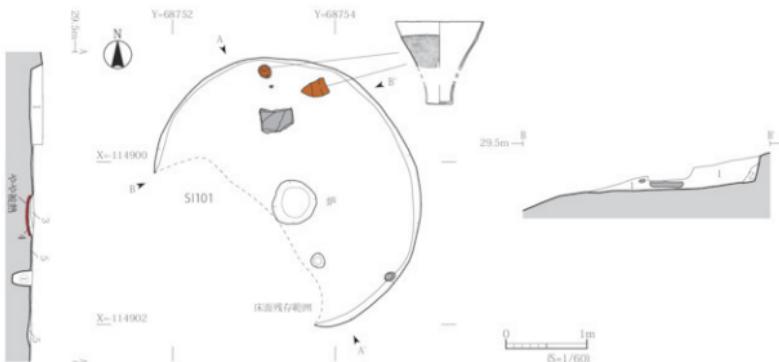
〔壁〕 地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい東側で床面から30cmである。

〔床面〕 地山が岩盤となる南東部では掘方埋土、その他は地山を床面としており、ほぼ平坦である。

〔炉〕 中央で地炉を確認している。平面形は直径約56cmの不整円形で、深さは8cmである。炉内の堆積土は2層に分けられ、上層は被熱して赤変した褐色シルト、下層はやや被熱の程度が弱い褐色シルトである。

〔その他〕 ピットを1個確認している。直径19cmの円形で、深さは26cmである。堆積土はにぶい黄褐色シルトである。柱痕跡は確認していない。

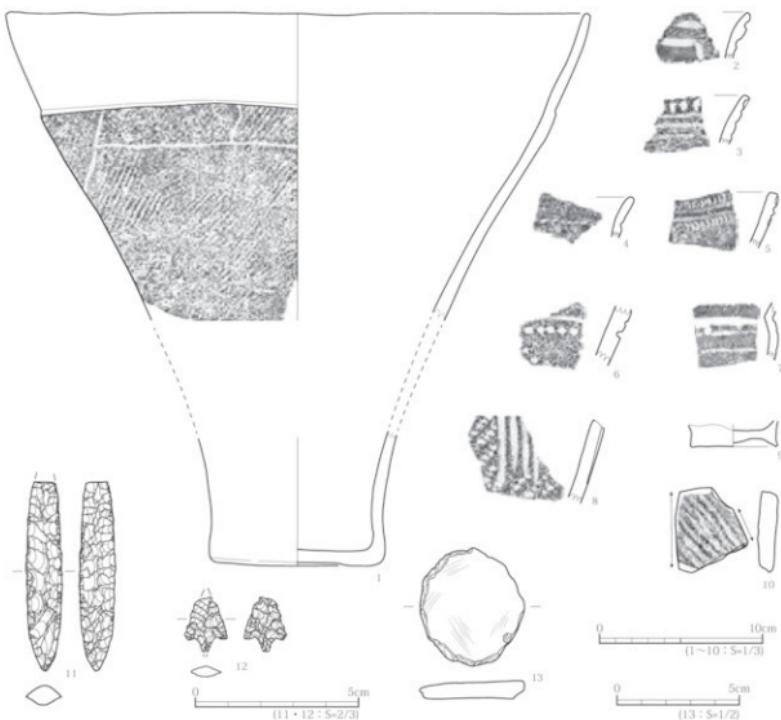
〔堆積土〕 堆積土は2層に分けられ、1層は全体に堆積する褐色粘土質シルト、2層は壁の崩落土とみられる明黄褐色粘土質シルトである。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SI101	1	褐色 (10YR4-6)	粘土質シルト	粘土質を含む。	自然堆積
	2	明黄褐色 (2.5YR6-6)	粘土質シルト	地山ブロック・中塊を含む。	自然堆積
	3	褐色 (5YR6-8)	シルト	焼土土体。	炉内堆積土
	4	褐色 (5YR6-6)	シルト	にぶい褐色土ブロック (7.5YR7-4) を含む。	炉内堆積土
	5	黄褐色 (10YR5-6)	粘土質シルト	地山ブロックを含む。	掘方埋土
	(1)	にぶい黄褐色 (10YR4-3)	シルト		ピット

第34図 2区 SI101 堅穴建物跡

〔出土遺物〕床面で縄文土器深鉢（第35図1）・石錐（第35図12）・石錐（第35図11）、床面直上でミニチュア土器とみられる底部破片（第35図9）、堆積土から縄文土器深鉢（第35図2～8）、研磨土器片（第35図10）、円盤状石製品（第35図13）が出土している。



図番号	遺構	層	器種	特徴	写真 登録番号
35-1	S1101	床面	深鉢	平縁、口縁部に無文帯、縄文（LR）。体下部は芯面が摩耗、底面はナデか。	36.1 45
35-2	S1101	堆積土上層	深鉢か	平縁、縄文（RL）→沈縁	36.2 137
35-3	S1101	堆積土上層	深鉢か	平縁、口縁部に削み、沈縁（横縁平行）→削突（縦縁）	36.3 138
35-4	S1101	堆積土上層	深鉢か	平縁、口縁部に無文帯、押住縄文区画（RL）、体部に縄文（RL）	36.4 139
35-5	S1101	堆積土下層	深鉢か	底径13cm、沈縁→通底削突文（半截竹管・口）状	36.5 140
35-6	S1101	堆積土	深鉢か	沈縊文、円形削突文（列状）	36.7 143
35-7	S1101	堆積土下層	深鉢か	沈縊、切み	36.8 44
35-8	S1101	堆積土下層	深鉢か	縄文（RL規則）→沈縁（4条1縫合）	36.8 141
35-9	S1101	床面	不明	復元直径5.4cm、底部は低い高台状。内面に付着物あり	36.9 144
35-10	S1101	堆積土	研磨土器片	長55.1cm、幅4.4cm、厚20.9mm。体部破片利用、台形状。二側縁を削り	36.10 142
図番号	遺構	層	器種	特徴	写真 登録番号
35-11	S1101	堆積土下層	石錐	37.9 11.2 6.3 4.3 目貫頁岩	36.11 208
35-12	S1101	堆積土下層	石錐	16.7 13.0 3.8 0.6 石玉	36.12 210
35-13	S1101	堆積土下層	円盤状石製品	48.2 42.7 7.8 22.1 安山岩質凝灰岩	36.13 207

第35図 2区 S1101 積穴建物跡出土遺物

【S1105 積穴建物跡】（遺構：第36図、遺物：第37図）

2区東の谷部に近い緩斜面に位置する。掘方は部分的にしか確認できていないが、炉跡と主柱穴と

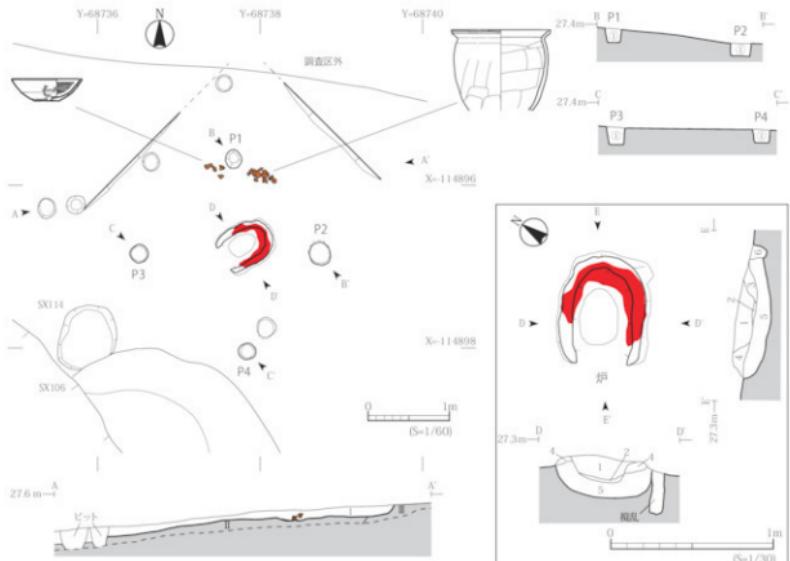
みられるピット4個を確認していることから竪穴建物跡であると判断した。

〔平面形・規模〕 全体の平面形は不明であるが、主柱穴の位置関係から一辺が3.4m程度の方形と推定される。

〔床面〕 地山を床面としている。床面の標高は北東側が高く、南東側に向かって低くなるようになだらかに傾斜している。

〔柱穴〕 柱穴はP1～P4の4個を検出した。平面形はP1・P2が長軸24～30cm、短軸20～26cmの楕円形、P3・P4が直径20～21cmの円形である。深さは16～21cmである。堆積土はにぶい黄褐色シルトである。柱痕跡は確認していない。

〔炉〕 中央で確認しており、炉底と炉体の一部が残存している。炉の掘方は長軸74cm、短軸60cmの楕円形で深さは21cmである。掘方に粘土（第36図4・5層）を貼って炉本体を構築している。炉は長軸45cm、短軸31cmで、南西側に開口する馬蹄形である。炉の深さは15cmで、断面形は逆台形である。炉壁は北東側の3分の2程度が特に強く被熱硬化している。炉内の堆積土は3層に分けられる。1層は被熱してろく粉状になった焼土、2層は焼土ブロックを含む明褐色粘土質シルト、



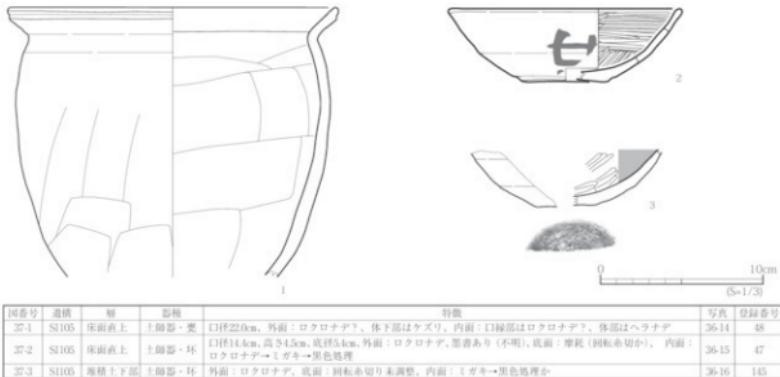
第36図 2区SI105竪穴建物跡

遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SI105 炉	1	黒褐色 (10YR2/2)	粘土質シルト	地山粒を多量に含む。	自然堆積
	1	明赤褐色 (5YR5/6)	粘土質シルト	黄褐色でもろく粉状になった焼土。	人为堆積
	2	明褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	褐色焼土小ブロックを含む。	人为堆積
	3	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	粘土質シルト	ほとんど被熱していない。	人为堆積
	4	明赤褐色 (5YR5/6)	粘土	被熱化している。	如壁
ピット	5	にぶい赤褐色 (5YR4/4)	粘土	黄色土小ブロックを多量に含む。	如壁
	1	褐褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト		抜取り穴か

3層はほとんど被熱していないにぶい褐色粘土質シルトである。

〔堆積土〕堆積土は黒褐色粘土質シルトである。

〔出土遺物〕床面直上のP1付近で土師器壺（第37図1）・墨書きが施された土師器坏（第37図2）、堆積土下部で土師器坏（第37図3）が出土している。



第37図 2区 SI105 穫穴建物跡出土遺物

## ②土坑

土坑は2区東で1基、2区西で5基確認している。いずれの土坑からも遺物が出土していないため時期は特定できないものの、2区東で確認したSK114土坑は堆積土の特徴から古代以前にさかのばる可能性が高いもの、2区西で確認したSK109～113土坑は堆積土の特徴から近世以降の新しい時期のものと判断した。

### 【SK114 土坑】（第38図）

2区東の谷部に近い緩斜面に位置する。南東部が搅乱により壊されている。平面形は長軸0.9m、短軸0.7m以上の楕円形とみられる。深さは31cmで、断面形は逆台形である。堆積土は2層に分けられ、1層は人為堆積、2層は自然堆積である。遺物は出土していない。

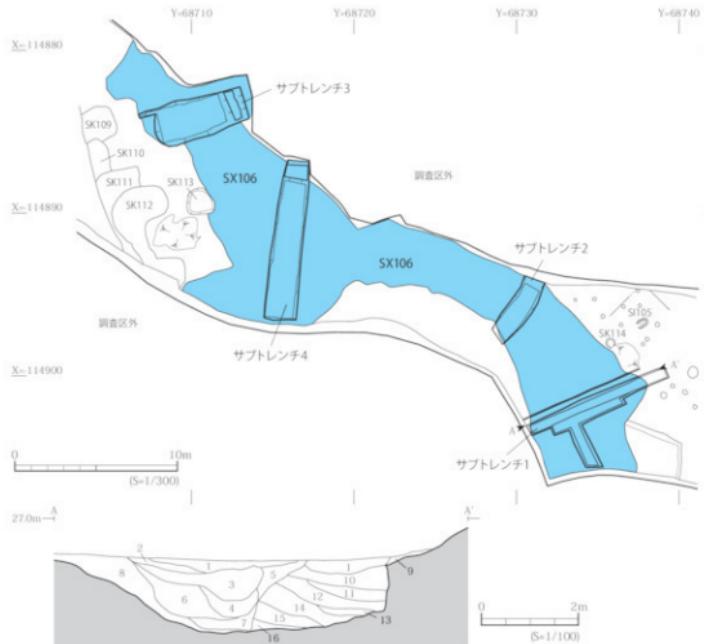


第38図 2区 SK114 土坑

### ③その他の遺構

#### 【SX106 自然流路跡】(遺構: 第39図、遺物: 第40図)

2区西の斜面部から2区中央の谷部に位置する。S字状に蛇行しながら北から南へ流れしており、西側では西方向に分岐している。SK113土坑と重複しており、SK113より古い。流路方向に直交する4本のサブトレーンチ（サブトレーンチ1～4）を設定し、断割り調査した。検出した部分では東西方向40.7m以上、南北方向7.2m以上で、西側と南側が調査区外へ延びる。北端は東側に屈曲すると想定されるが、調査区北側に設定した試掘トレーンチでは検出できていない。断割り部で確認した深さは



遺構名	層	土色	土性	特徴	備考
SX106	1	黄褐色 (7.5YR4/3)	粘土質シルト	黄褐色山小ブロックを含む。礫文土器片・石礫が出土。	自然堆積
	2	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	造山小ブロックを含む。	自然堆積
	3	にじみ・黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	粗礫を多量含む。近世以降の陶器片が出土。	自然堆積
	4	暗褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	造山小ブロックを含む。	自然堆積
	5	黄褐色 (25Y3/3)	粘土質シルト		自然堆積
	6	黄褐色 (25Y5/6)	シルト	褐色土ブロック、粗礫～粗石を多量含む。	自然堆積
	7	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	黄色系造山ブロックが多量含む。	自然堆積
	8	灰・黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト	炭化植物が出土。	自然堆積
	9	明黄褐色 (10YR7/6)	シルト	にじみ・黄褐色土ブロックを含む。	自然堆積
	10	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト	褐色粘土質シルトが混入。青灰色の粗礫を含む。	自然堆積
	11	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト		自然堆積
	12	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト	灰白色の細礫を含む。	自然堆積
	13	にじみ・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト		自然堆積
	14	明黄褐色 (25Y6/6)	粘土質シルト	黄色土小ブロックを含む。	自然堆積
	15	暗灰褐色 (25Y4/2)	粘土質シルト	8層に類似。	自然堆積
	16	明黄褐色 (10YR6/6)	シルト	中礫を含む。	自然堆積

第39図 2区 SX106 自然流路跡



図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号	
40-1	堆積	層	貝殻	外側：タキシ、内面：当て具痕					37.1	42	
40-2	SX106	堆積土上部	石躰	外側：ロクロナデ・袖形、内面：カキ目・輪裏					37.2	41	
40-3	SX106	堆積土上部	洞口	繊片					37.6	40	
40-8	SX106	堆積土下部	鉄滓	797.5g					37.7	278	
40-9	SX106	堆積土下部	鉄滓	966.5g					37.8	279	
図番号	遺構	層	器種	残存	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真
40-4	SX106	堆積土上部	石躰	先端部欠損	16.0	15.2	4.0	0.6	珪質頁岩	門基、先端部欠損	37.3 213
40-5	SX106	堆積土上部	完形		17.5	13.5	3.0	0.5	珪質頁岩	門基、先端部少々小	37.9 215
40-6	SX106	堆積土下部	磨盤最右	一端を欠損	118.3	58.4	31.0	250.1	珪灰質砂岩	磨面→敲打痕	37.4 209
40-7	SX106	堆積土下部	円錐石		155.7	107.2	38.5	576.0	珪灰質砂岩		37.5 245

第40図 2区 SX106 自然流路跡出土遺物

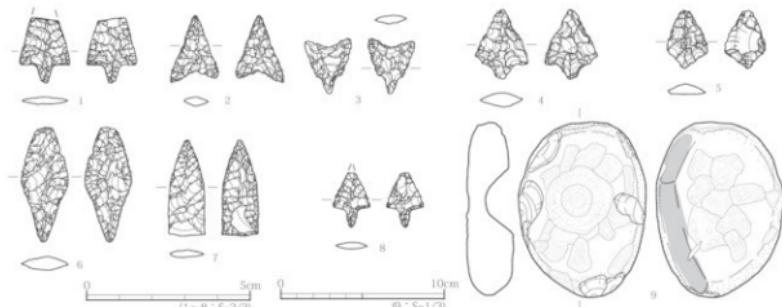
1.8 ~ 3.0m である。堆積土は黒色~暗褐色シルトと地山由来の明黄褐色~黄褐色シルトが互層状に堆積しており、いずれも自然堆積とみられる。サブトレーンチ1では幅3.7m、深さ1.5m程度の掘り込みが認められ、自然流路の埋没後に排水や灌漑を目的として部分的に掘削されたとみられる。堆積土から須恵器壺（第40図1）、擂鉢（第40図2）、羽口（第40図3）、石錐（第40図4・5）、磨凹敲石類（第40図6・7）、鉄滓（第40図8）、炉壁（第40図9）のほか、繩文土器や土師器の小片が出土している。

#### 【SX107 遺構】（第7図）

2区北西の斜面に位置する。遺構の堆積土と地山の区別が困難で遺構のプランが把握できなかったことから、サブトレーンチによる部分的な断面調査を行った。SX107はシルトの地山を掘り込んでおり、南北方向に約15m延びる幅0.6 ~ 1.3mの溝状部分から直交するように西に向かって3・4条の溝または横穴を掘削していたものとみられる。堆積土は地山ブロックと角礫を多量に含むシルトで、地山を掘り込んだ壁または天井の崩落土とみられる。遺構の規模や平面形は把握できていない。遺物は出土していない。台の下跡周辺では金の採掘に関する伝承が残っており、江戸時代~明治時代頃の金の採掘に関連する遺構の可能性が考えられる。

#### ④遺構外出土遺物

遺構検出時に2区東側の遺構確認面で石錐（第41図1・2）、石錐（第41図3）、2区東の基本層II層で石錐（第41図4・5）、磨凹敲石類（第41図9）が出土している。また、2区周辺の調査区外で石錐（第41図6~8）を表面採集している。



図番号	遺構	層	型種	残存	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
41-1	遺構外	遺構確認面	石錐	先端部欠損	199	15.2	2.6	0.6	珪質岩	凸基(有茎)	37-15 211
41-2	遺構外	遺構確認面	石錐	完形	205	14.7	3.0	0.6	珪質岩	凸基	37-11 218
41-3	遺構外	遺構確認面	石錐	完形	168	14.2	3.0	0.6	鈣灰	鈣灰部あり	37-10 217
41-4	遺構外	基本層	石錐	完形	211	16.1	4.5	1.0	鈣灰	凸基(有茎)	37-14 212
41-5	遺構外	基本層	石錐	完形	177	12.4	3.2	0.5	安山岩	凸基(有茎)	37-13 214
41-6	遺構外	表接	石錐	完形	350	14.3	4.5	1.7	珪質岩	凸基	37-17 216
41-7	遺構外	表接	石錐	完形	293	11.2	2.9	1.0	珪質岩	平基	37-16 219
41-8	遺構外	表接	石錐	先端部欠少	166	11.2	2.3	0.3	玉髓	凸基(有茎)	37-12 220
41-9	遺構外	基本層	門石	完形	107.1	77.9	27.5	204.9	珪質砂岩		37-18 202

第41図 2区遺構外出土遺物

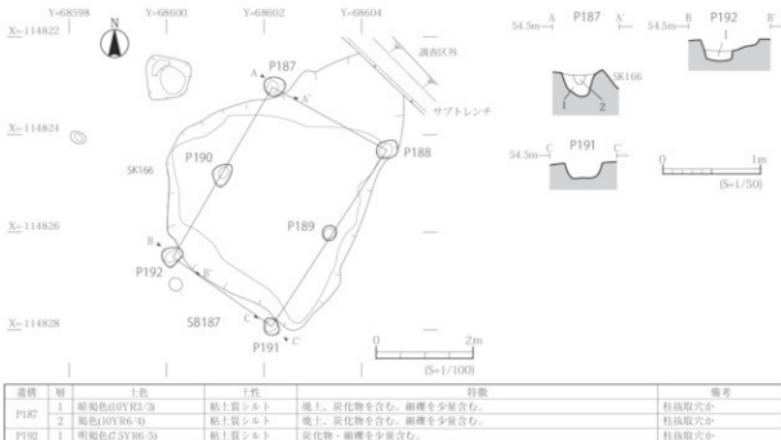
### (3) 3区

検出された遺構には、掘立柱建物跡1棟、竪穴状遺構2基、土坑16基、溝跡1条、柱穴などがあり（第8図）、出土遺物には縄文土器・土製品、石器・石製品、中世陶器などがある。以下、主要なものについて説明する。

#### ①掘立柱建物跡

##### 【SB187 掘立柱建物跡】(遺構：第42図、遺物：第42～44図)

3区北側中央に位置する東西1間、南北2間の南北棟掘立柱建物跡である。SK166土坑と重複しており、SK166より古い。柱穴は6個検出している。建物規模は南北4.1～4.3m、東西2.5～2.7mである。建物の方向は、東側柱列でみるとN-57°-Eである。柱穴掘方はいずれも楕円形で、長軸32～60cm、短軸30～48cmである。深さは15～53cmである。遺物は出土していない。いずれの柱穴でも柱痕跡は確認しておらず、抜き取られたものとみられる。北西隅柱穴から頁岩製の剥片23点（第42図～44図）がまとめて出土しており、一部に接合関係が認められる。



回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
42-1	SB187	北西隅柱穴	剥片	47.0	44.9	11.9	17.5	頁岩	母岩1、微細剥離前あり	389	241
42-2	SB187	北西隅柱穴	剥片	77.5	45.0	14.5	53.5	頁岩	母岩1	387	459

第42図 3区 SB187 掘立柱建物跡と出土遺物



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号	登録 番号
43-1	SB187	北西隅柱穴	調片	77.0	43.5	8.5	287	頁岩	母岩1	38-6	460
43-2	SB187	北西隅柱穴	調片	67.7	36.7	12.2	228	頁岩	母岩1	38-10	461
43-3	SB187	北西隅柱穴	調片	44.3	24.1	5.6	43	頁岩	母岩1	38-8	462
43-4	SB187	北西隅柱穴	調片	46.7	32.5	9.8	89	頁岩	母岩1	38-11	463
43-5	SB187	北西隅柱穴	調片	45.4	27.2	6.7	66	頁岩	母岩1	38-12	464
43-6	SB187	北西隅柱穴	調片	44.6	27.1	7.5	58	頁岩	母岩1	38-13	465
43-7	SB187	北西隅柱穴	調片	24.8	24.5	6.7	42	頁岩	母岩1	39-3	466
43-8	SB187	北西隅柱穴	調片	60.0	44.5	11.2	288	頁岩	母岩2	39-4	467
43-9	SB187	北西隅柱穴	調片	67.1	41.4	9.4	243	頁岩	母岩2	39-2	468
43-10	SB187	北西隅柱穴	調片	68.8	42.0	11.7	227	頁岩	母岩2	39-6	469
43-11	SB187	北西隅柱穴	調片	62.8	47.8	14.3	309	頁岩	母岩2	39-5	470

第43図 3区 SB187 据立柱建物跡出土遺物 (1)



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
44-1	SB187	北西隅柱穴	剥片	41.3	36.9	6.4	11.1	頁岩	母22	391	471
44-2	SB187	北西隅柱穴	剥片	44.5	39.2	10.6	15.4	頁岩	母22	397	472
44-3	SB187	北西隅柱穴	剥片	68.6	34.5	14.8	21.3	頁岩	母22	3910	473
44-4	SB187	北西隅柱穴	剥片	36.0	23.9	10.8	—	頁岩	母22	—	—
44-5	SB187	北西隅柱穴	剥片	41.9	25.2	14.8	—	頁岩	母22	—	—
44-6	SB187	北西隅柱穴	剥片	37.7	33.0	11.1	—	頁岩	母22	398	—
44-7	SB187	北西隅柱穴	剥片	32.8	33.0	13.5	—	頁岩	母22	39.9	—
44-8	SB187	北西隅柱穴	剥片	58.2	54.3	13.5	448	頁岩	母22	39.11	474
44-9	SB187	北西隅柱穴	剥片	24.6	19.4	7.0	—	頁岩	母22	—	—
44-10	SB187	北西隅柱穴	剥片	19.0	11.0	8.0	—	頁岩	母22	—	—
44-11	SB187	北西隅柱穴	剥片	51.3	20.2	5.1	—	頁岩	母22	—	—
44-12	SB187	北西隅柱穴	剥片	54.3	48.3	5.1	117	頁岩	母22	39.12	475
44-13	SB187	北西隅柱穴	剥片	45.4	37.3	5.0	—	頁岩	母22	—	—

第44図 3区SB187 据立柱建物跡出土遺物 (2)

## ②豎穴状遺構

3区の丘陵頂部平坦面で豎穴建物跡の可能性がある豎穴状遺構を1基検出している。

### 【SX152 豊穴状遺構】(遺構:第45図、遺物:第46図)

3区南西に位置する。北側は残存しておらず、南半部を確認している。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕全体の平面形は不明であるが、平面形は直軸5.8m、短軸4.2m以上の楕円形と推定される。

〔壁〕地山を壁としており、床面からなだらかに立ち上がる。壁高は最も残りのよい南側で床面から43cmである。

〔床面〕掘方埋土を床面としている。床面の標高は南西側が高く、北東側に向かって低くなるようになだらかに傾斜している。

〔炉〕中央で地床炉を確認している。平面形は直軸1.5m、短軸1.1mの楕円形で、深さは16cmである。

壁の一部には被熱して赤変している。炉内の堆積土は3層に分けられ、最下層の3層は炭化物を主体とする黒色粘土質シルトが堆積しており、機能時の堆積とみられる。

〔柱穴〕周辺でピットを複数確認しているが、建物に伴うと特定できたものはない。いずれも柱痕跡は確認していない。

〔堆積土〕堆積土は炭化物を少量含む褐色シルトで、自然堆積である。

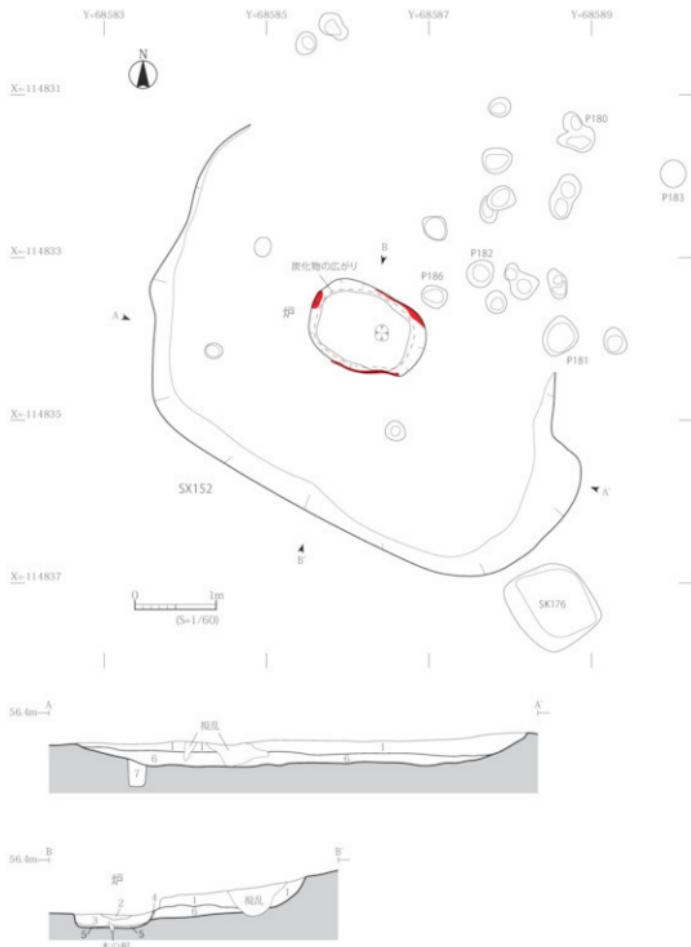
〔出土遺物〕堆積土で縄文土器深鉢(第46図1)、ミニチュア土器(第46図2)、剥片(第46図3)、石皿(第46図4・5)が出土している。

## ③土坑

土坑は16基検出している。ここでは形態や出土遺物に特徴がみられる土坑について記述し、その他は第4表に特徴をまとめた。

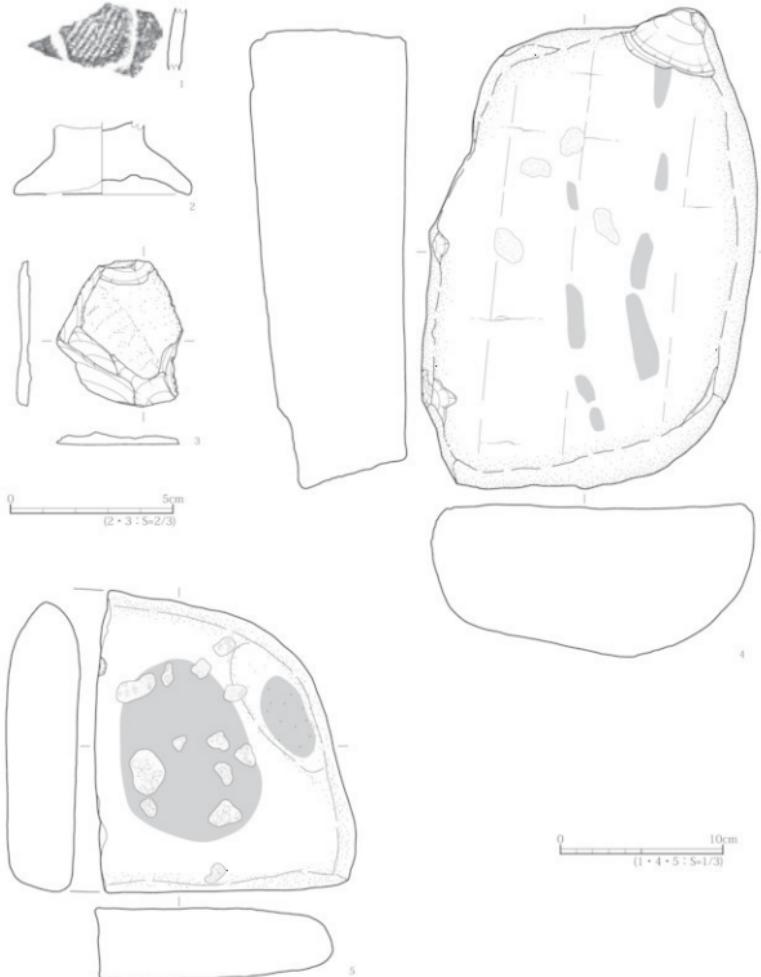
第4表 3区土坑一覧

遺構番号	位置	新旧関係	規模(上端)		深さ(cm)	平面形	断面形	特記事項	回番号	
			長軸(m)	短軸(m)					遺物回	遺物回
SK154	3区西	-	2.7	2.3	91	楕円形	逆台形	石器出土。	第47回	第48回
SK155	3区西	-	2.7	2.3	91	楕円形	逆台形	中世陶器・石器出土。漬が接続する。	第47回	第48回
SK156	3区西	SK165・SK156	3.0	1.4	40	楕円形	逆台形	縄文土器・ミニチュア土器・石器出土。	第49回	第49・51回
SK157	3区北西	SK157・SK158	1.7	1.31±	31	楕円形	逆台形		第52回	-
SK158	3区北西	SK157・SK158	2.91±	1.5	78	楕円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第52回	第52回
SK159	3区南東	SK160・SK159	2.1	1.5	126	楕円形	逆台形	石器出土。	第53回	第53回
SK160	3区南東	SK160・SK159	2.1	1.11±	27	楕円形	圓状	石器出土。	第53回	第53回
SK161	3区中央	-	1.6	0.8	21	楕円形	逆台形		第8回	-
SK162	3区北西	-	0.7	0.6	30	不整円形	逆台形	縄文土器出土。	第8回	-
SK164	3区北	SK164・SK167	2.03±	-	71	円形か	逆台形	縄文土器・土製品・石器出土。	第54回	第55回
SK165	3区北西	SK165・SK156	3.23±	1.8	63	楕円形	逆台形		第49回	
SK166	3区北	SD187・SK166	3.43±	1.2	59	不整稍円形	圓状	縄文土器・石器出土。	第56回	第55回
SK167	3区北	SK164・SK167	4.31±	1.63±	66	長楕円形	逆台形		第54回	-
SK169	3区北東	-	3.5	1.9	74	椭圓形状	段状		第8回	-
SK170	3区北東	-	1.9	1.7	20	不整円形			第8回	-
SK171	3区北東	-	1.8	1.4	34	楕円形	圓状	縄文土器出土。	第8回	-
SK172	3区北東	-	1.6	1.2	34	楕円形	圓状		第8回	-
SK173	3区北東	-	0.8	0.7	20	不整円形	圓状		第8回	-
SK174	3区北東	-	1.1	0.9	36	楕円形	圓状		第8回	-
SK175	3区北東	-	1.9	1.0	48	楕円形	逆台形		第8回	-
SK176	3区南西	-	1.2	1.0	28	椭圓形	圓状	縄文土器出土。	第8回	-



番号	層	土色	土性	特徴	備考
SX152	1	褐色 (7.5YR4/6)	シルト	φ5mm以下の炭化物を少量含む。	自然堆積
	2	黒褐色 (10YR3/1)	粘土質シルト	炭化物を多量含む。	自然堆積
	3	暗褐色 (7.5YR3/3)	粘土質シルト	φ約5mmの炭化物を極少量含む。	自然堆積
	4	暗赤褐色 (7.5YR3/2')	粘土質シルト	被熱により変色している。	人为堆積
	5	黑色 (10YR2/1)	粘土質シルト	炭化物無。	機械堆積
	6	褐色 (7.5YR4/4)	シルト	φ3mm以下の炭化物を極少量含む。	掘削面上
	7	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト		別ビットか

第45図 3区 SX152 壓穴状遺構

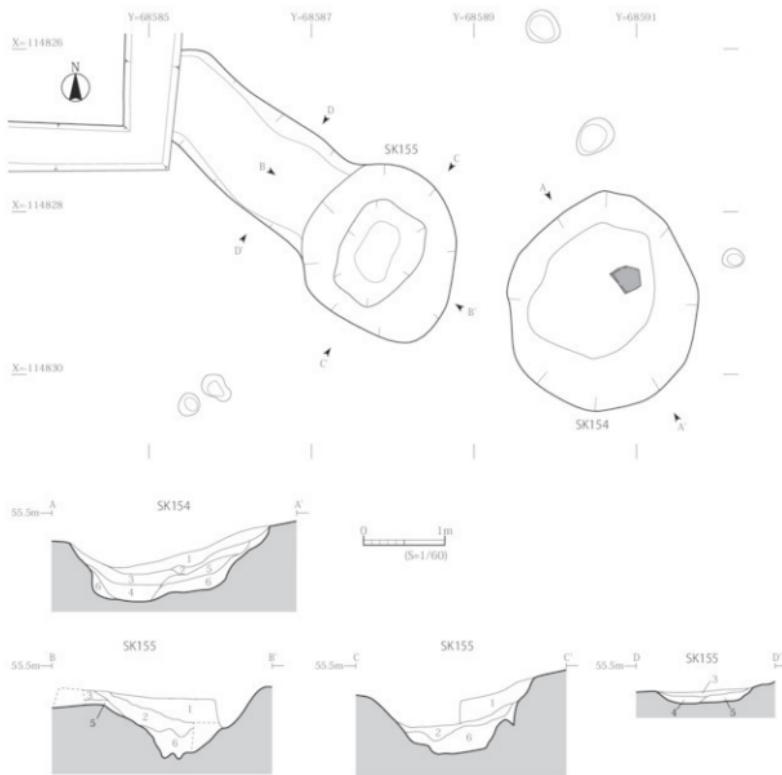


図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号	
46-1	SX152	堆積土	深鉢	純文 (LR) → 沈面					38-1	90	
46-2	SX152	堆積土	(ニチュア)器	推定底径50cm、棒状の底盤に台部を接合					38-2	146	
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	
46-3	SX152	堆積土	調片	45.1	38.7	5.0	7.9	貝殻	微細剥離痕あり	38-3	240
46-4	SX152	堆積土	石瓶	295.6	206.4	165.0	9380.0	海灰質砂岩		38-5	228
46-5	SX152	堆積土	石瓶	185.9	160.7	46.0	1863.0	海灰質砂岩		38-4	229

第46図 3区 SX152 穴状遺構出土遺物

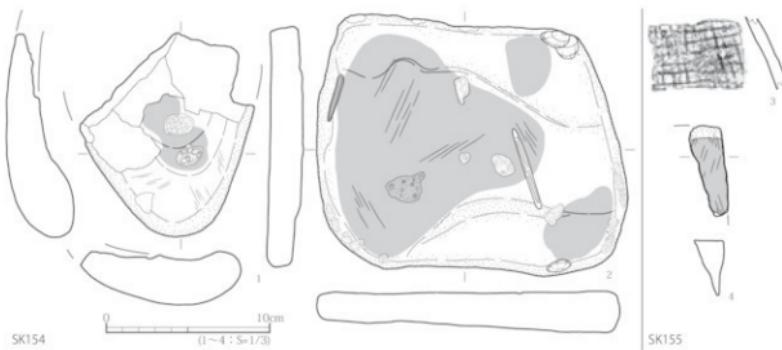
【SK154 土坑】(遺構: 第 47 図、遺物: 第 48 図 1・2)

3 区西側中央に位置する。平面形は直軸 2.7m、短軸 2.3m の梢円形で、深さは 91cm である。断面形は逆台形である。堆積土は 6 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から石皿(第 48 図 1・2)が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	参考
SK154	1	1C-4V(黄褐色) 1D(YR4/3)	粘土質シルト	φ5mmの炭化物を極少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト		自然堆積
	3	褐色 (7.5YR6/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。	自然堆積
	4	明褐色 (7.5YR5/6)	粘土	φ5mm以下の地山ブロックを少量含む。	自然堆積
	5	褐色 (7.5YR4/6)	粘土	φ1cm程度の地山ブロックを極少量含む。	自然堆積
	6	明褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	地山灰化土から軽成される理上。	自然堆積
SK155	1	褐色 (7.5YR4/3)	粘土質シルト	φ5mm程度の地山ブロック極少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	φ3mm以下の地山ブロック、中礫を少量含む。	自然堆積
	3	褐色 (7.5YR4/3)	砂質シルト	φ10mm以下の炭化物を極少量含む。	自然堆積
	4	にごい褐色 (7.5YR5/4)	粘土質シルト	φ2mm以下の炭化物を極少量含む。	自然堆積
	5	褐色 (7.5YR4/6)	粘土質シルト		自然堆積
	6	明褐色 (7.5YR5/6)	砂質シルト	地山埋没の崩落土で形成される。	自然堆積

第 47 図 3 区 SK154・155 土坑



第48図 3区SK154・155土坑出土遺物

**【SK155土坑】(遺構: 第47図、遺物: 第48図3・4)**

3区西側中央に位置する。直軸2.7m、短軸2.3mの楕円形の土坑の西側に上幅1.3m、長さ2.3m以上の溝が接続している。溝は調査区外まで延びる。土坑部の深さは91cmで、断面形は逆台形である。溝部の深さは21cmで、断面形は皿状である。堆積土は土坑部で3層、溝部で3層に分けられ、いずれも自然堆積である。土坑部の堆積土から中世陶器(第48図3)、磨石(第48図4)が出土している。

**【SK156土坑】(遺構: 第49図、遺物: 第49～51図)**

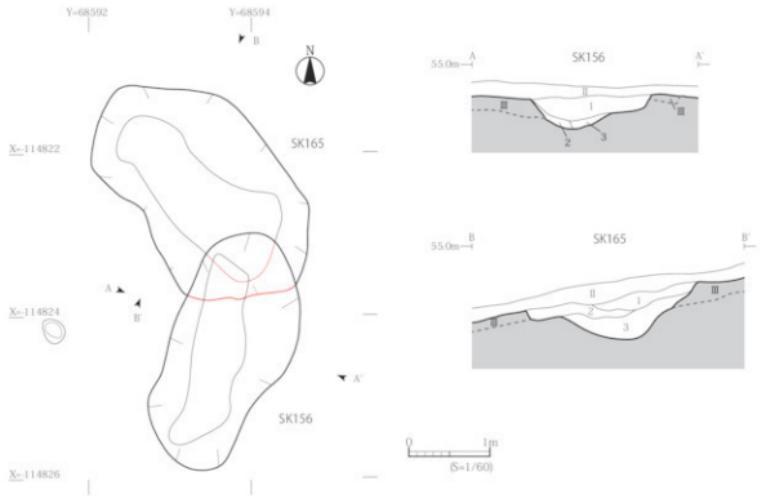
3区北東に位置する。SK165土坑と重複関係があり、SK165より新しい。平面形は長軸3.0m、短軸1.4mの楕円形で、深さは40cmである。断面形は逆台形である。堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第49図1～4)、ミニチュア土器(第49図5)、円盤状石製品(第49図6)、磨鬥敲石類(第49図7・第50図1)、石皿(第50図2)、石棒類(第50図3・第51図1・2)が出土している。

**【SK157土坑】(第52図)**

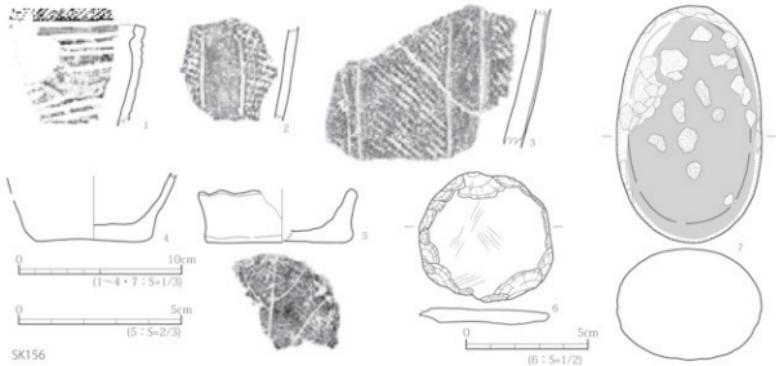
3区北側中央に位置する。SK158土坑と重複関係があり、SK158より古い。平面形は長軸1.7m、短軸1.3m以上の楕円形とみられる。深さは31cmで、断面形は逆台形とみられる。堆積土は4層に分けられ、1層は人為堆積、その他は自然堆積である。堆積土から磨鬥敲石類が出土している。

**【SK159土坑】(遺構: 第53図、遺物: 第53図1)**

3区南東に位置する。SK160土坑と重複関係があり、SK160より新しい。平面形は長軸2.1m、短軸1.5mの楕円形で、深さは126cmである。断面形は東壁に緩やかな段をもつ逆台形である。堆積土は3層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から磨鬥敲石類(第53図1)が出土している。

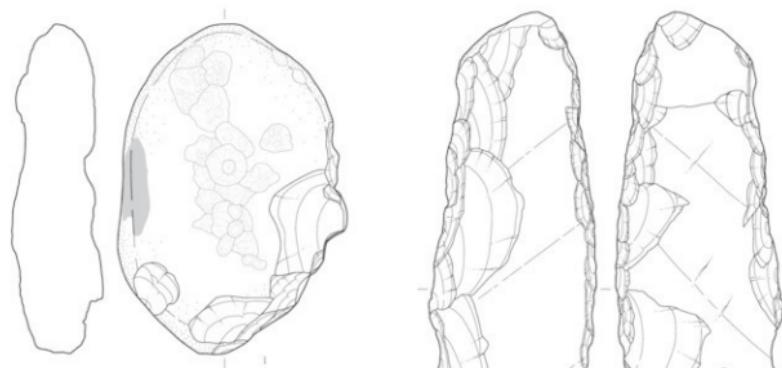


遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK156	1	にじみ・赤褐色 (5YR4/3)	粘土質シルト	基盤岩の中塊を少量含む。	自然堆積
	2	にじみ・赤褐色 (2.5YR4/4)	粘土質シルト		自然堆積
	3	暗赤褐色 (2.5YR3/6)	粘土		自然堆積
SK165	1	明褐色 (7.5YR5-6)	粘土質シルト	中塊・粗礫を含む。	自然堆積
	2	暗褐色 (10YR3-4)	シルト	炭化物・中塊を少量含む。	自然堆積
	3	褐色 (7.5YR4-6)	粘土質シルト	基盤岩の粗礫を少量含む。	自然堆積

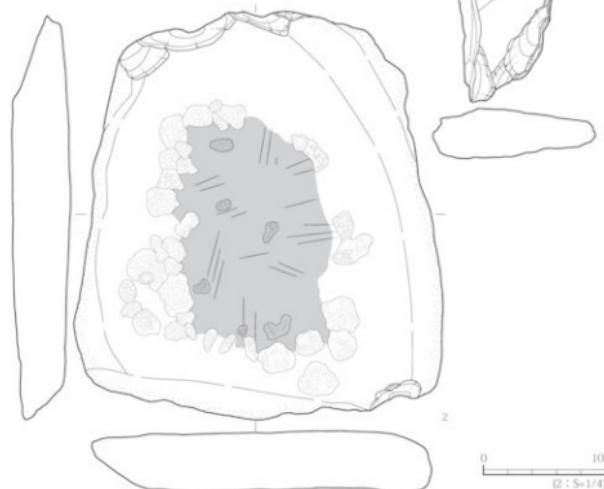


図番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号					
49-1	SK156	堆積土	漆跡か	平縁。口羽部に沈縛、外面に多条沈縛、内面に平行沈縛	40-3	58					
49-2	SK156	堆積土	漆跡	縞文 (L型) → 柔縞、滑消縞文	40-4	57					
49-3	SK156	堆積土	漆跡	縞文 (L型) → 柔縞 (2条1縞か)、滑消縞文	40-5	148					
49-4	SK156	堆積土	不明	底径4.8cm、外面：縞文 (L型か)、底面：ナマ	40-6	39					
49-5	SK156	堆積土	1/ニチュア上器	底径14.0cm、高さ1.7cm、底径4.5cm、底面に木製板	40-7	147					
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
49-6	SK156	堆積土	円盤状石製品	53.3	54.8	6.7	26.5	安山岩		41-2	222
49-7	SK156	堆積土	磨擦石	145.6	89.2	68.0	1356.0	有茎四線刃	削緣加工	41-1	221

第49図 3区 SK156・165 土坑と出土遺物



0 10cm  
(1・3:S=1/3)



0 10cm  
(2:S=1/4)

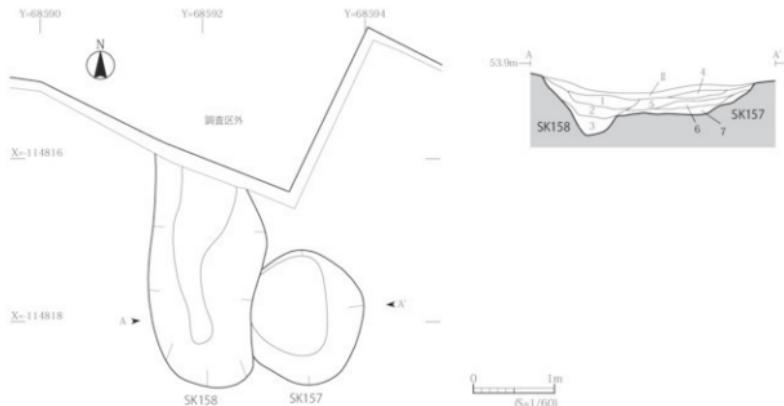
図番号	遺構	層	部種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
50-1	SK156	堆積土	磨光敲石	202.9	141.3	60.0	1548.0	麻灰質砂岩		413 227
50-2	SK156	堆積土	石器	334.7	302.9	49.5	6250.0	麻灰質砂岩		415 224
50-3	SK156	堆積土	石棒頭	398.4	103.2	31.5	1530.0	麻灰岩		408 225

第 50 図 3 区 SK156 土坑出土遺物 (1)

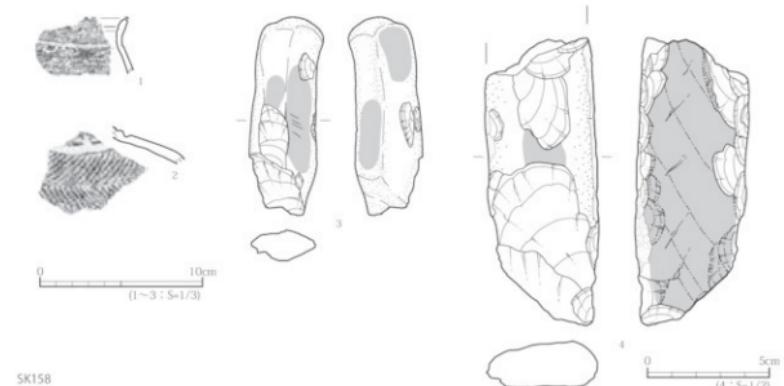


第 51 図 3 区 SK156 土坑出土遺物 (2)

図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
SI-1	SK156	堆积土	石棒類	457.6	92.4	40.5	23610	凝灰岩	自然面あり	414 223
SI-2	SK156	堆积土	石棒類	608.6	112.6	47.5	396010	凝灰岩	自然面あり	409 226



透構	層	土色	土性	特徴	備考
SK158	1	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	細粒～中粒を極少量含む。	自然堆積
	2	純い黄褐色 (10YR4/3)	砂質シルト	φ1mm程度の炭化物を少量含む。	自然堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	砂質シルト	基盤埋を含む。	自然堆積
SK157	4	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	7.5YR5/6 (明褐色) 地山ブロックが土体となる。	人為堆積
	5	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	地山ブロックと表土からなる。	自然堆積
	6	明褐色 (7.5YR5/8)	粘土	地山ブロックと表土からなる。	自然堆積
	7	褐色 (7.5YR4/6)	粘土質シルト	地山ブロックと表土からなる。	自然堆積

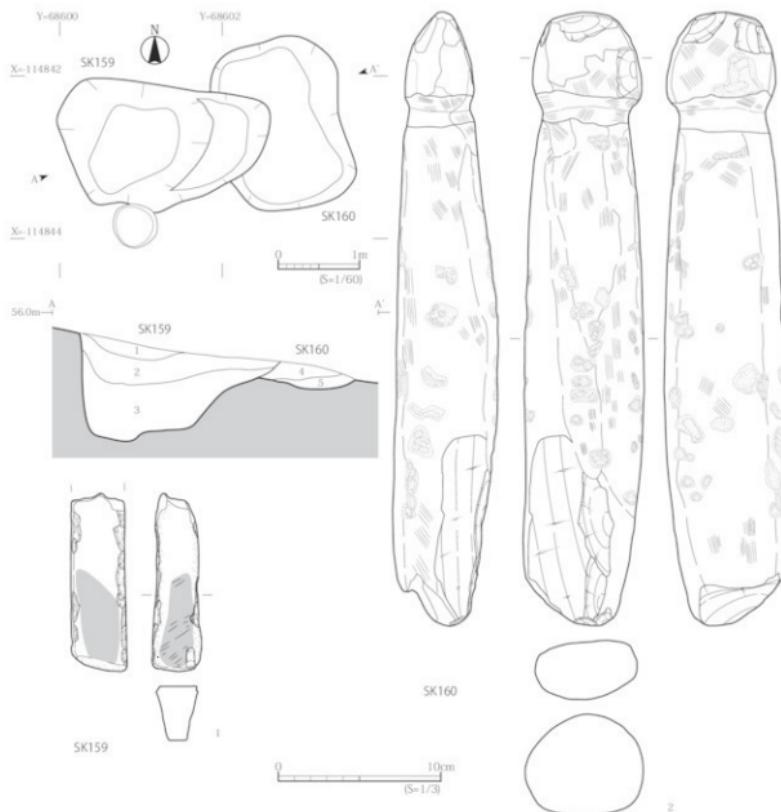


回番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号						
52-1	SK158	堆積土	深鉢か	波状J縫、波痕部に削み、礫文 (LR) → 沈殿	42-1	56						
52-2	SK158	堆積土	鉛	表面に沈殿文、体部に非結束剥伏縫文 (LR + RL)	42-2	149						
回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号	
52-3	SK158	堆積土	磨石	122.0	42.0	20.5	1122	安山岩質凝灰岩			42-3	234
52-4	SK158	堆積土	石棒類	117.9	46.8	18.5	1185	粉板岩			42-4	233

第52図 3区 SK157・158 土坑と出土遺物

【SK160 土坑】(遺構: 第53図、遺物: 第53図2)

3区南東に位置する。SK159土坑と複雑関係があり、SK159より古い。全体の平面形は不明であるが、長軸2.1m、短軸1.1m以上の楕円形とみられる。深さは37cmで、断面形は皿状とみられる。堆積土は2層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から石棒類(第53図2)が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK159	1	純い黄褐色 (10YR4-3)	砂質シルト	細礫を少量含む。	自然堆積
	2	明褐色 (7.5YR5-6)	粘土質シルト	中礫を含む。	自然堆積
	3	褐色 (7.5YR4-6)	砂質シルト	中礫を含む。	自然堆積
SK160	4	明褐色 (7.5YR5-6)	砂質シルト	中礫を少量含む。	自然堆積
	5	褐色 (7.5YR4-4)	粘土質シルト	中礫を含む。	自然堆積

国番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真番号
53-1	SK159	堆積土	磨石	109.4	30.4	34.0	1440	鞍山岩質灰岩		425 225
53-2	SK160	堆積土	石棒類	37.1	74.5	65.0	19600	鞍山岩		4212 226

第53図 3区 SK159・160 土坑と出土遺物

### 【SK164 土坑】(遺構: 第 54 図、遺物: 第 55 図 1~6)

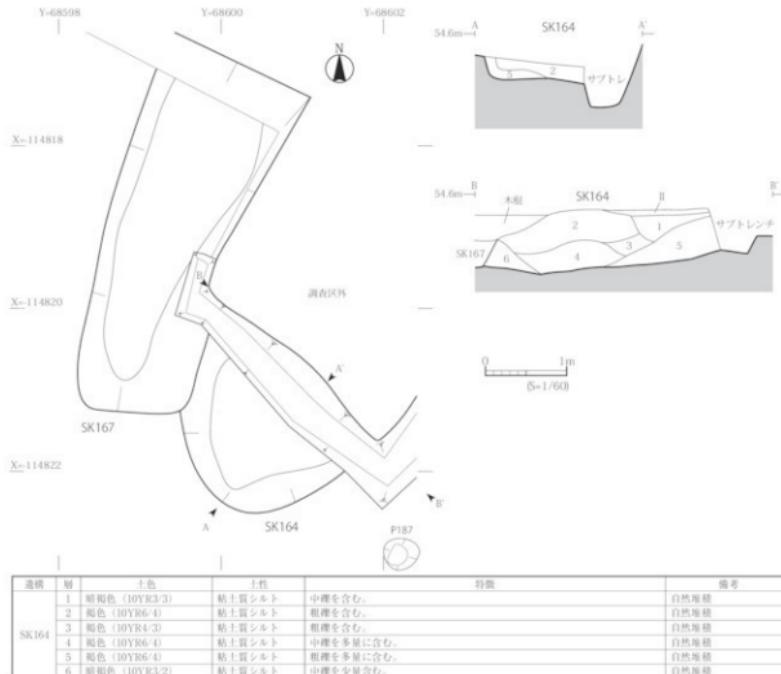
3 区北側中央に位置し、北側が調査区外に延びる。SK167 土坑と重複関係があり、SK167 より古い。全体の平面形は不明であるが、直径 2.0m 以上の円形または楕円形とみられる。深さは 71cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 6 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器鉢(第 55 図 1)・深鉢(第 55 図 2・3)、円盤状土製品(第 55 図 4)、楔形石器(第 55 図 5)、磨凹敲石類(第 55 図 6)が出土している。

### 【SK165 土坑】(第 49 図)

3 区北東に位置する。SK165 土坑と重複関係があり、SK165 より古い。全体の平面形は不明であるが、長軸 3.2m 以上、短軸 1.8m の楕円形とみられる。深さは 63cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 3 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から磨凹敲石類が出土している。

### 【SK167 土坑】(第 54 図)

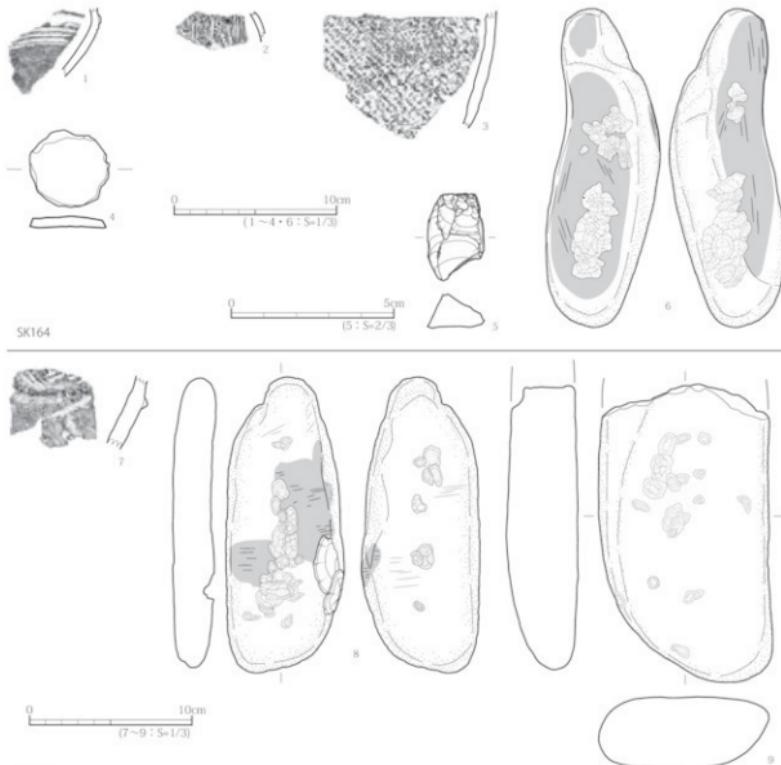
3 区北側中央に位置し、北側が調査区外に延びる。SK164 土坑と重複関係があり、SK164 より新しい。全体の平面形は不明であるが、直軸 4.3m 以上、短軸 1.6m 以上の長楕円形とみられる。深さは 66cm で、断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。堆積土から磨凹敲石類が出土している。



第 54 図 3 区 SK164・167 土坑

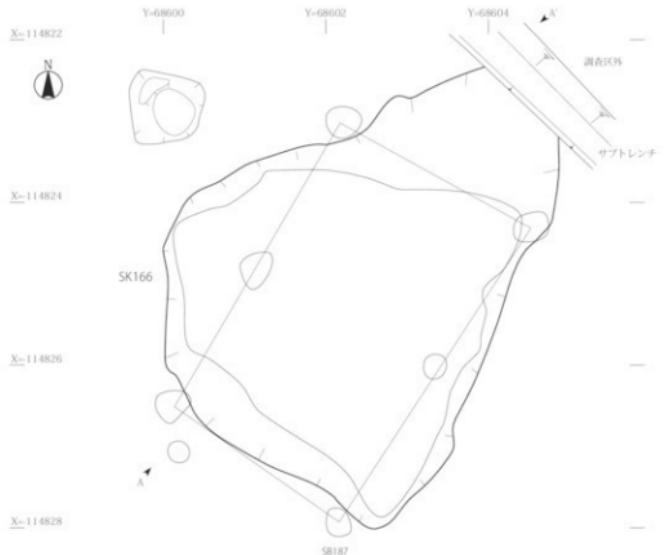
【SK166 土坑】(遺構: 第 56 図、遺物: 第 55 図 7~9)

3 区北側中央南に位置する。SB187 掘立柱建物跡と重複関係があり、SB187 より新しい。平面形は直軸 5.4m 以上、短軸 4.2m の不整な楕円形である。深さは 59cm で、断面形はいびつな皿状である。堆積土は 4 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器（第 55 図 7）、磨凹敲石類（第 55 図 8）、石皿（第 55 図 9）が出土している。



第 55 図 3 区 SK164・166 土坑出土遺物

図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号
				長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材		
55-1	SK164	堆積土	鉢	沈縄文 + 小突起、底下部はミガキ					426	51
55-2	SK164	堆積土	不明	条縄文 ? - 蝶型					427	52
55-3	SK164	堆積土	鉢	縄文 (LR)					428	54
55-4	SK164	堆積土	円盤状土製品	最大径 4.7cm、底部破片利用					429	60
55-7	SK166	堆積土	不明	沈縄文 → 深縄文か					4213	150
図番号	遺構	層	器種	長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
55-5	SK164	堆積土	楔形石器	26.8	17.5	11.0	4.3	黒曜石	両側溝槽底・2刃1対	4210 246
55-6	SK164	堆積土	磨凹敲石	195.9	67.0	31.5	411.1	麻績質砂岩	削前→凹面・敲打痕	4211 237
55-8	SK166	堆積土	磨凹敲石	181.9	73.1	26.0	437.7	安山岩質麻績灰岩	削前→凹面・敲打痕	4214 239
55-9	SK166	堆積土	石器	183.2	107.4	44.0	989.0	麻績質砂岩		4215 238



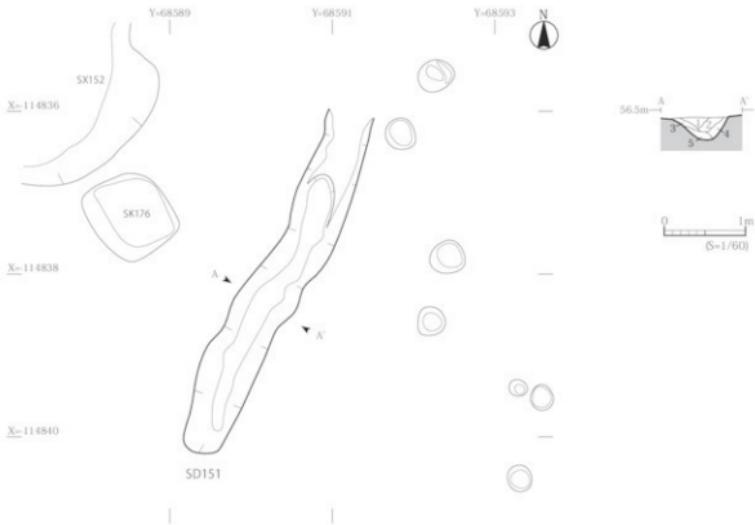
遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK166	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	塊上、炭化物、粗礫を少量含む。	人為堆積
	2	褐色 (10YR6/4)	粘土質シルト	粗礫を多量含む。	自然堆積
	3	褐色 (7.5YR6/4)	粘土質シルト	粗礫を多量含む。	自然堆積
	4	褐色 (7.5YR6/4)	粘土質シルト	粗礫を極多量含む。	自然堆積

第 56 図 3 区 SK166 土坑

#### ④ その他の遺構

##### 【SD151 溝跡】(第 57 図)

3 区南中央に位置する南北方向の溝跡である。北端は削平されている。検出総長は約 4.6m、上幅は 31 ~ 49cm、下幅 11 ~ 26cm である。深さは 11 ~ 32cm で、断面形は U 字形である。底面は北側へ傾斜しており、北端は南端に比べ約 50cm 低い。方向は N - 24° - E である。堆積土は 5 層に分けられ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。

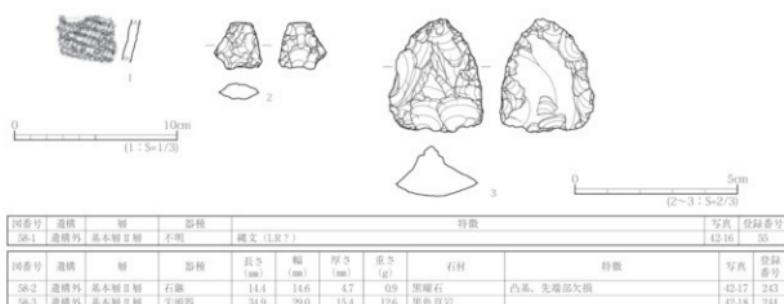


遺構	層	土色	土性	特徴		備考
				1	2	
SD151	1	オーリーブ褐色 (2.5Y4/3)	粘土			自然堆積
	2	暗褐色 (10YB3/3)	粘土質シルト	φ2mm程度の炭化物を極少量含む。		自然堆積
	3	暗褐色 (10YB3/4)	粘土質シルト	φ3mm程度の炭化物を極少量含む。		自然堆積
	4	灰-暗褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	細粒を少量含む。		自然堆積
	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	細粒-中粒を含む。		自然堆積

第57図 3区 SD151溝跡

#### ⑤遺構外出土遺物

遺構検出時に基本層II層から縄文土器（第58図1）、石鏃（第58図2）、尖頭器（第58図3）などが出土している。



第58図 3区遺構外出土遺物

#### (4) 4区

検出された遺構には、竪穴建物跡 15 棟（建て替えを含む）、掘立柱建物跡 3 棟、竪穴状遺構 2 基、土坑 39 基、遺物包含層・貝層 1ヶ所のほか近世以降の炭窯跡や墓跡などがあり（第 9・10 図）、出土遺物には縄文土器・土製品、石器・石製品、動物遺存体、古錢、煙管などがある。以下、主要なものについて説明する。

##### ①竪穴建物跡

4 区北の丘陵平坦部～斜面際に竪穴建物跡を 15 棟（建て替えを含む）検出している。このうち 13 棟は複式炉を作う。

###### 【SI61 竪穴建物跡】（遺構：第 59・60 図、遺物：第 61 図）

4 区北の丘陵北斜面際に位置する。主柱穴、か跡、周溝、床面の一部を検出しており、北側は残存していない。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 北側が残存していないため全体の平面形は不明であるが、残存している南半部から推定すると、平面形は径約 4.1m の円形とみられる。

〔壁〕 地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい南側で床面から 32cm である。

〔床面〕 地山を床面としている。床面の標高は南側が高く、北側に向かって低くなるようになだらかに傾斜している。

〔炉〕 土器埋設部、石組部（1・2）、掘り込み部からなる複式炉である。北側に位置し、掘り込み部の一部が荒乱によって削平されている。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約 1.7m、短軸約 1.1m で、長軸方向は N - 17° - E である。

〈土器埋設部〉 炉の中軸線上に埋設土器がある。埋設土器は直径 21cm、高さ約 8cm で、深鉢形土器の上半部を正位に据えている。掘り込みの底面は床面から約 10cm あり、底面は被熱により赤変している。石組部 1 と比較すると底面の高さは約 12cm 高い。奥壁と側壁の一部に礫があり、周囲の床面から床面直上で礫が多数出土していることから、本来は埋設土器の周囲に礫が配置されていたとみられる。

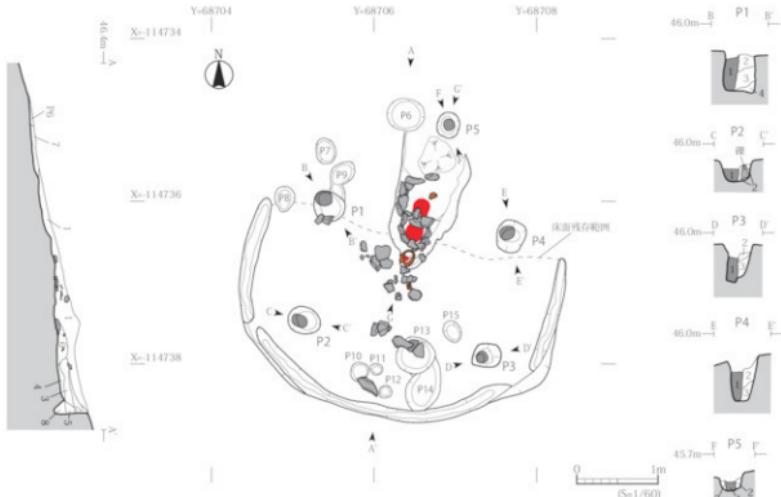
〈石組部 1〉 土器埋設部に隣接する石組部である。平面形は炉の長軸方向に 0.4m、短軸方向に 0.4m の不整円形である。深さは約 23cm で、炉短軸方向の断面形は皿状である。長さ約 10～20cm の扁平な礫を円形に組んでおり、底面には直径約 24cm の焼面が認められる。石組の据え方埋土（第 60 図 6 層）が赤変した焼土主体のシルトであることや、焼面の下部に直径約 30cm のビットがあることから、炉が改修されていると考えられる。石組部 1 は当初は土器埋設部として利用され、土器埋設部を北側に拡張した改修後は石組部として利用されたとみられる。

〈石組部 2〉 奥壁・右側壁に長さ約 10～20cm の扁平な礫を半円形状に組んでいる。左側壁の石組は残存していないが、底面に幅約 6～10cm の掘り込みが弧状に巡ることから、機能時には礫が据えられていたとみられる。復元される石組部の平面形は直径約 60cm の円形である。奥壁側の底面に長軸約 24cm の梢円形の焼面が認められる。奥壁の礫の一部は焼面を切る据え穴に据えられており、

石組部1とともに改修されていたと考えられる。

〈掘り込み部〉中央部が木の根による搅乱の影響を受けているが、平面形は炉の長軸方向に0.5m、短軸方向に0.6mの楕円形で、深さは約30cmである。両側壁に幅5~12cmの凹みがあり、機能時には両側壁に蹠を据えていたとみられる。

〔柱穴〕15個のピットが検出された。このうちP1~P4の4個は炉の中軸線を中心に対称となる位置にあり、規模が一定であることから主柱穴と考えられる。P1~P4の平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸34~42cm、短軸29~36cmである。深さは26~55cmである。いずれの柱穴でも柱痕跡が確認され、長軸15~21cmの楕円形である。また、P5は炉の中軸線上にあることから、建物に伴う柱穴と考えられる。P5の平面形は楕円形で、掘方の規模は長軸31cm、短軸28cmである。深さは22cmである。柱痕跡は長軸15cmの楕円形である。



通緝	種	土色	土性	特徴	発考
S61	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	上部・炭化物碎片を含む。岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物碎片を含む。岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	3	にじみ黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	炭化物碎片を多量含む。岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	4	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	5	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物碎片を含む。岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	6	褐色 (7.5YR4/20)	粘土質シルト	複数・炭化物碎片を含む。岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	7	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	岩盤断面を少量含む。	自然堆積
	8	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	岩盤断面を少量含む。	自然堆積
P1	1	にじみ黄褐色 (SYR4/3)	シルト	岩盤断面を極少量含む。	柱痕跡
	2	褐色 (7.5YR4/6)	シルト	φ5mm程度の炭化物を極少量含む。岩盤中層を少量含む。	掘方理土
P2	3	赤褐色 (SYR4/6)	シルト	岩盤断面を極少量含む。	掘方理土
	4	褐色 (7.5YR4/4)	シルト	φ1mm以下の炭化物を極少量含む。岩盤碎を少量含む。	柱痕跡
P3・P4	5	褐色 (7.5YR4/3)	シルト	φ1mm以下の炭化物を極少量含む。岩盤碎を少量含む。	柱痕跡
	1	褐色 (7.5YR4/3)	シルト	φ3mm以下の炭化物を極少量含む。	掘方理土
	2	にじみ黄褐色 (10YR4/3)	シルト	岩盤断面を極少量含む。	掘方理土
P5	3	黒褐色 (7.5YR3/2)	シルト	φ3mm以下の炭化物を極少量含む。	柱痕跡
	1	褐色 (10YR4/4)	シルト	φ3mm以下の炭化物を極少量含む。	掘方理土
	2	にじみ黄褐色 (10YR5/4)	シルト	岩盤断面を少量含む。	柱痕跡

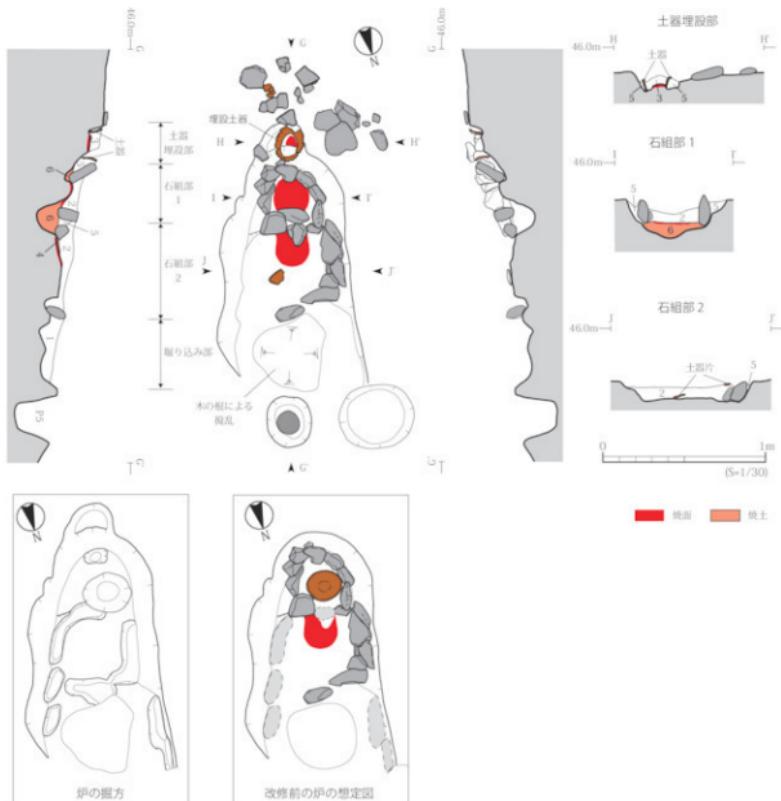
第59図 4区 SI61 穴室建物跡

〔周溝〕南半で検出した。上幅9~20cm、下幅4~11cm、深さ6~17cmである。断面はU字形である。

堆積土は自然堆積とみられる。

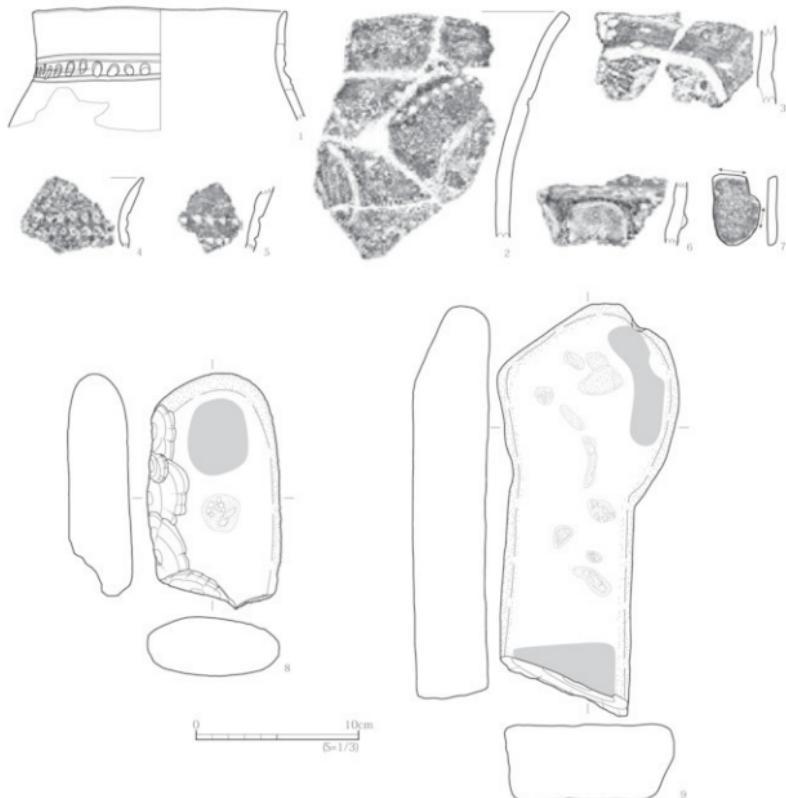
〔堆積土〕堆積土は6層に分けられ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕複式炉の埋設土器(第61図1)のはか、床面直上で縄文土器深鉢(第61図2)・磨凹敲石類(第61図8)、石皿(第61図9)、堆積土から縄文土器深鉢(第61図3~6)、円盤状土製品(第61図7)が出土している。



造構	層	土色	土性	特徴	参考
S61 複式炉	1	褐色 (10YR4-6)	シルト	地山断面を少量含む。木の根による搅乱の影響を受ける。	自然堆積
	2	にいぶ赤褐色 (5YR3-3)	シルト	φ5mm以下の炭化物を少量含む。粘土小ブロックを少量含む。	自然堆積
	3	暗褐色 (10YR3-4)	シルト	地山断面を少量含む。	埋設土器流入土
	4	赤褐色 (5YR4-8)	シルト	φ2mm以下の炭化物を少量含む。地山小ブロックを少量含む。	機能時堆積
	5	褐色 (10YR4-4)	シルト	地山断面を少量含む。	埋設土器・石組の搅乱方
	6	赤褐色 (5YR4-8)	シルト	機土を多量に含む。φ3mm以下の炭化物を少量含む。	石組の搅乱方

第60図 4区 S61 積石建物跡複式炉



図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号	
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材			
61-1	S61	埋設土器	深鉢	口径15.6cm、平縁、沈縫間に刺突列					43-1	64	
61-2	S61	床直	深鉢	平縁、沈縫+円孔刺突列、沈縫文、礪文(既か)					43-2	62	
61-3	S61	堆積土	深鉢	礪文(LR)→沈縫、ミガキ					43-3	63	
61-4	S61	堆積土	深鉢	円形刺突文(2列・竹管状工具)					43-5	151	
61-5	S61	堆積土	深鉢	逆続刺突文(2列)					43-6	153	
61-6	S61	堆積土	深鉢	隆縫文					43-4	152	
61-7	S61	堆積土	円盤状土器品	長3.41m、幅33cm、厚5.06cm、体部破片利用、周縁研削					43-7	154	
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号	
61-8	S61	床直	磨砥石	145.0	82.7	36.5	718.5	石英斑岩		43-8	313
61-9	S61	床直	石皿	233.7	111.8	47.5	2172.0	凝灰質砂岩		43-9	314

第 61 図 4 区 SI61 積穴建物跡出土遺物

### [SI62 積穴建物跡] (第 62 図)

4 区北の丘陵西斜面際に位置する。方向の異なる焼跡 3 基、柱穴 16 個、周溝 2 条を検出しており、2 回の建て替えが行われたと考えられる (SI62A → SI62B → SI62C)。



第62図 4区 SI62 竪穴建物跡

【SI62A 竪穴建物跡】(遺構: 第63図、遺物: 第69図)

主柱穴、炉跡、周溝・床面の一部を検出しており、西側の一部は残存していない。検出面は地山である。

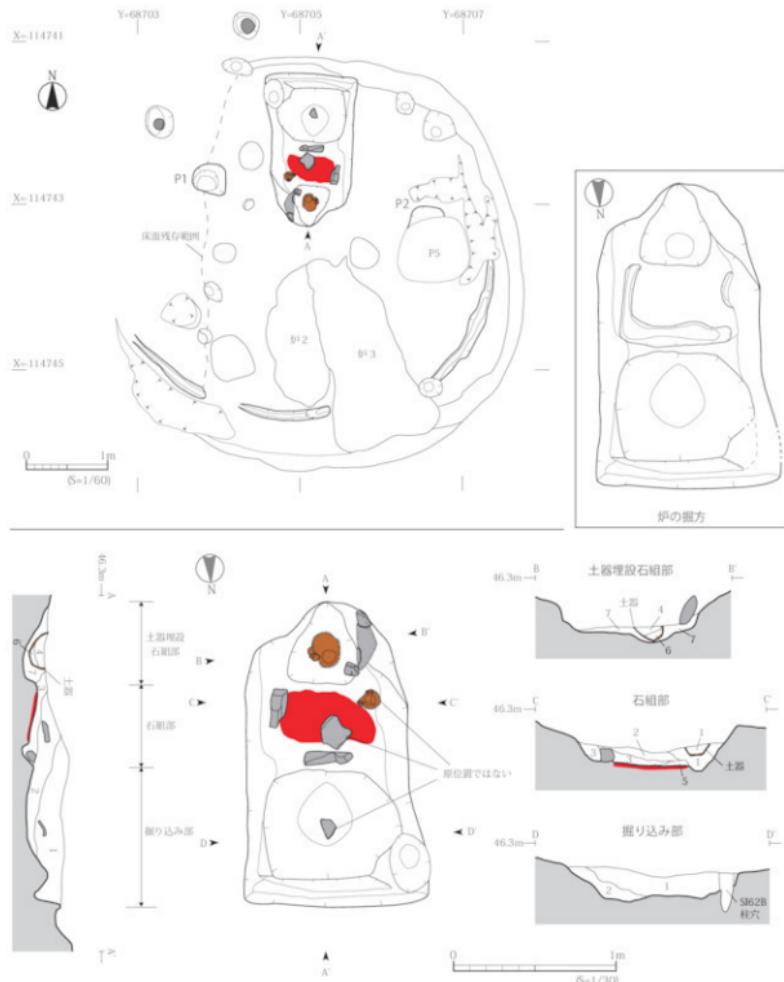
〔平面形・規模〕西側が残存していないため全体の平面形は不明であるが、残存している周溝から推定すると、平面形は直径約4.3mの円形とみられる。

〔床面〕地山を床面としている。床面の標高は南側が高く、北側に向かって低くなるようになだらかに傾斜している。

〔柱〕土器埋設石組部、石組部、掘り込み部からなる複式柱である。北側に位置し、掘り込み部は周溝、北壁と接していたとみられる。掘り込み部の一部がSI62B 竪穴建物跡の柱穴によって壊されている。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約1.7m、短軸約1.1mで、長軸方向はN-3°-Eである。

〔土器埋設石組部〕炉の中軸線上に埋設土器がある。土器は直径23cm、残存高約13cmで、深鉢形土器の上半部を正位に据えている。掘り込みの底面は床面から約16cmあり、埋設土器を据えた埋土は被熱により赤変している。右側壁に長さ約36cmの扁平な礫があり、本来は埋設土器の周間に礫が配置されていたとみられる。

〔石組部〕左側壁及び掘り込み部との境に石組の一部と考えられる長さ約23-30cmの扁平な礫がある。炉の底面には左側壁から掘り込み部との境に幅7-15cmのL字状の掘り込み、右側壁に長軸22cm、短軸5cmの楕円形の掘り込みがあることから、本来は両側壁と掘り込み部との境に礫が据えられていたと考えられる。復元される石組の平面形は炉の長軸方向に0.5m、短軸方向に0.9mの長方形



第 63 図 4 区 SI62A 壁穴建物跡と複式炉

遺構	解説	土色	土性	特徴	備考
SI62A	複式炉	1 褐褐色 (7.5YR3/4)	シルト	地山中疊を少量含む。	人為堆積か
		2 にぶい黄褐色 (30YR5/4)	シルト	φ2mm 程の炭化物を少量含む。地山中疊を少量含む。	人為堆積か
		3 黄褐色 (7.5YR4/6)	シルト	地山中疊を少量含む。	人為堆積か
		4 褐色 (10YR4/4)	シルト	φ2mm 以下の塊状塊を極少量含む。地山中疊を極少量含む。	上部内流入土
		5 褐赤褐色 (2.5YR3/3)	シルト	φ2mm 以下の炭化物を少量含む。被熱して変色している。	機能時堆積
		6 黒褐色 (10YR3/3)	シルト	「炉」内部にたまつた炭化物。	堆設工事の機能時堆積
		7 褐赤褐色 (2.5YR3/3)	シルト	φ2mm 以下の炭化物を少量含む。被熱して変色している。	上部・石組の掘え方

状である。深さは7～12cmで、炉短軸方向の断面形は逆台形である。底面には長軸約60cmの楕円形の焼面が認められる。

〔掘り込み部〕平面形は炉の長軸方向に0.7m、短軸方向に1.0mの楕円形で、深さは約14cmである。

北端部は幅15～17cmの構造の掘り込みとなっており、周溝の一部として機能していたとみられる。

〔柱穴〕検出したピットのうち、P1・P2の2個は炉の中軸線を中心に対称となる位置にあることから主柱穴と考えられる。本来は3本柱構造であったと考えられ、北側の主柱穴はSI62B 竪穴建物跡の炉跡で壊されたとみられる。全体が残存しているP1の平面形は楕円形で、掘方の規模は長軸28cm、短軸24cmである。深さは28cmである。P1で柱抜き取り穴が確認されている。

〔周溝〕南半で検出した。上幅6～12cm、下幅3～5cm、深さ5～11cmである。断面はU字形である。堆積土は自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器（第69図1）があるほか、複式炉の堆積土から繩文土器深鉢、石皿片が出土している。

#### 【SI62B 竪穴建物跡】（第64・65図）

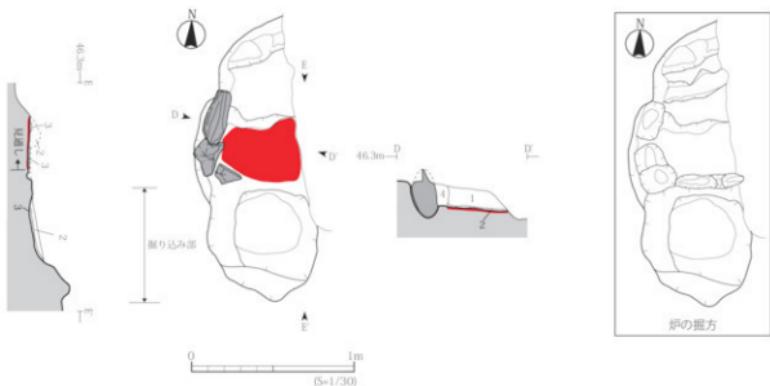
主柱穴、炉跡、周溝・床面の一部を検出している。建て替えに伴い主柱穴と炉は作り替えが確認できるが、検出した床面・周溝についてはSI62A 竪穴建物跡と共通する。

〔平面形・規模〕 SI62A 竪穴建物跡と共通するとみられる。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SI62B	P3	1 始褐色 (7.5YR3/4)	シルト	地山土中に少量含む。	柱抜穴
	P4	1 明褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト		柱痕跡
	P5	1 始褐色 (7.5YR3/4) 2 棕色 (7.5YR4/3)	シルト 粘土質シルト	地山土中に少量含む。 地山土中に少量含む。	柱抜取穴 柱痕跡

第64図 4区 SI62B 竪穴建物跡



第 65 図 4 区 SI62B 壁穴建物跡複式炉

〔炉〕南側に位置し、SI62A の炉跡と向かい合うような位置関係にある。東側が SI62C 壁穴建物跡の炉によって壊されており先端部の残存状況が悪いため全体の構造は不明であるが、石組、焼面、掘り込みの形状から複式炉であると考えられ、先端部に土器が埋設されていた可能性がある。掘り込み部の南端は周溝・南壁と接していたとみられる。平面形はダルマ形とみられ、長軸約 1.8m、短軸 0.7m 以上で、長軸方向は N - 3° - E である。中央部の左側壁及び南端の堀り込み部との境に、石組の一部と考えられる長さ約 16 ~ 33cm の礫が据えられている。炉の底面には堀り込み部との境に幅 7 ~ 9cm の溝状の凹みがあることから、本来は中央部の両側壁と堀り込み部との境に礫が据えられていたと考えられる。この石組が中央部を区画したものか、先端部まで続くものかは残存状況が悪いため判断できない。堀り込み部の平面形は炉の長軸方向に 0.7m、短軸方向に 0.7m 以上の楕円形で、深さは約 25cm である。

〔柱穴〕検出したピットのうち、炉の中軸線上に位置する P3 と、炉の中軸線を中心にはほぼ対称の位置にある P4・P5 の 3 個が主柱穴と考えられる。全体が残存している P3・P5 の平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸 36 ~ 81cm、短軸 25 ~ 79cm である。深さは 36 ~ 37cm である。P3・P5 で柱抜取り穴、P5 で柱痕跡を確認している。P5 の柱痕跡は長軸 27cm の楕円形である。また、おおよそ SI62B の外縁に位置する P6・P7 は炉と P3 を結んだ SI62B の中心線に対してほぼ対称の位置にあることから、SI62B に伴う補助的または付加的な柱穴と考えられる。P6・P7 の掘方の規模は長軸 27 ~ 41cm、短軸 22 ~ 37cm である。深さは 15 ~ 31cm である。いずれの柱穴でも柱抜取り穴を確認している。P6 で柱痕跡を確認しており、柱痕跡は直径 15cm の円形である。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物は出土していない。

【SI62C 積穴建物跡】（遺構：第 66・67 図、遺物：第 69～71 図）

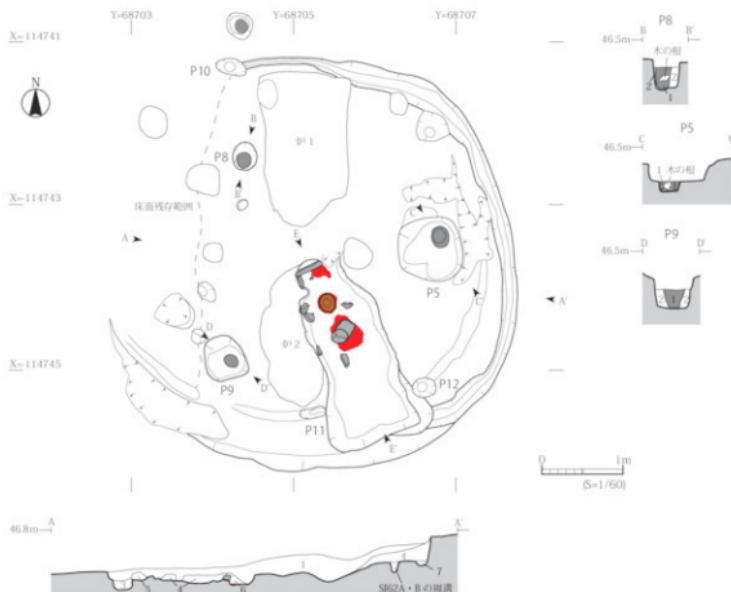
主柱穴、火跡、周溝、床面の一部を検出しており、西側の一部は残存していない。SI62Bを西側、南側に拡張して建て替えており、主柱穴2個と炬は作り替えている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕西側が残存していないため全体の平面形は不明であるが、残存部から推定すると平面形は直径約5.2mの円形とみられる。

[壁] 東側で残存している。地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい北東部で床面から 31cm である。

〔床面〕地山を床面としており、拡張部以外はSJ62A・Bの床面を使用している。

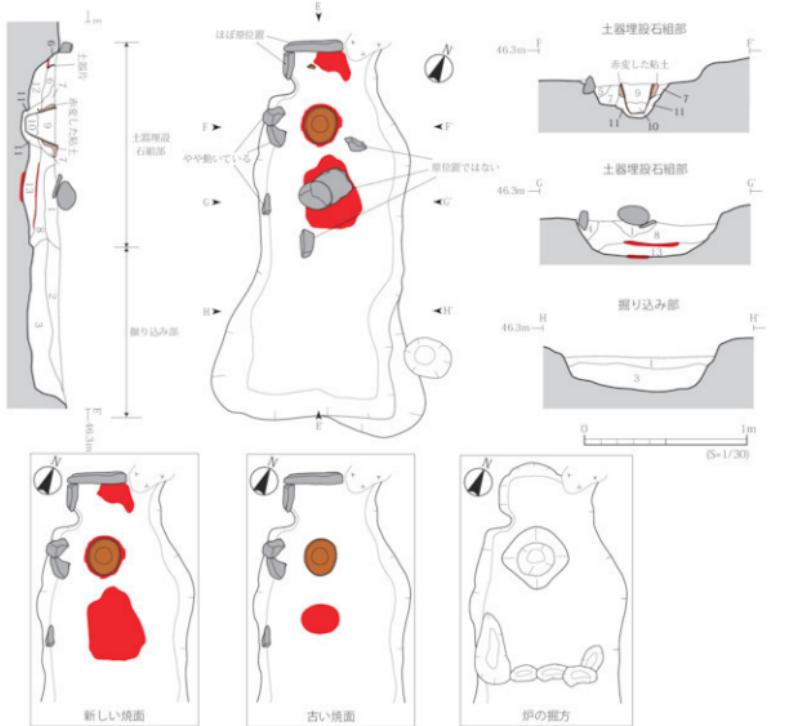
[4] 土器埋設石組部、掘り込み部からなる複式戸である。南側に位置し、SI62B の軌跡の東隣に方位をやや西向きにして作り替えている。掘り込み部は周溝・南壁と接している。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約 2.4m、短軸約 1.3m で、長軸方向は N = 4° - W である。



遺傳子	解説	毛色	性別	特徴	備考
S862C	1 黒褐色 (10YR 8/2)	シロト	雌性	灰褐色顎片を含む。岩筋繩瘤を含む。	木の根による擦乱
	2 明褐色 (7S/BS 5-6)	ホリズ質シロト	雄性	明褐色 (7AS/BS 5-6) 上のプロックを含む。	自然発現
	3 黄褐色 (10YR 4/4)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋中縦を少量含む。	自然発現
	4 褐色 (10YR 4/6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋中縦を少量含む。	自然発現
	5 黄褐色 (10YR 4/6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋繩瘤を少量含む。	自然発現
	6 黄褐色 (7SYR 4/4)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋繩瘤を少量含む。	自然発現
	7 褐色 (10YR 4/6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋中縦を少量含む。	自然発現
	8 褐色 (10YR 4/6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋繩瘤を少量含む。	自然発現
斑端	明褐色 (7SYR 5-6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋繩瘤を少量含む。	自然発現
柱穴	明褐色 (10YR 4/6)	ホリズ質シロト	雄性	岩筋繩瘤を少量含む。	自然発現

第66図 4区SI62C 積穴建物跡

〈土器埋設石組部〉 炉の中軸線上に埋設土器がある。土器は直径 22cm、残存高約 19cm で、深鉢形土器を正位に据えている。掘り込みの底面は床面から約 23cm あり、埋設土器の上部は粘土で固定している。奥壁に長さ 36cm の扁平な礫があり、左側壁には長さ 13 ~ 17cm の礫が据えられている。また、炉の底面には掘り込み部との境に幅 10 ~ 12cm の楕円形状の凹みがあることから、本来は奥壁・両側壁・掘り込み部との境に石組が配置されていたと考えられる。埋設土器の手前には焼面が 2 面確認されており、機能面を嵩上げして作り直し、埋設土器も据え直したとみられる。底面の焼面は長軸 24cm の楕円形、上部の焼面（第 67 図 5 層底面）は長軸 46cm の楕円形である。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考	
					1	2
SI62C	複式炉	1 黄褐色 (17YR 6/6)	粘土質シルト	ややしまりがある	自然堆積	
		2 砂色 (10YR 4/6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	自然堆積	
		3 黄褐色 (10YR 5/8)	シルト	地山小ブロックを含む	自然堆積	
		4 黄褐色 (25Y 5/4)	シルト	本體の影響でしまりながら石組もやや原位置から動いている。	自然堆積か	
		5 砂色 (75YR 4/6)	粘土質シルト	本體の影響か、しまりがなく石組がやや不安定な状態。	自然堆積か	
		6 小砂色 (5YR 4/6)	シルト	地山粒を多量含む。地山小ブロックを少量含む。	機械堆積	
		7 黄褐色 (10YR 4/8)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。地山粒を多量含む。被覆化。	機械堆積	
		8 明褐色 (17YR 5/6)	粘土質シルト	地山粒に焼成物を含む塊十層。地山ブロックを少量含む。	機械堆積	
		9 黄褐色 (10YR 5/6)	シルト	焼成物ブロックを含む。固くまとまる。	埋設土器投入	
		10 桂葉色 (5YR 2/1)	シルト	「湯底面から」数cm のところで密度の高い焼成物の堆積あり。	機械堆積	
		11 深黄褐色 (17YR 8B/6)	粘土	「湯底面」に張りをした粘土。	埋設土器の据え方	
		12 小砂色 (5YR 4/6)	粘土質シルト	地山粒を多量含む。	人為堆積	
		13 明赤褐色 (5YR 5/6)	粘土質シルト	地山粒を多量含む。	機械堆積	

第 67 図 4 区 SI62C 積穴建跡複式炉

〔掘り込み部〕平面形は炉の長軸方向に 1.0m、短軸方向に 1.1m の歪んだ楕円形で、深さは約 24cm である。短軸方向の断面形は逆台形である。

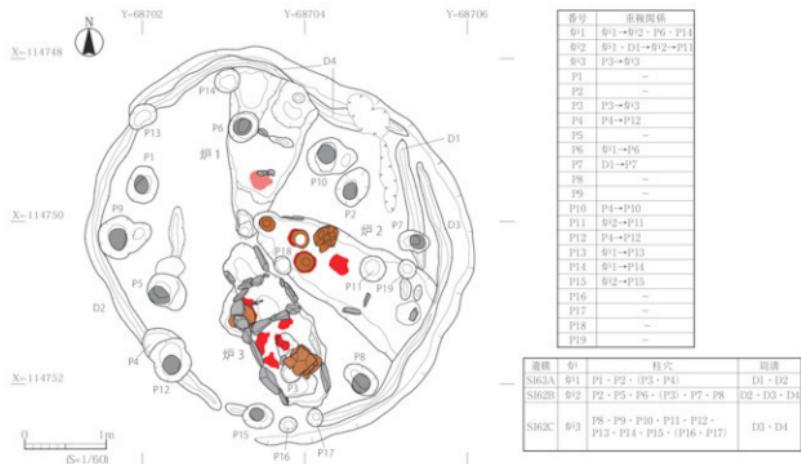
〔柱穴〕検出したピットのうち、炉の中軸線上に位置する P8 と炉の中軸線を中心にはほぼ対称の位置にある P5・P9 の 3 個は、配置や柱穴の規模から主柱穴と考えられる。平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸 35 ~ 81cm、短軸 29 ~ 79cm である。深さは 35 ~ 39cm である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認している。柱痕跡は長軸 19 ~ 27cm の楕円形である。また、炉の中軸線上で SI62C の外縁に位置する P10、炉の両脇に位置する P11・P12 の 3 個は先の 3 個の柱穴よりも掘方の規模が小さく浅いことから、SI62C に伴う補助的な柱穴と考えられる。平面形はいずれも楕円形で、掘り方の規模は長軸 28 ~ 38cm、短軸 12 ~ 24cm である。深さは 22 ~ 38cm である。柱痕跡は確認していない。

〔周溝〕東半部で検出した。上幅 8 ~ 28cm、下幅 4 ~ 15cm、深さ 5 ~ 21cm である。断面は U 字形である。堆積土は自然堆積とみられる。

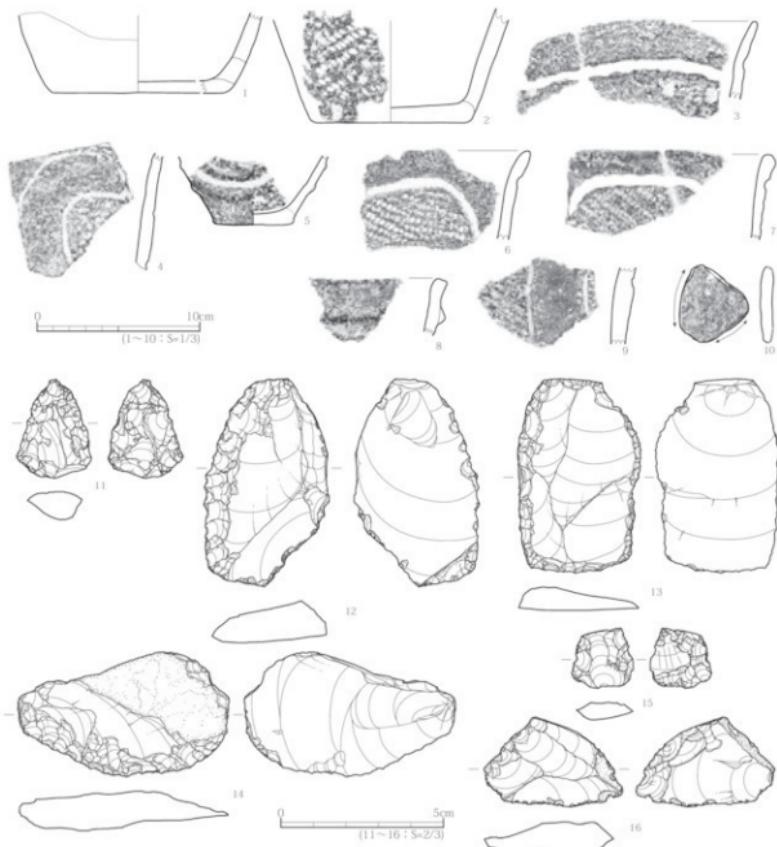
〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器（第 69 図 2）があるほか、堆積土から繩文土器深鉢（第 69 図 3 ~ 9）、円盤状土製品（第 69 図 10）、石鏃（第 69 図 11）、不定形石器（第 69 図 12 ~ 14・16）、楔形石器（第 69 図 15）、剥片（第 70 図 1 ~ 4）、打製石斧（第 70 図 5）、磨凹敲石類（第 70 図 6 ~ 8）、砥石（第 70 図 9）、石皿（第 70 図 10 ~ 12、第 71 図 1 ~ 4）が出土している。

#### 【SI63 竪穴建物跡】（第 68 図）

4 区北の丘陵平坦部に位置する。方向の異なる炉跡 3 基、柱穴・ピット 19 個、周溝 2 条を検出しておらず、2 回の建て替えが行われたと考えられる（SI63A → SI63B → SI63C）。



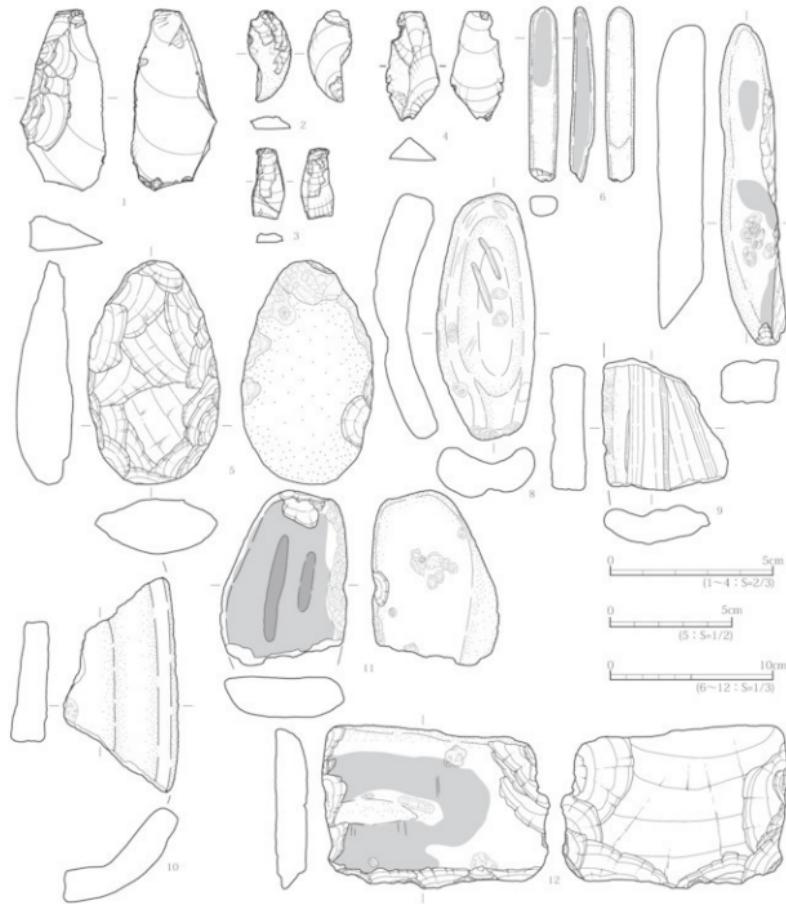
第 68 図 4 区 SI63 竪穴建物跡



図番号	遺構	解説	器種	特徴	写真	登録番号
69-1	SI62A1	塊式印・齊設土器	深鉢	雁足印10.5cm、底面・外面とも摩滅	43-10	158
69-2	SI62C1	塊式印・齊設土器	鉢	底径8cm、碗文（LR）、底面に網代網目	43-11	69
69-3	SI62C1	堆積土	深鉢	流狀口縁、沈殿層に2別の剥突剝	43-12	65
69-4	SI62C1	堆積土	深鉢	沈殿文、碗文（不明）	43-15	66
69-5	SI62C1	堆積土	鉢	底径4.9cm、底面ナデ	43-16	67
69-6	SI62C1	堆積土	鉢	碗文（LR）→沈殿（輪広）	43-13	68
69-7	SI62C1	堆積土	深鉢	平縁、碗文（LR）→沈殿（幅広0.7）	43-14	156
69-8	SI62C1	1号	深鉢	流狀口縁、隆起文	43-17	155
69-9	SI62C1	堆積土	碗文（LR）→沈殿文→磨り消し。無文部がやや凸		43-18	157
69-10	SI62C1	堆積土	円盤状土器品	体部破片利用、頭丸（角形状、長さ4.3cm、幅10cm、厚さ0.6cm、表面研磨	43-19	159

図番号	遺構	解説	長S (mm)	幅 (mm)	厚S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
69-11	SI62C1	石器	30.3	23.0	9.0	5.1	目貫質岩	凸基	43-20	249
69-12	SI62C1	堆積土	63.9	38.5	11.8	30.5	目貫質岩		43-21	255
69-13	SI62C1	堆積土	59.7	37.9	10.5	25.4	目貫質岩		43-22	256
69-14	SI62C1	堆積土	38.3	65.0	13.3	27.7	目貫質岩	自然面あり	43-24	257
69-15	SI62C1	堆積土	18.4	18.9	5.4	1.8	黒曜石	両側剥離面・2面1対	43-25	272
69-16	SI62C1	床面	26.9	42.7	9.3	9.9	目貫質岩		43-27	264

第 69 図 4 区 SI62A・C 壁穴建物跡出土遺物



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
70-1	S802C	堆積土	石片	55.7	2.4	11.2	132	珪質頁岩	微細網羅あり	4326 260
70-2	S802C	堆積土	石片	28.0	13.4	4.5	15	黒曜石		4329 273
70-3	S802C	堆積土	石片	21.7	9.9	2.9	0.7	黒曜石		4328 275
70-4	S802C	堆積土	石片	33.6	16.4	8.3	24	黒曜石		4330 274
70-5	S802C	堆積土	打制石斧	91.7	54.2	23.1	1338	ドレイイト	片面に自然面残す	4323 318
70-6	S802C	堆積土	磨石	107.2	17.6	14.0	366	麻灰質砂岩		4442 282
70-7	S802C	堆積土	磨礫石	197.4	35.0	29.0	2966	安山岩質麻灰岩	前面→敲打痕	4441 317
70-8	S802C	堆積土	石頭	151.6	60.7	32.5	279.3	麻灰質砂岩		4443 286
70-9	S802C	堆積土	砾石	81.4	77.4	24.0	127.1	麻灰質砂岩		4444 284
70-10	S802C	堆積土	石頭	132.1	70.8	23.0	246.5	麻灰質砂岩		4448 280
70-11	S802C	1層	磨礫石	107.7	78.2	24.0	251.0	麻灰質砂岩	前面→敲打痕	4446 281
70-12	S802C	堆積土	石頭	100.5	142.0	18.5	352.1	粘板岩		4445 286

第70図 4区 SI162C 壁穴建物跡出土遺物 (1)



番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
71-1	SB62C1	堆積土	石盤	317.3	219.3	86.0	7260.0	凝灰質砂岩			44-11 319
71-2	SB62C2	堆積土	石盤	352.2	97.6	89.5	3400.0	鞍山岩質凝灰岩			44-10 293
71-3	SB62C3	堆積土	石盤	252.5	163.1	29.0	1809.0	凝灰岩			44-9 316
71-4	SB62C4	堆積土	石盤	207.1	212.0	31.0	1225.0	粘板岩			44-7 315

第 71 図 4 区 SI62C 壁穴建物跡出土遺物 (2)

### 【SI63A 穫穴建物跡】(第72図)

4区北の丘陵西斜面際に位置する。主柱穴、炉跡、周溝・床面の一部を検出しており、南東部はSI63B・63Cの炉で壊されている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕南東部が残存していないため全体の平面形は不明であるが、残存範囲から推定すると、平面形は直径約4.4mの円形とみられる。

〔床面〕地山を床面としている。床面はほぼ平坦である。

〔炉〕残存状況が悪いため全体の構造は不明であるが、石組、焼面、掘り込みの形状から複式炉であると考えられ、先端部、石組部、掘り込み部に分けられる。北側に位置し、掘り込み部の北端部は周溝と接している。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約2.0m、短軸約1.1mで、長軸方向はN-16°-Eである。

〈先端部〉東側はSI62Bの炉跡によって壊されている。残存状況が悪く、石組部との境は不明確である。

南端に長軸35cm、短軸22cm以上の楕円形の掘り込みがあり、深さは23cmである。掘り込みの位置や形状から埋設土器を抜き取った抜取り穴とみられ、先端部は本来土器埋設部として機能していたと考えられる。

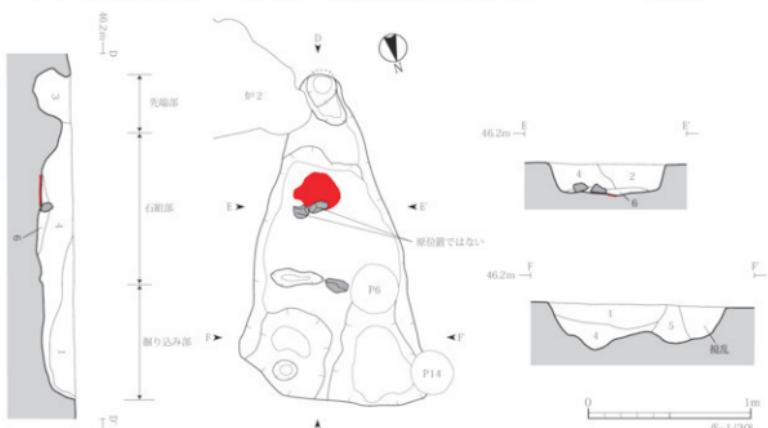
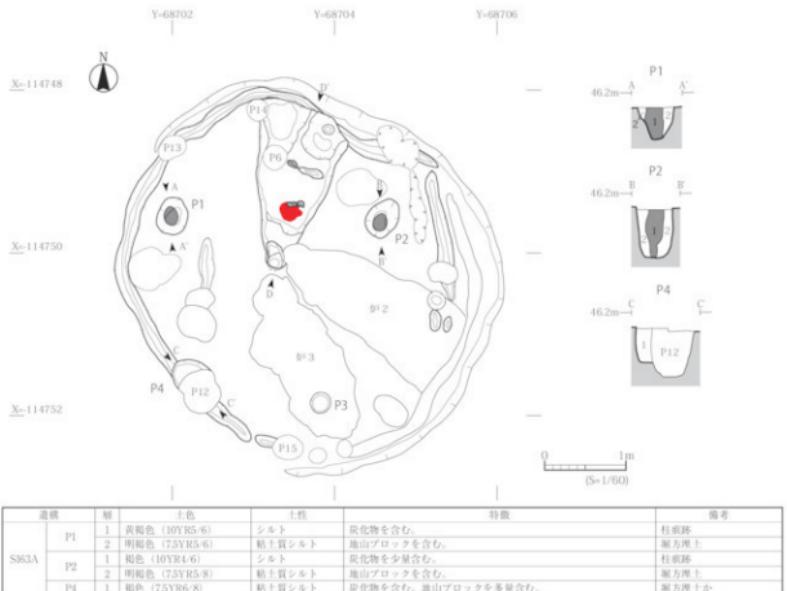
〈石組部〉北西部はSI63Bの柱穴によって壊されている。深さは約20~24cmで、炉短軸方向の断面形は逆台形である。掘り込み部との境に長さ14cmの縛があり、底面で幅8~12cmの凹みが認められることから、掘り込み部との境は縛を据えた石組で区画していたと考えられる。南側の底面で焼面と長さ10~13cmの縛を確認している。焼面は長軸約29cmの歪んだ楕円形で、ほぼ同じ範囲に小ブロック状の炭化物が堆積している。縛は焼面上に位置しており、原位置である可能性は低い。両側壁や奥壁には縛や縛を据えた痕跡が認められないことから、石組は掘り込み部との境に限られるとみられる。

〈掘り込み部〉北西部はSI63Cの柱穴によって壊されている。平面形は炉の長軸方向に0.7m、短軸方向に1.1mの歪んだ楕円形である。東西に分かれて浅く窪み、深さは東側が25cm、西側が28cmである。炉短軸方向の断面形は双胴の船底形で、石組部と比較するとやや緩やかに立ち上がる。

〔柱穴〕検出したピットのうちP1~P4の4個は、P1とP2、P3とP4がそれぞれ炉の中軸線を中心にはほぼ対称の位置にあり、掘方の規模や深さもおよそ一定であることから、主柱穴の可能性が高いと考えられる。P3は炉3の底面で確認されており、P4はSI63Cの柱穴で南半が壊されている。全体が残存しているP1・P2の平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸47~50cm、短軸36~37cmである。深さは39~59cmである。P1・P2で柱痕跡が確認され、長軸22~23cmの楕円形である。

〔周溝〕南東部はSI63B・SI63Cの炉で壊されており検出できていない。上幅13~24cm、下幅3~9cm、深さ3~21cmである。断面はU字形である。堆積土は人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物は出土していない。



第 72 図 4 区 SI63A 壁穴建物跡と複式部

【SI63B 穫穴建物跡】(遺構: 第73・74図、遺物: 第74・75図)

4区北の丘陵西斜面際に位置する。主柱穴、燎跡、周溝・床面の一部を検出している。SI63Aの南東部を拡張して建て替えており、北側の主柱穴2個と燎は作り替えている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕平面形は最大径4.7mの円形である。

〔壁〕東側で残存している。地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい南東部で床面から47cmである。

〔床面〕地山を床面としており、ほぼ平坦である。拡張部を除いた部分はSI63Aの床面を使用している。

〔燎〕土器埋設部、土器埋設石組部、掘り込み部からなる複式炉である。南東部に位置し、SI63Aの燎の向きを建物の中心を基点としておよそ東に100°傾けた位置にある。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約2.5m、短軸約1.1mで、長軸方向はN-58°-Wである。

〈土器埋設部〉燎の中軸線上に埋設土器1がある。土器は直径21cm、残存高約22cmで、深鉢形土器を正位に据えている。据え方は埋設土器よりも一回り大きく、土器との隙間を粘土で固定している。掘え方の底面は床面から約29cmある。土器の内部には底面から約8cmの厚さで機能時に堆積したとみられる炭化物が残存している。

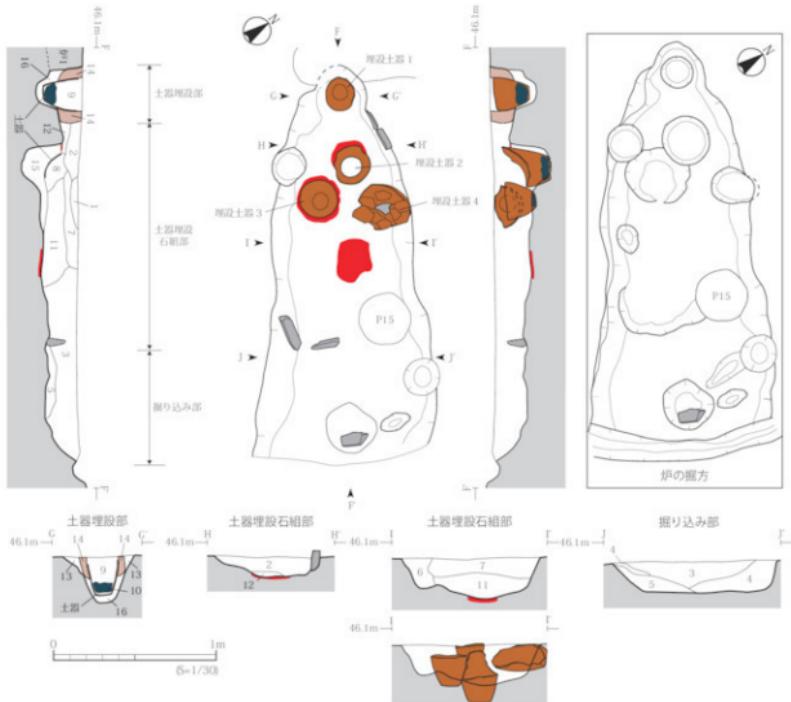
〈土器埋設石組部〉右奥の側壁に長さ14cmの扁平な礫が2個、掘り込み部との境に16~23cmの扁平な礫が2個据えられており、底面に浅い凹みが認められることから、本来は両側壁と掘り込み部との境に石組が配置されていたと考えられる。復元される平面形は燎の長軸方向に1.4m、短軸方向に1.0mの楕円形である。深さは土器埋設部との境で12cm、中央部で24cm、掘り込み部との境で17cmである。燎短軸方向の断面形は逆台形である。西側の燎の中軸線上に埋設土器2、その手前左側に埋設土器3、右側に埋設土器4がある。埋設土器2は底部の抜けた深鉢形土器で、土器の下端が地山にやや食い込むように直立した状態で正位に据えられている。底面の岩盤は被熱により赤褐色に変色している。底面から約6cmの厚さで機能時に堆積したとみられる炭化物が残存している。埋設土器3は深鉢形土器で、正位に据えられている。据え穴に土器を固定する際に使用した粘土が強く被熱しており、器表面に粘着した状態で硬化している。土器の内部は底面から約2cmの厚さで機能時に堆積したとみられる炭化物が残存している。埋設土器4は深鉢形土器で、燎の中軸線に直交する方向で底部が約5cm燎の東側壁に食い込むよう状態で横位に埋設されている。土器の口縁部内側には赤変硬化した焼土が付着している。土器内部に機能時の堆積はみられない。

〈掘り込み部〉中央部が木の根による搅乱の影響を受けているが、平面形は燎の長軸方向に0.7m、短軸方向に1.1mの楕円形で、深さは約22cmである。燎短軸方向の断面形は逆台形状である。掘り込み部の底面は全体的に浅く、堆積土に炭化物・焼土は全く含まれない。底面の北東側に浅い凹みがみられるが、規則性に乏しく、石組の抜き取り痕であるかどうかは不明である。

〔柱穴〕検出したピットのうちP5・P6の2個は燎の中軸線を中心にはほぼ対象となる位置にあり、P2はP5・P6と柱穴の規模や深さが類似することから、これら3個は配置や規模等から主柱穴となる可能性が高いと考えられる。P2と対称となる南西主柱穴はP3か燎3に壊されている可能性が考えられる。P2・P5・P6の平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸42~51cm、短軸34~

38cmである。深さは45～59cmである。いずれの柱穴でも柱痕跡が確認され、長軸22～27cmの梢円形である。また、炉掘り込み部の両脇に位置するP7・P8はI62Bに伴う補助的な柱穴と考えられる。平面形は梢円形で、掘方の規模は長軸39～48cm、短軸25～35cm、深さは36～64cmである。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認しており、長軸21～24cmの梢円形である。

〔周溝〕ほぼ全周する。上幅6～28cm、下幅2～15cm、深さ3～21cmである。断面はU字形である。

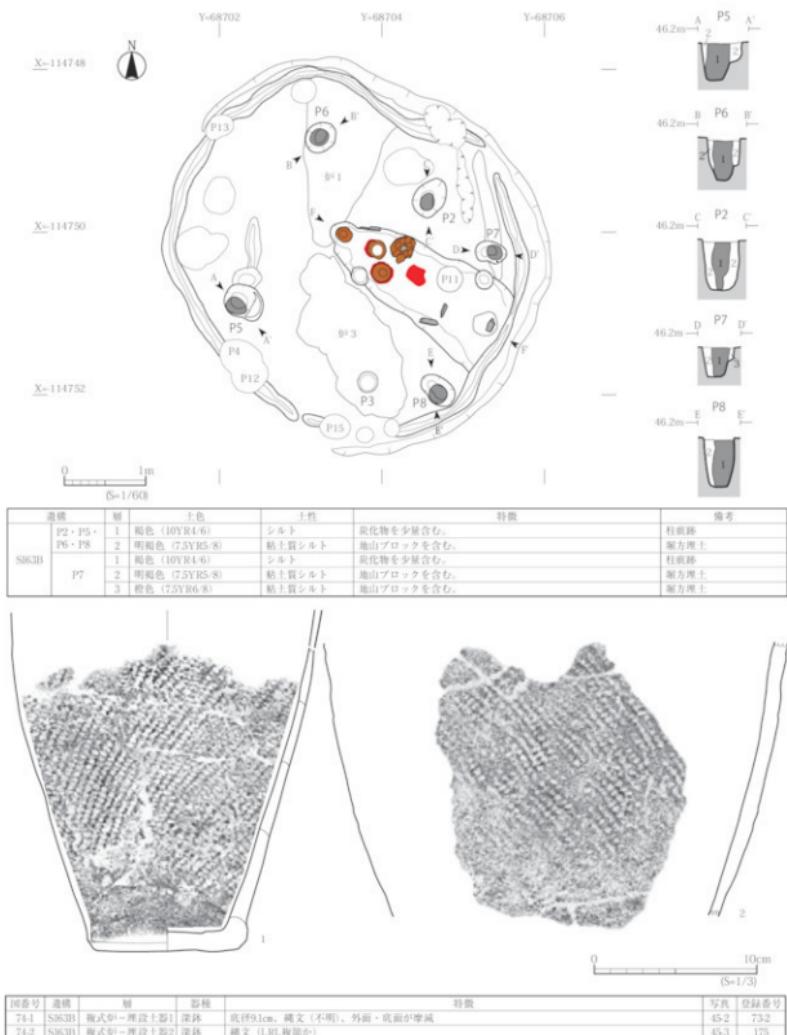


遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SI63B 複式炉	1	明黄褐色 (10YR6-6)	シルト		人為堆積か
	2	褐色 (7.5YRA-6)	粘土質シルト	焼上ブロックを多量含む。	人為堆積か
	3	明褐色 (7.5YR5-6)	シルト	塊状ブロックを少量含む。	人為堆積か
	4	明褐色 (7.5YR5-8)	シルト	塊状ブロックを含む。	人為堆積か
	5	明褐色 (7.5YR5-6)	粘土質シルト	輕鐵 (2.5YR6-8) の塊状ブロックを含む。	人為堆積か
	6	褐色 (10YR4-6)	シルト	地山ブロックを少量含む。しまりがない。	石礫の採取穴か
	7	褐色 (10YR4-6)	シルト	黃褐色 (10YR5-6) ブロックを少量含む。	自然堆積
	8	にぶい黃褐色 (3YR4-4)	粘土質シルト	灰化物片を少量含む。	土器内底上
	9	黃褐色 (10YR5-6)	シルト	灰化物が約2cm堆積。	土器内底上
	10	黒褐色 (10YR2-3)	シルト	灰化物が約2cm堆積。	機能時堆积
	11	明褐色 (7.5YR4-4)	粘土質シルト	灰化物から成る堆積の厚さで炭化物混じりの棊上が堆積。	機能時堆积
	12	明褐色 (10YR6-6)	粘土質シルト	5mmの大成化物と棊土を含む。	機能時堆积
	13	明黄褐色 (10YR6-6)	粘土質シルト	地山小ブロックを含む。	廻設土器置え方か
	14	褐色 (7.5YR6-6)	粘土	地山小ブロックを少量含む。被熱してやや灰化。	廻設土器置え方
	15	褐色 (7.5YR4-6)	粘土質シルト	5mmの大成化物と地山を含む。	廻設土器置え方
	16	褐色 (7.5YR7-6)	粘土	被熱による焼化は少ない。	廻設土器置え方

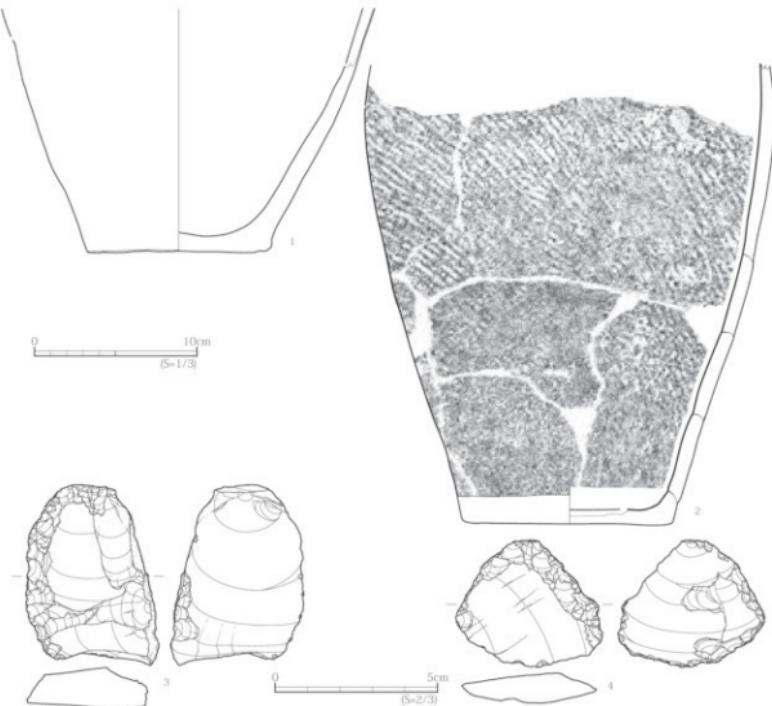
第73図 4区 SI63B 穴竪建物跡複式炉

堆積土は人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器 1 ~ 4 (第 74 図 1・2、第 75 図 1・2) があるほか、複式炉の堆積土から不定形石器 (第 75 図 3・4) が出土している。



第 74 図 4 区 SI63B 壓穴建物跡と出土遺物



図番号	遺物	形	器種	特徴	写真	登録番号
75-1	SI63B	複式炉・埋設土器3	窯跡	底径113cm、縦文(L.R.)、器面が摩滅	45-4	73
75-2	SI63B	複式炉・埋設土器4	窯跡	底径127cm、縦文(L.R.)	45-1	72
75-3	SI63B	複式炉・堆积土器	不定形石器	長さ 幅 厚さ 重さ 石材	自然面あり	45-6 200
75-4	SI63B	複式炉・堆积土器	不定形石器	35.9 39.5 16.1 37.1 珪質頁岩	珪質頁岩	45-5 258

第75図 4区 SI63B 竪穴建物跡出土遺物

#### 【SI63C 竪穴建物跡】(遺構: 第76・77図、遺物: 第78・79図)

主柱穴、炉跡、周溝、床面の一部を検出しており、西側は残存していない。SI63Bの西側を拡張して建て替えており、主柱穴・炉は作り替えている。検出面は地山である。

【平面形・規模】西側が残存していないため全体の平面形は不明であるが、残存している東側から推定すると、平面形は直径約5.0mの円形とみられる。

【壁】東側で残存している。地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい南東部で床面から47cmである。

〔床面〕地山を床面としており、大部分は SI63B の床面を使用している。SI63A・SI63B の炉跡の周辺で部分的な貼床が認められる。床面はおおよそ平坦である。

〔炉〕石組部、土器埋設石組部、石組掘り込み部からなる複式炉である。南側に位置し、SI63B の炉跡の西隣に方向をやや東向きにして作り替えている。平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約 2.2m、短軸約 1.0m で、長軸方向は N - 26° - W である。

〈石組部〉両側壁に長さ 18 ~ 35cm の細長い礫が据えられており、土器埋設石組部との境には長さ 6 ~ 24cm の扁平な礫が配置されている。平面形は炉の長軸方向が炉の長軸方向が 0.5m、短軸方向が 0.5m の隅丸方形で、深さは 14cm である。炉短軸方向の断面形は逆台形である。底面の形状はほぼ平坦であるが、中央が浅く窪んでいる。底面に土器が埋設されていた痕跡は認められない。

〈土器埋設石組部〉全体を区画するように石組が配置されている。平面形は炉の長軸方向に 0.6m、短軸方向に 0.8m の隅丸方形である。深さは石組部との境で 13cm、掘り込み部との境で 25cm である。炉短軸方向の断面形は逆台形である。炉の底面は埋設土器の口縁部付近から石組部との境にかけて強く被熱している。埋設土器は左側壁に炉の中軸線に直交する向きで据えられている。埋設土器の据え方は左側壁を約 20cm 剥ぎ込んでいる。据え方の埋土に粘土を用いて深鉢形の土器を斜位に据え、土器上面を覆うように長さ 25cm 程度のやや偏平な礫を 2 個配置している。埋設土器の設置角度は正位から約 65° 東に傾く。土器底部付近の粘土は被熱の程度が弱く赤変硬化が認められないが、他の部分の粘土は被熱による赤変硬化が認められ、特に左奥側壁で顕著である。埋設土器の内部には炭化物を少量含む褐色粘土質シルトの流入土が堆積している。土器の外側では、口縁部から数センチ中央寄りの底面付近に長さ 3 ~ 5cm の炭化材が土器から掻きだされたような状態で残存している。

〈石組掘り込み部〉右側壁には礫が 1 個しか残存していないが、底面に据え穴とみられる凹みが認められることから、本来は両側壁に石組が配置されていたと考えられる。復元される平面形は炉の長軸方向に 1.2m、短軸方向に 0.9m の長方形である。深さは約 30cm で、炉短軸方向の断面形は逆台形である。両側壁には長さ 18 ~ 35cm の細長い礫、土器埋設石組部との境には長さ 6 ~ 24cm の扁平な礫が配置されている。底面南寄りで直径 25cm、深さ 12cm のピットを検出しており、SI63A または SI63B に伴う柱穴とみられる。ピット北側底面付近には炭化物が薄く層状に堆積しており、掘り込み部底面は奥側が広範囲に被熱赤変していることから、掘り込み部も燃焼を伴う機能が想定される。ピットの 10cm 程度上方の堆積土で深鉢形土器の上半部が出土しており、廃絶後の窪みに投棄されたと考えられる。

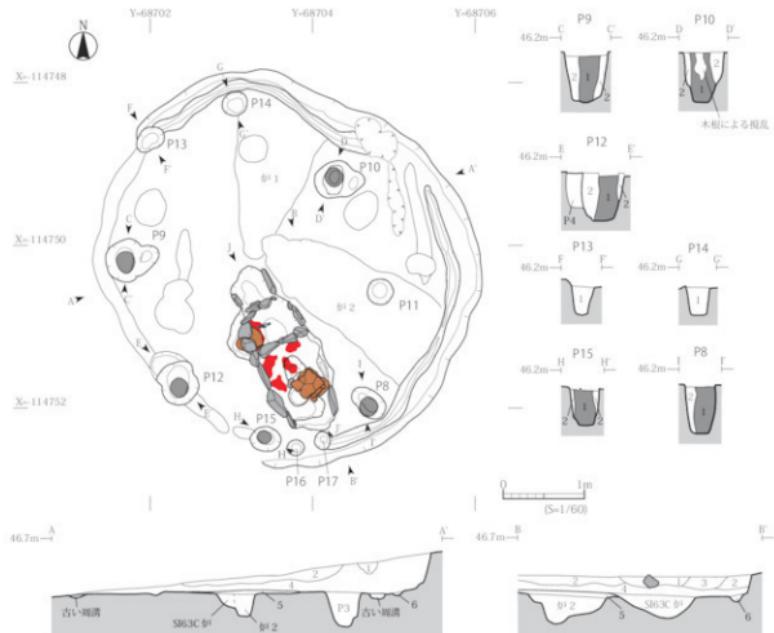
〔柱穴〕検出したピットのうち P8 ~ P15 の 8 個が炉の中軸線を中心にはほぼ対称となる位置にあり、SI63C に伴う柱穴と考えられる。このうち中央に位置する P9・P10・P11・P12 の 4 個は柱穴掘方の規模や深さが類似することから、主柱穴と考えられる。P9 ~ P12 の平面形はいずれも梢円形で、掘方の規模は長軸 33 ~ 66cm、短軸 32 ~ 53cm である。深さは 47 ~ 62cm である。P9・P10・P12 で柱痕跡が確認され、長軸 23 ~ 27cm の梢円形である。また外縁に位置する P13・P14・P15・P8 の 4 個は中央の 4 個と比較して柱穴の規模がやや小さいことから、補助的な柱穴と考えられる。

平面形は梢円形で、長軸 33 ~ 48cm、短軸 30 ~ 35cm である。深さは 36 ~ 64cm である。P8・P15 で柱痕跡を確認しており、長軸 17 ~ 24cm の梢円形である。

〔周溝〕 東半部で検出した。上幅 6 ~ 28cm、下幅 2 ~ 15cm、深さ 3 ~ 21cm である。断面は U 字形である。堆積土は自然堆積とみられる。

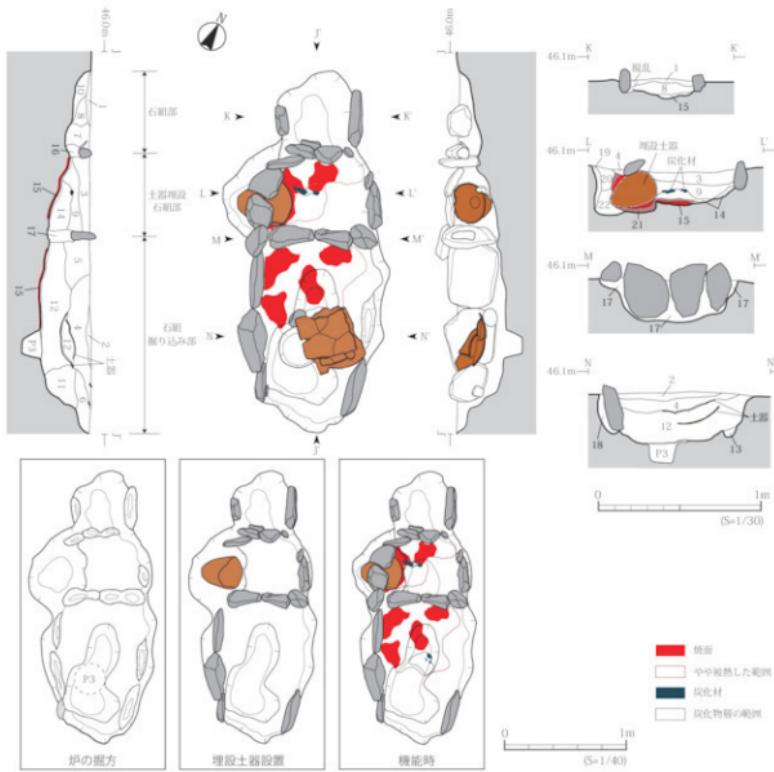
〔堆積土〕 堆積土は 4 層に分けられ、いずれも自然堆積である。

〔出土遺物〕 建物に伴う遺物として複式炉の埋設土器（第 78 図 1）があるほか、主柱穴とみられる P12 の検出面より数 cm 上の浅いくぼみから同一母岩とみられる碧玉製の剥邊 9 点と珪質頁岩製の剥邊 1 点（第 79 図 6 ~ 15）、複式炉の掘り込み部の堆積土から縄文土器深鉢（第 78 図 2）、剥片（第 79 図 3）、床面直上で石錐（第 79 図 1）、石匙（第 79 図 2）、堆積土から剥片（第 79 図 4・5）、磨凹敲石類（第 80 図 1・2）、石皿（第 80 図 3）が出土している。



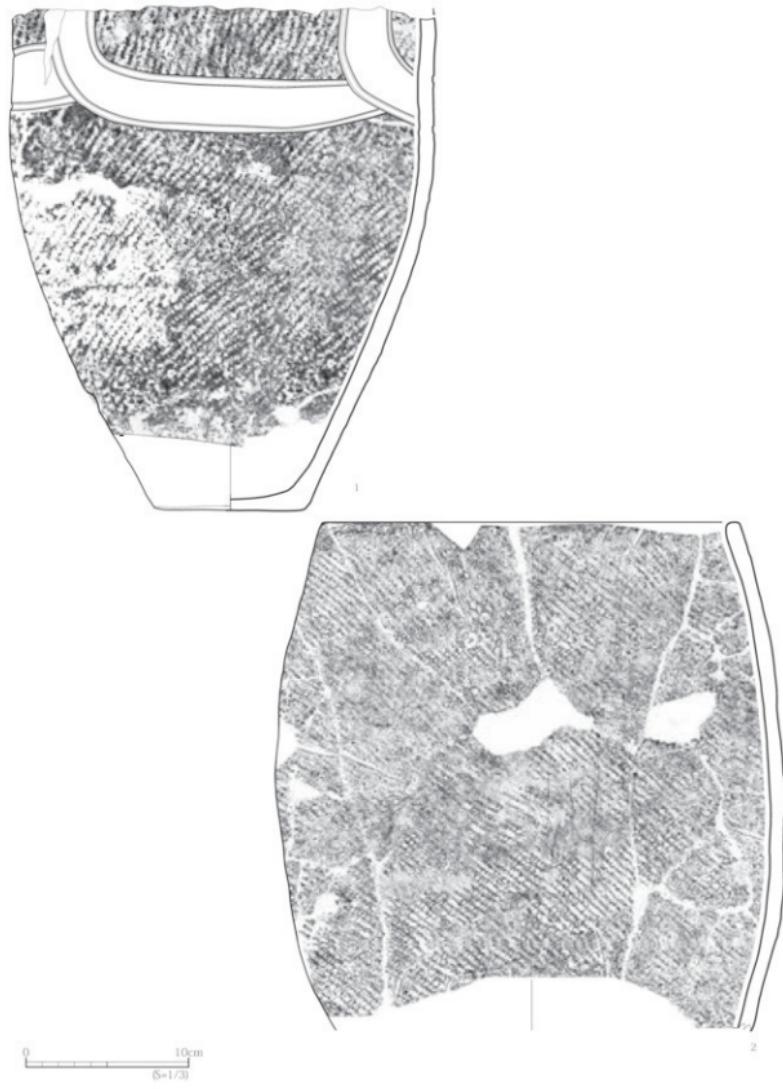
遺構	層	土色	土性	特徴	備考
S163C	1	にぶい褐色 (7SYR5-4)	粘土質シルト	地山小ブロックを多量含む。明黄褐色 (10YR6-6) を少量含む。	自然堆積
	2	暗褐色 (10YR3-3)	シルト	地山小ブロックを含む。灰化物を少量含む。	自然堆積
	3	褐色 (10YR4-6)	シルト	地山小ブロックを多量含む。	自然堆積
	4	黃褐色 (2SY5-6)	粘土質シルト	地山ブロックを少量含む。	自然堆積
	5	明黄褐色 (10YR5-6)	粘土質シルト	黄白色小ブロックを多量含む。	貼床
	6	明褐色 (7SYR5-6)	粘土質シルト	灰化物を少量含む。	周溝堆積土
柱穴	1	黄褐色 (10YR5-6)	シルト	灰化物を少量含む。	柱跡
	2	明褐色 (7SYR5-8)	粘土質シルト	灰化物を少量含む。地山ブロックを含む。	柱方陣土

第 76 図 4 区 S163C 桁穴建物跡



遺構	解説	土色	土性	特徴	備考
S63C	複式炉	1 茶色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物粒を少量含む。	自然堆積
		2 和色 (7.5YR4/6)	粘土質シルト	炭化物粒を少量含む。	自然堆積
		3 和色 (7.5YR4/6)	シルト	2~3mm大の炭化物粒を含む。	自然堆積
		4 明褐色 (7.5YR5/6)	シルト	淡黄色地山小ブロックと1cm大の炭化物小片を含む。	自然堆積
		5 黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト	炭化物小片を含む。	自然堆積
		6 黄褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	1~3mm大の炭化物粒を含む。	自然堆積
		7 明褐色 (7.5YR5/6)	シルト	5mm大の炭化物粒を少量含む。	自然堆積
		8 黄褐色 (10YR5/6)	シルト	黃色地山小ブロックを多量含む。	自然堆積
		9 和色 (10YR4/6)	シルト	5mm大の炭化物粒と黃色地山小ブロックを少量含む。	自然堆積
		10 明黄褐色 (10YR4/6)	シルト	黃色地山小ブロックを含む。	自然堆積
		11 明褐色 (7.5YR5/6)	シルト	炭化物粒を少量含む。	人为堆積
		12 黄褐色 (10YR5/6)	シルト	炭化物粒を少量含む。上面で礫文土器がまとまって出土。	人为堆積 石器の採取穴
		13 黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト		
		14 和色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	被熱未発達の地山小ブロックと1cm大の炭化物を多量含む。	人为堆積
		15 小和色 (5YR4/6)	粘土質シルト	前面の岩質地山は被熱未発達。炭化物が混じる板土が約3cm堆積。	機能時堆积
		16 和色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロックを少量含む。	石器の据え方か 石器の据え方か
		17 (ニ)・(ホ)茶褐色 (SYR1/4)	シルト	5mm大の黄褐色小ブロックを少量含む。	石器の据え方か 石器の据え方
		18 黄褐色 (7.5Y5/4)	粘土質シルト	石器の固定材料か。	
		19 桂色土 (SYR6/8)	粘土	ややもろい。地山岩質ブロックを含む。	埋設土器据え方
		20 明赤褐色 (5YR5/6)	粘土	被熱の影響でもろい・状に変質。	埋設土器据え方
		21 桂色 (2.5Y6/8)	粘土	地山岩質土と含む粘土が被熱硬化。	埋設土器据え方
		22 小褐色 (5Y4/6)	粘土	地山ブロックを全く含まざるが細かい。被熱しや硬化。	埋設土器据え方

第 77 図 4 区 SI63C 穴室建物複式炉



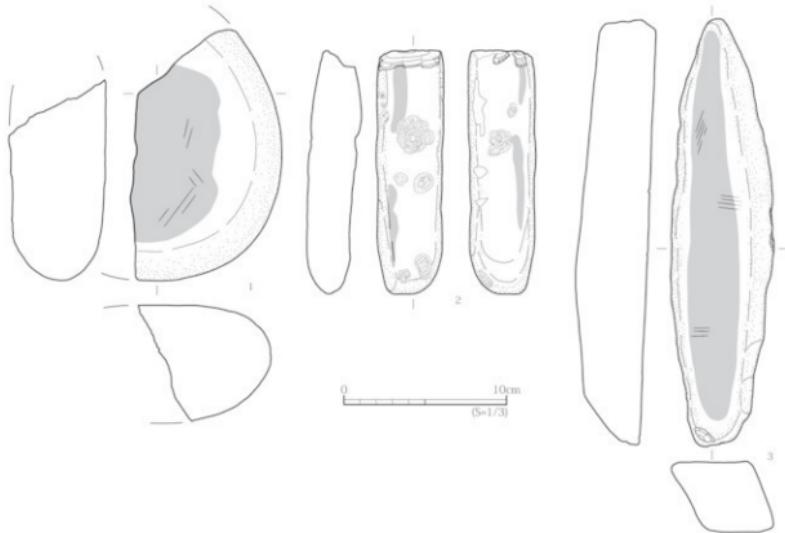
図番号	遺構	層	断面	特徴	写真	登録番号
78-1	柱式孔・堆積土層	深鉢	底径9.3cm、縦文 (RL) → 沈縮文、焼消縦文		46-1	71
78-2	柱式孔・堆積土	深鉢	口徑25.8cm、平縫、縦文 (LR)		46-2	70

第 78 図 4 区 SI63C 穴穴建物跡出土土器



図番号	遺構	層	器種	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
79-1	SB63C	床面直上	石器	23.9	13.6	3.0	0.7	珪質岩	円錐	46-4 250
79-2	SB63C	床面直上	石器	39.3	40.1	13.2	297	珪質岩	袖部一部欠損	46-3 259
79-3	SB63C	模式知	調片	53.0	49.6	10.5	19.8	珪質岩		46-7 267
79-4	SB63C	2~4層	調片	17.3	13.3	2.8	0.7	黑曜石		46-9 276
79-5	SB63C	2~4層	調片	23.9	16.3	7.2	1.8	黑曜石		46-6 277
79-6	SB63C	床面直上	調片	33.1	23.0	8.9	7.4	鈍玉		45-7 266
79-7	SB63C	床面直上	調片	36.7	23.7	11.6	8.8	鈍玉		45-8 476
79-8	SB63C	床面直上	調片	43.3	24.1	10.9	11.1	鈍玉		45-9 477
79-9	SB63C	床面直上	調片	39.4	18.6	12.0	9.7	鈍玉		45-10 478
79-10	SB63C	床面直上	調片	42.2	24.3	8.0	8.7	鈍玉		45-11 479
79-11	SB63C	床面直上	調片	33.7	24.1	13.8	8.0	鈍玉		45-12 480
79-12	SB63C	床面直上	調片	31.8	26.6	11.7	7.9	鈍玉		45-13 481
79-13	SB63C	床面直上	調片	31.0	22.3	10.5	7.8	鈍玉		45-14 482
79-14	SB63C	床面直上	調片	38.9	28.1	10.4	9.8	鈍玉		45-15 483
79-15	SB63C	床面直上	調片	29.2	26.5	10.5	6.7	珪質岩		45-16 484

第 79 図 4 区 SI63C 壁穴建物跡出土石器 (1)



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
80-1	SI63	1層	磨石	154.4	93.3	78.0	1361.0	石英閃緑岩		46-8 323
80-2	SI63	1層	磨凹砥石	150.0	41.6	31.5	366.4	凝灰質砂岩	磨面→凹石	46-9 320
80-3	SI63	堆積土	石皿	263.1	63.6	45.0	1000.0	安山岩質凝灰岩		46-10 322

第80図 4区 SI63C 壁穴建物跡出土石器 (2)

【SI67 壁穴建物跡】(遺構: 第81図、遺物: 第82・83図)

4区北の西斜面際に位置する。主柱穴、炉跡、周溝・床面の一部を検出しており、西側は残存状況が悪い。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 北壁の一部が現代の植林により削平されるが、平面形は最大径3.2mの不整円形とみられる。

〔壁〕 東側で残存している。地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい東壁で床面から20cmである。

〔床面〕 地山を床面としており、床面はほぼ平坦である。東側の2条の周溝の間は約5cm程度高いテラス状をなす。

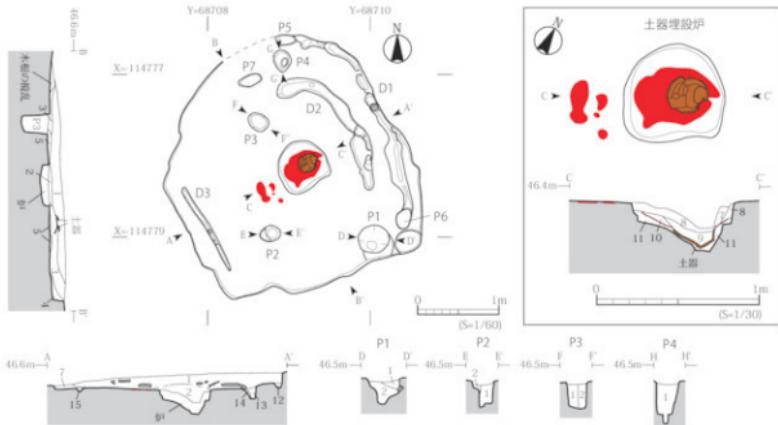
〔炉〕 中央に位置する。掘り込みの中央やや東寄りに埋設土器があり、深鉢形土器を斜位に据えている。埋設土器の長軸方向でみると、N - 57° - Eである。炉の掘り込みの平面形は長軸0.7m、短軸0.6mの不整円形で、最も深い埋設土器の底面付近の深さは床面から約30cmである。掘り込みの底面に合わせて土器の上部を打ち欠き、土器の周囲を灰黄褐色シルトで固定している。土器は残存径約24cm、残存高さ約23cmで、上部を正位から約35°西に傾けた角度で据え、西側に開口させている。埋設土器及び土器周辺の炉底面は被熱し赤変している。焼面は長軸0.5m、短軸0.3mの

歪んだ橢円形状に広がる。炉西側の床面も赤変しており、土器の開口方向と合わせて、炉は西側から使用したと考えられる。埋設土器及び炉内部には機能時堆積物はみられない。

〔柱穴〕7個検出している。配置が不規則となるため断定はできないが、P1～P4が主柱穴となる可能性がある。P1～P4の平面形はいずれも橢円形で、掘方の規模は長軸25～39cm、短軸19～35cmである。深さは32～34cmである。いずれの柱穴でも柱痕跡は確認していない。

〔周溝〕東側で2条(D1・D2)、西側で1条(D3)検出した。内側のD2はD1より古い周溝の可能性がある。D1は上幅8～20cm、下幅1～4cm、深さ5～11cmである。D2は幅12～25cm、下幅4～7cm、深さ4～9cmである。D3は残存状況が悪く、上幅5～7cm、深さ3～4cmである。いずれも断面形はU字形である。堆積土は地山ブロックを多く含む灰黄褐色シルトで、人為堆積とみられる。

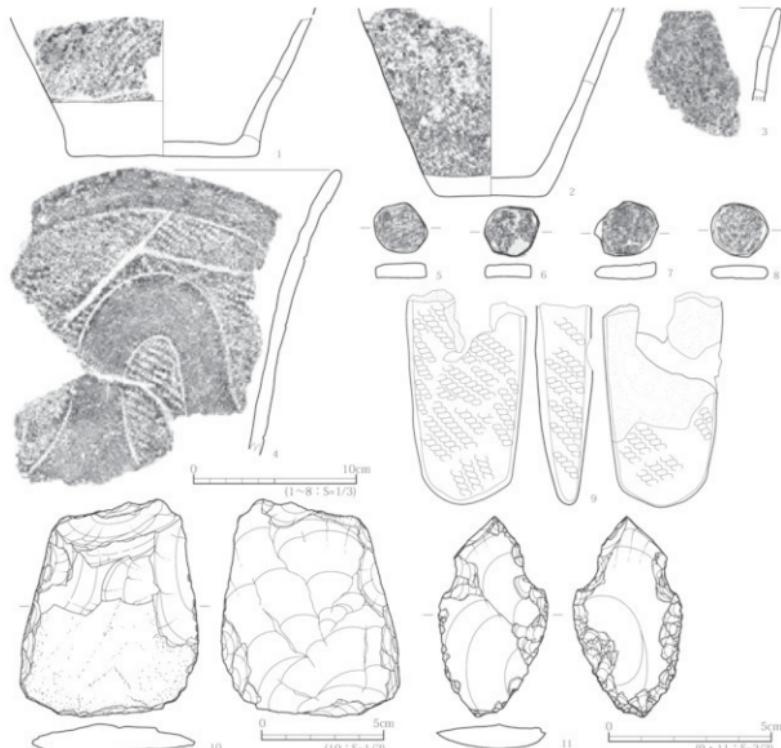
〔堆積土〕堆積土は6層に分けられ、いずれも自然堆積である



遺構	剖	土色	土性	特徴	備考
SI67 土器 埋設物	1	灰黄褐色 (BOYR4/2)	シルト	黄褐色土粒を少量含む。	自然堆積
	2	灰黄褐色 (BOYR4/2)	シルト	10mm程度の炭化物を含む。	人為堆積か
	3	に赤い黄褐色 (BOYR4/3)	シルト	黄褐色土粒を多量に含む。	自然堆積
	4	に赤い黄褐色 (BOYR4/3)	シルト	黄褐色土粒～小ブロックを少量含む。	自然堆積
	5	に赤い橙色 (SYR6/4)	シルト		自然堆積
	6	に赤い黄褐色 (BOYR5/3)	シルト	黄褐色土小ブロックを少量含む。	自然堆積
	7	灰黄褐色 (BOYR4/2)	シルト	黄褐色土小ブロック・炭化物を含む。	自然堆積
	8	灰黄褐色 (BOYR4/2)	シルト	黄褐色土小ブロックを含む。	自然堆積
	9	灰黄褐色 (BOYR4/2)	シルト	黄褐色土ブロックを含まない。	自然堆積
	10	黒褐色 (BOYR3/2)	シルト	炭化物、土粒を多量に含む。	機能時堆積
SI67 D1	11	灰黄褐色 (BOYR5/2)	シルト	礫・粒を含み、土器の一剖が被熱で変色している。	理設7号の掘え方
	12	褐色 (SYR7/8)	シルト	地山ブロックを含む。	人為堆積
	13	灰黄褐色 (BOYR5/2)	シルト	明黄褐色土粒、粉砂を含む。	人為堆積
	14	灰黄褐色 (BOYR5/2)	シルト	明黄褐色土粒、粉砂を含む。	人為堆積
	15	褐色 (SYR7/8)	シルト	地山ブロックを含む。	人為堆積
	1	褐灰色 (BOYR4/1)	シルト		柱抜穴六か
	2	褐灰色 (BOYR5/1)	シルト	黄褐色土 (10YR8/6) 小ブロックを多量含む。	辦方理土
	3	に赤い黄褐色 (BOYR5/3)	シルト		柱抜穴六か
	2	に赤い黄褐色 (BOYR7/3)	シルト		辦方理土
	3	に赤い赤褐色 (SYR6/4)	シルト		柱抜穴六か
	2	に赤い褐色 (SYR6/4)	シルト	褐色土 (5YR7/8) ブロックを含む。	辦方理土
	4	黒褐色 (25Y3/2)	シルト	黄色土粒 (25Y8/6) を少量含む。	柱抜穴六か

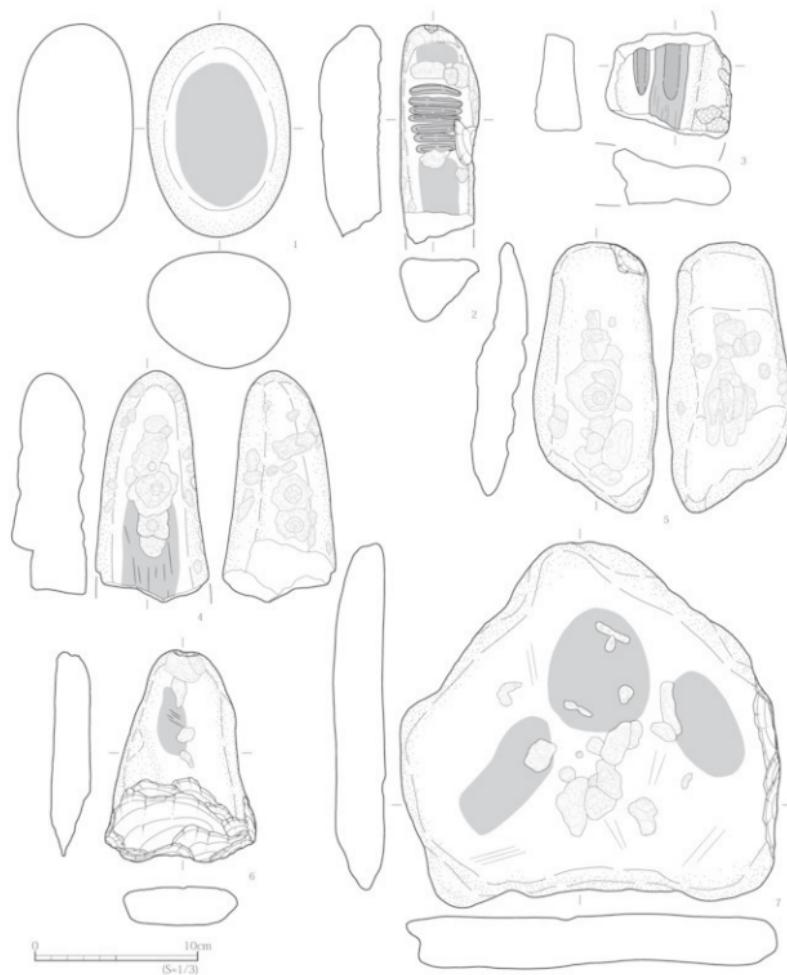
第81図 4区SI67堅穴建物跡

〔出土遺物〕建物に伴う遺物として炉の埋設土器（第82図1）があるほか、堆積土から縄文土器深鉢（第82図2～4）、円盤状土製品（第82図5～8）、斧状土製品（第82図9）、石匙（第82図11）、打製石斧（第82図10）、磨頭敲石類（第83図1・4～6）、砥石（第83図2・3）、石皿（第83図7）が出土している。堆積土1層からまとめて遺物が出土しており、廃絶後の窪みに廃棄されたと考えられる。



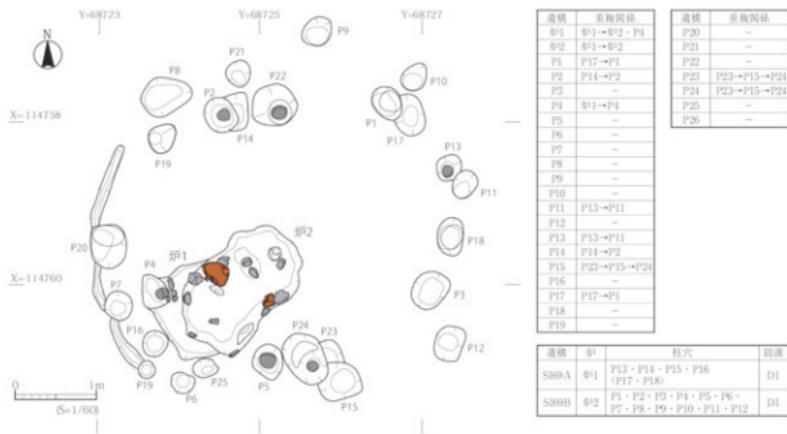
団番号	造形	解	器種	特徴	写真	登録番号					
82-1	S67	炉の埋設土器	深鉢	底径11.7cm。縄文(LR)。底面はナデ	47-1	74					
82-2	S67	堆積土	深鉢	底径7.0cm。縄文(RL)。底面はナデ	47-2	76					
82-3	S67	堆積土	深鉢	底径11.9cm。底文(LR)→浅縄(幅広)	47-3	160					
82-4	S67	堆積土	深鉢	底径11.9cm。底文(LR)→浅縄(幅広)→割り消し	47-4	75					
82-5	S67	堆積土	円盤状土製品	最大径3.1cm。厚2.0mm。体部破片有	47-5	77					
82-6	S67	堆積土	円盤状土製品	最大径3.8cm。厚2.0mm。体部破片有。撫茶文(L)	47-6	78					
82-7	S67	堆積土	円盤状土製品	最大径3.8cm。厚2.0mm。体部破片有。摩滅	47-7	79					
82-8	S67	堆積土	円盤状土製品	最大径3.6cm。厚2.0mm。体部破片有。摩滅	47-8	80					
82-9	S67	堆積土	斧状土製品	長2.6cm。幅2.6cm。厚2.0mm。全体に縄文(LR)施文	47-9	161					
団番号	造形	解	器種	長 S (mm)	幅 (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
82-10	S67	堆積土	打製石斧	89.1	73.2	12.8	97.2	粘板岩	自然面あり	47-11	287
82-11	S67	堆積土	石匙	61.6	33.7	8.0	16.0	頁岩	縫合部一部欠損	47-10	261

第82図 4区S167堅穴建物跡出土遺物(1)



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
83-1	S167	堆積土	磨石	131.1	89.7	24.0	12520	石英斑岩		47-12 328
83-2	S167	堆積土	砾石	134.5	48.9	40.5	3172	凝灰質砂岩		47-16 326
83-3	S167	堆積土	砾石	64.9	77.6	35.6	1543	凝灰質砂岩		47-15 372
83-4	S167	堆積土	磨凹隕石	142.1	69.4	48.5	4657	凝灰質砂岩	磨面→円弧、被熱あり	47-14 325
83-5	S167	堆積土	門石	106.1	76.7	34.5	407.0	凝灰質砂岩	被熱あり	47-13 329
83-6	S167	堆積土	磨最石	130.4	92.8	71.0	3445	安山岩質凝灰岩	磨面→敲打痕	47-17 327
83-7	S167	堆積土	石墨	224.9	233.8	38.5	24870	安山岩質凝灰岩		47-18 324

第83図 4区S167竪穴建物跡出土遺物(2)



第 84 図 4 区 SI69 壁穴建物跡

#### 【SI69 壁穴建物跡】(第 84 図)

4 北の丘陵東斜面に位置する。植林された木の根の搅乱により残存状況が悪く、壁や床面は残存していない。重複関係のあるが跡 2 基、柱穴・ピット 26 個、周溝を検出しており、1 回建て替えられたと考えられる (SI69A → SI69B)。

#### 【SI69A 壁穴建物跡】(第 85 図)

主柱穴、炉跡・周溝の一部を検出している。検出面は地山である。

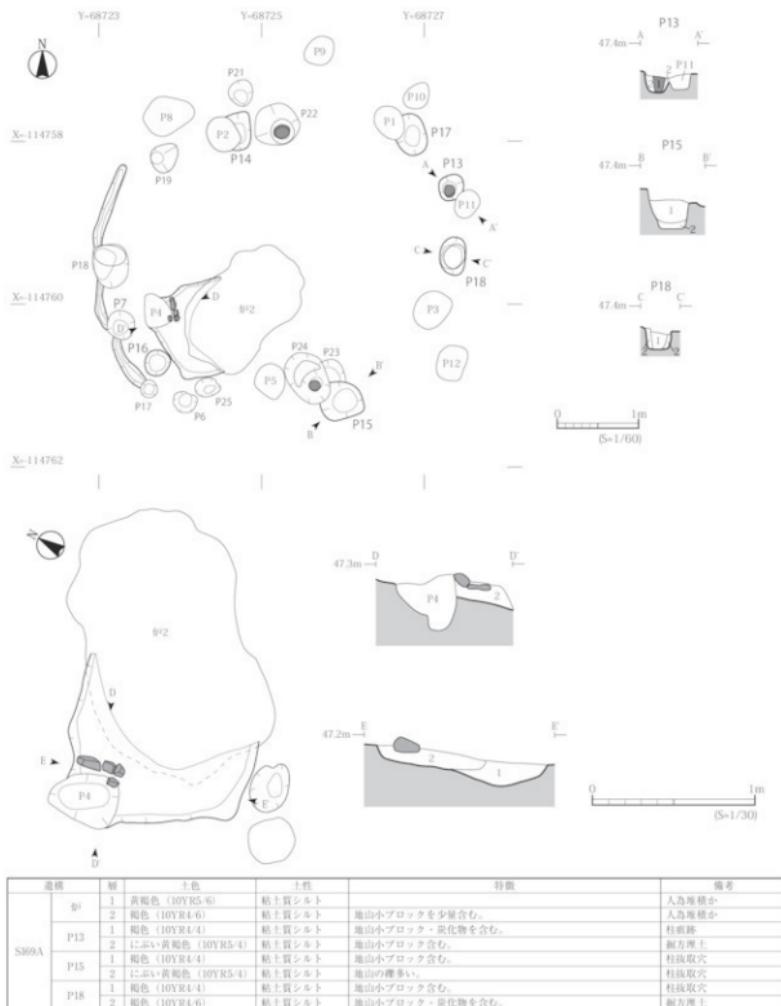
〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると直径 4.9m 程度の円形とみられる。

〔炉〕 南西部で SI69B の炉に切られる遺構を確認し、遺構の形状、規模や位置からが跡と判断した。大部分が SI69B の炉や柱穴によって壊されており、南西部の一部のみ残存している。残存状況が悪いため全体の構造は不明であるが、残存部の形状や規模が建て替え後の SI69B の炉と類似することや堆積土から礫が複数出土していることから、石組を作う複式炉であった可能性が高い。残存部の規模は長軸方向で 1.0m 以上、短軸方向で 1.2m、深さは 27cm である。

〔柱穴〕 検出したピットのうち炉の中軸線上に位置する P13・P16 の 2 個と、炉の中軸線を中心には対称の位置にある P14・P15・P17・P18 の 4 個が SI69A に伴う柱穴と考えられる。このうち P13～P15 を結ぶ線は三角形になることや炉との位置関係から主柱穴の可能性が高いと考えられる。P13～P15 の平面形は楕円形で、掘方の規模は長軸 33～52cm、短軸 32～47cm である。深さは 18～50cm である。P13 で柱痕跡を確認しており、長軸 15cm の楕円形である。また、おおよそ SI62A の外縁に位置する P16～P18 の 3 個は補助的または付加的な柱穴と考えられる。P16～P18 の掘方の規模は長軸 33～52cm、短軸 31～38cm である。深さは 20～39cm である。柱痕跡は確認していない。

〔周溝〕西側の一部で検出した。上幅8~17cm、下幅3~8cm、深さ6~20cmである。断面形はU字形である。堆積土は地山ブロックを少量含む褐色粘土質シルトで、自然堆積とみられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物は出土していない。



第85図 4区 SI69A 積穴建物跡

【SI69B 積穴建物跡】(遺構：第 86 図、遺物：第 87 図)

主柱穴、炉跡、周溝の一部を検出している。SI69A を北東方向に拡張して建て替えており、炉と主柱穴は作り替えている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると直径 5.2m 程度の円形とみられる。

〔壁・床面〕 残存していない。

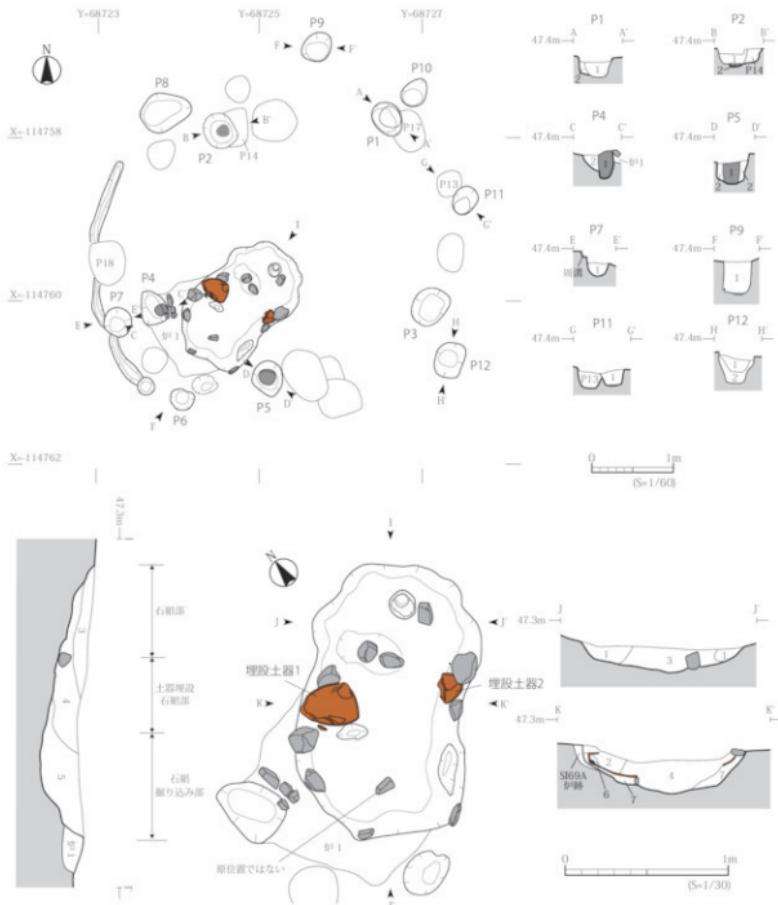
〔炉〕 南西部に位置する。SI69A の炉と重複しており、SI69A の炉の北東側に方向をやや西向きに変えて作り替えている。石組の残存状況は悪いが、石組部、土器埋設石組部、石組掘り込み部からなる複式炉であると判断した。長軸約 1.7m、短軸約 0.7m、長軸方向は N - 44° - E である。

〔石組部〕 石組の残存状況が悪いが、土器埋設石組部との境に長さ 13 ~ 16cm の礫が 2 個、北側中央のピットの右隣に長さ 13cm の礫が 1 個据えられていることから石組部と捉えた。底面中央のピットはおおよそ炉の中軸線上に位置し、平面形は長軸 18cm、短軸 15cm の梢円形である。深さは 20cm である。このピットは埋設土器の抜取り痕跡である可能性がある。

〔土器埋設石組部〕 石組部との境と両側壁に石組があり、石組掘り込み部との境の底面で幅 10cm の凹みが認められることから、本来は全体を区画するように石組が配置されていたと考えられる。復元される平面形は炉の長軸方向に 0.5m、短軸方向に 1.0m の長方形である。深さは約 21cm である。炉短軸方向の断面形は船底形である。炉底面に明確な焼面や被熱痕跡は認められない。埋設土器は両側壁に配置されており、開口部が向かい合うように炉の中軸線におおよそ直交する向きで据えられている。左側壁の埋設土器 1 は直径約 27cm、残存長約 30cm の深鉢形土器である。炉底面の形状に合わせて上部を打ち欠き、打ち欠いた土器片、礫や黄褐色粘土質シルトの据え方埋土で角度を調整し、ほぼ横位に据えている。埋設土器の設置角度は約 83° である。土器内部の底面には機能時堆積とみられる厚さ 2cm 程度の炭化物層や焼土層が残存していた。土器下面の据え方埋土は被熱してやや赤変している状況が認められた。右側壁の埋設土器 2 は残存径約 18cm、残存長約 16cm の深鉢形土器である。埋設土器 1 と同様の黄褐色粘土質シルトの据え方埋土で角度を調整し、ほぼ横位に据えている。土器内部の堆積土は流入土で、機能時の堆積は認められない。

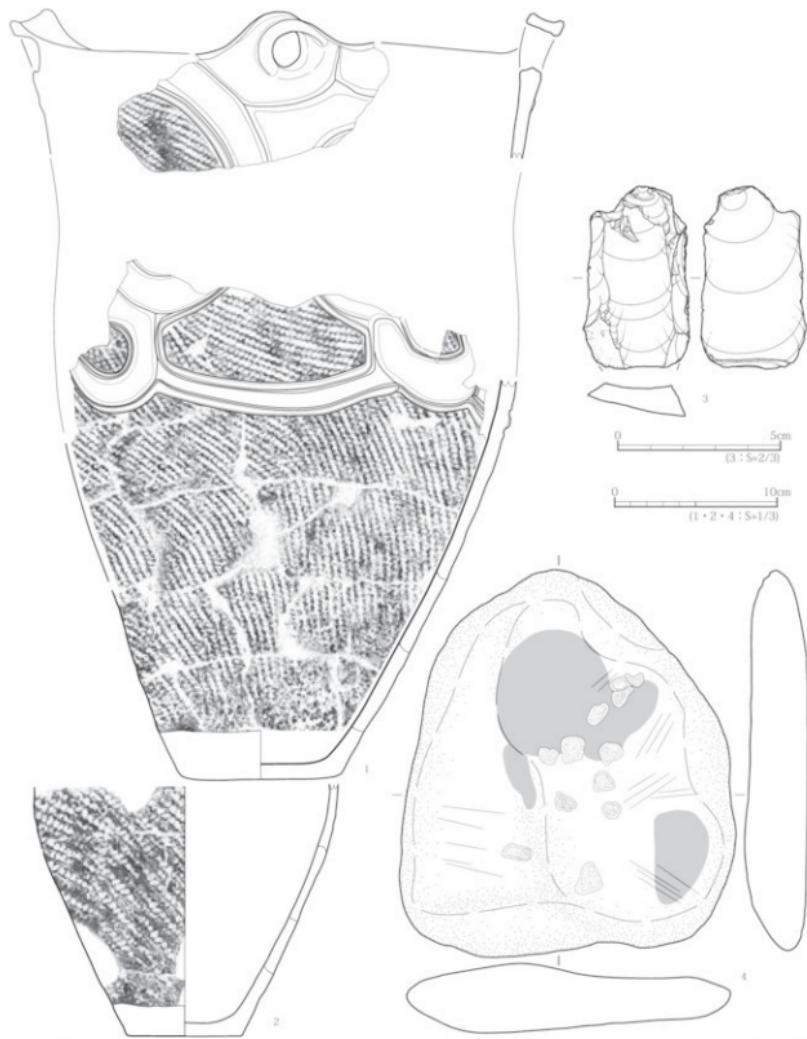
〔石組掘り込み部〕 左側壁に長さ 17 ~ 19cm の礫が 2 個据えられており、右側壁に長さ 14cm の礫と底面に幅 10cm の掘り込みが認められることから、本来は両側壁に石組が配置されていたと考えられる。復元される平面形は炉の長軸方向に 1.1m、短軸方向に 0.7m の梢円形である。深さは 14cm である。炉短軸方向の断面形は船底形である。

〔柱穴〕 検出したピットのうち炉の中軸線上に位置する P1・P6・P10 の 3 個と炉の中軸線を中心にはほぼ対称の位置にある P2・P3・P4・P5・P7・P8・P9・P11・P12 の 9 個は SI69B に伴う柱穴と考えられる。このうち内側に位置する P1 ~ P5 の 5 個が主柱穴と考えられる。平面形はいずれも梢円形で、掘方の規模は長軸 44 ~ 48cm、短軸 34 ~ 41cm である。深さは 16 ~ 37cm である。P2・P4・P5 の 3 個で柱痕跡を確認しており、長軸 16 ~ 29cm の梢円形である。また、外縁に位置する P6 ~ P12 の 7 個は壁柱穴または補助的な柱穴と考えられる。本来は南東部に P7 と対になる柱穴



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
複式柱	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト		自然堆積
	2	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物を少量含む。地山小ブロックを含む。	埋設土器流入土
	3	黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト		自然堆積
	4	黄褐色 (2.5Y5/4)	粘土質シルト		自然堆積
	5	にせい黄褐色 (10YR4/2)	粘土質シルト		自然堆積
	6	暗褐色 (10YR2/3)	粘土質シルト	炭化物が底面から2cm程度堆積。硬土含む。	機能時期
	7	黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト	炭化物含む。上面やや軟質。口縁部側は石を嵌めて固定。	埋設土器側方
P1	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物含む。	柱抜取穴
	2	にせい黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	地山小ブロック含む。	側方埋土
P3・P4・P5	1	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山小ブロック・炭化物を含む。	柱痕跡
P7・P9	1	にせい黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	地山小ブロック含む。	柱抜取穴
P12	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック・細塵を含む。	柱抜取穴
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	地山小ブロック・細塵を含む。	柱抜取穴

第 86 図 4 区 SII69B 積石建物跡と複式柱



図番号	遺物	別	形態	特徴					写真	登録番号	
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材			
87-1	S869B	複式印・堆積上部1	深鉢	推定口径32.6cm、定径10.4cm、32.4、環状突起、模文(LRL)→隣沈縞文・ヒレ状隆縫					49-1	82	
87-2	S869B	複式印・堆積上部2	深鉢	底径7.2cm、模文(LRL・2種類)、底面ナメ					49-2	83	
図番号	遺物	別	形態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	特徴	写真	登録番号
87-3	S869B	複式印・堆積上	調片	56.2	32.7	9.3	191	黒色頁岩	微細剥離面あり	49-3	268
87-4	S869B	複式印・堆積上	石瓶	238.2	207.1	42.1	26330	安山岩質凝灰岩		49-4	330

第87図 4区 S869B 積穴建物跡出土遺物

があるとみられるが、削平されて残存していない。平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸 29 ~ 64cm、短軸 28 ~ 48cm である。深さは 15 ~ 44cm である。柱痕跡は確認していない。

【周溝】西側の一部で検出しており、SI69A と共に通する。上幅 8 ~ 17cm、下幅 3 ~ 8cm、深さ 6 ~ 20cm である。断面形は U 字形である。堆積土は褐色粘土質シルトで、自然堆積とみられる。

【出土遺物】建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器 1・2（第 87 図 1・2）があるほか、複式炉の堆積土から剥片（第 87 図 3）、石皿（第 87 図 4）が出土している。

#### 【SI71 窪穴建物跡】（遺構：第 88 図、遺物：第 89 図）

4 区北の丘陵東斜面際に位置する。炉跡、主柱穴、周溝の一部を検出している。植林された木の根の搅乱により残存状況が悪く、壁や床面は残存していない。

【平面形・規模】残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると直径 4.2m 程度の円形とみられる。

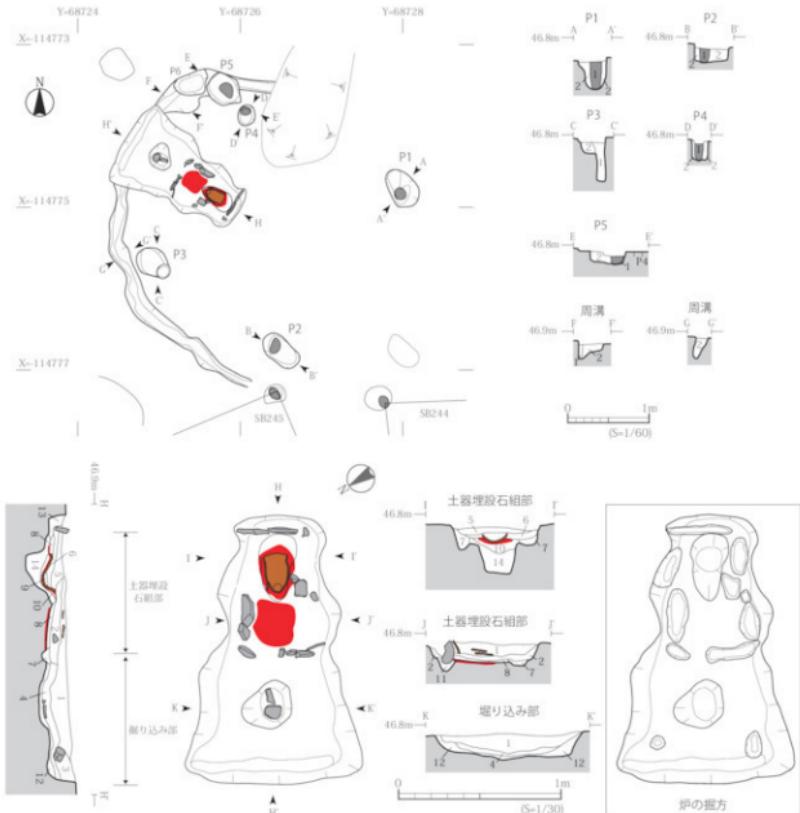
【炉】北西部に位置する。土器埋設石組部、掘り込み部からなる複式炉である。掘り込み部は周溝と接している。炉の平面形は掘り込み部に向かって広がる釣鐘形である。長軸約 1.7m、短軸約 1.1m、長軸方向は N - 58° - W である。

〈土器埋設石組部〉奥壁、掘り込み部との境、両側壁の一部に石組があり、炉底面の周囲に幅 6 ~ 13cm の凹みが認められることから、本来は全体を区画するように石組が配置されていたと考えられる。復元される平面形は炉の長軸方向に 0.8m、短軸方向に 0.7m の隅丸長方形である。深さは奥壁側で約 9cm、手前側で約 12cm である。炉短軸方向の断面形は逆台形である。石組には長さ 7 ~ 22cm の扁平な蝶を使用しており、奥壁では厚さ 4 ~ 6cm の板状の蝶を使用している。埋設土器は中央やや奥側にあり、炉の中軸線上に位置する。埋設土器は下面側が残存しており、残存長約 23cm の深鉢形土器である。埋設土器の据え方は長軸 41cm、短軸 23cm の楕円形で、深さは約 23cm である。黄褐色粘土質シルトの据え方埋土で埋戻し、埋設土器の角度や高さを調整して斜位に据えている。埋設土器の設置角度は正位から約 58° 傾けた状態である。据え方は埋設土器を正位に据えることも可能な深さとなっている。土器内部の底面には機能時堆積とみられる厚さ 2cm 程度の炭化物層が残存していた。土器下面の据え方埋土や土器周囲の炉底面は被熱して赤変している。埋設土器手前の炉底面には焼面があり、その上層には機能時堆積とみられる炭化物を多量に含む暗褐色粘土質シルトが堆積している。焼面は長軸 29cm、短軸 25cm の楕円形である。

〈掘り込み部〉平面形は炉の長軸方向に 0.7m、短軸方向に 1.1m の台形である。深さは最も深い中央部で 18cm である。炉短軸方向の断面形は中央がやや窪む逆台形である。底面付近には地山小ブロックを含む褐色粘土質シルトが堆積しており、掘方埋土とみられる。

【柱穴】検出したピットのうち炉の中軸線を中心にはほぼ対称の位置にある P1 ~ P4 の 4 個が主柱穴と考えられる。平面形は楕円形で、掘方の規模は長軸 27 ~ 51cm、短軸 21 ~ 37cm である。深さは 30 ~ 42cm である。P1 ~ 3 で柱痕跡を確認しており、長軸 13 ~ 20cm の楕円形である。

【周溝】西半で検出している。上幅 11 ~ 22cm、下幅 4 ~ 13cm、深さ 11 ~ 29cm である。断面形は U 字形である。堆積土は褐色～暗褐色粘土質シルトで、人為堆積とみられる。



遺構	縦	土色	土性	特徴	備考
複式炉	1	暗褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	小礫・粗粒を多量含む。炭化物粒含む。	自然堆積
	2	褐色 (75YR4/4)	粘土質シルト	塊土・炭化物・中礫を含む。	自然堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	塊土・炭化物を多量含む。	自然堆積
	4	褐色 (75YR4/6)	粘土質シルト	中礫・粗粒を極少含む。	自然堆積
	5	(10YR4-4)	粘土質シルト	中礫・炭化物粒・塊土含む。	自然堆積
	6	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物・塊土・小ブロック多く含む。1中礫を含む。	自然堆積
	7	褐色 (75YR4-4)	粘土質シルト	炭化物・塊土・小ブロック・細礫を多く含む。	石器の採取穴
	8	暗褐色 (10YR3-3)	粘土質シルト	炭化物多量に含む。塊土・小礫を含む。	機械時刈植
	9	暗褐色 (10YR3-4)	粘土質シルト	「内部灰面」を堆積した炭化物。	機械時刈植
	10	暗赤褐色 (5YR3/6)	粘土質シルト	炭化物・中礫を多量含む。被熱して赤変。	理設上砂積え方
SI71	11	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・中礫を含む。	石器積入土理土
	12	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	塊土小ブロック含む。	かの觸方土理土か
	13	(75YR5-6)	粘土質シルト	中礫・塊土小ブロック含む。	かの觸方土理土か
	14	黃褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト	炭化物・中礫・暗褐色土小ブロック含む。	範方理土
P2・P3 P5・P6	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物・中礫を含む。	柱痕跡
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中礫・塊土小ブロック含む。	範方理土
P4	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物・中礫を含む。	柱抜取穴
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中礫を含む。	範方理土
周溝	1	暗褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物・中礫を含む。	壁材の採取痕跡か
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中礫・塊土小ブロック含む。	周溝理土

第 88 図 4 区 SI71 竪穴建物跡と複式炉

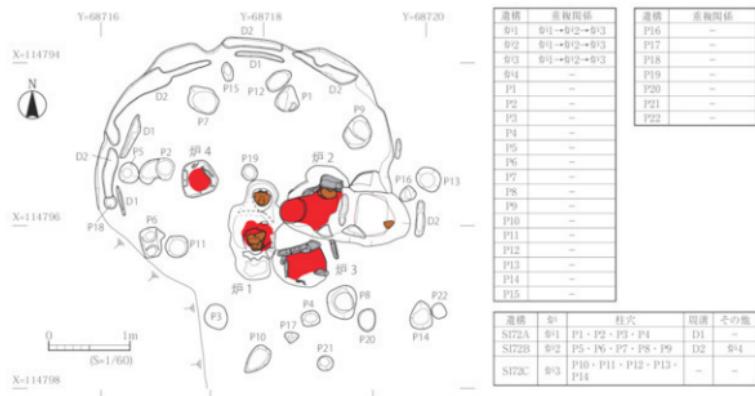


第89図 4区 SI71 壺穴建物跡出土土器

〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器（第89図1）があるほか、複式炉の堆積土から縄文土器深鉢が（第89図2）が出土している。

#### 【SI72 壺穴建物跡】（第90図）

4区北の丘陵西斜面際に位置する。炉跡4基、柱穴・ピット22個、周溝2条を検出しており、2回以上建て替えられたと考えられる（SI72A→SI72B→SI72C）。



第90図 4区 SI72 壺穴建物跡

【SI72A 積穴建物跡】(遺構：第 91 図、遺物：第 92 図)

主柱穴、**炉**跡・周溝の一部を検出している。後世の削平や SI72B・SI72C との重複により残存状況が悪く、壁や床面は残存していない。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると最大径 3.4m 程度の円形とみられる。

〔**炉**〕 中央南寄りに位置する。土器埋設部、土器埋設掘り込み部、掘り込み部からなる複式**炉**である。**炉**の平面形はダルマ形である。長軸約 1.2m、短軸約 0.7m、長軸方向は N - 7° - E である。土器埋設掘り込み部の東側の一部は SI72B の**炉**によって壊されている。

〈土器埋設部〉 平面形は**炉**の長軸方向及び短軸方向が 0.4m の不整円形である。**炉**中軸線上に埋設土器 1 がある。埋設土器 1 は直径 18cm、残存長 14cm の深鉢形土器である。埋設土器の据え方は長軸 28cm、短軸 25cm の楕円形で、深さは 24cm である。灰赤色シルトの据え方埋土で埋設土器の角度や高さを調整し、奥壁側にやや傾くように斜位に据えている。埋設土器の設置角度は正位より約 25° 北に傾く。埋設土器の据え方埋土に焼土が多量に含まれることから、土器を据え直して補修した可能性がある。土器内部に炭化物や焼土などの機能時堆積物は認められない。**炉**壁の一部にわずかに赤変が認められるが、埋設土器や**炉**底に明確な被熱痕跡は認められない。

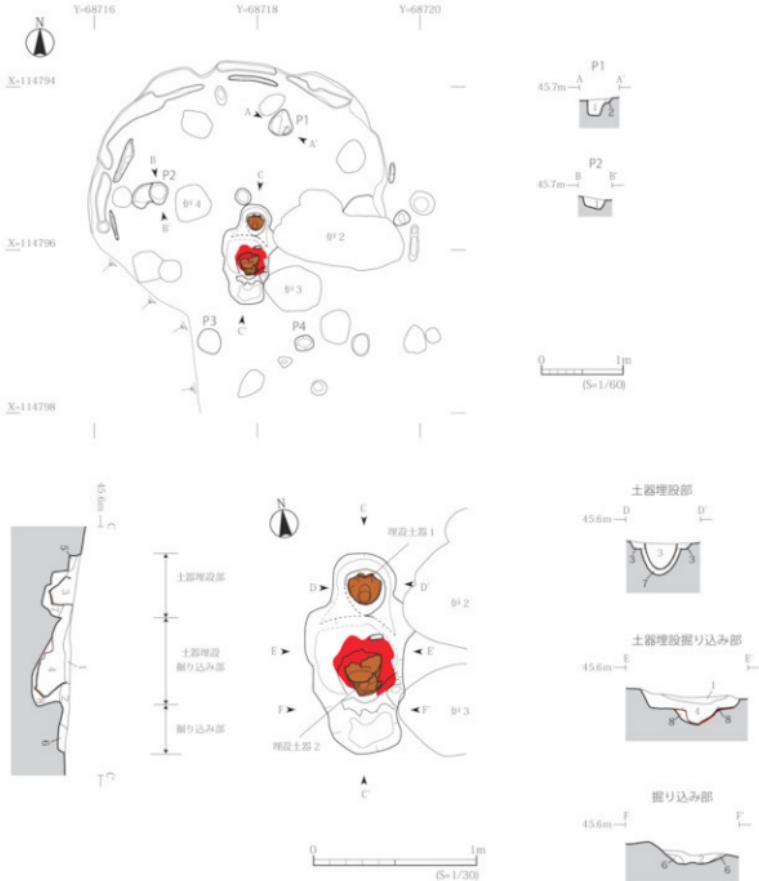
〈土器埋設掘り込み部〉 平面形は**炉**の長軸方向が 0.6m、短軸方向が 0.7m の隅丸方形である。**炉**中軸線上に埋設土器 2 がある。埋設土器 2 は直径 21cm、残存長 16cm の深鉢形土器である。埋設土器の据え方は長軸 32cm、短軸 27cm の楕円形で、深さは 23cm である。南壁がややオーバーハングして垂直に立ち上がり、北壁は底面からゆるやかに立ち上がる。灰赤色シルトの据え方埋土で埋設土器の角度や高さを調整し、奥壁側に傾くように斜位に据えている。埋設土器の設置角度は正位より約 50° 北に傾く。埋設土器の上半部は**炉**底面の形状に合わせて打ち欠き、打ち欠いた土器片の一部は埋設土器の固定に利用されている。土器内部に機能時堆積物は認められない。埋設土器周辺の**炉**底や壁は被熱により赤変している。焼面の範囲は直径 0.4m の不整円形である。焼面の縁辺で幅 6 ~ 8cm の門みを確認しており、石組が配置されていた可能性が考えられる。

〈掘り込み部〉 平面形は**炉**の長軸方向が 0.2m、短軸方向が 0.4m の隅丸方形である。深さは 14cm で、**炉**短軸方向の断面形は皿状である。焼土や炭化物等の堆積は認められない。周溝や壁とは接していないとみられる。

〔柱穴〕 検出したピットのうち、**炉**を囲むような位置関係にある P1・P2・P3・P4 が主柱穴と考えられ、**炉**の東に位置する柱穴は SI72B の**炉**で壊されたとみられる。P3 は残存状況が悪く、底面付近のみを確認している。平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸 22 ~ 37cm、短軸 18 ~ 30cm である。深さは 14 ~ 21cm である。いずれの柱穴でも柱抜き取り穴を確認している。

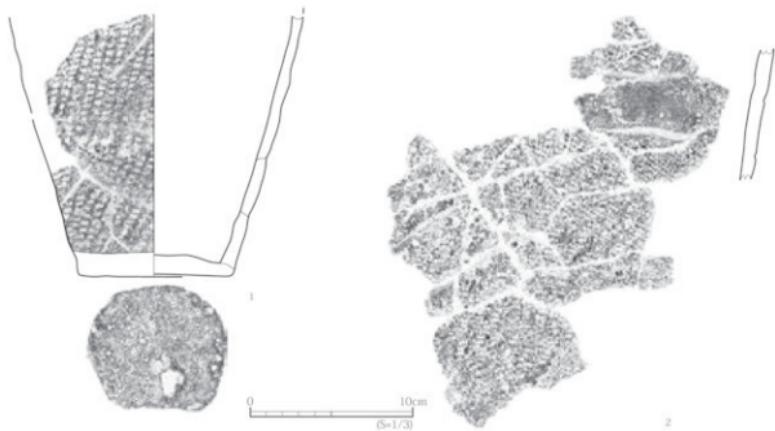
〔周溝〕 北半の一部で検出している。上幅 7 ~ 13cm、下幅 2 ~ 8cm、深さ 2 ~ 4cm である。断面形は皿状である。堆積土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトで、人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕 建物に伴う遺物としては複式**炉**の埋設土器 1・2 (第 92 図 1・2) がある。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
複式炉	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		人為堆積
	2	灰赤色 (25YR4/2)	シルト		人為堆積
	3	灰赤色 (25YR4/2)	シルト		人為堆積
	4	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	10mm程度の黄褐色土及び淡黄色土ブロックを含む。	人為堆積
	5	(不明)灰褐色 (10YR5/3)	シルト	灰褐色土を含む。	人為堆積
	6	灰黃褐色 (10YR6/2)	シルト		人為堆積
	7	灰赤色 (25YR4/2)	シルト	10mm程度の橙色土ブロックを多量に含む。	理設上部剥離方
	8	灰褐色 (25YR4/2)	シルト	灰黃褐色土に赤色の礫土を多量に含む。上面は被熱、赤化する。	理設上部剥離方
P1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	炭化物をわずかに含む。	柱抜取穴
	2	(不明)灰褐色 (10YR7/2)	シルト	10~20mmの黄褐色及び灰白色土ブロックを含む。	柱抜取穴上
P2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト		

第91図 4区 SI72A 積穴建物跡と複式炉



図番号	遺構	層	断面	特徴	写真	登録番号
92.1	SI72A	複式炉・埋設土器1	深鉢	底径9.5cm、礎文（RLH）、底面摩滅	48-4	87
92.2	SI72A	複式炉・埋設土器2	深鉢	礎文（RL）→沈殿、崩落構造	48-3	88

第92図 4区 SI72A 穫穴建物跡出土遺物

#### 【SI72B 穫穴建物跡】(遺構: 第93図、遺物: 第94図)

主柱穴、炉跡、壁・床面・周溝の一部を検出している。SI72A を拡張して建て替えており、炉と主柱穴は作り替えている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると直径4.1m程度の円形とみられる。

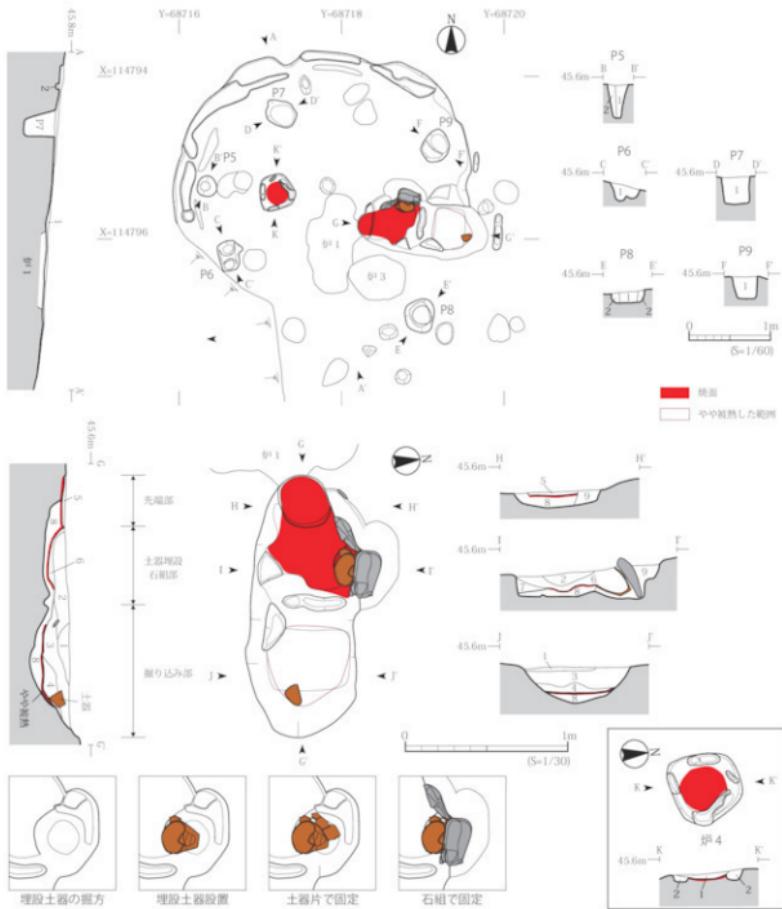
〔壁〕 北側の一部で検出している。地山を壁としており、床面からほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最も残りのよい北壁中央で9cmである。

〔床面〕 北側の一部で検出している。地山を床としている。床面は南に向かって低くなるようにわずかに傾斜している。

〔炉〕 中央東寄りに位置する。SI72A の炉跡の東隣りに位置し、建物中心を基点に炉の方向をおおよそ西に90°傾けて作り替えている。先端部、土器埋設石組部、掘り込み部からなる複式炉である。炉の平面形はダルマ形である。長軸約1.6m、短軸約0.7m、長軸方向はN-84°-Wである。

〔先端部〕 平面形は炉の長軸方向が0.3m、短軸方向が0.5mの不整椭円形である。深さは4cmで、炉短軸方向の断面形は皿状である。炉底面の全面が被熱により赤変している。右側壁には土器埋設石組部から連続して石組が配置されていた可能性がある。

〔土器埋設石組部〕 平面形は炉の長軸方向が0.5m、短軸方向が0.8mの歪んだ隅丸方形である。深さは9~11cm程度で、炉短軸方向の断面形は逆台形である。埋設土器は右側壁にあり、炉の中軸線に直交する向きで据えられている。右側壁に奥行き40cm、炉底面からの深さ4cmの据え方を掘り、明赤灰色シルトの据え方埋土で上半部を打ち欠いた埋設土器の角度を調整し、斜位に据えている。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
周溝	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色土粒を少量含む。	人為堆積か
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	黄褐色土粒を少量含む。	人為堆積か
P5～P9	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト		柱拔取穴
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	洪黄色土を多量に含む。	範囲理工
複式型	1	暗灰黃褐色 (2.5Y5/2)	シルト		人為堆積
	2	にじい黄土 (2.5Y6/4)	シルト	3層よりやや暗い。	人為堆積
	3	にじい黄土 (2.5Y6/3)	シルト	10mm程度の洪黄色土 (2.5Y8/3) ブロックを多量に含む。	人為堆積
	4	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト	洪黄色土粒を少量含む。	人為堆積
	6	にじい黄土 (2.5Y6/3)	シルト	赤色 (10Y4/6) の焼土粒を多量に含む。	機能時堆积
	7	黒褐色 (2.5Y3/1)	シルト	炭化物を多量に含む。	機能時堆积
SI72	8	灰黄色 (2.5Y6/2)	シルト	地山の流入土か。	崩落土か
	9	暗赤褐色 (2.5Y3/2)	シルト	燒土・炭化物を含む。	如の壓効理土か
	9	明赤褐色 (2.5Y5/6)	シルト	赤色 (2.5Y4/1) 土を含む。	上部、石組の掘え方
	10	赤色 (7.5R4/8)	シルト	燒土が土体。	機能時堆积
SI72	1	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	洪黄色土粒を含む。	石組の抜取穴か
	2	灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト		

第 93 図 4 区 SI72B 積穴建物跡と複式型

埋設土器の設置角度は正位から約45°南に傾く。土器の上部や側面には長さ約27~30cmの扁平な礫を配置した石組があり、土器と石組の隙間には土器片や小礫を充填している。土器内部に機能時堆積物は認められない。埋設土器及び周辺の炉底や壁は被熱により赤変している。炉の掘方埋土を除去した改修前の底面では左側壁及び掘り込み部との境で幅7~15cmの凹みが認められることから、改修前には両側壁と掘り込み部2との境に石組が配置されていたと考えられる。

〔掘り込み部〕平面形は炉の長軸方向に0.2m、短軸方向に0.4mの隅丸方形である。深さは14cmで、炉短軸方向の断面形は皿状である。焼土や炭化物等の堆積は認められない。周溝や壁とは接していないとみられる。

〔柱穴〕検出したピットのうち炉の長軸線上に位置するP5と、炉の中軸線を中心にはば対称な位置にあるP6とP7・P8とP9の5個が主柱穴と考えられる。平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸26~42cm、短軸24~37cmである。深さは15~44cmである。いずれの柱穴でも柱抜き取り穴を確認している。

〔周溝〕北半の一部で検出している。上幅7~13cm、下幅2~8cm、深さ2~4cmである。断面形は皿状である。堆積土は地山ブロックを含む灰黄褐色シルトで、人為堆積とみられる。

〔その他の施設〕中央やや西寄りに炉4がある。炉の中央に焼面がある。焼面は直径27cmの不整円形である。焼面の周囲に石材の抜取り痕跡とみられる幅3~6cm程度の凹みが認められることから、石圓炉であったと考えられる。復元される平面形は長軸44cm、短軸43cmの隅丸方形である。複式炉及び柱穴との位置関係や機能面の標高からSI72Bに伴う施設(副炉)であると考えられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては複式炉の埋設土器(第94図1)があるほか、複式炉掘り込み部の堆積土から繩文土器深鉢(第94図2・3)が出土している。



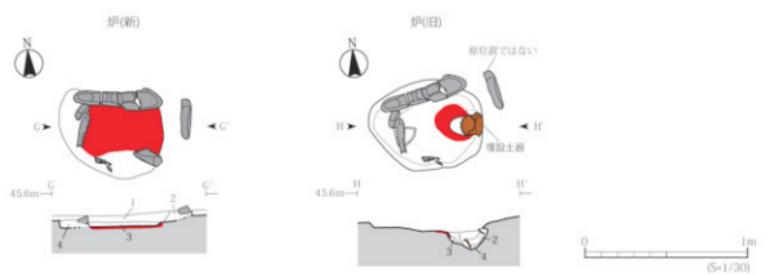
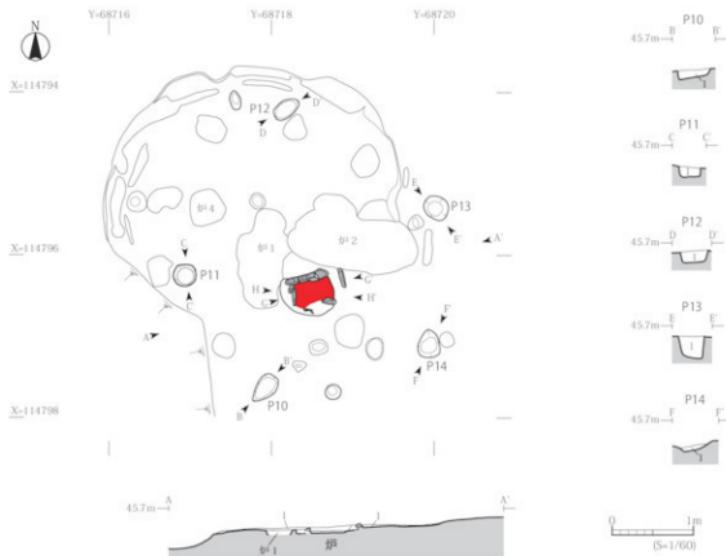
図番号	遺構	層	形種	特徴	写真	登録番号
94-1	SI72B	複式炉・埋設土器	深鉢	底径8.0m、甕文(LRか)、底面磨滅	48-5	91
94-2	SI72B	複式炉・掘り込み部	深鉢	1口径10.2m、底径5.2m、深さ9.9m、平縁、甕文(LR)、底面に木衛根	48-6	89
94-3	SI72B	複式炉・掘り込み部	深鉢	甕文(RL)→北端	48-7	32

第94図 4区 SI72B 窓穴建物跡出土土器

#### 【SI72C 窓穴建物跡】(第95図)

主柱穴、炉、床面の一部を検出している。SI72Bからやや南東に建て替えており、炉と主柱穴は作り替えている。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴から推定すると直径3.8m以上の円形とみられる。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SI72C 炉(薪)	1 黒色 (10YR2/1)	シルト	褐色土(木炭色)を多量に含む。	自然堆積	
	2 黄褐色 (2.5Y5/4)	シルト	木の根による被覆瓦解。	燃焼時堆積	
	3 赤色 (10R4/6)	シルト	黒色土を含む焼土層。	石炭の燃え方	
	4 黄褐色 (10YR4/2)	シルト	褐色土を含む。	人为堆積	
SI72C 炉(田)	1 黑灰褐色 (2.5Y5/2)	シルト	焼土、炭化物削。	被覆土層の燃え方	
	2 黑灰褐色 (5YR2/1)	シルト	炭化物削。	被覆土層の燃え方	
	3 黄褐色 (2.5Y5/2)	シルト	褐色土を含まない。	被覆土層の燃え方	
	4 始灰黄色 (2.5Y5/2)	シルト		被覆土層の燃え方	

第95図 4区 SI72C 竪穴建物跡

〔床面〕地山を床としており、ほぼ平坦である。北側はSI72Bの床面を使用しているとみられる。

〔炉〕中央やや南寄りに位置する。SI72Bの炉跡の南西部に隣接する。焼面・炭化物層の下部で埋設土器が確認されていることから、当初は土器埋設石閉炉として構築し、改修後は石閉炉として利用されたと考えられる。石組の大半がわずかに移動し、原位置を留めていないため正確な平面形・規模は不明であるが、およそ長軸0.7m、短軸0.5mの方形で、長軸方向はN-75°-Eと想定される。西壁には板状の礫を利用し、北壁は長さ約55cm、幅約15cmの磨石を転用している。東壁には棒状の石材が残存していたが手からやや外れており、機能時にはその形状から埋設土器上に設置されていた可能性がある。

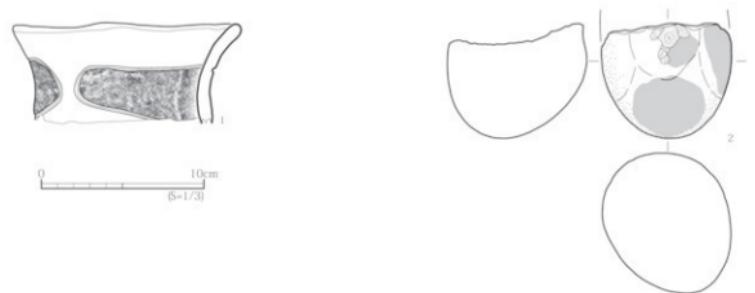
〈炉（旧）〉埋設土器は東壁中央にあり、炉の中軸線に直交する向きで据えられている。東壁を約4cm掘り込んだ長軸25cm、短軸18cmの楕円形の据え方に、下半部を打ち欠いた深鉢形土器を倒立させ、斜位に据えている。据え方の底面の深さは、床面から約20cmである。埋設土器の設置角度は正位より約45°西に傾く。埋設土器内部には機能時堆積とみられる炭化物層が底面から約4cmの厚さで残存していた。炉底の一部にわずかに被熱による赤変が認められる。

〈炉（新）〉炉（旧）土器埋設部の上層に焼面が認められることから、土器埋設部を平坦に埋戻し、新たに炉底面（機能面）を構築したと考えられる。焼面は石組の内側に広がり、長軸0.5m、短軸0.3mの歪んだ方形である。底面の深さは床面から約6cmである。

〔柱穴〕検出したピットのうち炉の周囲を開むような位置関係にあるP10・P11・P12・P13・P14の5個が主柱穴と考えられる。平面形はいずれも楕円形で、掘方の規模は長軸28~40cm、短軸21~27cmである。深さは17~44cmである。いずれの柱穴でも柱抜き取り穴を確認している。

〔堆積土〕北半部に残存しており、人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕建物に伴う遺物としては炉（旧）の埋設土器（第96図1）があるほか、堆積土から磨削敲石類（第96図2）が出土している。



図番号	遺構	層	形種	特徴	写真	登録番号
96-1	SI72C 3F（旧）・埋設土器	深鉢	平鉢・縁文（L）・洗鉢（C字文）		48-8	90
96-2	SI72C 堆積土	鶴卵石	70.8 80.1 91.3 585.1 石英四極岩	焼面→崩打痕、被熱あり	48-9	334

第96図 4区 SI72C 積穴建物跡出土遺物

### 【SI73 堪穴建物跡】(第 97 図)

主柱穴、炉跡、周溝の一部を検出している。後世の削平により残存状況が悪く、壁や床面は残存していない。東側で SK200 土坑と重複しており、SK200 より古い。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、主柱穴や周溝から推定すると直径 5.2m 程度の円形とみられる。

〔炉〕 中央南側に位置する。残存状況が悪く全体の構造は不明確であるが、先端部、石組部、掘り込み部からなる複式炉と考えられる。掘り込み部は周溝と接している。炉の平面形はダルマ形である。長軸約 1.8m、短軸約 1.0m、長軸方向は N - 1° - E である。

〈先端部〉 奥壁、左側壁、石組部との境の炉底面で石を据えたとみられる幅 6 ~ 15cm の凹みが確認できることから、本来は奥壁・左側壁・石組部 2 との境に石組を配置した石組部であったと考えられる。残存状況が悪く右側壁については不明であるが、復元される平面形は炉の長軸方向が 0.4m、短軸方向が 0.5m 以上の隅丸方形である。埋設土器は検出されていないが、北東隅の炭化物・焼土層（第 97 図 10 層）下には長軸 19cm、短軸 13cm の梢円形で、深さ 5cm の凹みが認められることから、土器が埋設されていた可能性がある。

〈石組部〉 先端部との境、右側壁、掘り込み部との境の炉底面で石を据えたとみられる幅 8 ~ 16cm の凹みが確認できることから、本来は奥壁・左側壁・石組部 2 との境に石組を配置した石組部であったと考えられる。ただし、一部の凹み上には硬化面を伴う焼土が堆積しており、石材を抜いた後も燃焼部として利用されていたと想定される。復元される石組部の平面形は炉の長軸方向が 0.6m、短軸方向が 0.8m の隅丸方形である。炉底面は掘り込み部の炉底面と比較して約 10cm 高い。

〈掘り込み部〉 平面形は炉の長軸方向が 0.7m、短軸方向が 1.0m の梢円形である。深さは 15cm で、炉短軸方向の断面形は皿状である。炉底面に焼土や炭化物の堆積は認められない。黄灰色～にぶい黄色シルトで埋め戻されている。

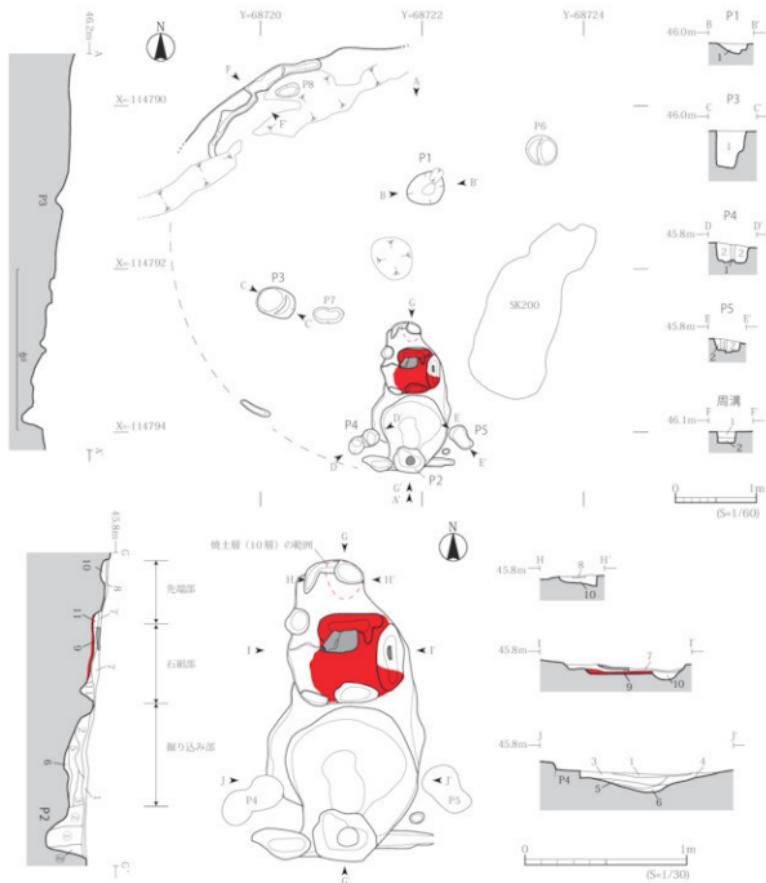
〔柱穴〕 検出したピットのうち炉の中軸線上に位置する P1・P2、炉の西側に位置する P3、炉掘り込み部の両脇に位置する P4・P5 の 5 個が SI73 に伴う柱穴と考えられる。このうち、主柱穴は P1・P2・P3 を含む 4 個と考えられ、炉の東に位置する柱穴は SK200 に壊されたとみられる。P1～P3 の平面形はいずれも梢円形で、掘方の規模は長軸 39 ~ 48cm、短軸 35 ~ 40cm である。深さは 12 ~ 46cm である。いずれの柱穴でも柱抜き取り穴を確認している。また、炉掘り込み部の両脇に位置する P4・P5 は補助的・付加的な柱穴と考えられる。平面形はいずれも梢円形で、掘方の規模は長軸 22 ~ 33cm、短軸 18 ~ 21cm である。深さは 16 ~ 24cm である。いずれの柱穴でも柱抜取穴を確認している。

〔周溝〕 北西部及び炉の周辺で検出している。上幅 7 ~ 17cm、下幅 3 ~ 13cm、深さ 2 ~ 16cm で、断面形は U 字形である。堆積土は灰黄褐色シルトで、人為堆積とみられる。

〔出土遺物〕 建物に伴う遺物は出土していない。

### ②掘立柱建物跡

4 区北の丘陵平坦部～東斜面際で掘立柱建物跡を 3 棟検出している。



遺構	期	上色	上性	特徴	参考
SI73	周溝	1 オリーブ褐色 (2SY4/3)	シルト	黄色土・小ブロックを少量含む。	人為堆積
		2 黄褐色 (2SY5/3)	シルト	黄色土・小ブロックを少量含む。	人為堆積
		3 黄灰色 (2SY4/4)	シルト	明黄褐色土 (2SY7/6) 小ブロックを極少量含む。	人為堆積
		4 黄褐色 (2SY7/8)	シルト	明黄褐色土を極少含む。	自然堆積
		5 に赤い黄色 (2SY6/4)	シルト	明緑灰色土・糞を少量含む。	自然堆積
		6 に赤い黄色 (2SY6/4)	シルト	明緑灰色土・小ブロックを含む。	自然堆積
		7 黄灰色 (2SY4/4)	シルト	明黄褐色土・小ブロックを多量に含む。	自然堆積
		8 納赤灰 (10R3/1)	シルト	10cm程度の明黄褐色土・小ブロックを含む。	自然堆積
		9 納赤灰 (10R4/1)	シルト	鐵・灰化物を含み、塊・片をわずかに含む。	機械堆積
		10 納赤褐色 (5YR2/3)	シルト	灰化物を含み、塊・片やや破壊した様。	機械堆積
柱穴	11 从褐色 (7SY4/2)	シルト	塊上・灰化物をごく少含む。	理設工器の痕え方か	
	12 に赤い黄褐色 (10YR4/2)	シルト	塊等を含まない。	石器の痕え穴か	
	13 灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト	浅褐色色・糞を含む。	柱抜取穴か	
	14 に赤い黄褐色 (10YR5/3)	シルト	灰化物。明黄褐色土粒を含む。	掘方土工	

第 97 図 4 区 SI73 壘穴建物跡と複式炉

### 【SB243 挖立柱建物跡】(第98図)

4区北に位置する東西1間、南北1間、東西に棟持柱（張出し）を持つ東西棟掘立柱建物跡である。他の遺構との重複関係はない。柱穴は側柱4個、棟持柱2個を検出し、4個で柱痕跡、2個で柱抜取穴を確認している。建物規模は桁行が北側柱列で総長約2.1m 梁行が西側柱列で総長2.1mである。棟持柱は西側柱列から0.7m、東側柱列から0.4m外に張り出しており、棟持柱間は3.1mである。建物の方向は、棟持柱でみるとN - 82° - Wである。柱穴掘方はいずれも梢円形で、長軸28～50cm、短軸21～41cmである。深さは24～49cmである。柱痕跡は径12～23cmの円形である。遺物は出土していない。

### 【SB244 挖立柱建物跡】(第98図)

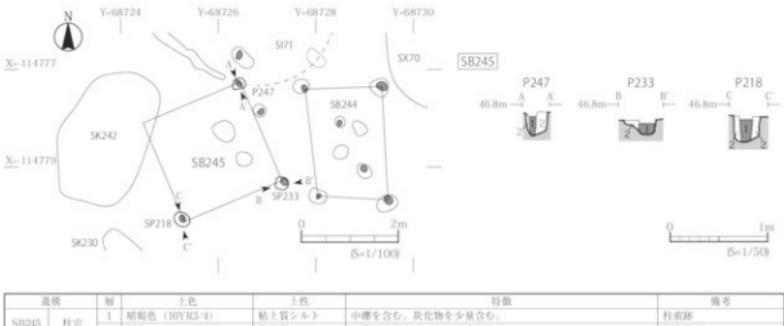
4区北に位置する東西1間、南北1間の掘立柱建物跡である。他の遺構との重複関係はない。柱穴は4個検出し、いずれの柱穴でも柱痕跡を確認している。建物規模は南北2.3m、東西は北側柱列で1.6m、南側柱列で1.4mである。建物の方向は、東側柱列でみるとN - 3° - Wである。柱穴掘方はいずれも梢円形で、長軸34～40cm、短軸30～37cmである。深さは19～34cmである。柱痕跡は径13～24cmの円形である。P224とP225の掘方埋土器小片が出土している。



第98図 4区 SB243・244 挖立柱建物跡

### 【SB245 挖立柱建物跡】(第 99 図)

4 区北に位置する東西 1 間、南北 1 間の掘立柱建物跡である。SK242 土坑と重複しており、SK242 より古い。柱穴は 3 個検出し、北西の柱穴は SK242 に壊されている。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認している。建物規模は南北 2.2m、東西 2.2m である。建物の方向は、東側柱列でみると N - 24° - W である。柱穴掘方はいずれも梢円形で、長軸 29 ~ 35cm、短軸 25 ~ 28cm である。深さは 16 ~ 27 cm である。柱痕跡は直径 16 ~ 18cm の円形である。遺物は出土していない。



第 99 図 4 区 SB245 挖立柱建物跡

### ③竪穴状遺構

4 区北の丘陵平坦部～東斜面際で 2 基検出している。後世の削平により一部しか残存していないが、掘方の形状や柱穴を伴うことから、竪穴建物跡の一部の可能性が考えられる。

#### 【SX70 竪穴状遺構】(遺構 : 第 100 図、遺物 : 第 101 図)

4 区北に位置する。東側は削平されており残存していない。SX87 竪穴状遺構と重複しており、SX87 より新しい。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、検出長は 3.5m、検出幅 1.6m 以上で、円形状とみられる。

〔壁〕 地山を壁としており、底面から直立気味に立ち上がる。壁厚は最も残りのよい南西部で 19cm である。

〔床面〕 地山を床面としており、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕 北側の底面で柱穴 1 個を検出した。平面形は梢円形で、掘方の規模は長軸 47cm、短軸 35cm である。深さは 25cm である。柱痕跡を確認しており、平面形は長軸 17cm、短軸 8cm の梢円形である。

〔堆積土〕 3 層に分けられ、底面直上には焼土・炭化物を含む暗褐色粘土質シルトが堆積しており、機能時堆積とみられる。

〔出土遺物〕 床面から縄文土器深鉢(第 101 図 1)、堆積土から縄文土器深鉢(第 101 図 2)、磨凹敲石類(第 101 図 3)、石皿(第 101 図 4) が出土している。

### 【SX87 壁穴状遺構】(第100図)

4区北に位置する。東側は削平されており残存していない。SX70 壁穴状遺構と重複しており、SX70より新しい。検出面は地山である。

〔平面形・規模〕 残存状況が悪く全体の平面形は不明であるが、検出長は直径0.9m、検出幅0.4m以上である。

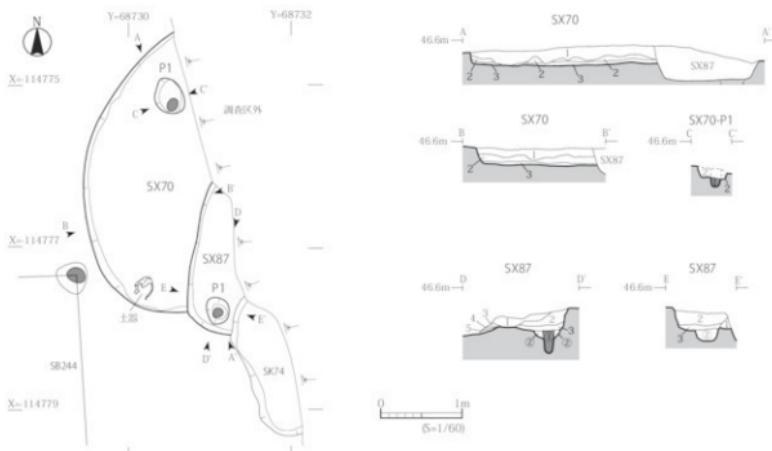
〔壁〕 地山を壁としており、底面からほぼ垂直に立ち上がる。壁厚は最も残りのよい南西部で14cmである。

〔床面〕 地山を床面としており、ほぼ平坦である。

〔柱穴〕 南西隅の底面で柱穴1個を検出した。平面形は楕円形で、掘方の規模は長軸33cm、短軸27cm、深さは27cmである。柱痕跡を確認しており、平面形は長軸14cm、短軸11cmの楕円形である。

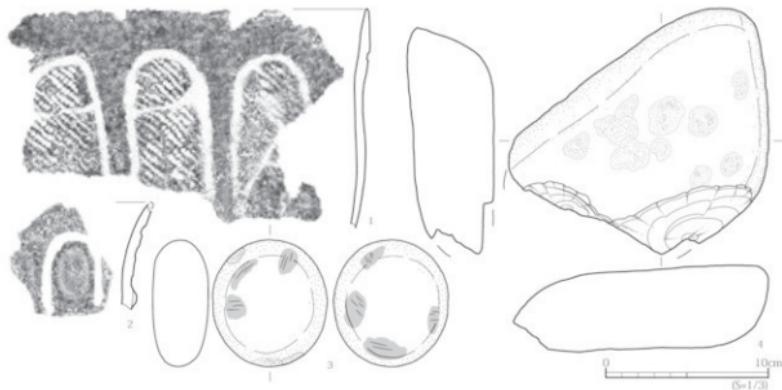
〔堆積土〕 5層に分けられる。北側東端では底面から深さ約8cmの窪みに焼土主体の褐色粘土質シルトが堆積しており、削平された東側にかがった可能性がある。

〔出土遺物〕 堆積土から縄文土器小片が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SX70	1	褐褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	細繊、中埋を含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	中埋を含む。	自然堆積
	3	褐褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	燒土粒、炭化物粒含む。中埋を少量含む。	機能時堆積か 柱痕跡
P1	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒、地山小プロックを含む。	柱痕跡
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	燒土粒、炭化物粒を含む。	輪方理上
SX87	1	褐褐色 (10YR3/2)	粘土質シルト	細繊、中埋を含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	中埋を含む。	自然堆積
	3	褐褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒、燒土粒、中埋を含む。	自然堆積
	4	褐褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	燒土粒、炭化物粒を多量含む。	自然堆積
	5	褐色 (7.5YR4/6)	粘土質シルト	燒土土体、地山小プロックを含む。	機能時堆積か 柱痕跡
	P1	① 褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物粒を含む。	輪方理上
	②	褐褐色 (10YR3/3)	粘土質シルト	炭化物粒、中埋を含む。	

第100図 4区 SX70・SX87 壁穴状遺構



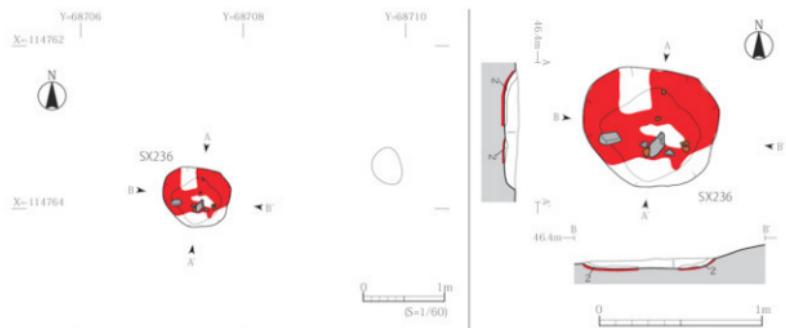
特徴							写真	登録番号
101.1	SX70	束縛	深鉢	平縫、繩文(下部)→波縫(楕円文)			48-10	83
101.2	SX70	堆積土	深鉢	波状口縫、降沈繩文(渦巻文)			48-11	162
101.3	SX70	堆積土	磨石	78.0	70.7	35.0	319.3	花崗岩
101.4	SX70	堆積土	石器	151.1	160.0	51.0	1508.0	凝灰質砂岩
							48-13	331
							48-14	332

第101図 4区 SX70 穴状遺構出土遺物

#### ④焼土遺構

##### 【SX236 焼土遺構】（第102図）

4区北の丘陵平坦部に位置する。長軸0.8m、短軸0.7mの楕円形の掘り込みの底面で焼面を確認した。焼面は長軸0.8m、短軸0.6mのいびつな楕円形である。焼面の上層には機能時堆積とみられる焼土層が堆積している。堆積土から繩文土器小片や扁平な碟が出土している。周辺に柱穴等がみられないことから、単独の地床炉として利用された可能性が高いと考えられる。



遺構	層	土色	土性	特徴	参考
SX236	1	暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)	砂質シルト	石器中腹を少量含む。	自然堆積
SX236	2	赤褐色(2.5YR4/8)	砂質シルト	被熱により赤變している。	機能時堆積

第102図 4区 SX236 焼土遺構

## ⑤土坑

4区北で13基、4区南で27基の土坑を検出している。4区南では長軸1m以上の円形または梢円形で断面形がフラスコ状や逆台形となる土坑を検出している。4区北では長軸2m以上の梢円形の土坑が点在する。ここでは形態や出土遺物に特徴がみられる土坑について記述し、その他は第5表に特徴をまとめた。

### A. 4区南

#### 【SK75 土坑】(構造: 第103図、遺物: 第104図1~6)

4区南の東端に位置する。上端は直径1.4mの円形、下端は長軸1.4m、短軸1.2mの梢円形で西壁と東壁がオーバーハングしており、外側に3~9cm広がる。深さは55cmで、断面形はフラスコ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは長軸35cm、短軸25cmの梢円形で、深さは8cmである。堆積土は4層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第104図1・2)、磨製石斧(第104図3)、磨製敲石類(第104図4・5)、石皿(第104図6)が出土している。

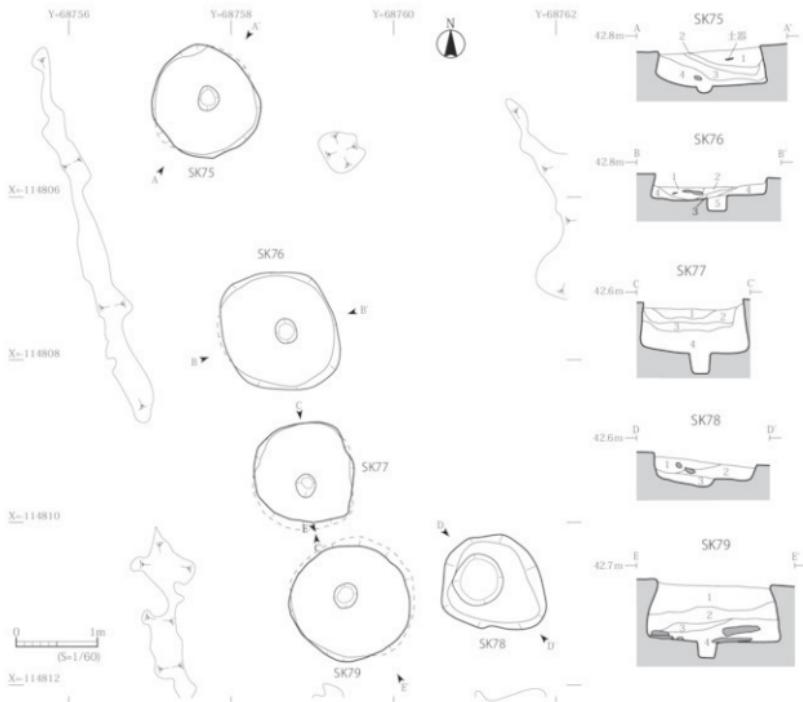
#### 【SK76 土坑】(構造: 第103図、遺物: 第104図7~10・第105図)

4区南の東端に位置する。長軸1.7m、短軸1.5mの梢円形で、西壁の一部がオーバーハングしており、外側に約5cm広がる。深さは47cmで、断面形はフラスコ状である。底面の中央やや東寄りにピ

第5表 4区土坑一覧表

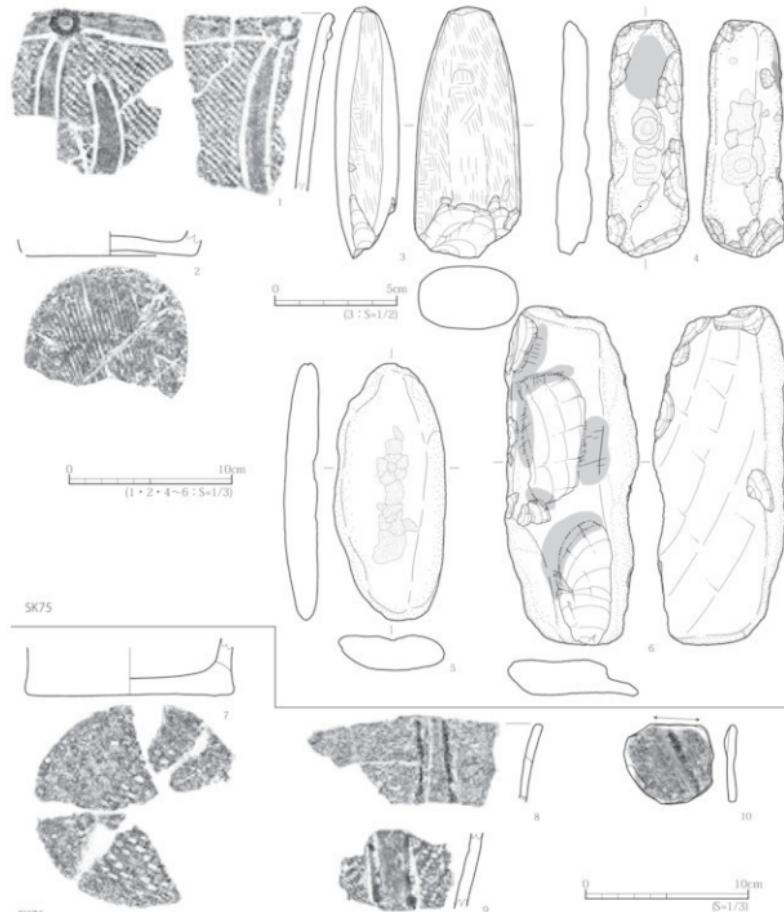
遺構番号	位置	新山房編	規格			平面形	断面形	特記事項	図番号	
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(cm)				遺構番号	遺物図
SK606	4区北	SX65→SK606	1.9	1.8	66	円形	逆台形	縄文土器・石器・貝殻出土。	第125図	第125図
SK608	4区北	-	4.8	2.2	46	不整長梢円形	瓶状	縄文土器小片出土。	第126図	-
SK74	4区北	SX70→SX87→SK74	1.811.1	0.713.1	13	梢円形か	逆台形	底面にピットあり。	第127図	-
SK75	4区南	-	1.4	-	55	円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第103図	第104図8
SK76	4区南	-	1.7	1.5	47	梢円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第103図	第104・105図
SK77	4区南	-	1.4	1.3	66	不整円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第103図	第107図
SK78	4区南	-	1.4	1.2	32	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第103図	第108図
SK79	4区南	-	1.5	1.4	76	不整円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第103図	第108図
SK80	4区南	-	1.2	1.0	19	梢円形	瓶状	-	第106図	-
SK81	4区南	-	0.9	0.8	12	梢円形	瓶状	-	第106図	-
SK82	4区南	-	1.7	1.5	35	不整円形	逆台形	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第109図	-
SK83	4区南	-	1.3	1.1	74	梢円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第109図	第109図
SK84	4区南	-	1.1	0.8	15	梢円形	瓶状	-	第109図	-
SK85	4区南	-	3.9	3.1	34	不整円形	瓶状	縄文土器・石器出土。	第118図	第118~119図
SK86	4区南	-	5.2	3.5	31	長梢円形	瓶状	縄文土器・石器出土。	第121図	第120図
SK88	4区南	-	1.2	1.0	109	梢円形	逆台形	底面にピットあり。	第110図	第111図
SK89	4区南	-	1.1	0.8	59	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第110図	第111図
SK90	4区南	SK90→SK91	1.3	1.1	126	梢円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第110図	第112図
SK91	4区南	SK90→SK91	1.1	-	36	円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第113図	第113図
SK92	4区南	-	1.1	0.9	52	不整円形	瓶状	縄文土器・石器出土。	第112図	第113図
SK93	4区南	-	1.5	1.1	36	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第109図	-
SK94	4区南	-	1.1	0.8	46	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第109図	-
SK95	4区南	-	2.9	2.1	36	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第114図	第115図
SK96	4区南	-	1.1	0.7	17	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第103図	-
SK97	4区南	-	0.9	0.7	21	梢円形	瓶状	-	第103図	-
SK98	4区南	-	2.3	2.1	79	不整円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第114図	第115~116図
SK99	4区南	-	1.8	1.4	100	梢円形	フラスコ状	縄文土器・石器出土。底面にピットあり。	第114図	第117図
SK200	4区北	-	2.1	1.0	44	長梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第128図	第128図
SK202	4区北	SK202→SK204・205	2.4	1.9	96	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第122図	第122図
SK203	4区北	SK203→P205	1.7	1.6	91	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第122図	第123図
SK204	4区北	SK202→SK204	1.0	0.8	39	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第122図	-
SK206	4区北	-	0.6	0.4	35	梢円形	逆台形	石器出土。	第122図	第124図
SK207	4区北	SK202→SK207	1.0	0.8	26	梢円形	逆台形	-	第122図	-
SK209	4区北	-	1.2	0.7	34	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第99図	-
SK210	4区北	-	1.1	0.8	44	梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第129図	第129図
SK211	4区北	-	3.3	1.5	44	不整長梢円形	逆台形	石器出土。	第129図	第129図
SK212	4区北	-	3.6	1.7	46	不整長梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第130図	第130図
SK213	4区北	-	0.6	0.4	24	梢円形	逆台形	-	第99図	-
SK214	4区北	-	0.6	0.5	30	梢円形	瓶状	縄文土器出土。	第131図	第131図
SK216	4区北	-	0.6	0.4	22	梢円形	瓶状	縄文土器出土。	第99図	-
SK220	4区北	-	0.9	0.6	16	梢円形	逆台形	縄文土器出土。	第99図	-
SK242	4区北	SB245→SK242	2.9	1.9	53	長梢円形	逆台形	縄文土器・石器出土。	第132図	第133~134図

ットが認められる。ピットは長軸 31cm、短軸 26cm の橢円形で、深さは 19cm である。堆積土は 5 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から繩文土器深鉢（第 104 図 7～9）、円盤状土製品（第 104 図 10）、磨凹敲石類（第 105 図 1）、石皿（第 105 図 2～5）が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK75	1	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	3	褐褐色 (10YR3/4)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
SK76	1	(10YR4/5-3) 黄褐色 (10YR5-3)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	2	(10YR4/5-3) 黄褐色 (7.5YR5-3)	砂質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	3	黒褐色 (7.5YR3-1)	シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	4	(10YR4/5-3) 黄褐色 (7.5YR5-3)	シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	5	(10YR4/5-3) 黄褐色 (10YR5-3)	シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
SK77	1	(10YR4/5-3) 黄褐色 (2.5YR5-3)	粘土質シルト	地山小アロッカを含む。	自然堆積
	2	(10YR4/5-3) 黄褐色 (3YR5-4)	粘土質シルト	地山小アロッカを含む。	自然堆積
	3	褐灰色 (3YR5-1)	粘土質シルト	地山小アロッカを少量含む。	自然堆積
	4	褐灰色 (2.5YR5-2)	粘土質シルト	地山アロッカを少量含む。	自然堆積
SK78	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物微片・石駆粒を少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物微片を少量含む。石駆粒を多量含む。	自然堆積
	3	(10YR4/5-3) 黄褐色 (10YR5-4)	粘土質シルト	石駆粒を多量含む。	自然堆積
SK79	1	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物微片を多量含む。φ2～3mmの炭化物を少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	φ2～3mmの炭化物を少量含む。	自然堆積
	3	褐褐色 (10YR5-6)	粘土質シルト	炭化物微片を多量含む。φ2～3mmの炭化物を極少量含む。	自然堆積
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	φ2～5mmの炭化物。石駆粒を多量含む。板石が多く出土。	人為堆積

第 103 図 4 区 SK75～79 土坑

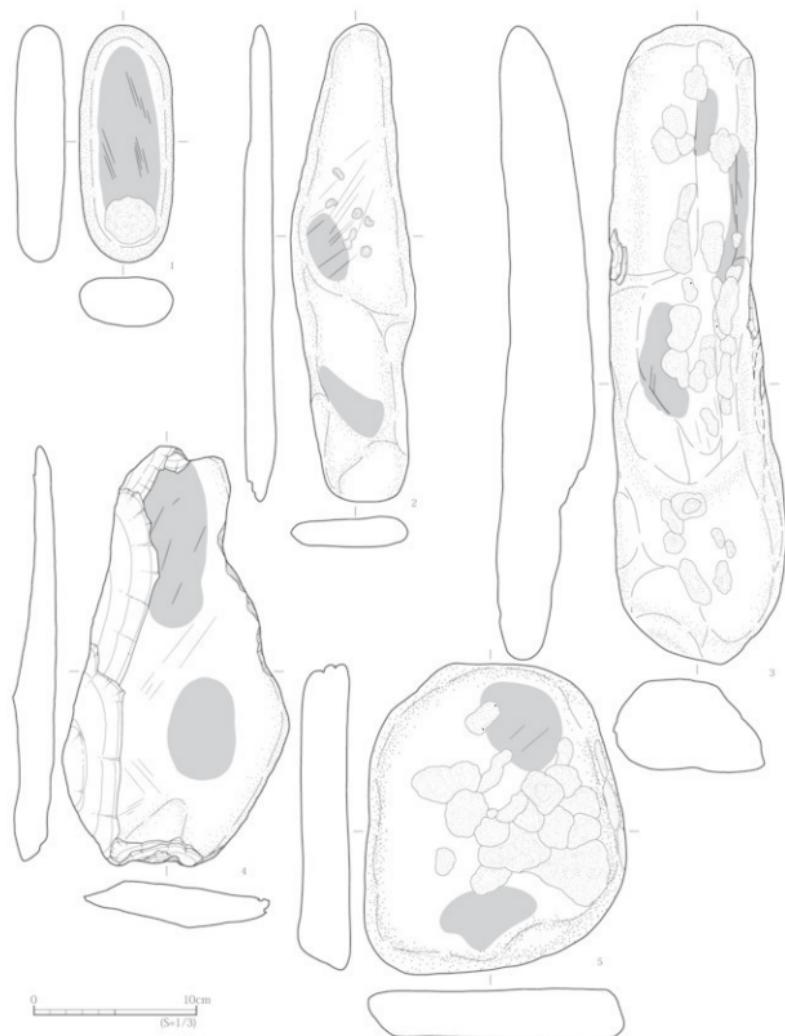


図番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号
104-1	SK75	4層	漆跡	平縞、綱文 (LR) → 沈縞 → 費り消し、ボタン状貼付文	50-1	97-98
104-2	SK75	1層	漆跡	底径10.6cm、底面に副代表文 (象物か)	50-2	99
104-7	SK76	堆積土下部	漆跡	底径12.3cm、底面に副代表文 (1本鏡1本漆1本道)	51-1	100
104-8	SK76	堆積土下部	漆跡	平縞、陰縞 (方形区両文か)	51-2	164
104-9	SK76	堆積土下部	漆跡	綱文 (RL) → 費り消し (沈縞状)	51-3	101
104-10	SK76	堆積土下部	円盤状土製品	最大径5.3cm、厚3.08cm、体部破片利用、打ち欠き後削研磨、陰縞文	51-4	165

図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
104-3	SK75	堆積土	砂質石斧	102.8	43.7	25.7	1730	四輪石	刃部欠損	50-3	339
104-4	SK75	4層	砂質石斧	145.6	51.2	21.0	1598	安山岩質繊風岩		50-4	289
104-5	SK75	堆積土	門巖石	158.2	69.1	21.3	2061	繊灰岩		50-5	340
104-6	SK75	堆積土	石器	208.6	82.3	24.7	5861	安山岩質繊風岩		50-6	341

第 104 図 4 区 SK75・66 土坑出土遺物



国番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号	登録 番号
105-1	SK76	堆積上部	磨歯石	145.7	58.0	30.9	487.2	石英斑岩	磨面→敲打痕	515	341
105-2	SK76	堆積下部	石頭	293.8	76.8	19.3	619.0	消極凝灰岩		518	346
105-3	SK76	堆積上部	石頭	393.0	106.0	58.5	2704.0	麻灰岩		519	342
105-4	SK76	堆積下部	石頭	258.3	139.7	26.7	852.0	麻灰岩		517	343
105-5	SK76	堆積下部	石頭	191.4	161.4	38.5	1347.5	麻灰質砂岩		516	345

第 105 図 4 区 SK76 土坑出土石器

**【SK77 土坑】(遺構: 第 103 図、遺物: 第 107 図)**

4 区南の東端に位置する。上端は長軸 1.4m、短軸 1.3m の不整円形、下端は長軸 1.3、短軸 1.2m の楕円形で、西壁・南壁と東壁の一部がオーバーハングしており、外側に 4 ~ 12cm 広がる。底面の深さは 66cm で、断面形は フラスコ状である。底面の中央やや南寄りにピットが認められる。ピットは長軸 29cm、短軸 25cm の楕円形で、深さは 26cm である。堆積土は 4 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第 107 図 1)、石皿(第 107 図 2 ~ 4) が出土している。

**【SK78 土坑】(遺構: 第 103 図、遺物: 第 108 図 1 ~ 3)**

4 区南の東端に位置する。長軸 1.4m、短軸 1.2m の楕円形で、底面の深さは 32cm である。断面形は逆台形である。底面の中央西寄りにピットが認められる。ピットは長軸 63cm、短軸 57cm の楕円形で、深さは 20cm である。堆積土は 3 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第 108 図 1)、石皿(第 108 図 2)、磨凹敲石類(第 108 図 3) が出土している。

**【SK79 土坑】(遺構: 第 103 図、遺物: 第 108 図 4 ~ 6)**

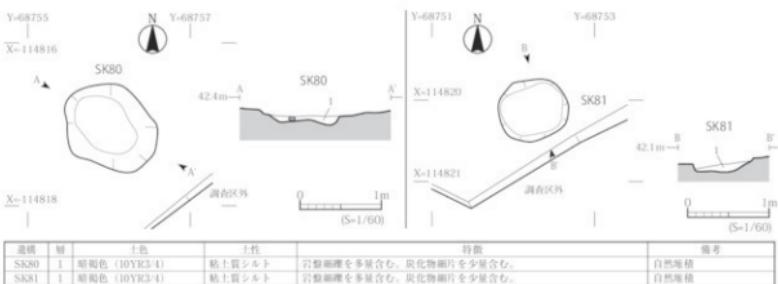
4 区南の東端に位置する。上端は長軸 1.5m、短軸 1.4m の不整円形、下端は直径 1.5m の円形で、北壁・東壁と南壁の一部がオーバーハングしており、外側に 4 ~ 12cm 広がる。底面の深さは 76cm で、断面形は フラスコ状である。底面の中央西寄りにピットが認められる。ピットは長軸 32cm、短軸 27cm の楕円形で、深さは 20cm である。堆積土は 4 層に分けられ、1 ~ 3 層は自然堆積、4 層は人為堆積である。底面から底面直上で砾石器や砾石器の素材とみられる板状の礫が出土しており、廃絶時または焼絶直後に廃棄されたと考えられる。堆積土から縄文土器深鉢(第 108 図 4)、板状石器(第 108 図 5)、石皿(第 108 図 6) が出土している。

**【SK80 土坑】(第 106 図)**

4 区南の南東端に位置する。上部が削平を受けており、残存状況が悪い。長軸 1.2m、短軸 1.0m の楕円形で、深さは 19cm である。断面形は皿状である。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

**【SK81 土坑】(第 106 図)**

4 区南の南東端に位置する。上部が削平を受けており、残存状況が悪い。長軸 0.9m、短軸 0.8m の楕円形で、深さは 12cm である。断面形は皿状である。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

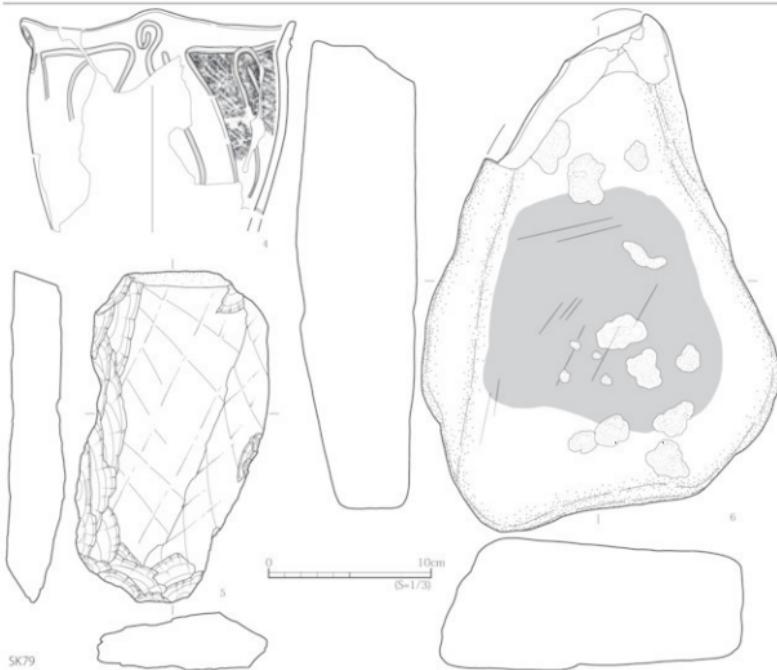
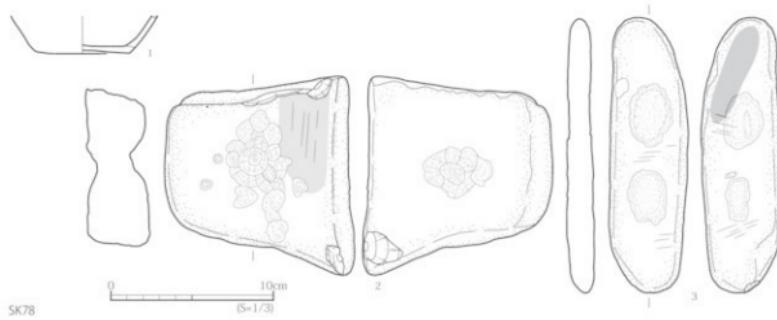


第 106 図 4 区 SK80・81 土坑



图号	遗物	层	器种	特征					号	登记号
107.1	石器	堆积土下部	深孔器	底径9.4cm, 器面磨光					50-7	102
107.2	石器	石器	石器	长3 (mm)	幅3 (mm)	厚3 (mm)	重3 (g)	石材	特征	号
107.3	石器	石器	石器	484.8	246.9	196.0	19450.0	麻灰质砂岩		50-9
107.4	石器	石器	石器	496.6	251.6	12.5	16850.0	麻灰质砂岩		50-10
				121.5	158.0	62.0	9960.0	麻灰质砂岩		50-8

第 107 图 4 区 SK77 土坑出土遗物



図番号	遺物	層	器種	特徴						写真	登録番号
				長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材			
108-1	SK78	堆积土	深鉢	底径5.5cm。内面に黒色付着物あり						49-5	103
108-4	SK79	堆积土	深鉢	底径11.5cm	17.2	底状J3層(4単位)、燃木文(L)→沈縄(渇谷文)、削消縄文				51-10	104
108-2	SK78	堆积土	石盤	122.2	116.9	41.0	582.0	凝灰質砂岩		49-6	368
108-3	SK78	堆积土	磨凹円石	169.0	47.8	17.0	179.5	凝灰岩	円頭→磨面	49-7	349
108-5	SK79	4層	板状石器	203.8	119.3	37.5	1113.0	粘板岩	自然面あり	51-11	291
108-6	SK79	堆积土	石盤	318.2	230.1	87.5	6780.0	凝灰質砂岩	被れあり	51-12	292

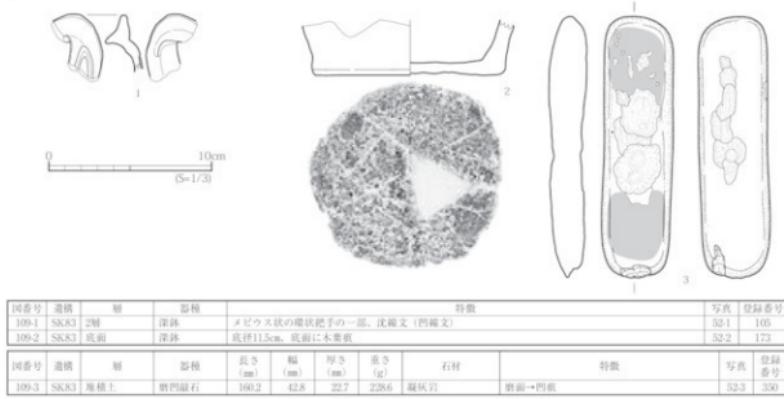
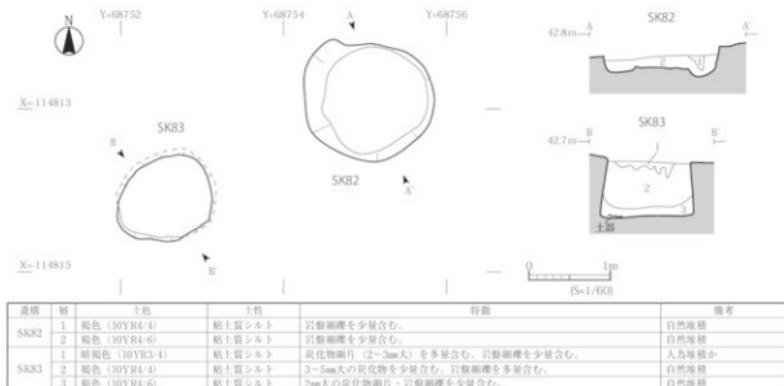
第 108 図 4 区 SK78・79 土坑出土遺物

### 【SK82 土坑】(第109図)

4区南の南東端に位置する。長軸1.7m、短軸1.5mの不整円形で、深さは35cmである。断面形は逆台形である。堆積土は2層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器小片が出土している。

### 【SK83 土坑】(第109図)

4区南の南東端に位置する。上端は長軸1.3m、短軸1.1mの楕円形、下端は直径1.2mの不整円形で、北壁、東壁、西壁がオーバーハンギングしており、外側に3~9cm広がる。深さは74cmで、断面形はフラスコ状である。堆積土は3層に分けられ、1層は人為堆積、2・3層は自然堆積とみられる。底面から縄文土器深鉢(第109図2)、堆積土から縄文土器深鉢(第109図1)、磨凹敲石類(第109図3)が出土している。



第109図 4区 SK82・83土坑と出土遺物

**【SK88 土坑】(遺構: 第 110 図、遺物: 第 111 図 1 ~ 3)**

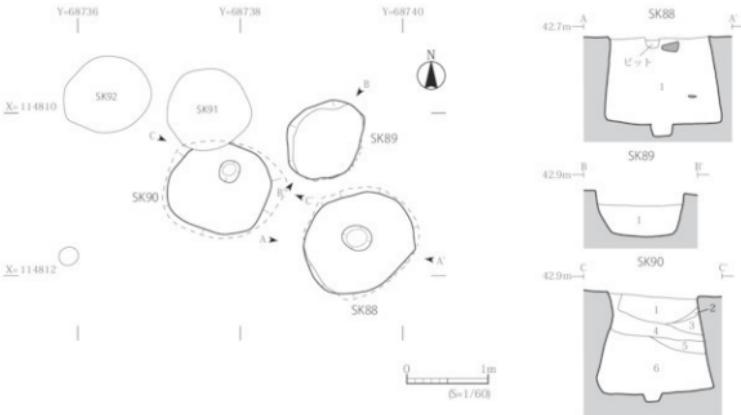
4 区南の中央に位置する。上端は長軸 1.2m、短軸 1.0m の楕円形、下端は直軸 1.4m、短軸 1.3m の楕円形で、北壁・東壁・西壁がオーバーハンプしておらず、外側に 2 ~ 9cm 広がる。底面の深さは 109cm で、断面形はフラスコ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは長軸 34cm、短軸 28cm の楕円形で、深さは 15cm である。堆積土は自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢 (第 111 図 1)、磨凹敲石類 (第 111 図 2・3) が出土している。

**【SK89 土坑】(遺構: 第 110 図、遺物: 第 111 図 4 ~ 6)**

4 区南の中央に位置する。長軸 1.1m、短軸 0.8m の楕円形で、深さは 59cm である。断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。堆積土から磨凹敲石類 (第 111 図 4・5)、石皿 (第 111 図 6)、縄文土器小片が出土している。

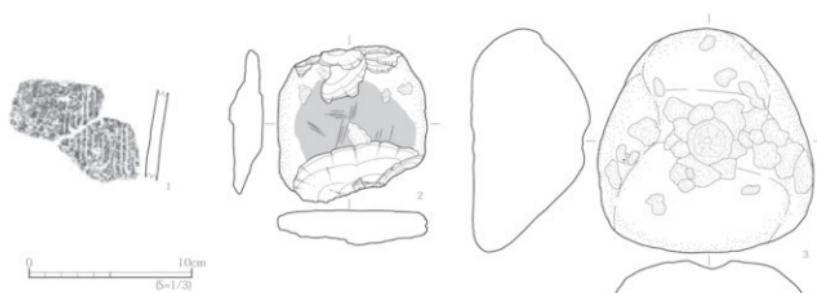
**【SK90 土坑】(遺構: 第 110 図、遺物: 第 112 図)**

4 区南の中央に位置する。SK91 土坑と重複しており、SK91 より古い。上端は長軸 1.3m、短軸 1.1m の楕円形、下端は直軸 1.5m、短軸 1.2m の楕円形で、壁がオーバーハンプしており、外側に 4 ~ 20cm 広がる。底面の深さは 126cm で、断面形はフラスコ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは長軸 27cm、短軸 24cm の楕円形で、深さは 10cm である。堆積土は 6 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から小型の縄文土器深鉢 (第 112 図 1)、磨凹敲石類 (第 112 図 2・3)、石皿 (第 112 図 4・5) が出土している。

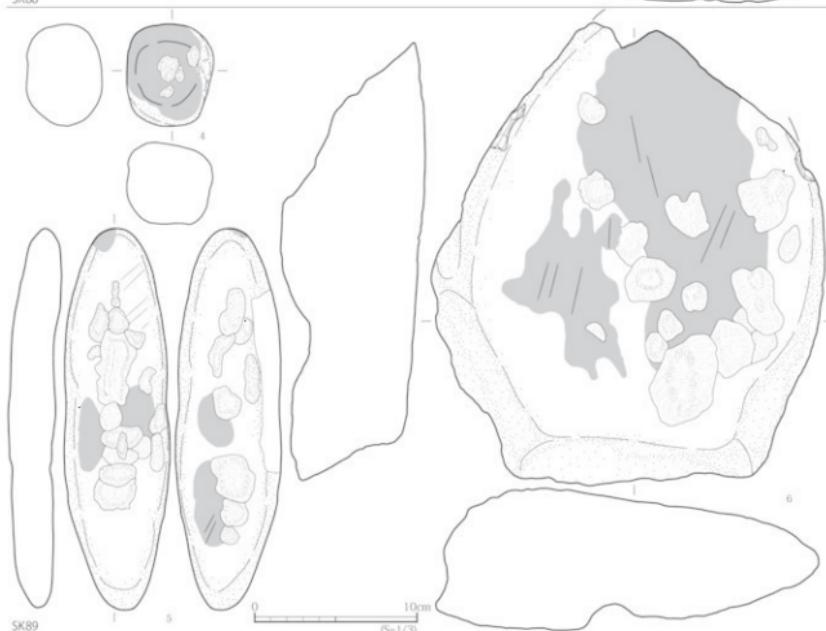


遺構	層	土色	土性	特徴	参考
SK88	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。泥炭ブロック・岩盤中塊を多量含む。	自然堆積
SK89	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを多量含む。	自然堆積
SK90	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを多量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。	自然堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを含む。	自然堆積
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを多量含む。	自然堆積
	5	灰・黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを多量含む。	自然堆積
	6	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	炭化物繊片を少量含む。岩盤風化上のブロックを多量含む。	自然堆積

第 110 図 4 区 SK88 ~ 90 土坑



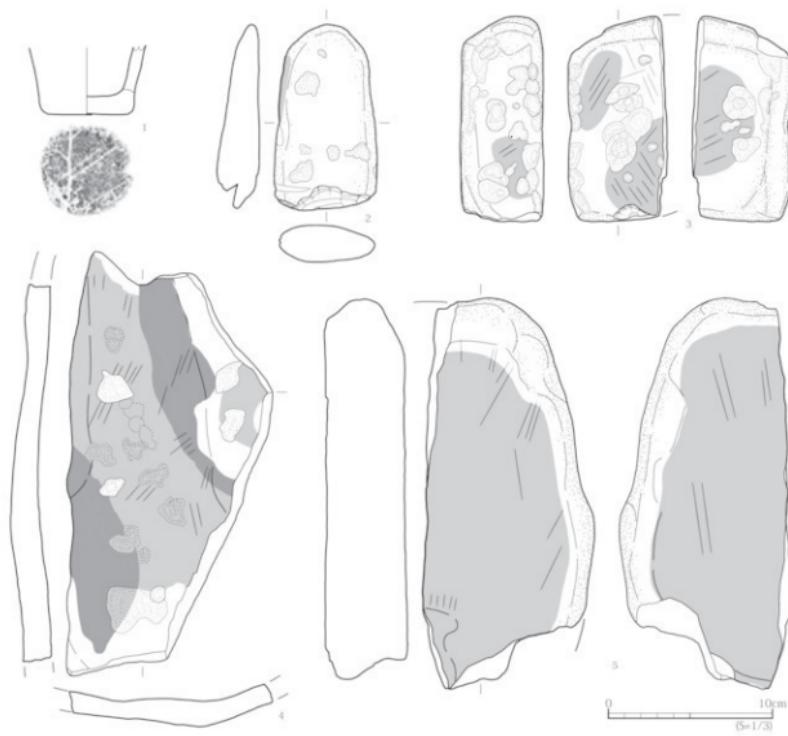
SK88



SK89

図番号	遺構	層	器種	特徴					写真 登録番号	
				111-1	SK88 堆積土	深鉢	条幅文			
111-2	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	特徴	写真 登録番号
111-3	SK88	堆積土	磨歯石	96.3	92.1	20.5	202.1	凝灰岩	磨削→敲打痕	52.5 352
111-4	SK88	堆積土	門歯石	137.9	131.0	74.0	1441.0	凝灰質砂岩	敲打痕→門歯	52.6 351
111-5	SK89	堆積土	磨歯石	62.9	53.5	50.5	267.3	石英斑岩	磨削→敲打痕	52.8 354
111-6	SK89	堆積土	磨歯石	234.6	65.1	30.4	529.0	安山岩質凝灰岩	磨削→敲打痕・門歯	52.9 353
			石器	284.6	242.2	89.0	7230.0	凝灰質砂岩		52.10 355

第 111 図 4 区 SK88・89 土坑出土遺物



図番号	遺構	層	器種	底径(3cm) 氏面に木柵痕、縄文(1段か)	特徴		写真	登録番号
					幅	厚さ		
112-1	SK90	5層	浮鉢				52-12	108
112-2	SK90	堆積土	磨鑿石	113.2	62.7	27.0	180.9	52-13 297
112-3	SK90	堆積土	磨凹鑿石	125.0	60.5	30.5	587.5	52-11 299
112-4	SK90	堆積土	石皿	258.2	125.6	38.0	896.5	52-15 298
112-5	SK90	堆積土	石皿	237.9	104.9	50.0	237.08	52-14 300

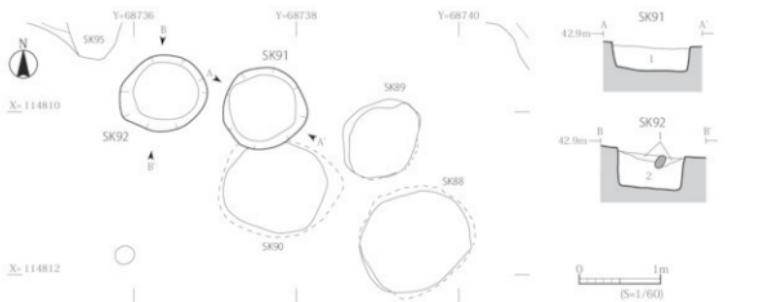
第112図 4区SK90土坑出土遺物

#### 【SK91土坑】(遺構: 第113図、遺物: 第113図1)

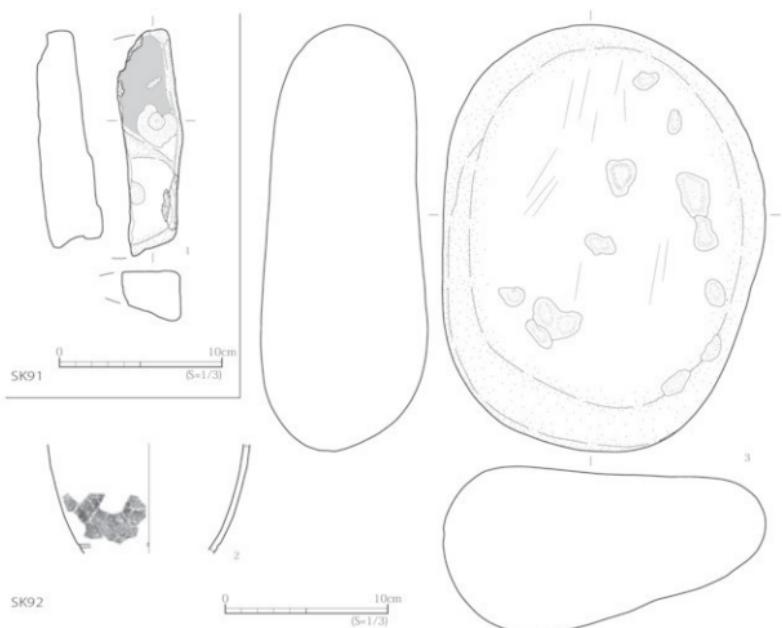
4区南の中央に位置する。SK90土坑と重複しており、SK90より新しい。直径1.1mの円形で、深さは36cmである。断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。堆積土から磨凹敲石類(第113図1)、縄文土器の小片が出土している。

#### 【SK92土坑】(遺構: 第113図、遺物: 第113図2・3)

4区南の中央に位置する。長軸1.1m、短軸1.0mの不整円形で、深さは52cmである。断面形は箱形である。堆積土は2層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢(第113図2)、石皿(第113図3)が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	参考
SK91	1	暗褐色 (10YR3-3)	粘土質シルト	炭化物細片を少量含む。岩盤風化土のブロックを多量含む。	自然堆積
SK92	1	暗褐色 (10YR3-3)	粘土質シルト	炭化物細片・岩盤風化土を少量含む。	自然堆積
SK92	2	褐色 (10YR4-4)	粘土質シルト	炭化物細片少量含む。岩盤風化土のブロックを多量含む。	自然堆積



回番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号					
113-2	SK92	堆積土	浮游	純灰 (L.R.) → 混凝	53-10	109					
回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
113-1	SK91	堆積土	磨凹石	139.1	40.4	35.5	254.3	安山岩質凝灰岩	削面→敲打面	52-7	356
113-3	SK92	堆積土	石器	262.5	198.8	110.0	9000.0	石英質岩		53-11	357

第 113 図 4 区 SK91・92 土坑と出土遺物

**[SK95 土坑]** (遺構: 第 114 図、遺物: 第 115 図 1・2)

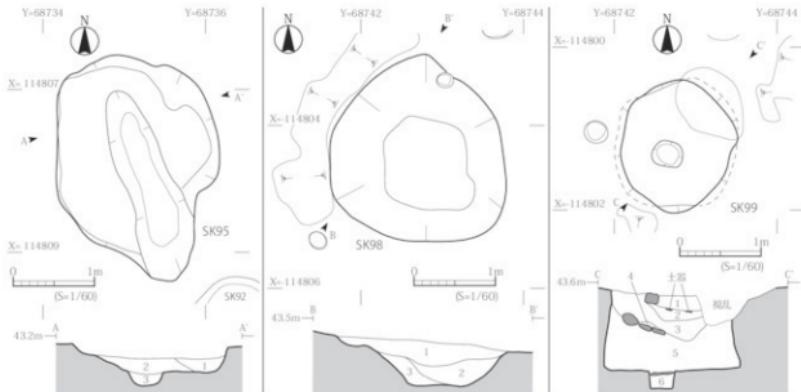
4 区南の中央に位置する。長軸 2.9m、短軸 2.1m の楕円形で、底面の深さは 36cm である。断面形は逆台形状である。底面の中央に長軸 2.4m、短軸 0.8m、深さ 17cm の溝状の落ち込みが認められる。堆積土は 3 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢 (第 115 図 1)、石皿 (第 115 図 2) が出土している。

**[SK98 土坑]** (遺構: 第 114 図、遺物: 第 115 図 3・4、第 116 図)

4 区南の中央に位置する。長軸 2.3m、短軸 2.1m の不整円形である。深さは 79cm で、断面形は逆台形状である。堆積土は 3 層に分けられ、いずれも自然堆積である。底面から石皿 (第 116 図 1)、堆積土から石皿 (第 115 図 3・4、第 116 図 2~4) が出土している。

**[SK99 土坑]** (遺構: 第 114 図、遺物: 第 117 図)

4 区南の中央に位置する。上端は長軸 1.8m、短軸 1.4 の楕円形で、下端は長軸 1.7m、短軸 1.5m の楕円形で、壁がオーバーハングしており外側に 6~10cm 広がる。底面の深さは 100cm で、断面形はフ拉斯コ状である。底面の中央にピットが認められる。ピットは長軸 38cm、短軸 30cm の楕円形で、深さは 22cm である。堆積土は 6 層に分けられ、1~3・5 層は自然堆積、4 層は人為堆積、6 層は機能時の堆積とみられる。4 層底面では砾石器がまとまって出土しており、廃絶後の窪みに廃棄されたと考えられる。堆積土から縄文土器深鉢 (第 117 図 1・2)、磨凹敲石類 (第 117 図 3・4)、石皿 (第 117 図 5・6) のほか、ホタテガイの左殻が 1 点出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK95	1	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	炭化物礫片を少量含む。岩盤中縫を多量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物礫片を少量含む。岩盤・岩盤風化土のブロックを多量含む。	自然堆積
	3	黄褐色 (10Y6/2)	粘土質シルト	炭化物礫片を少量含む。	自然堆積
SK98	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物礫片・岩盤・岩盤風化土・小ブロックを少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物礫片を少量、岩盤・岩盤風化土・小ブロックを多量含む。	自然堆積
	3	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	岩盤・岩盤風化土・小ブロックを多量含む。	自然堆積
SK99	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	岩盤を少量含む。岩盤片を少し含む。	自然堆積
	2	褐褐色 (10Y3/4)	粘土質シルト	岩盤・岩盤風化土・岩盤片を多量含む。	自然堆積
	3	褐色 (10Y4/4)	粘土質シルト	岩盤を少量含む。岩盤・岩盤風化土を多量含む。	自然堆積
	4	褐褐色 (10Y3/4)	粘土質シルト	岩盤・岩盤風化土・岩盤片を少量含む。	人為堆積
	5	褐色 (10Y4/4)	粘土質シルト	岩盤・岩盤風化土・岩盤片を少量含む。	自然堆積
	6	褐色 (10Y4/4)	粘土質シルト	炭化物を少量含む。岩盤風化土・岩盤片を多量含む。	機能時堆積か

第 114 図 4 区 SK95・98・99 土坑



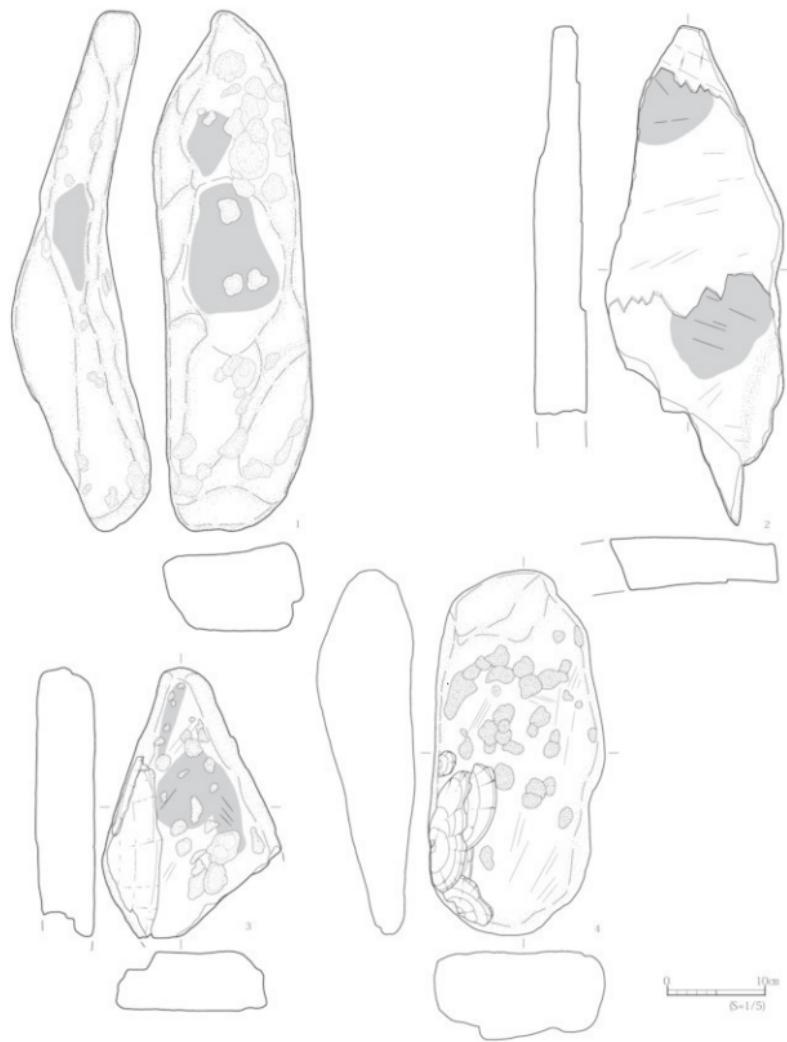
SK95



SK98

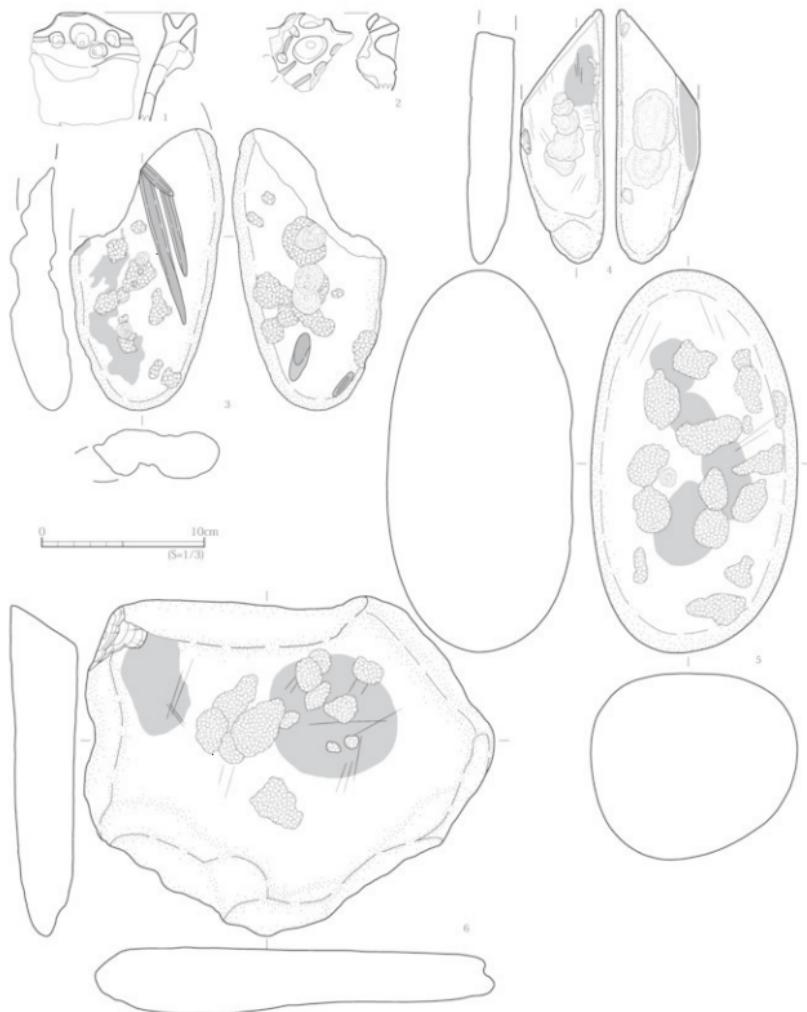
図番号	遺物	層	器種	特徴					写真	登録番号
115-1	遺物	層	器種	平縞、繩文 (L)					542	110
115-2	SK95	堆積土	石瓶	長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	
115-3	SK98	堆積土	石瓶	205.5	162.2	34.0	1234.0	麻灰質砂岩	写真	
115-4	SK98	堆積土	石瓶	206.8	149.0	92.0	4030.0	閃綠岩	登録 番号	
				193.1	145.8	93.7	4030.0	麻灰質砂岩	543	360

第 115 図 4 区 SK95・98 土坑出土遺物



图番号	遺構	層	器種	長 S (mm)	幅 (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録 番号
116-1	SK98	底面	石盤	533.0	164.0	137.5	104000	凝灰質砂岩			545 359
116-2	SK98	堆积土	石盤	517.0	183.0	51.0	60000	安山岩質凝灰岩			547 306
116-3	SK98	堆积土	石盤	277.3	183.5	61.5	35200	凝灰質砂岩			546 307
116-4	SK98	堆积土	石盤	354.3	181.0	94.5	83000	凝灰質砂岩			548 361

第 116 図 4 区 SK98 土坑出土遺物

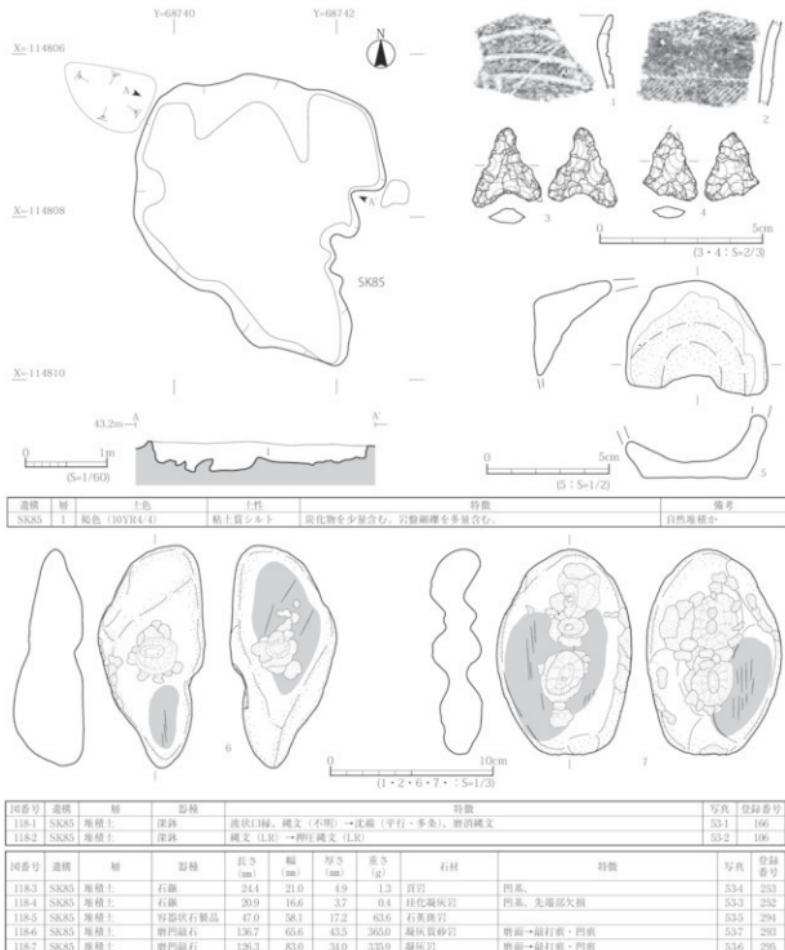


図番号	遺物	層	器種	特徴					写真	登録番号
				長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材		
117-1	SK99 1層	堆积土	深鉢	突起に背孔・凹縫文					53-12	111
117-2	SK99 1層	堆积土	深鉢	突起に凹縫・背孔・貫通孔					53-13	170
図番号	遺物	層	器種	長 S (mm)	幅 S (mm)	厚 S (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真
117-3	SK99 1層	磨盤石	磨盤石	17.8	9.4	3.5	391.0	麻灰質砂岩	前面→門前、被熱あり	53-14
117-4	SK99 1層	磨盤石	磨盤石	15.6	5.1	2.7	200.0	安山岩質麻灰岩	前面→敲打面	53-15
117-5	SK99 5層	石盤	石盤	23.5	12.7	11.3	4900.0	安山岩質麻灰岩		53-16
117-6	SK99 5層	石盤	石盤	30.8	25.2	4.1	2837.0	麻灰岩		53-17

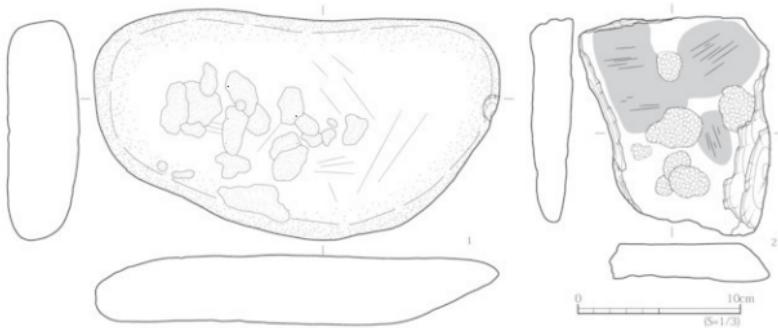
第 117 図 4 区 SK99 土坑出土遺物

【SK85 土坑】(遺構: 第 118 図、遺物: 第 118・119 図)

4 区南の中央に位置する。長軸 3.9m、短軸 3.1m のいびつな梢円形である。深さは 34cm で、断面形は皿状である。堆積土は自然堆積とみられる。堆積土から繩文土器深鉢 (第 118 図 1・2)、石鏃 (第 118 図 3・4)、容器状石製品 (第 118 図 5)、磨凹敲石類 (第 118 図 6・7)、石皿 (第 119 図 1・2) が出土している。



第 118 図 4 区 SK85 土坑と出土遺物

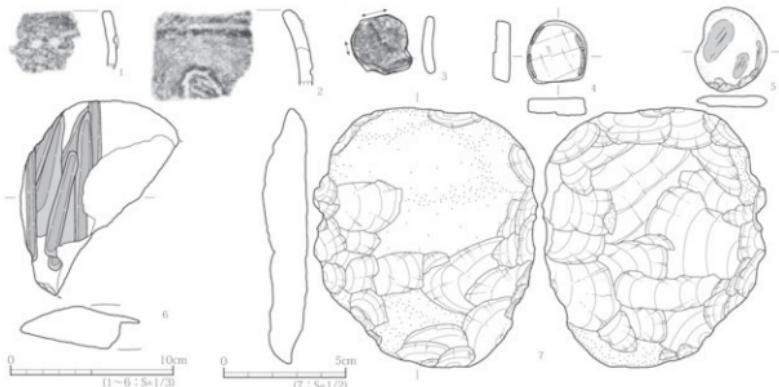


図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 登録番号
119-1	SK85	堆積土	石器	141.9	249.8	45.0	2173.0	凝灰岩		53.9 296
119-2	SK85	堆積土	石器	134.8	117.6	26.9	429.5	凝灰質砂岩		53.8 377

第 119 図 4 区 SK85 土坑出土遺物

【SK86 土坑】(遺構: 第 121 図、遺物: 第 120 図)

4 区南の南西端に位置する。上部は削平されており、残存状況は悪い。長軸 5.2m、短軸 3.5m の歪んだ楕円形である。深さは 31cm で、断面形は皿状である。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積とみられる。堆積土から縄文土器深鉢 (第 120 図 1・2)、円盤状土製品 (第 120 図 3)、円盤状石製品 (第 120 図 4・5)、砥石 (第 120 図 6)、打製石斧 (第 120 図 7) が出土している。



図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 登録番号
120-1	SK86	1層	深鉢					平底、縄端に沿う運搬剝剥跡		57.7 167
120-2	SK86	2層	深鉢					波状口縁、口縁部に擦痕 (区画)、縄文 (LR) → 波状文		57.8 169
120-3	SK86	1層	円盤状土製品					最大径 3.2m、厚 2.07cm、体部破片利用、打ち込み後研磨		57.9 168

図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 登録番号
120-4	SK86	1層	円盤状石製品	38.8	36.7	11.2	19.3	凝灰質砂岩	研磨研磨	57.10 375
120-5	SK86	1層	円盤状石製品	51.5	44.1	6.7	20.1	凝灰質砂岩		57.11 369
120-6	SK86	1層	砥石	119.8	97.4	24.6	164.3	凝灰質砂岩		57.13 373
120-7	SK86	1層	打製石斧	106.5	91.9	20.0	191.6	安山岩質凝灰岩	自然面あり	57.12 309

第 120 図 4 区 SK86 土坑出土遺物



第 121 図 4 区 SK86 土坑

**【SK202 土坑】(遺構: 第 122 図、遺物: 第 122 図 1 ~ 3)**

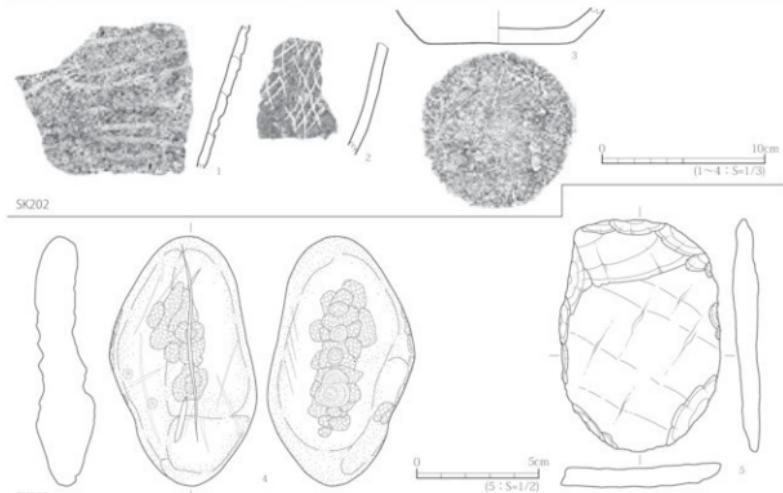
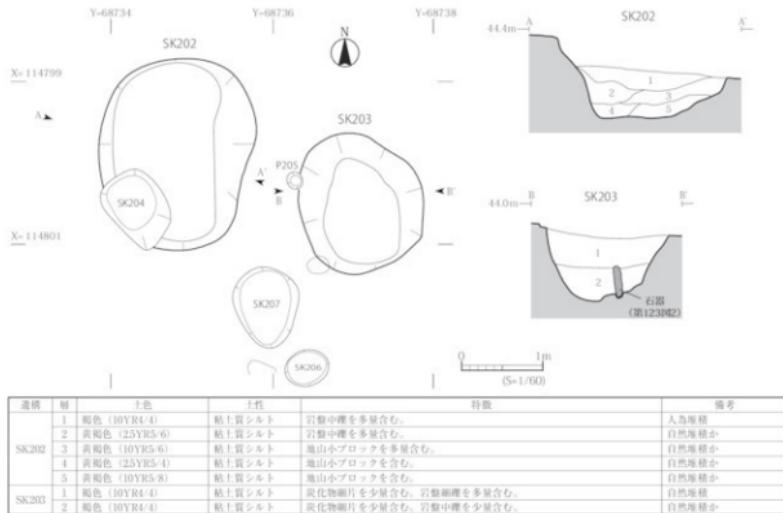
4 区南の中央に位置する。SK204 土坑と重複関係があり、SK204 より古い。平面形は長軸 2.4m、短軸 1.9m の楕円形である。深さは 96cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 5 層に分けられ、1 層は人為堆積、2 ~ 5 層は自然堆積とみられる。堆積土 1 層底面から縄文土器深鉢（第 122 図 1 ~ 3）が出土している。

**【SK203 土坑】(遺構: 第 122 図、遺物: 第 122 図 4 ~ 5、第 123 図)**

4 区南の中央に位置する。P205 と重複関係があり、P205 より古い。平面形は長軸 1.7m、短軸 1.6m の楕円形である。深さは 91cm で、断面形は逆台形である。底面の中央北寄りに扁平な碟が底面を約 5cm 剥ぎ込んで立てられている。碟は長さ約 43cm で、石皿（第 123 図 2）を転用したものである。堆積土は 2 層に分けられ、自然堆積とみられる。堆積土から磨凹敲石類（第 122 図 4）、板状石器（第 122 図 5）、石皿（第 123 図 1 ~ 2）、打製石斧（第 123 図 3）が出土している。

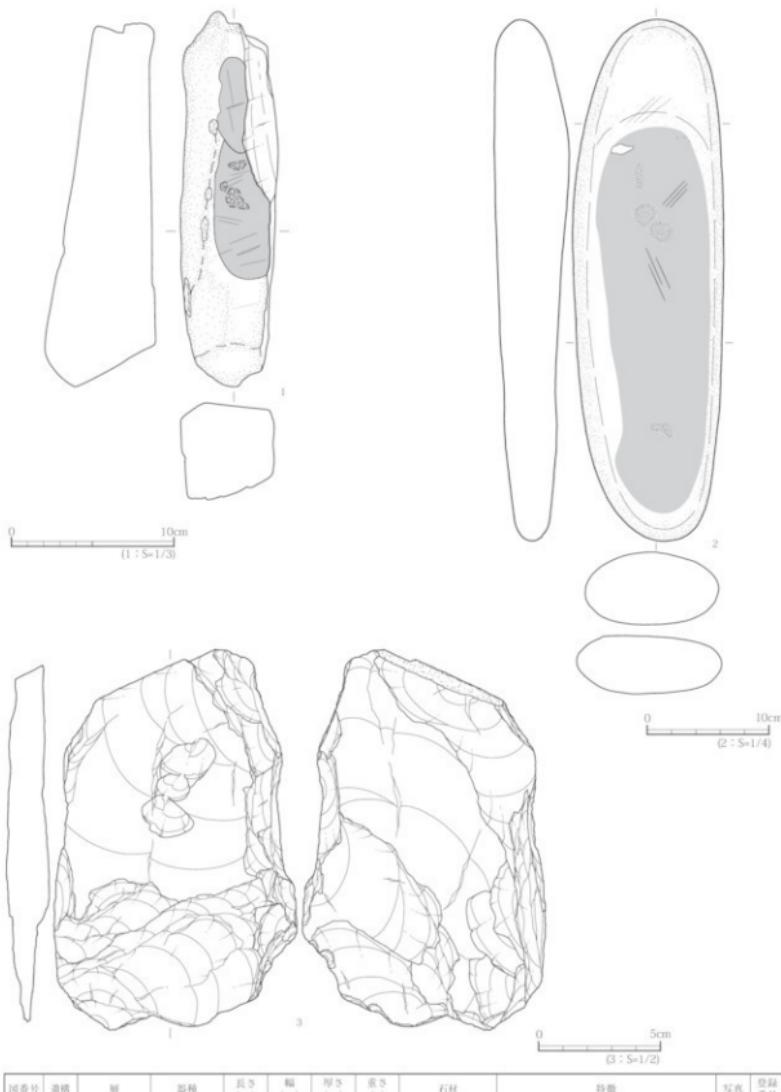
**【SK204 土坑】(第 122 図)**

4 区南の中央に位置する。SK202 土坑と重複関係があり、SK202 より新しい。平面形は長軸 1.0m、短軸 0.8m の楕円形である。深さは 39cm で、断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。



図番号	遺構	層	器種	特徴	写真	登録番号					
122-1	SK202	1層底面	深鉢	縹文(RL)→沈澱→刷り消し	55-1	171					
122-2	SK202	1層底面	深鉢	網目状縹文(?)	55-2	172					
122-3	SK202	1層底面	底面	底面9.2cm、底面に木葉痕	55-3	112					
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
122-4	SK203	堆積土	円錐石	153.5	90.7	40.9	447.5	凝灰質砂岩		557	379
122-5	SK203	堆積土	板状石器	95.2	66.1	10.5	69.5	粘板岩		556	381

第 122 図 4 区 SK202・203 土坑と出土遺物



第123図 4区 SK203土坑出土遺物

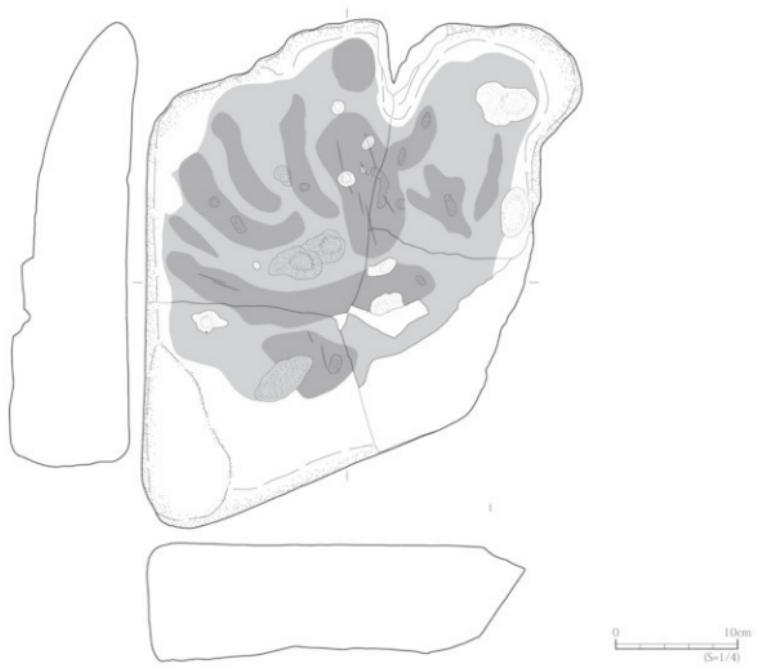
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
123-1	堆積土		石瓶	230.5	60.1	68.0	1276.5	安山岩質風岩		55-8 378
123-2	堆積土		石瓶	427.5	124.1	61.0	4510.0	凝灰質砂岩		55-10 302
123-3	堆積土		打削石斧	156.0	99.8	18.8	335.5	粘板岩	自然面あり	55-9 380

**【SK206 土坑】(遺構: 第 122 図、遺物: 第 124 図)**

4 区南の中央に位置する。平面形は長軸 0.6m、短軸 0.4m の楕円形である。深さは 35cm で、断面形は逆台形である。堆積土は人為堆積とみられる。堆積土から石皿（第 124 図 1）が出土している。

**【SK207 土坑】(第 122 図)**

4 区南の中央に位置する。平面形は長軸 1.0m、短軸 0.8m の楕円形である。深さは 26cm で、断面形は逆台形である。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

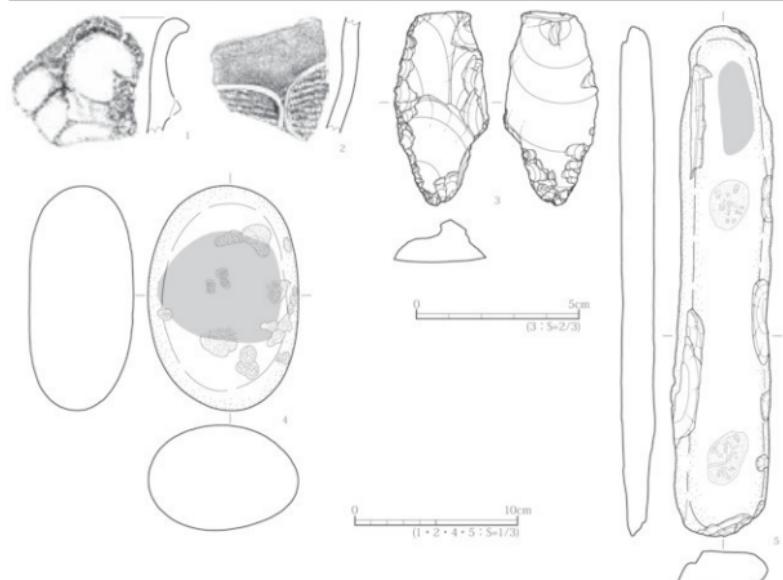
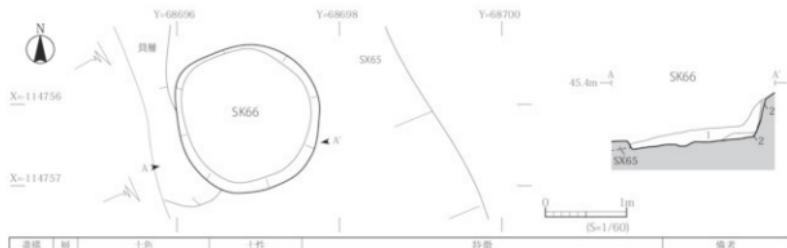


第 124 図 4 区 SK206 土坑出土遺物

**B. 4 区北**

**【SK66 土坑】(第 125 図)**

4 区北の中央に位置する。SX65 遺物包含層・貝層と重複関係があり、SX65 より新しい。平面形は長軸 1.9m、短軸 1.8m の円形である。深さは 66cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分けられ、いずれも自然堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 125 図 1・2）、不定形石器（第 125 図 3）、磨凹敲石類（第 125 図 4）、石皿（第 125 図 5）、マガキ及びオオノガイとみられる破片が出土している。

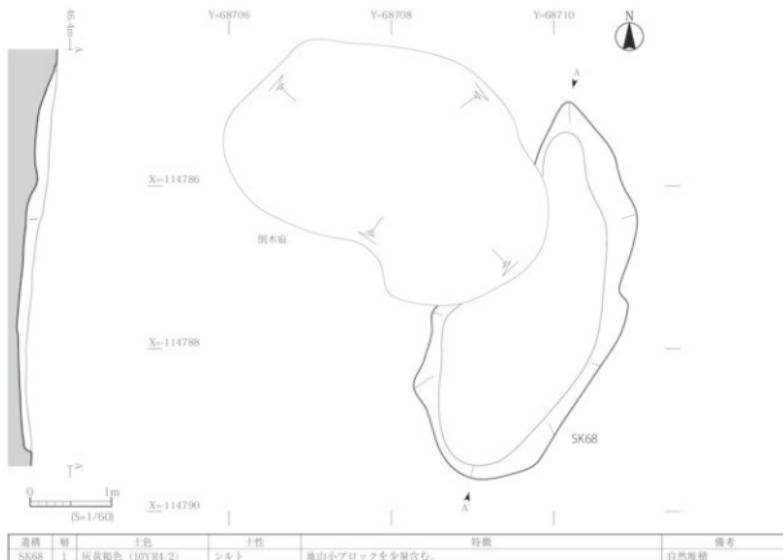


図番号	遺構	層	器種	特徴				写真	登録番号
125-1	SK66	堆積土	深鉢	半円形の突起、陰沈縞 (渋毛文)				56.2	95
125-2	SK66	堆積土	深鉢	縄文 (RE) → 深鉢、ヒガキ				56.3	96
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴
125-3	SK66	堆積土	不定形石器	59.7	29.1	13.1	156	貝岩	
125-4	SK66	堆積土	砂晶石	138.3	92.5	64.4	1280.0	閃緑岩	敲打痕 → 動面
125-5	SK66	堆積土	石器	313.6	63.1	22.2	606.0	安山岩質凝灰岩	

第 125 図 4 区 SK66 土坑と出土遺物

### 【SK68 土坑】(第 126 図)

4 区北の南西に位置する。西側を倒木痕によって壊されているため全体の平面形は不明であるが、平面形は長軸 4.8m、短軸 2.2m の長楕円形である。深さは 46cm で、断面形は皿状である。堆積土は灰黄褐色シルトで、自然堆積とみられる。堆積土から縄文土器小片が出土している。



第 126 図 4 区 SK68 土坑

#### 【SK74 土坑】(第 127 図)

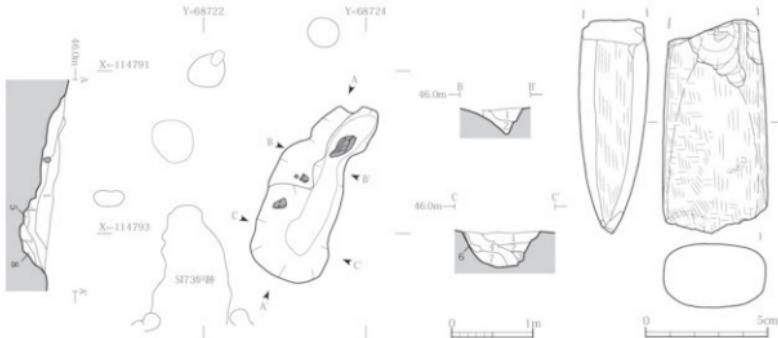
4 区北の中央東端に位置し、東側は削平されている。SX87 堪穴状構造と重複関係があり、SX87 より新しい。東側が残存していないため全体の平面形は不明であるが、長軸 1.8m 以上、短軸 0.7m 以上の楕円形とみられる。底面の深さは 13cm で、断面形は逆台形である。底面の中央にはピットが認められる。ピットは直径 18cm の円形で、深さは 13cm である。堆積土は 2 層に分けられ、いずれも自然堆積とみられる。遺物は出土していない。



第 127 図 4 区 SK74 土坑

### 【SK200 土坑】(第 128 図)

4 区北の南側に位置する。SI73 堪穴建物跡と重複関係があり、SI73 より新しい。平面形は長軸 2.1m、短軸 1.0m の不整楕円形である。深さは 44cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 8 層に分けられ、1～5 層は人為堆積、7・8 層は崩落土とみられる。堆積土から磨製石斧（第 128 図 1）、縄文土器小片が出土している。



遺構	層	土色	土性	特徴		備考
				厚さ (mm)	重さ (g)	
SK200	1	浅黄色 (25Y7/3)	シルト	10～30mmの灰風化土 (50G6/1) 及び灰白色土 (5Y8/2) 小ブロックを含む。		人為堆積
	2	褐色 (10YR4/1)	シルト	淡黄色土 (25Y8/3) 小ブロックを含む。		人為堆積
	3	淡黄色 (25Y8/3)	シルト	地山色の色調を呈す。		人為堆積
	4	褐色 (10YR4/1)	シルト	角錐 (粗粒) を多量に含む。		人為堆積
	5	褐色 (10YR4/1)	シルト	150mm程度の淡黄色土ブロックを含む。		人為堆積
	6	淡黄色 (25Y8/3)	シルト	地山色で構成される。		人為堆積
	7	灰・灰褐色 (10YR7/2)	シルト	100mm程度の褐色土ブロックを含む。		崩落土
	8	淡黄色 (25Y4/1)	シルト	50mm程度の淡黄色灰土・褐色土 (10YR4/3) 上ブロックからなる。		崩落土

図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真	登録番号
128-1	SK200	2層	磨製石斧	87.7	43.0	27.8	184.6	フレライト	基部欠損、刃部内調整	55-4	301

第 128 図 4 区 SK200 土坑と出土遺物

### 【SK210 土坑】(遺構：第 129 図、遺物：第 129 図 1)

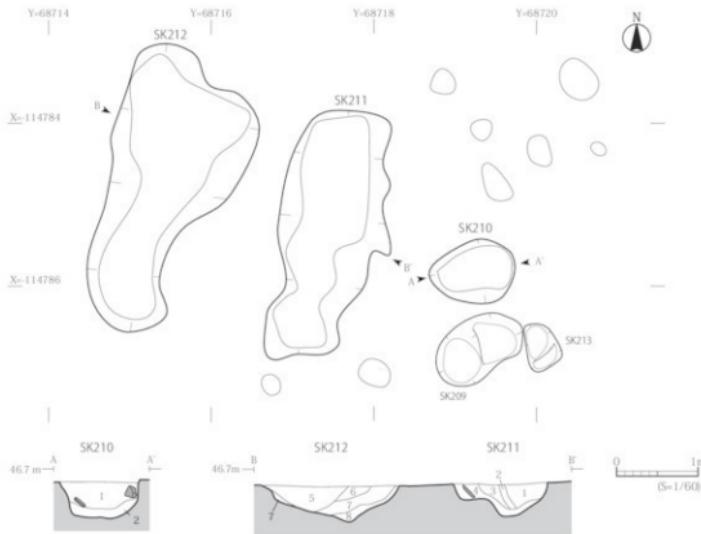
4 区北の南側に位置する。平面形は長軸 1.1m、短軸 0.8m の楕円形である。深さは 44cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土 1 層から石皿（第 129 図 1）、縄文土器小片が出土している。

### 【SK211 土坑】(遺構：第 129 図、遺物：第 129 図 2)

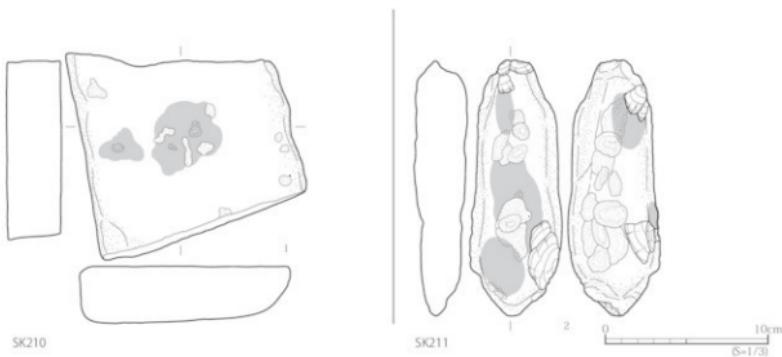
4 区北の南側に位置する。平面形は長軸 3.3m、短軸 1.5m のいびつな長楕円形である。深さは 44cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 4 層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から磨凹敲石類（第 125 図 2）が出土している。

### 【SK212 土坑】(遺構：第 129 図、遺物：第 130 図)

4 区北の南側に位置する。平面形は長軸 3.6m、短軸 1.7m のいびつな長楕円形である。深さは 46cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 4 层に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 130 図 1）、石皿（第 130 図 2～4）が出土している。

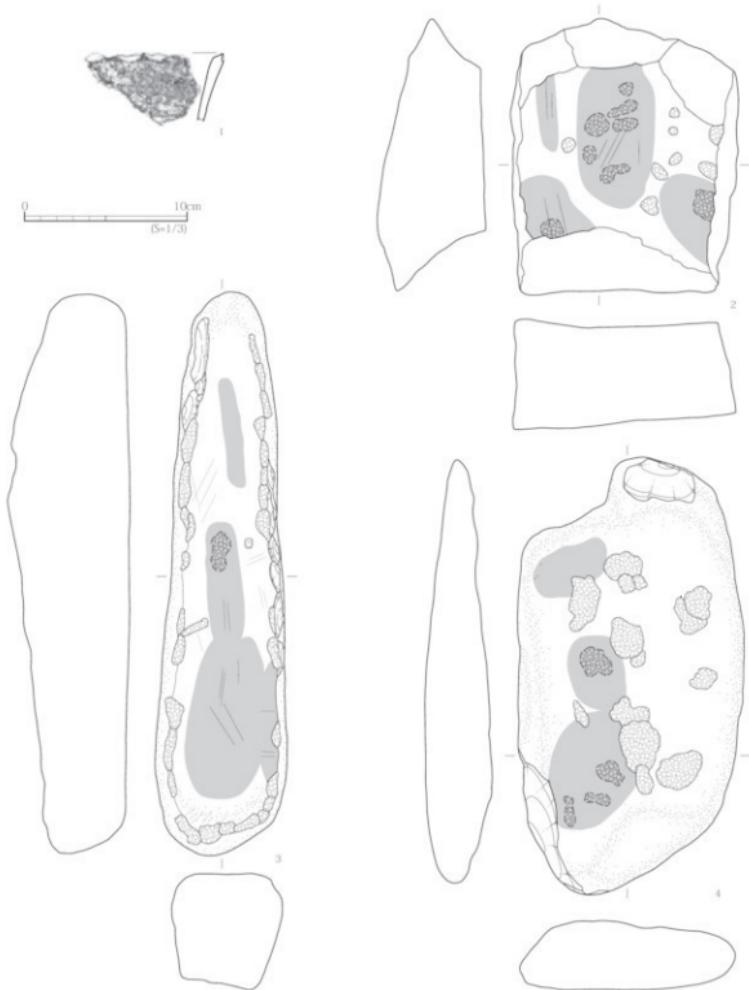


遺構	層	土色	土性	特徴	備考
SK210	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・中塊・粗礫を多量含む。	人为堆積
	2	黄褐色 (10YR4/6)	粘土質シルト	地山小石・ロックを多量含む。	人为堆積か
SK211	1	褐色 (7.5YR4/4)	粘土質シルト	岩盤中塊を多量含む。炭化物を少量含む。	人为堆積
	2	明褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	岩盤中塊を多量含む。	人为堆積
	3	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物を含む。岩盤中塊を多量含む。	人为堆積
	4	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	岩盤中塊・地山小石・ロックを含む。	人为堆積
SK212	5	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	岩盤小塊・粗礫を多量含む。	人为堆積
	6	明褐色 (7.5YR5/8)	粘土質シルト	岩盤小塊・粗礫を含む。	人为堆積
	7	明褐色 (7.5YR5/8)	粘土質シルト	岩盤小塊・粗礫を多量含む。	人为堆積
	8	明褐色 (7.5YR5/6)	粘土質シルト	岩盤小塊・粗礫を含む。	人为堆積



回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	羽微	写真 番号
129-1	SK210	堆積土	石器	127.1	148.0	37.0	980.1	凝灰質砂岩		57.2 303
129-2	SK211	堆積土	磨製敲打石	157.1	56.7	33.0	382.4	安山岩質風化岩	敲打痕→擦面	56.1 304

第129図 4区 SK210・211・212 土坑と出土遺物

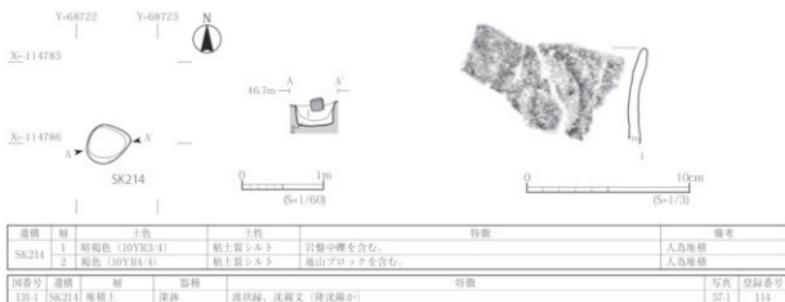


図番号	遺構	層	器種	特徴					写真	登録番号
130-1	遺構	層	器種	口縁端部に刺み（指標正直・つまみ）、沈殿文が					57-3	113
130-2	SK212	堆積土	浮游物	130.1	石器	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材
130-3	SK212	堆積土		130.2	石器	170.0	140.3	75.0	2357.0	凝灰質砂岩
130-4	SK212	1層		130.3	石器	346.5	81.4	76.8	3270.0	凝灰質砂岩
				130.4	石器	269.1	139.5	43.6	1860.0	安山岩質凝灰岩

第130図 4区 SK212 土坑出土遺物

### 【SK214 土坑】(第 131 図)

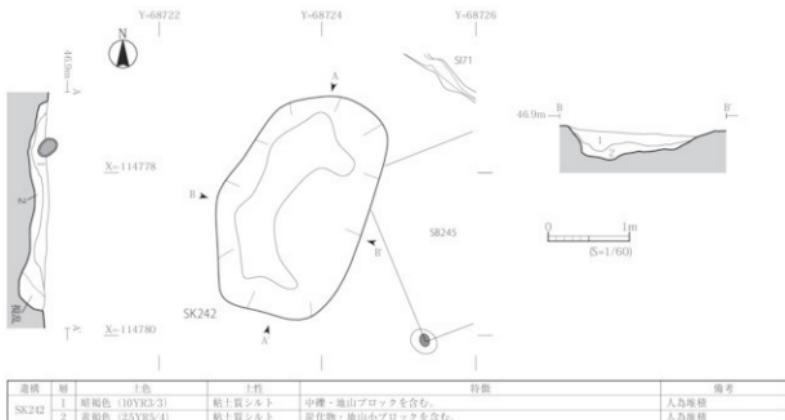
4 区北の南側に位置する。平面形は長軸 0.6m、短軸 0.5m の梢円形である。深さは 30cm で、断面形は箱形である。堆積土は 2 層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 131 図 1）が出土している。



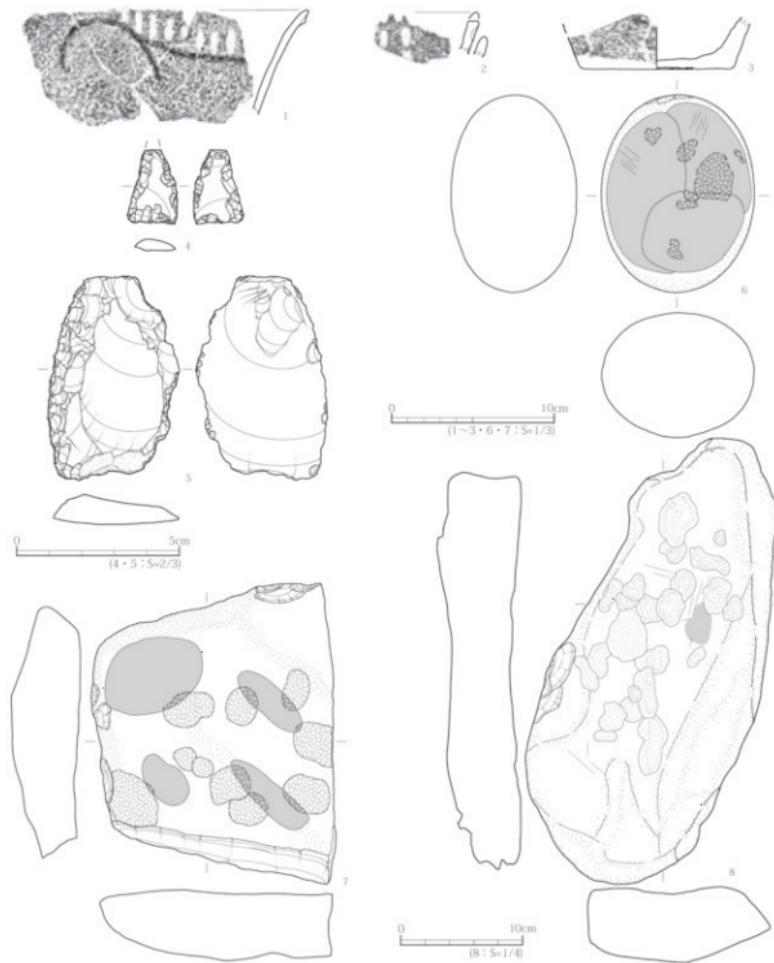
第 131 図 4 区 SK214 土坑と出土遺物

### 【SK242 土坑】(遺構：第 132 図、遺物：第 133・134 図)

4 区北の南側に位置する。SB245 堀立柱建物跡と重複関係があり、SB245 より新しい。平面形は長軸 2.9m、短軸 1.9m の長梢円形である。深さは 53cm で、断面形は逆台形である。堆積土は 2 層に分けられ、いずれも人為堆積である。堆積土から縄文土器深鉢（第 133 図 1～3）、石鏃（第 133 図 4）、不定形石器（第 133 図 5）、磨凹敲石類（第 133 図 6）、石皿（第 133 図 7・8、第 134 図）が出土している。

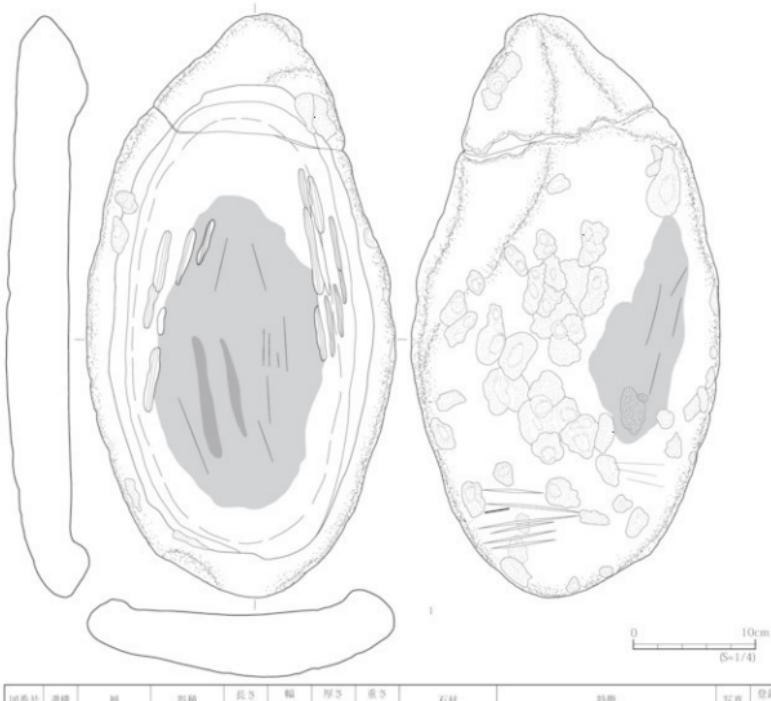


第 132 図 4 区 SK242 土坑と出土遺物



図番号	遺構	層	器種	特徴				写真	登録番号
133-1	SK242	2層	深鉢	平縁、壁面に沿う連續斜文（縦條）				56.7	92
133-2	SK242	1層	深鉢	口縁部に小突起（軸み）、連續斜文（縦條）				56.8	94
133-3	SK242	1層	深鉢	底径9.6cm、底面壘減				56.9	93
図番号	遺構	層	器種	特徴				写真	登録番号
133-4	SK242	1層	石盤	22.8	15.4	3.9	1.4	柱貫貝岩	56-10 251
133-5	SK242	1層	不定形石器	62.7	40.6	10.0	26.5	貝貝	56-11 262
133-6	SK242	1層	磨晶石	121.5	94.2	77.0	116.85	右奥四縁沿	56-12 376
133-7	SK242	1層	石盤	184.7	150.6	45.0	167.00	腹底質砂岩	56-13 374
133-8	SK242	1層	石盤	365.4	206.7	70.5	549.00	安山岩質凝灰岩	56-14 305

第133図 4区 SK242 土坑出土遺物 (1)



第 134 図 4 区 SK242 土坑出土遺物 (2)

#### ⑥ 遺物包含層

丘陵西斜面際にあたる 4 区北の中央西端で遺物包含層 1 ヶ所 (SX65) を検出している。

【SX65 遺物包含層・貝層】(遺構: 第 135・136 図、遺物: 第 137~143 図)

【概要と調査状況】4 区北の中央西斜面際に位置する。斜面際の基本層 II 層の下に縄文土器、石器を含む土層の分布を確認したため、SX65 遺物包含層として認識し調査を行った。SX65 は丘陵斜面に形成されているが、上部は近代の植林の影響で搅乱を受けており、斜面下方は削平され壊されている。斜面の傾斜方向に合わせたベルトで堆積状況を確認しながら掘り下げたところ、東西 3.9m、南北 18.4m の遺物包含層と遺物包含層の北側に部分的に広がる貝層を確認した。SX65 は基本層 II 層の直下から地山・岩盤の間に最大 30cm 堆積しており、3 層に大別できた。1 層は炭化物・中礫を少量含む褐色粘土質シルトで、土器・石器の出土量が多い。北側と中央やや南側の 3 ヶ所 (遺物集中 1~3) では、1 層底面で復元可能な土器や石器がまとまって出土している。2 層は破碎され

たカキ、イガイ、アサリなどの貝類が主体の混土貝層で、土器・石器や獸骨・魚骨が少量出土している。分布範囲は東西 1.3m、南北 4.3m で、厚さは最大 7cm である。2 層については土壤を全て土のう袋に回収した。回収した土壤サンプルは 9 袋分である。3 層は炭化物・岩盤由来の中疊を少量含む黄褐色粘土質シルトで、土器・石器が少量出土している。

〔出土遺物〕1 層からは縄文土器が多数出土しており、S 字状の沈線文（第 137 図 1・2）が施されるもの、主に縦方向の楕円文が施されるもの（第 137 図 3～7、第 138 図、第 139 図 1～6、第 140 図 1）、隆線文が施されるもの（第 139 図 7、第 140 図 3）、地文のみのもの（第 140 図 4～9、第 141 図 1～6）が出土している。土製品は円盤状土製品（第 141 図 7～10）が出土している。石器は石鏃（第 142 図 1）、打製石斧（第 142 図 2・3）、磨凹敲石類（第 142 図 4～7、第 143 図 1）、砥石（第 143 図 2）、石皿（第 143 図 5）が出土している。石製品は有孔石製品（第 143 図 3）、石錘（第 143 図 4）が出土している。2・3 層からは縄文土器小片が少量出土しているのみで、図示できるものはない。



層	位置	縄文土器				土製品			
		縦数	口縁部	底部	側面	円盤状土製品	ミニチュア	土製品	陶器
1層	E5 グリッド + ベルト	1093	80	42	10	1	0	0	1
	E6 グリッド	1088	77	41	13	2	0	0	2
	C6 グリッド	39	2	0	1	1	0	0	1
	遺物集中①	1	1	0	2	0	0	0	0
	遺物集中②	5	1	1	2	0	0	0	0
	遺物集中③	23	3	4	4	0	0	0	0
2層	E5 グリッド + ベルト	70	7	5	0	0	0	0	0
3層	E5 グリッド + ベルト	19	2	2	0	0	0	0	0

層	縄文土器		
	縦数	口縁部	底部
1層	2249	164	88
2層	70	7	5
3層	19	2	2

第 135 図 4 区 SX65 遺物包含層・貝層の遺物取上げ単位と出土土器の点数



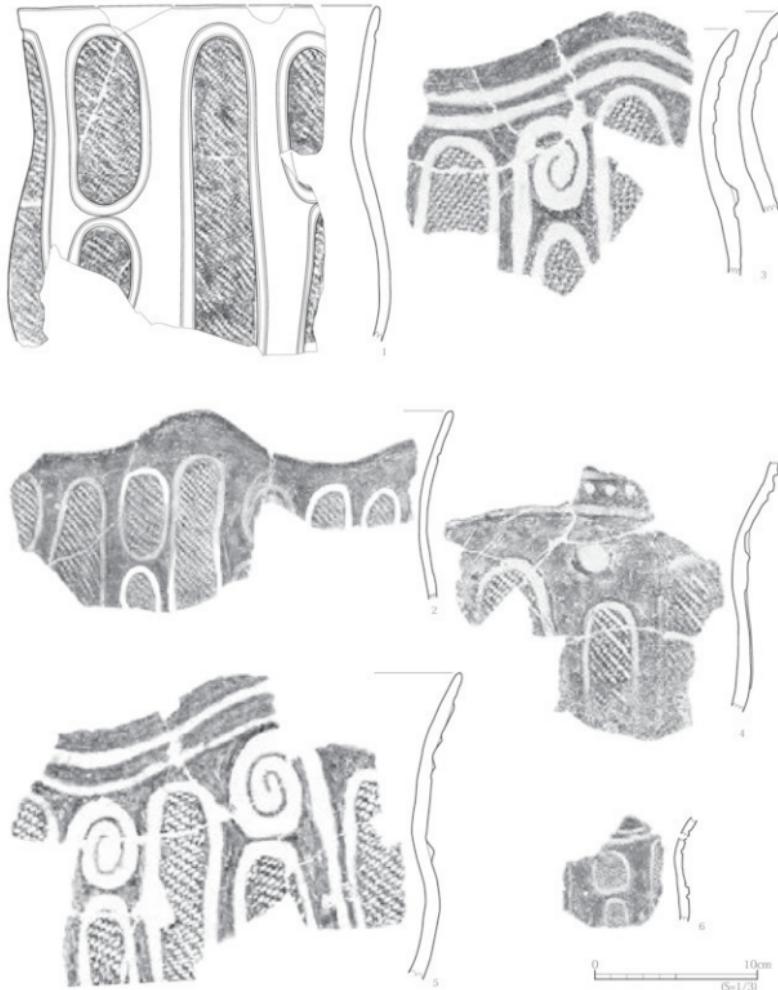
遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
SX65	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・中埋を少量含む。礫文土層・石器が出土。	遺物混合層
	2	灰・灰・黄褐色 (10YR5/4)	粘土質シルト	破碎されたカキ・アサリ・イガイが主体。貝骨・魚骨を極少量含む。	泥上貝層
	3	黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト	炭化物・中埋を少量含む。礫文土層・石器が少量出土。	地山崩移層

第136図 4区SX65遺物包含層・貝層



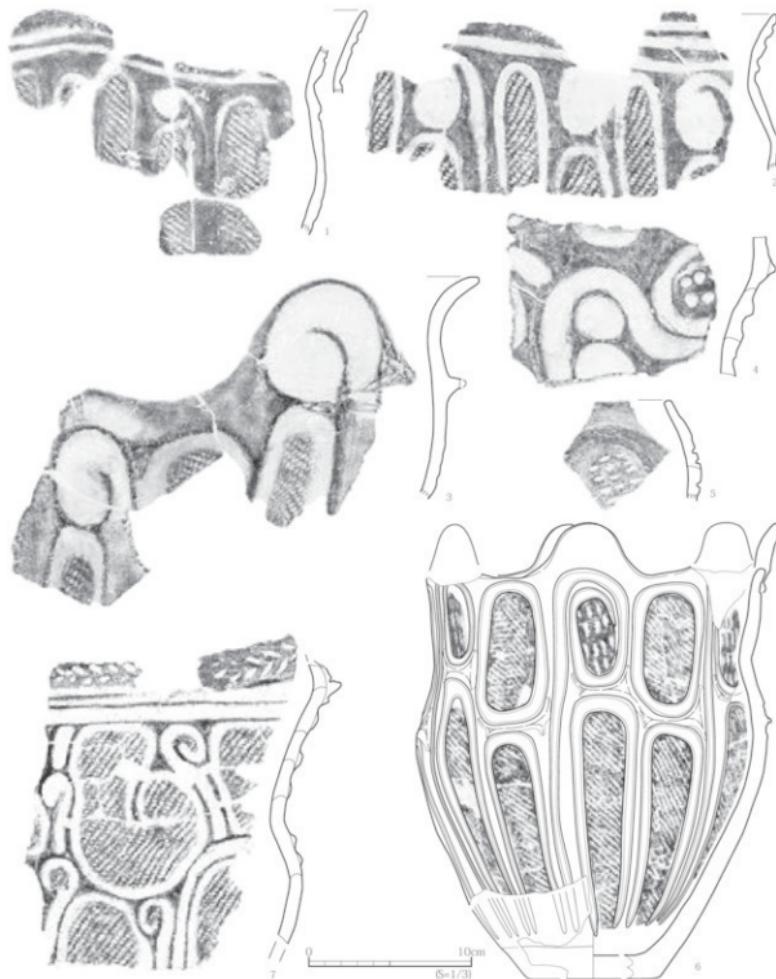
図番号	遺構	位置・層	器種	特徵	写真	登録番号
137.1	SX65	集中2・1層	深鉢	平縁。沈縞文（横5字空）、縞文（R1京板部空）、光埴縞文。（取上げ番号po3）	57.14	192
137.2	SX65	B6・1層	深鉢	沈縞文（横円文・渦巻文）、縞文（LR）、光埴縞文。	57.15	187
137.3	SX65	集中2・1層	深鉢	波状縞（単位）。沈縞文（横円文・白文）、縞文（LR）、光埴縞文	58.1	121
137.4	SX65	B6・1層	深鉢	波状縞。沈縞文（横円文・渦巻文）。渦巻文の交点に隆縛（舌先状の張り出し）。縞文（LR）	57.16	184
137.5	SX65	B6・1層	深鉢	平縁。沈縞文（横円文・渦巻文）、縞文（LR）	58.3	194
137.6	SX65	B6・1層	深鉢	口徑21.2cm。平縁。沈縞文（波状文・渦巻文・横円文）、渦巻文の交点に隆縛（舌先状の張り出し）、縞文（LR）、光埴縞文	58.2	119
137.7	SX65	B6・1層	深鉢	口徑18.6cm。平縁。沈縞文（波状文・渦巻文・横円文）、縞文（LR）、光埴縞文	58.4	122

第 137 図 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (1)



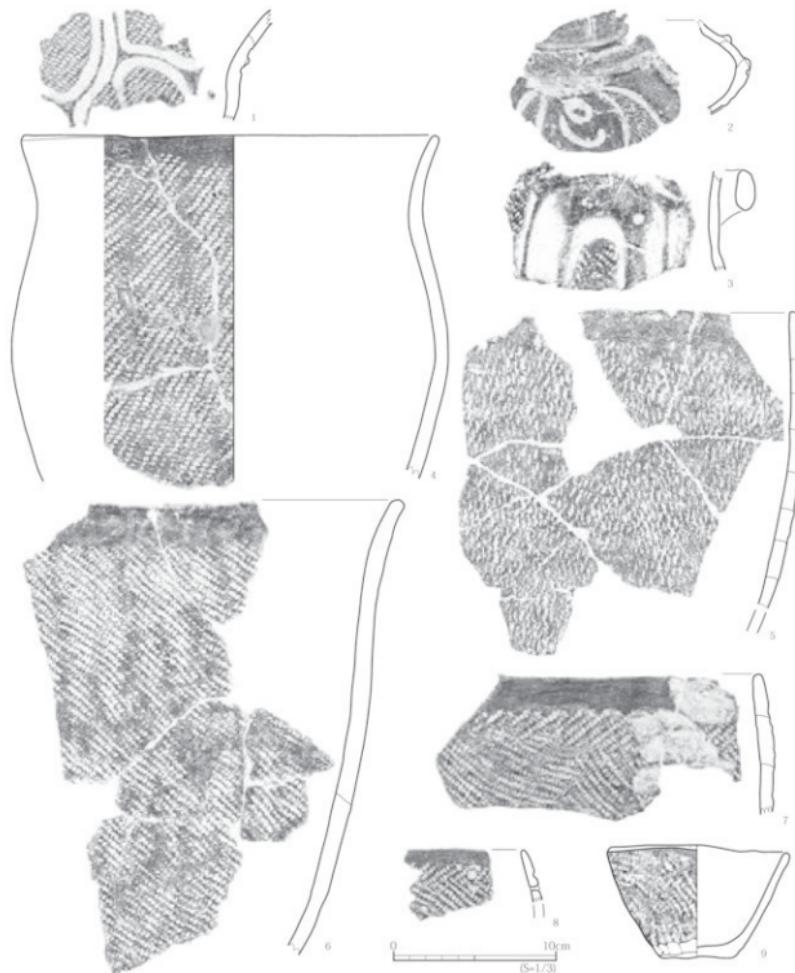
図番号	遺構	位置・層	器種	特徴	写真	登録番号
138-1	SX65	B5・1層	深鉢	口径22.4cm、平縁。沈縞文(横円文・△文か)、繩文(LR)	58.5	115
138-2	SX65	B6・1層	深鉢	流伏縞(4單位)、沈縞文(横円文・△文か)、繩文(LR)	59.1	191
138-3	SX65	B5・1層	深鉢	流伏縞(4單位)、平行沈縞(2条)、沈縞文(渦巻文・横円文・△文か)、文様の交点に隣縞(舌先状の張り出し)、繩文(R)	58.7	189
138-4	SX65	ベルト・1層	深鉢	沈縞文(平行沈縞間に連続斜割れ)、渦巻文(横円文)、背孔、繩文(RL)	59.2	193
138-5	SX65	B5・1層	深鉢	流伏縞(2条)、沈縞文(渦巻文・横円文・△文か)、繩文(LRL)、光地縞文	58.6	126
138-6	SX65	B5・1層	深鉢	平行沈縞(2条)、沈縞文(横円文・△文か)、文様の交点に隣縞(舌先状の張り出し)、繩文(LR)	59.3	180

第138図 4区 SX65遺物包含層出土遺物(2)



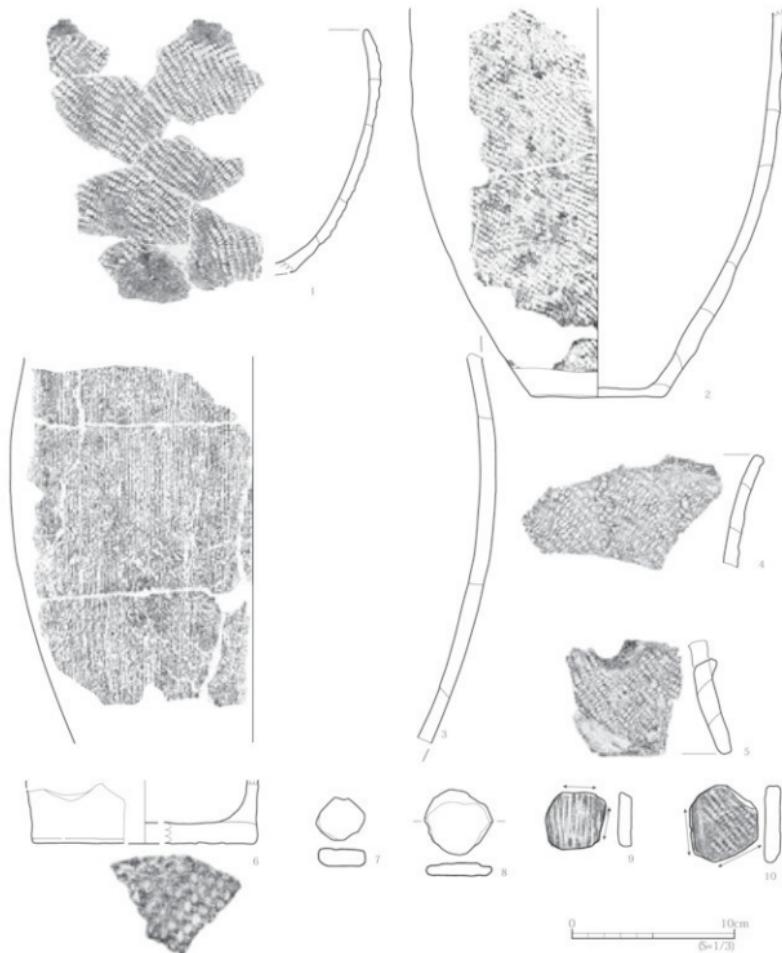
図番号	遺構	位置・層	特徴	判斷	写真	望遠写真
1391	SX65	B6・1層	深鉢	浅状縁(4单位)、平行沈縁(2条)、沈縁文(渦巻文・桔円文・△文か)、文様の交点に隆縁(舌先状の張り出し)、側文(山根段多条)	594	190
1392	SX65	B6・1層	深鉢	浅状縁、平行沈縁(3条)、沈縁文(渦巻文・桔円文・△文か)、文様の交点に隆縁(舌先状の張り出し)、側文(ERL)	597	197
1393	SX65	B6・1層	深鉢	半円形の突起、隆沈縁文(渦巻文・桔円文)、文様の交点に隆縁(舌先状の張り出し)、側文(ERL)	596	195
1394	SX65	B6・1層	深鉢	背沈縁文、円形斜文を尤甚(棒状工具)	595	186
1395	SX65	B5・1層	深鉢	浅状縁、波彌文、斜突文を尤甚	598	179
1396	SX65	集中3・1層	深鉢	口徑23.0cm、底径8.4cm、器高28.0cm、半円形の突起、隆沈縁文(渦巻文・桔円文・△文)、文様の交点に隆縁(舌先状の張り出し)、渦巻文(斜突文を尤甚)、側文(ERL)、光煩縁文、底面はナメか(口は次脚)、(取上げ番号pot5)	5911	117
1397	SX65	B6・1層	深鉢	平縁、口縁部に斜文(尖羽状)、隆沈縁(渦巻文・桔円文)、側文(ERL)、光煩縁文	5910	123

第139図 4区SX65遺物包含層出土遺物(3)



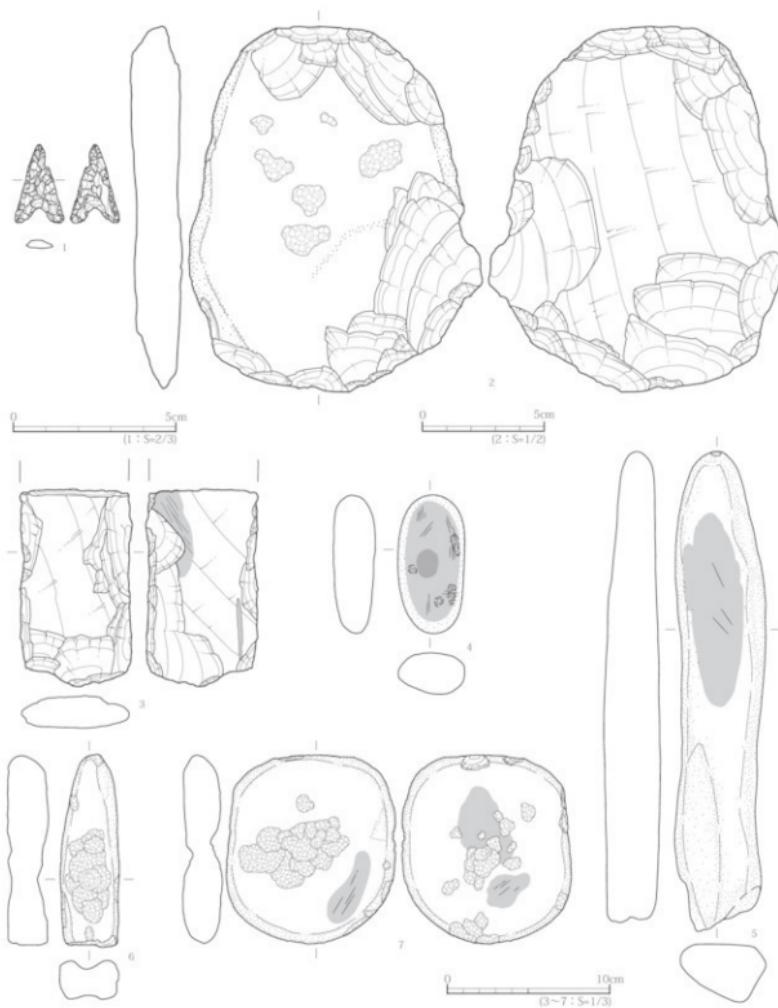
図番号	遺構	層別	形種	特徴	写真	登録番号
140-1	SX65	B6・1層	深鉢	背沈縞、繩文 (RL)	59-9	185
140-2	SX65	B6・1層	浅鉢	内溝する口縁に縦縞 (2条)、沈縞文 (おたまじやくし状)、柄円文か)、繩文 (LR)、わずかに赤彩が残存	59-13	204
140-3	SX65	B5・1層	壺か	横伏把手、陰縞、繩文 (LR)	59-12	174
140-4	SX65	集中1・1層	深鉢	口径25.6cm、口縁部に無文部、繩文 (LR)。(取上げ番号pot1)	60-1	118
140-5	SX65	集中1・1層	深鉢	平縫、口縁部に無文部、撲布文 (L)	59-14	130
140-6	SX65	集中3・1層	深鉢	平縫、口縁部に無文部、繩文 (LR)	60-2	124
140-7	SX65	C6・1層	深鉢	平縫、口縁部に無文部、繩文 (LR) を最上部は横方向、残りは縱方向に施文	60-4	177
140-8	SX65	B5・1層	深鉢	平縫、口縁部に無文部、繩文 (LR) を最上部は横方向、残りは縱方向に施文、補修孔あり	60-3	181
140-9	SX65	集中3・1層	深鉢	口径11.1cm、底径4.4cm、厚さ2.0cm、平縫、繩文 (L)、前面はナフ。(取上げ番号pot6)	60-10	125

第140図 4区SX65遺物包含層出土遺物(4)



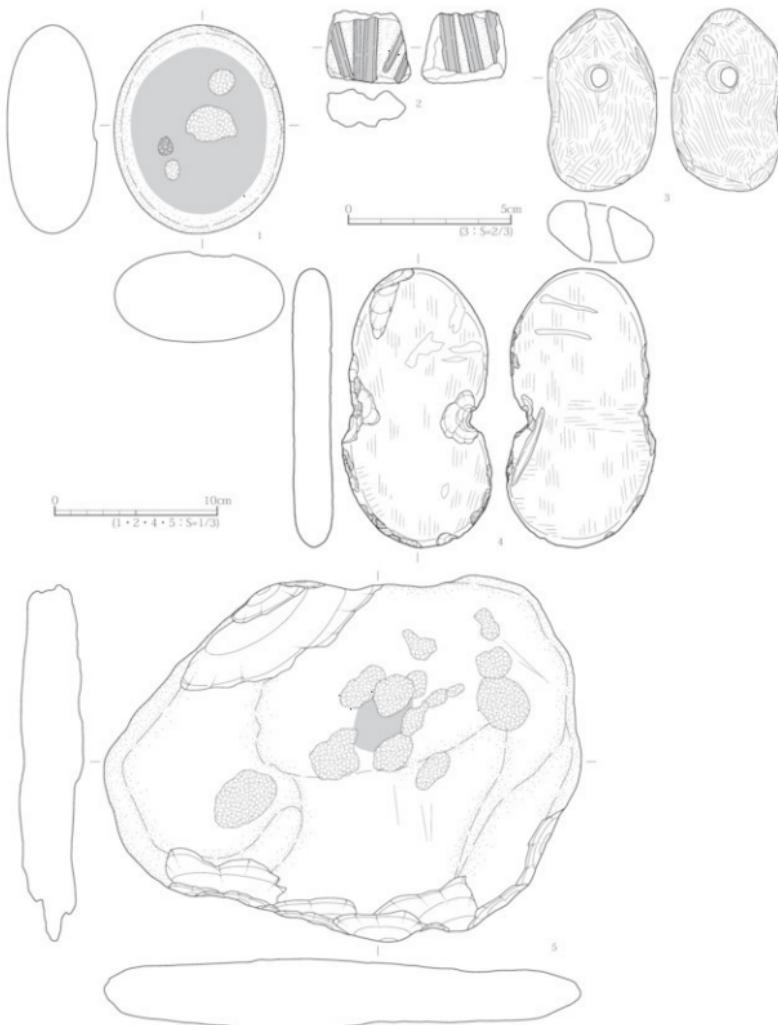
14番号	遺構	期	器種	特徴	写真	登録番号
141-1	SX65	B6・1層	深鉢	平縁、口縁に無文部。縄文（LR）を最上部は横方向。その他の部は縱方向に施文	607	196
141-2	SX65	B5・1層	深鉢	底径8.2cm、縄文（LR）、体部下端～底面はナデ	609	120
141-3	SX65	B6・1層	深鉢	条縄文	608	116
141-4	SX65	B5・1層	深鉢	波状縞か、結節縄文（LR）	605	182
141-5	SX65	B5・1層	脚台	透かし孔あり。縄文（LR）	6011	183
141-6	SX65	集中3・1層	不明	底径11.6cm、底面に網代痕（日本縄1本添1本述）。(取上)14番号pot(10)	606	176
141-7	SX65	ベルト・1層	円盤状土器品	最大径2.8cm、厚さ0.8cm、底部破片利用、打ち欠き、沈縞文	6012	128
141-8	SX65	B6・1層	円盤状土器品	最大径4.2cm、厚さ0.7cm、底部破片利用	6013	129
141-9	SX65	C6・1層	円盤状土器品	最大径3.6cm、体部破片利用、打ち欠き後一部研磨、撚糸文（京）	6014	178
141-10	SX65	B6・1層	円盤状土器品	最大径4.6cm、体部破片利用、打ち欠き後研磨、縄文（LR）→沈縞文	6015	188

第141図 4区SX65遺物包含層出土遺物 (5)



図番号	遺構	位置・層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号
142.1	SX65	B6・1層	石脈	24.1	15.0	2.7	0.8	貝質頁岩	円窓	61.1 254
142.2	SX65	B6・1層	打製石斧	149.8	120.4	20.7	452.0	軽板岩	自然面あり	61.2 389
142.3	SX65	B6・1層	打製石斧	80.9	46.0	15.2	88.2	軽板岩		61.4 382
142.4	SX65	B6・1層	磨錐石	85.1	41.2	25.0	143.2	安山岩	最打痕→擦面	61.3 384
142.5	SX65	B6・1層	磨石	295.0	56.1	38.2	871.5	安山岩質凝灰岩		61.6 386
142.6	SX65	B6・1層	圓錐石	118.6	36.4	25.5	130.1	凝灰質砂岩		61.8 392
142.7	SX65	B6・1層	卵圓錐石	116.1	104.1	36.2	392.3	凝灰質砂岩	磨面→最打痕・円窓	61.5 383

第 142 図 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (6)



図番号	遺構	位置・層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号	登録 番号
143-1	SX65	B5・1層	磨盤砾石	128.2	104.1	53.6	11625	花崗岩	前面→最打痕	61-7	388
143-2	SX65	B5・1層	砾石	44.7	51.9	23.0	51.5	凝灰質砂岩		61-9	387
143-3	SX65	C6・1層	有孔石製品	56.0	33.5	23.0	55.1		貫通孔あり。全面研削	61-10	271
143-4	SX65	B6・1層	石斧	171.6	92.2	23.7	458.0	凝灰質砂岩	中央両側面に抉り	61-11	391
143-5	SK05	B5・1層	石斧	225.3	293.7	45.0	3560.0	安山岩質凝灰岩		61-12	385

第 143 図 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (7)

## ⑦その他の遺構

その他の遺構としては、窯跡1基、江戸時代以降の墓跡がある。江戸時代以降の墓跡については、遺構検出時に平面形や遺構埋土の特徴から特定できたものは遺構検出にとどめ、精査したのは38基のうちST201墓跡1基に限られる。

### 【SR215 窯跡】(第144図)

4区中央の緩斜面で検出している。検出面は地山である。

〔規模・構造〕全長約2.7m、幅1.4mの半地下式の窯跡である。

〔方向〕長軸方向はN-39°-Wである。

〔焼成室〕長軸2.0m、短軸1.4mの楕円形で、壁はほぼ垂直に立ち上がり、左側壁で4cm残存する。

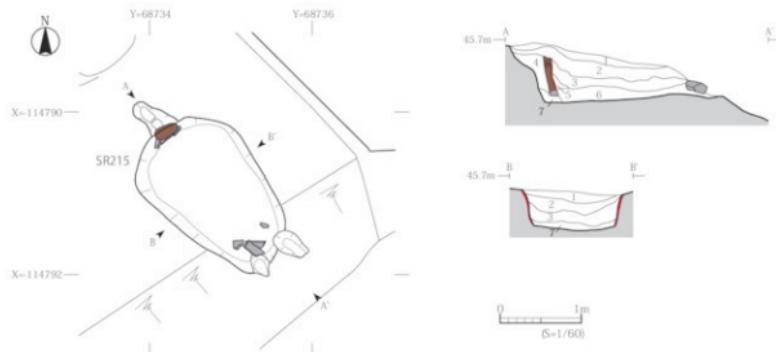
床面はほぼ平坦で、床面上には天井崩落土が堆積している。

〔焚口〕窯跡の底面で2つの掘り込みを確認しており、新田2時期の焚口の一部と考えられる。掘り込みは幅21~28cm、長さ33~43cmの楕円形である。掘り込みの周辺で焚口の構築材として使用されたとみられるは長さ14~25cmの礫を確認している。

〔煙出し〕焼成室の中軸線上にあり、高さ約72cm残存している、焼成室奥壁を幅20~27cm、長さ14~35cm掘り込み、下部に排煙口を設け、焼成室との境に長さ14~24cmの礫を組んで封している。

〔遺物〕遺物は出土していない。

〔備考〕時期は不明であるが、窯跡の形態から近世以降の炭窯跡の可能性が高い。

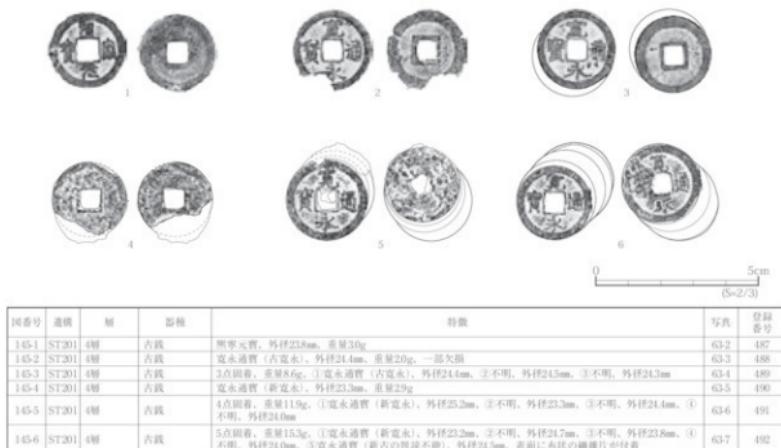
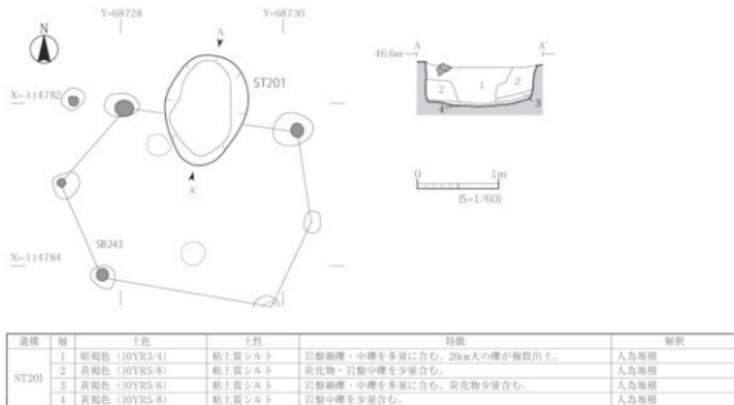


遺構	層	土色	土性	特徴	解釈
SR215	1	褐色 (10YR4/4)	粘土質シルト	炭化物・岩盤中塊を含む。	自然堆積
	2	灰・黄褐色 (10YR4/3)	粘土質シルト	礫上ブロック・岩盤中塊を含む。	自然堆積
	3	赤褐色 (25YR4/6)	粘土質シルト	崩落土ブロック・炭化物を含む。	自然堆積
	4	赤褐色 (25YR4/6)	粘土質シルト	崩落土ブロックを多量含む。炭化物を含む。	自然堆積
	5	黄褐色 (10YR5/6)	粘土質シルト	礫上小ブロック・炭化物を少量含む。	自然堆積
	6	赤褐色 (25YR4/6)	粘土質シルト	崩落土ブロック土体。炭化物を少量含む。	天井崩落土
	7	暗褐色 (7.5YR3/3)	粘土質シルト	炭化物を少量含む。	自然堆積
	8	暗褐色 (7.5YR3/4)	粘土	内側はかたく焼け縮まる。	焼成槽土

第144図 4区 SR215 窯跡

【ST201 墓跡】(第 145 図)

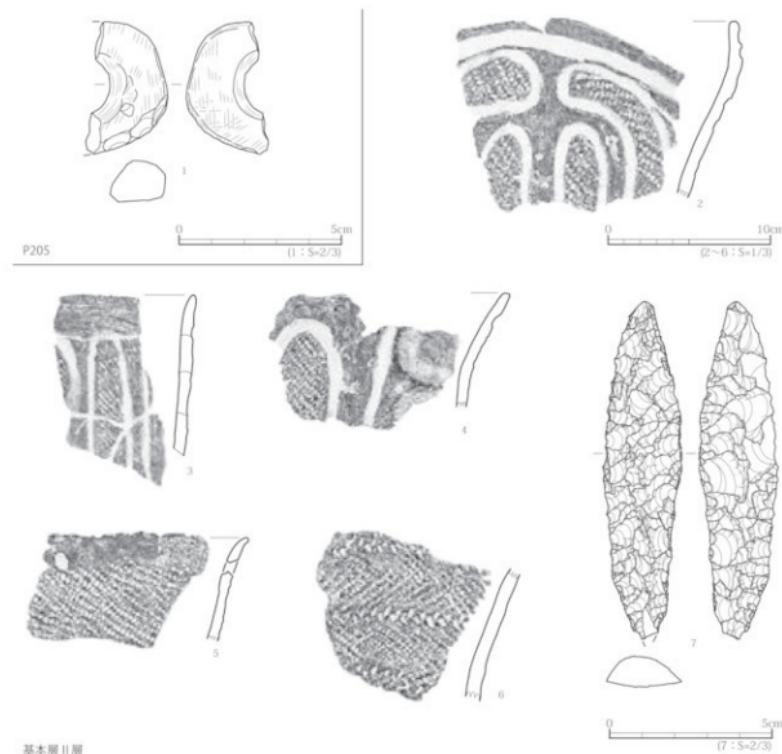
4 区北の南東部に位置する。SB243 掘立柱建物跡と重複関係があり、SB243 より新しい。平面形は長軸 1.4m、短軸 1.0m の楕円形である。深さは 53cm で、断面形は箱形である。堆積土は 4 層に分けられ、いずれも人為堆積である。1 層の上部には長さ 20cm 程度の礫が多数廃棄されていた。遺物は 4 層の底面付近から古銭 15 点が出土している（第 145 図 1～6）。表面に布状の纖維が付着しているものや 3～5 点が固着したものがあり、種類を確認できたものは熙寧元寶 1 点（第 145 図 1）、寛永通寶 6 点（古寛永 2 点・新寛永 3 点・新古の判読不能 1 点）である。



第 145 図 4 区 ST201 墓跡と出土遺物

## ⑧ ピットと遺構外出土遺物

ピット出土遺物で特徴的なものとしては、P205 から有孔石製品が出土している（第 146 図 1）。遺構外出土遺物としては、基本層 II 層から縄文土器深鉢（第 146 図 2～6）、三角墳形土器製品（第 147 図 1）、尖頭器（第 146 図 7）、搅乱から縄文土器底部（第 147 図 2）、倒木痕から磨凹敲石類（第 147 図 3、写真図版 63・16・18）が出土している。



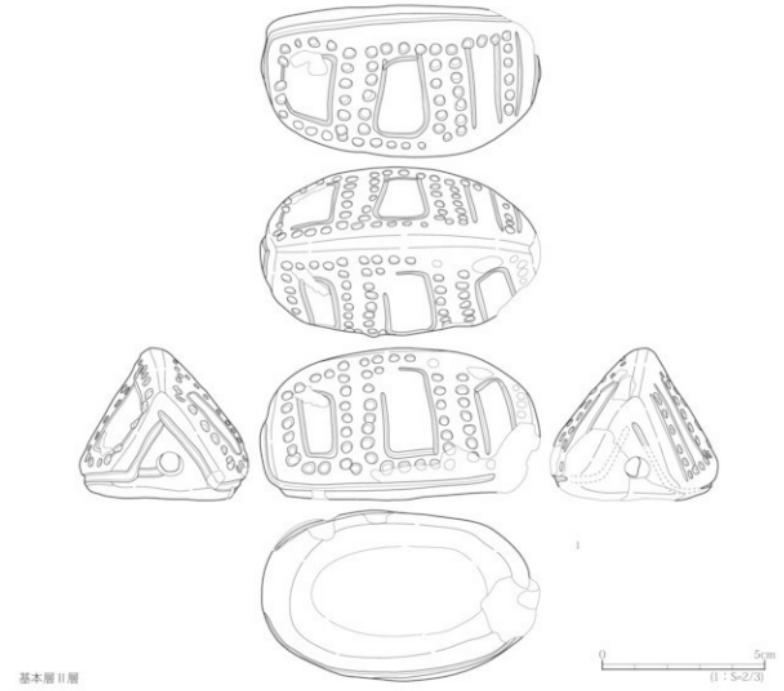
基本層 II 層

回番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徴	写真 番号	登録番号
146-1	P205	堆積土	有孔石製品	406	252	128	10.5	褐色質砂岩	1/2残存、中央に貫通孔	63-1	270
146-2	遺構外	G8・基本層 II 層	大皿器	1038	244	98	25.3	石質貝殻		63-13	248
146-3	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢								
146-4	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢								
146-5	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢								
146-6	遺構外	A2・基本層 II 層	深鉢								

回番号	遺構	層	器種	特徴	写真 番号	登録番号
146-2	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢	波状口縁。沈縄文帯(1条)。沈縄文(横円文)、縦文(RL)	63-8	199
146-3	遺構外	C7・基本層 II 層	深鉢	平縁、無文帯。沈縄文(横円文)、縦文(LRか)	63-10	198
146-4	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢	波状口縁。降沈縄文(透巣きC字、横円文)、縦文(LR)	63-9	200
146-5	遺構外	D3・基本層 II 層	深鉢	平縁、無文帯、縦文(LR)	63-11	201
146-6	遺構外	A2・基本層 II 層	深鉢	胎土に礫繊を含む。非結晶状沈縄文(LR・RL)	63-12	203

第 146 図 4 区ピットと遺構外出土遺物



図番号	遺構	層	器種	特徵	写真	登録番号					
147-1	遺構外	基本層II層	三角形形土器品	長38.6cm、幅5.3cm、高5.46cm、重量1731g。洗面文・斜交文。側面に貫通孔(長軸方向に穿孔)。	63-14	127					
147-2	遺構外	複数	不明	瓦片119cm、瓦面1.網代瓦(3本組3本溶合点)	63-15	202					
147-3	遺構外	SK68#切る倒木痕	四面石								
図番号	遺構	層	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	石材	特徵	写真	登録 番号
147-3	遺構外	SK68#切る倒木痕	四面石	132.5	133.0	34.3	571.5	凝灰岩	前面→前面・扁平直	63-17	369

第147図 4区遺構外出土遺物

## (5) 5区

検出された遺構には、土坑15基、ピットがあり（第11図）、出土遺物には縄文土器の小片、石器が少量ある。土坑には長軸2m以上の長楕円形で、長軸方向の断面形がフ拉斯コ状、短軸方向の断面形がV字形のものが4基（SK301・302・303・322）ある。以下、これらの土坑について説明する。

### 【SK301 土坑】（第148図）

5区北に位置する。上端は長軸2.7m、短軸0.8mの長楕円形、下端は長軸3.0m、短軸0.2mの長楕円形で、東壁・西壁がオーバーハンプしておらず、長軸方向で外側に18～36cm広がる。深さは88cmで、長軸方向の断面形はフ拉斯コ状、短軸方向の断面形はV字形である。長軸方向でみると、N-51°-Eである。堆積土は6層に分けられ、いずれも自然堆積である。遺物は出土していない。

### 【SK302 土坑】（第149図）

5区中央に位置する。西半を搅乱で壊されており全体の平面形は不明であるが、検出した上端は長軸0.8m以上、短軸0.3m以上、下端は長軸1.5m以上、短軸0.2mで、いずれも長楕円形とみられる。北東壁がオーバーハンプしておらず、長軸方向で外側に36cm広がる。深さは105cmである。全体のおおよそ半分しか残存していないが、長軸方向の断面形はフ拉斯コ状、短軸方向の断面形はV字形とみられる。長軸方向でみると、N-68°-Eである。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

### 【SK303 土坑】（第149図）

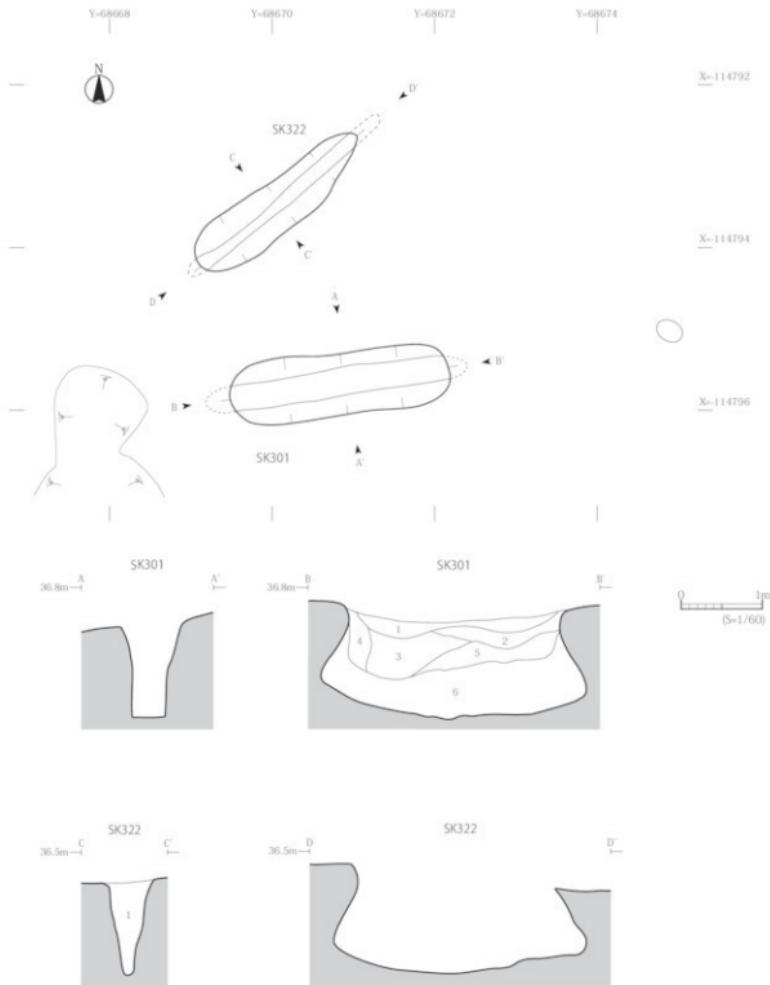
5区北に位置する。上端は長軸2.2m、短軸0.7mの長楕円形、下端は長軸2.7m、短軸0.2mの長楕円形で、北東壁・南西壁がオーバーハンプしておらず、長軸方向で外側に18～32cm広がる。深さは104cmで、長軸方向の断面形はフ拉斯コ状、短軸方向の断面形はV字形である。長軸方向でみると、N-6°-Eである。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

### 【SK322 土坑】（第148図）

5区北に位置する。上端は長軸2.5m、短軸0.6mの長楕円形、下端は長軸3.0m、短軸0.2mの長楕円形で、北東壁・南西壁がオーバーハンプしておらず、長軸方向で外側に18～36cm広がる。深さは119cmで、長軸方向の断面形はフ拉斯コ状、短軸方向の断面形はV字形である。長軸方向でみると、N-82°-Eである。堆積土は自然堆積である。遺物は出土していない。

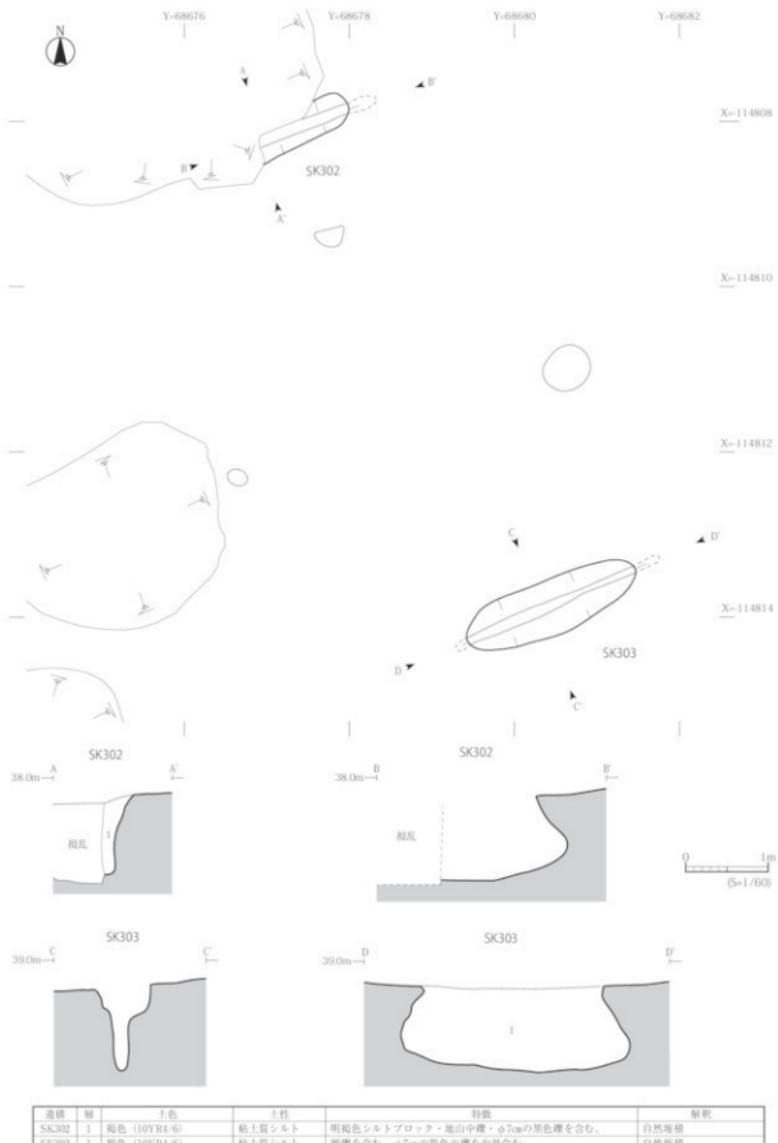
第6表 5区土坑一覧表

遺構 番号	位置	新旧関係	規模（上端）		深さ (cm)	平面形	断面形	登記事項	国番号	
			長軸(m)	短軸(m)					通号	遺物
SK301	5区北	-	2.7	0.8	88	長楕円形	長軸：フ拉斯コ状、短軸：V字形	落とし穴か	第148回	-
SK302	5区中央	-	0.83上	0.31上	105	長楕円形か	長軸：フ拉斯コ状、短軸：V字形か	落とし穴か	第149回	-
SK303	5区南	-	2.2	0.7	104	長楕円形	長軸：フ拉斯コ状、短軸：V字形	落とし穴か	第149回	-
SK304	5区南東	-	1.5	1.5	63	円形	近台形		第111回	-
SK305	5区南	-	1.1	0.9	36	短円形	細狭	縄文土器小片出上	第111回	-
SK306	5区南	-	0.8	0.6	23	短円形	細狭		第111回	-
SK307	5区南	-	0.9	0.8	26	不整円形	細狭		第111回	-
SK308	5区南	-	1.3	0.5	32	短円形	細狭	縄文土器小片出上	第111回	-
SK309	5区南	-	1.2	0.9	36	短円形	細狭		第111回	-
SK310	5区南	-	1.1	0.6	35	短円形	近台形		第111回	-
SK311	5区南	-	0.8	0.7	37	不整円形	細狭		第111回	-
SK313	5区中央	-	1.03上	0.8	36	短円形か	近台形か		第111回	-
SK316	5区南	-	1.4	0.9	22	短円形	細狭		第111回	-
SK321	5区南東	-	1.7	0.4	76	長楕円形	長軸：近台形、短軸：V字形	近世以降か	第111回	-
SK322	5区北	-	2.5	0.6	119	長楕円形	長軸：フ拉斯コ状、短軸：V字形	落とし穴か	第148回	-



透構	層	土色	土性	特徴	解釈
SK301	1	黒褐色 (10YR3-2)	砂質シルト	地山中層を少量含む。	自然堆積
	2	褐色 (7.5YR4-3)	粘土質シルト	φ5mmの炭化物・地山崩れ・中層を極少量含む。	自然堆積
	3	黒褐色 (10YR3-2)	粘土質シルト	φ2mm以下の炭化物を極少量含む。	自然堆積
	4	褐色 (10YR4-4)	粘土質シルト		砂崩落土
	5	褐色 (7.5YR3-3)	粘土質シルト	地山中層を少量含む。	自然堆積
SK322	1	暗褐色 (7.5YR3-4)	粘土質シルト	炭化物・地山中層～崩壊を少量含む。	自然堆積

第 148 図 5 区 SK301・322 土坑



第 149 図 5 区 SK302・303 土坑

## 第4章 総括

### 1. 繩文時代

#### (1) 遺物

##### ① 繩文土器

今回の調査で出土した土器点数（破片数）は全部で9,115点（口縁部破片423点）あり、そのうち文様や時期の特徴が分かれる資料として本報告に掲載したものが175点である（第7表）。繩文土器は遺物包含層、堅穴建物跡、土坑から主に出土し、出土土器の大半を占める。主に隆線、沈線、貼付、刺突などの技法によって文様が施されるものと、地文のみのものがあり、地文は繩文が大半を占め、その他に撚糸文、条線文がみられる。ほとんどは破片資料で、完形に復元できたものは3点に限られる。器種は大部分が深鉢とみられ、その他に鉢・浅鉢・台付鉢・壺・器台などが少数伴う。これらの土器を從来の研究に従って時期ごとに大別すると、1群（前期初頭～前葉）、2群（中期後葉）、3群（中葉末葉）、4群（後期初頭）、5群（後期前葉）、6群（後期中葉）、7群（晚期後葉～末葉）にわけられる。ここでは、文様や器形などの特徴について群類ごとに記述し、他遺跡の資料との比較から年代的な位置づけを行う。

##### 【1群土器】

胎土に纖維を含む土器で、内面はナデ調整されている。2区や4区の基本層II層から極少量出土し

第7表 造構ごとの縄文土器出土点数表

調査区	造構	縄文土器			調査区	造構	縄文土器			調査区	造構	縄文土器		
		总数	口縁部	底部			总数	口縁部	底部			总数	口縁部	底部
3区	SK01	30	0	1	1	SK152	30	1	1	2	S883	71	3	4
	SK02	30	0	2	2	SK187	5	0	0	0	S885	120	5	2
	SK07	56	2	3	0	SK153	1	0	0	0	S886	181	3	10
	SK10	43	1	0	0	SK156	117	6	11	4	S888	20	0	1
	SK12	123	7	4	3	SK158	19	3	1	2	S889	2	0	0
	SK13	55	1	2	0	SK162	4	0	0	0	S890	24	1	2
	SK15	95	5	1	6	SK164	43	4	4	3	S891	4	0	0
	SK21	180	2	3	2	SK166	32	0	1	1	S892	1	0	0
	SK22	332	8	9	3	SK171	2	0	0	0	S895	15	1	0
	SK24	198	16	9	7	SK176	1	0	0	0	S898	2	0	0
4区	SK25	241	9	6	3	P183	3	0	0	0	S899	26	2	3
	SK28	13	0	0	0	P185	1	0	0	0	S8200	44	1	2
	SK29	26	2	2	2	P186	1	0	0	0	S8202	87	5	5
	SK30	4	0	0	0	道構外	80	3	9	1	S8203	29	0	2
	SK34	8	0	0	0	S861	428	11	11	6	S8209	3	0	0
	SK35	11	0	0	0	S862	900	19	29	9	S8210	6	0	0
	SK36	15	1	0	0	S863	373	9	8	6	S8212	39	2	4
	SK38	26	1	0	0	S867	408	8	10	4	S8214	16	1	0
	SK39	22	0	0	0	S869	31	1	2	2	S8216	2	0	0
	SK40	7	0	0	0	S771	77	4	4	2	S8242	191	7	4
5区	SK43	9	0	0	1	S772	81	3	5	6	S865	2338	173	96
	SK44	2	1	0	0	S8244	2	0	0	0	P221	1	0	0
	SK45	14	0	1	1	SX87	1	0	0	0	道構外	581	31	27
	SK48	30	2	0	2	SX226	3	0	0	0	S8205	1	0	0
	SK49	39	6	2	4	SK66	294	13	2	2	S8208	1	0	0
	SK57	8	0	0	0	SK68	12	0	0	0	道構外	3	1	0
	道構外	45	2	4	0	SK75	58	2	7	2	—	—	—	—
	SI101	246	18	6	9	SK76	20	3	3	2	—	—	—	—
	SI105	32	1	0	0	SK77	2	1	1	1	—	—	—	—
	SD103	3	2	0	0	SK78	14	0	2	1	—	—	—	—
2区	SN106	36	1	0	0	SK79	21	1	2	1	—	—	—	—
	P102	1	0	0	0	SK82	1	0	0	0	—	—	—	—
	道構外	131	1	3	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
調査区全体		9115	423	337	175	—	—	—	—	—	—	—	—	—

ているのみで、遺構に伴うものはない。外面に単節斜行縄文や非結束羽状縄文（第146図6）が施されるものがあるが、地文以外の文様が施されるものはない。いずれも破片資料のため全体の器形は不明であるが、体部にくびれをもつもの（第146図6）がある。

以上のような1群土器の特徴を東北地方南半域の縄文時代の土器編年の中で検討すると、前期初頭の上川名Ⅱ式、前期前葉の大木1式、大木2式に比定することができる。これらの型式の土器群については文様や器形等に特徴が認められるが、1群土器には比較可能な資料がないことから、おおまかに上川名Ⅱ式～大木2式の間に位置する土器群と捉えたい。

#### 【2群土器】（第150図）

主に沈線と隆線によって渦巻文、楕円文、匁字文などが施される土器で、主文様は縦方向に展開する。4区のSX65遺物包含層1層からまとまって出土している（第150図）。器種は深鉢が大半を占め、浅鉢、器台が少量伴う。

深鉢には、頸部でくびれ、口縁部が内湾するA類（第150図1～6）、口縁部が緩やかに外反し、体部が膨らむB類（第150図7～14）、体部に縦位の紐掛け状橋状突起が付されるC類（第150図15）がある。さらに、口縁部形態をみると、A・B類には半円形の突起が付されるもの（第150図1・7）、4～6単位の波状縁（第150図2・3・8～11）、平縁（第150図4～6・12～14）の3種類がある。

〔深鉢A類〕口縁部に半円形の突起が付されるもの（第150図1）は、縦位の渦巻文全体が隆線と沈線によって描かれており、渦の巻き込みは浅い。波状縁のものには、口縁部に大波状の横位沈線文と複線・単線の楕円文、体部に匁字文を施すもの（第150図2）、口縁部に渦巻文と楕円文を施すもの（第150図3）がある。平縁のものには、口縁部に波状文・縦位渦巻文・楕円文を組み合わせた文様を施すもの（第150図4）、波状文と楕円文を組み合わせた文様を施すもの（第150図5）、2本の隆線で大形の渦巻文と小形の渦巻文間に楕円～馬蹄形状の文様が施されるもの（第150図6）がある。第150図4は渦巻部に縄文が施され、渦巻文同士が接する部分は突起状に張り出している。

〔深鉢B類〕口縁部に4単位の半円形の突起が付されるもの（第150図7）は、渦巻文と楕円文を交互に配置し、体部に匁文が施される。渦巻部には刺突文が充填されている。波状縁のものには、口縁と体部の境に2・3条の大波状横位沈線文が施され、体部に縦位渦巻文・楕円文・匁字文が施されるもの（第150図8～10）と楕円文・匁字文が施されるもの（第150図11）がある。平縁のものには、楕円文・匁字文が施されるもの（第150図12）、S字状文またはステッキ状文が施されるもの（第150図13・14）がある。

〔深鉢C類〕体部に縦位の紐掛け状橋状突起が付されるもの（第150図15）である。破片資料のみのため全体の形状は不明であるが、体部下半がやや膨らみ、体部上半は円筒状になるとみられる。橋状把手と接続する隆線文で楕円文系の文様が施される。

浅鉢は、破片資料のため全体の形状は不明であるが、口縁部が強く内湾するもの（第150図24）で、口縁部下端は隆線で区画される。体部にはおたまじゃくし状や楕円文系の沈線文が施される。

器台は、破片資料のため全体の形状は不明であるが、台部がやや外開きになるもの（第150図25）で、台部に円形の透かし孔が付されている。



第 150 図 2 群土器

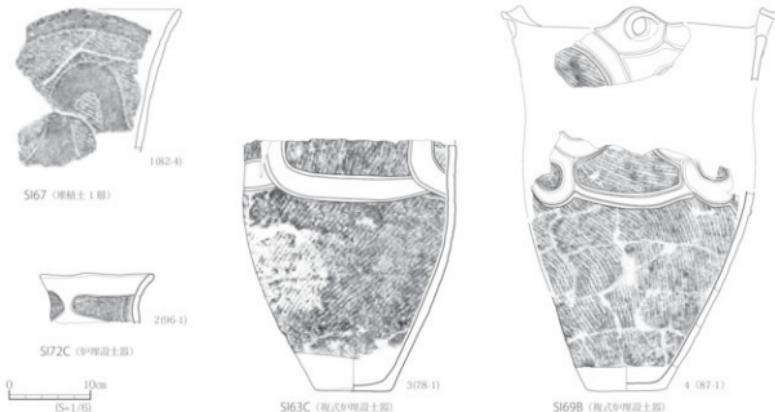
この他に、SX65 遺物包含層から上記の土器群とともに地文のみが施される深鉢が出土している（第150図16～23）。器形は、口縁部が緩やかに外反し、体部が膨らむもの（第150図16～19）と、体部に屈曲をもたず口縁部が緩やかに立ち上がるか内湾気味になるもの（第150図20～23）がある。口縁部形態はいずれも平縁で、波状縁はない。口縁部に無文部をもつもの（第150図16・17・20・21）ともたないもの（第150図19・23）があり、地文の大半は繩文で、撚糸文（第150図20）、条線文（第150図18）が施されるものが極少量ともなう。繩文はLRが主体で、結節繩文が1点ある（第150図19）。地文の施文方向はいずれも縦方向で、口縁部付近のみ横方向に施文するものがある（第150図23、第140図7・8）。

本土器群の類例としては、七ヶ宿町大梁川遺跡遺物包含層第Ⅲ・Ⅳ層出土土器（宮城県教育委員会 1988）、大衡村上深沢遺跡出土土器（宮城県教育委員会 1978）、美里町山前遺跡物包含層第2層出土土器（小牛田町教育委員会 1976）、登米市青島貝塚Fトレンチ4層出土土器（加藤・後藤 1975）・浅部貝塚出土土器（菅原 2007）などがある。大梁川遺跡では、遺物包含層出土土器の検討から大木9式土器が前半期と後半期にわけられることが層位的に確認されており、第Ⅳ層出土土器が大木9式前半期、第Ⅲ層出土土器が大木9式後半期に位置づけられている。2群土器を大梁川遺跡出土土器と比較すると、口縁部に半円形の突起が付される深鉢形土器（第150図1・7）は第Ⅳ層出土土器、渦巻文・楕円文・波状文の組合せで文様を施される平縁の深鉢形土器（第150図4・5・12）やS字状文・ステッキ状文が施されるもの（第150図13・14）は第Ⅲ層出土土器と類似している。このほか、2本の隆線で渦巻文や楕円～馬蹄形状の文様が施されるもの（第150図6）は、大木9式前半期でも古い段階に位置づけられている（宮城県教育委員会 1988、相原 2005）。山前遺跡出土土器に類似している。また、口縁と体部の境に2・3条の大波状横位沈線文が施される深鉢（第150図8～10）は、大木9式後半期に位置づけられる土器群でも県北部の青島貝塚・浅部貝塚出土土器で主体的にみられる。以上のことから、2群土器の年代は中期後葉の大木9式に位置づけられる。

### 【3 類土器】（第151図）

主に沈線と隆線によってS字状文やC字状文などが施される土器で、主文様は横方向に展開する。主に4区の竪穴建物跡から出土している。口縁が外反する深鉢が主体で、平縁、波状縁、環状把手が付くものがある。第151図1は横方向に展開する非連結S字状文が施されるもので、文様は繩文帶で描かれ、沈線文様内にRL繩文が充填されている。第151図2は向かい合うC字状文が施されるとしてみられるもので、文様は繩文帶で描かれる。第151図3は体部がわずかに膨らむ深鉢で、体中部は沈線で区画されている。体上部は欠損しているが、4単位のC字状文または横S字状文が施されるとみられる。地文は磨消繩文手法である。第151図4は口縁が外反し、体中部がやや膨らむ深鉢である。口縁は平縁にひねりがはいる環状把手が付く。口縁部に隆線で区画された無文帯をもつ。隆線と沈線で文様が施され、文様の交点にはヒレ状の隆線がみられる。体中部は沈線と玉抱き部で区画されている。文様は無文帯で描かれ、地文は磨消繩文手法である。

本土器群の類例としては、大梁川遺跡遺物包含層第I・II層出土土器（宮城県教育委員会 1988）、大崎市玉造遺跡第7・8号住居跡出土土器（宮城県教育委員会 1980）、栗原市鰐沢遺跡1・2類土器（築



第151図 3群土器

館町教育委員会 2005)、松島町西の浜貝塚 A トレンチ第2貝層出土土器(松島町教育委員会 2008)、石巻市山居遺跡第Ⅷ・Ⅸ群土器(宮城県教育委員会 2007)、岩手県花巻市観音堂遺跡第Ⅲ群土器(大迫町教育委員会 1986)などがある。非連結 S 字状文や向かい合う C 字状文が施される土器(第153図1~3)は、大梁川遺跡第Ⅱ a~b 層出土土器、玉造遺跡第8号住居跡出土土器、鰐沢遺跡 SI10 住居跡燼・床面直上出土土器に類似しており、これらは大木10式古段階後半に位置づけられている。また、口縁にひねりのはいる環状把手が付き隆線・沈線・ヒレ状隆線で文様が施される土器(第151図4)は、山居遺跡第Ⅷ群土器、西の浜貝塚 A トレンチ第2貝層出土土器、観音堂遺跡第7号住居跡出土土器に類似しており、これらは大木10式新段階に位置づけられている。以上のことから、3群土器の年代は中期末葉の大木10式に位置づけられる。

#### 【4類土器】(第152図1~9)

主に2個1対の刻み目文がつく隆線やボタン状貼付文が施される土器である。1区東や4区南の土坑から出土している。破片資料が多く、確認できた器種は深鉢に限られる。第152図1~6は隆線に2個1対の刻み目文が施される土器で、口縁部が体上部で内湾する。第152図1は大型の橋状部のある環状把手が付き、体上部に巻き込みの浅い渦巻文が隆線・沈線によって施される。文様の交点には隆線方向に2個1対の刻み目文が施される。第152図3は環状把手が付く注口部で、把手は欠落している。第152図4・5は4単位の大型把手の間に付くとみられる突起や橋状把手で、ボタン状貼付け文や沈線による渦巻文が施される。第152図2・6は、隆線に直交する方向に2個1対の刻み目文が施される。第152図7は口縁が外反し、鎖状隆線文で口縁部と体上部を区画される。第152図8は口縁が内湾し、体下部ですぼまる深鉢で、体上部に沈線による横S字状文、口縁部にボタン状貼付文が施される。第152図9は口縁が外反する深鉢で、沈線によるL字状文の交点下にボタン状貼付文が施される。

本土器群の類例としては、山居遺跡第Ⅷ群土器（宮城県教育委員会 2007）、石巻市南境貝塚7・8トレンチ出土土器（後藤 2004・2005）、栗原市青木畠遺跡第Ⅳ層出土土器（宮城県教育委員会 1982）、陸前高田市川内遺跡C8堅穴住居跡出土土器（岩手県埋蔵文化財センター 1984）、観音堂遺跡第V群土器（大迫町教育委員会 1986）、岩手県一関市上野平遺跡出土土器（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000）・清水遺跡出土土器（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002）などがあり、後期初頭の門前式に位置づけられている。門前式は3～5段階に細分する編年案が示されているが（稲村 2008、熊谷 1986、鈴木 2004など）、横S字状・L字状文といった大木10式からみられる主文様が施されるもの（第152図8・9）や隆線に直交する方向で2個1対の刻み目文が施されるもの（第152図2・6）は、鎮状隆線文が施されるもの（第152図7）や隆線の方向に2個1対の刻み目文が施されるもの（第152図1）よりもやや古い段階に位置づけられている。以上のことから、4群土器の年代は、後期初頭の門前式に位置づけられる。

#### 【5群土器】（第152図10～21）

主に沈線による懸垂文を基調とする文様が施される土器（A類）と、主に幅の狭い帯状文や押圧縄文で文様が施される土器（B類）がある。

A類（第152図10～18）は1区東や4区南の土坑から出土している。破片資料に限られ、全体の器形がわかるものはない。口縁に橋状把手（第152図10）、環状把手（第152図11）、半円形突起（第154図3）、頂部の凹んだ台形突起（第152図13・14）、小形の山形突起（第152図14・15）が付くものがあり、口縁は外反する。把手や突起には盲孔・ボタン状貼付文・四線文（沈線文）が施される。口縁に把手や突起が付かないものには、体上部から口縁部にかけて緩やかに内湾するもの（第152図17）と外反するもの（第152図18）がある。体部に1・2条の沈線による懸垂文を基調とする文様（第152図15・16）や蕨手文（第152図18）が施され、波頂部やその下部には盲孔・ボタン状貼付文、沈線による連続渦巻文が施される。

5群A類土器の類例としては、藏王町二屋敷遺跡第II群土器（宮城県教育委員会 1984）、山居遺跡第V群土器（宮城県教育委員会 2007）、南境貝塚8トレンチ第7・8層出土土器（後藤 2005）などがある。口縁に環状把手や立体的な突起が付くもの（第152図10～14）は山居遺跡第V群土器、沈線による懸垂文・渦巻文・蕨手文、盲孔・ボタン状貼付文が施されるもの（第152図15～18）は南境貝塚8トレンチ第7・8層出土土器に類似があり、これらは南境式の中でも古い段階にあたる宮戸Ib式に位置づけられている。以上のことから、5群A類土器の年代は、後期前葉の宮戸Ib式に位置づけられる。

B類（第152図19～21）は4区南の土坑から出土している。破片資料のみで、確認できるものは口縁が外反する深鉢に限られる。幅の狭い帯状文は、波状縁の口縁部（第152図19）や体中部（第152図21）に横方向に展開する。押圧縄文は、口縁部の無文帶直下をめぐる（第152図20）。

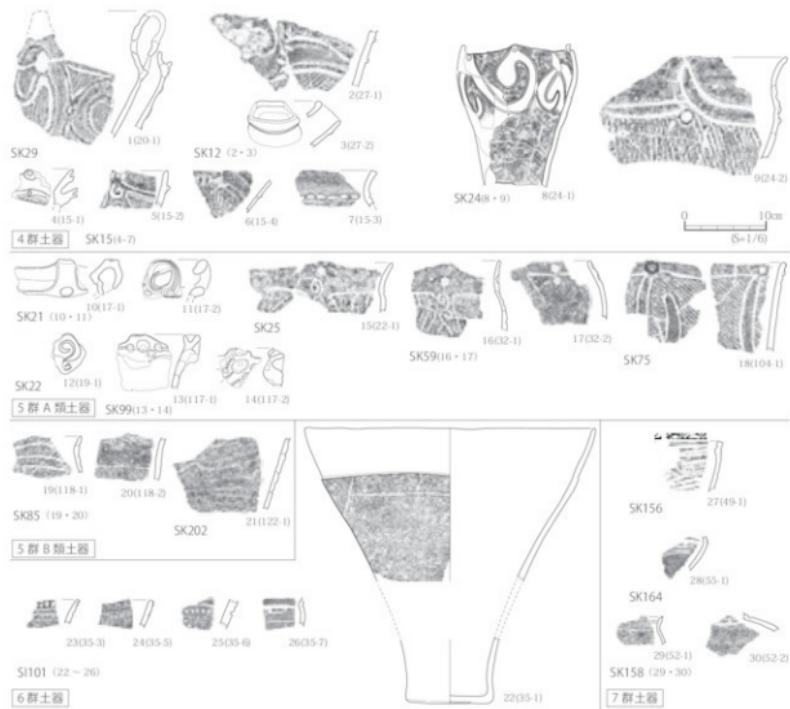
5群B類土器の類例としては、山居遺跡第IV群土器（宮城県教育委員会 2007）、南境貝塚8トレンチ第3層出土土器（後藤 2004）、登米市坂戸遺跡第III群土器（追町教育委員会 2005）などがあり、南境貝塚8トレンチ第3層出土土器に類似している。南境貝塚8トレンチ第3層出土土器は十腰内

第I群土器（今井・磯崎 1968）との類似性が高く、東北北半の影響の強い土器群（後藤 2005）とされ、層位的な出土状況から「宮戸I b式より新しい土器群」に位置づけられている（宮城県教育委員会 2007）。以上のことから、5群B類土器の年代は、後期前葉でも宮戸I b式より新しい段階に位置づけられる。

#### 【6群土器】（第152図22～26）

主に平行沈線文や連続刺突文で文様が施される土器である。2区SI101 竪穴建物跡から出土している。平縁と波状縁があり、口縁は外反または外傾する。第152図22は体上部が強く外傾し、頸部に段をもつ。口縁部は無文帯となる。第154図23は平行沈線で区画された口縁端部に刻み目が施された刻み目帯をもつ。第152図24・25は平行沈線と竹管状工具による連続刺突文で文様が施されている。

本土器群の類例としては、仙台市伊古田遺跡出土土器（仙台市教育委員会 1995b）・王ノ壇遺跡Ⅷ～X層出土土器（仙台市教育委員会 2000）、石巻市宝ヶ峯遺跡出土土器（伊東 1957、志間・桑月 1991）・山居遺跡第Ⅲ群土器（宮城県教育委員会 2007）、田柄貝塚第Ⅲ群土器（宮城県教育委員会



第152図 4～7群土器

1986)、坂戸遺跡第IV群土器(追町教育委員会 2005)などがあり、宝ヶ峯式に位置づけられている。王ノ壇遺跡では当該期の層位別・地点別の資料を検討しI～IV段階に分類しているが、6群土器にみられる刻み目帯や連続刺突文(刺突列)はIV段階に特徴的に認められる。以上のことから、6群土器の年代は、後期中葉の宝ヶ峯式に位置づけられる。

#### 【7群土器】(第152図27～30)

主に平行沈線文で文様が施される土器で、3区の土坑から少量出土している。器種は深鉢、鉢、浅鉢、壺があるが、破片資料のため器形全体がわかるものはない。第152図27は口唇部に刻み目文、口縁部内面に平行沈線が施される。口縁部外面の文様は工字文状とみられる。第152図28は浅鉢の破片で、口縁部の文様は平行沈線に貼瘤が付くπ字文とみられる。第152図29は波状縁で刻みのある小突起が付く。口縁部外面平行沈線で区画された無文帶で、内面は平行沈線が施される。第152図30は壺の破片で、頸部下端にπ字文とみられる文様が施されている。

本土器群の類例としては、蔵王町鍛冶沢遺跡(宮城県教育委員会 2010a)、大崎市北小松遺跡(宮城県教育委員会 2010b・2014)、栗原市山王廻遺跡遺物包含層V層(伊東・須藤 1985)、岩手県一関市中神遺跡(須藤 2007)、北上市九年橋遺跡(北上市教育委員会 1986)などがあり、晚期後葉～末葉の大洞A・A'式に位置付けられている。7群土器は破片資料で器形・文様全体がわかるものがないため比較検討はできないが、年代は概ね晚期後葉～末葉の大洞A・A'式に相当すると考えられる。

#### ②土製品

今回の調査で出土した土製品には、ミニチュア土器、円盤状土製品、斧状土製品、三角墳形土製品があり、全部で50点出土している(第8表)。

ミニチュア土器は口径10.0cm以下、高さ15.0cm以下、底径5.0cm以下の小型の土器で、2点出土している。いずれも粘土紐を積み上げて製作しており、一部に指でおさえた痕跡が残る。器形は台付深鉢形のもの(第15図7)と浅い皿状のもの(第49図5)がある。台付深鉢形のものが出土したSK15土坑からは4群土器が出土しており、年代は後期初頭と考えられる。浅い皿状のものが出土したSK156土坑からは2～4・7群土器が混在して出土しており、年代は特定できない。

円盤状土製品は46点出土しており、大きさがわかる20点を掲載している。大半が深鉢の体部破片を利用し、周縁を打ち欠き・研磨して成形している。大きさは最大径で2.6～5.6cmで、3.5～4.5cmのものが12点あり主体を占める。出土状況をみると、土器の出土量が多い遺物包含層、堅穴建物跡、土坑から出土しているものがほとんどである。共伴している土器の年代から年代を推定すると、中期後葉が4点、中期末葉が11点、後期初頭が1点、後期前葉が3点、後期中葉が4点となり、中期末葉のものが主体を占めると考えられる。

斧状土製品は4区SI67堅穴建物跡堆積土1層から1点出土している(第153図1)。先端部のみ残存しており、横断面は隅丸長方形である。表裏両面と側面にLR繩文を縱方向に施文した後、末端部を軽くナデ調整している。共伴している土器から年代を推定すると、大木10式古段階頃に位置づけられる。宮城県内では、大木9式期のものが上深沢遺跡第1住居跡床面(宮城県教育委員会 1978)、大木10式期のものが鍛冶沢遺跡SI10堅穴住居跡堆積土(染館町教育委員会 2005)から出土している。

また、本遺跡の周辺では陸前高田市堂の前貝塚（陸前高田市教育委員会 1997）・貝塚貝塚（陸前高田市教育委員会 1998）に類例がある。このうち、上深沢遺跡・堂の前貝塚出土のものには、基部側の表裏面または側面に貫通孔が穿たれている。

三角墳形土製品は4区基本層II層から1点出土している（第153図2）。ほぼ完形で、長さ8.6cm、幅5.3cm、高さ4.6cmである。側面形は正三角形に近い隅丸三角形で、正面形はかまぼこ形である。側辺は緩やかに外側に湾曲しており、正面の上辺が特に湾曲している。正面となる二面には3単位の沈線による方形文が描かれ、その周間に円形刺突列が施されている。両側面には沈線による三角形文または山形状文が描かれ、その中央に直径8mmの貫通孔が穿たれている。底面は無文で、中央に凹みがあり、周囲がやや高くなっている。この底面の高い部分は、擦れてやや摩滅している。宮城県内では、大木8式期のものが仙台市高柳遺跡（仙台市教育委員会 1995a）、大木9式期のものが仙台市上野遺跡（仙台市教育委員会 2010）、中期末葉～後期初頭に位置付けられるものが仙台市山田上ノ台遺跡（仙台市教育委員会 1987）から出土している。また、本遺跡の周辺では陸前高田市大陽台貝塚（陸前高田市教育委員会 1979）、大船渡市長谷堂貝塚（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004）に類例がある。このうち、長谷堂貝塚II層出土のもの（第153図3）は、形状、沈線と円形刺突列で文様を施す点、長軸方向に貫通孔を設ける点が本遺跡出土のものと類似しており、大きさや底面に文様を施す点にやや違いがみられる。阿部勝則氏は岩手県出土の三角墳形土製品を集成し時期変遷を検討しており（阿部 2004）、長谷堂貝塚出土例を形状、文様、貫通孔などの特徴から中期末葉から後期



（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004 より転載）

第153図 斧状土製品・三角墳形土製品

第8表 土製品出土点数表

調査区	遺構	内壁状 土製品	ミニチュア 土製品	その他の 土製品
	SK10	1 (0)		
	SK12	1 (0)		
	SK15		1 (1)	
	SK21	5 (0)		
1区	SK22	1 (1)		
	SK25	2 (2)		
	SK26	1 (1)		
	SK28	1 (1)		
	SK29	1 (0)		
	SK37	1 (1)		
	SK38	1 (0)		
2区	SI101	4 (1)		
	SI105	1 (0)		
	SX106	1 (0)		
	遺構外	1 (0)		
	SX152	1 (0)		
3区	SK156	2 (0)	1 (1)	
	SK164	1 (1)		
	S061	5 (1)		
	S062	1 (1)		
	S063	1 (0)		
	S067	4 (4)		1 (1)
4区	SK76	1 (1)		
	SK86	1 (1)		
	SK200	1 (0)		
	SX65	4 (4)		
	遺構外	2 (0)		1 (1)
全体	46 (20)	2 (2)	2 (2)	

\* ( ) は掲載点数

初頭に位置づけている。本遺跡出土の三角墜形土製品の年代についても、中期末葉から後期初頭頃と考えられる。

### ③石器・石製品

石器・石製品は剥片類も含めて、665点出土しており、このうちトゥールは380点である（第9表）。

#### A. 分類

〔石鏃〕二次加工により作出した尖頭部をもち、先端が薄く偏平なもの。基部の形状から、A類（凹基）、B類（凸基）、C類（平基）の3類に大別され、さらに各類型は形状により細別される。28点出土しており、剥片石器の主体を占める。

A類：凹基のもの（15点）。両側辺の形状が直線的なA1類（7点）、緩やかに外湾するA2類（1点）、尖頭部付近で内湾し基部付近で外湾するA3類（6点）に細別される。A1類には基部の抉りが深いものと浅いものがあり、A2・A3類は基部の抉りが深いものに限られる。

B類：凸基のもの（7点）。基部の両側辺に深い抉りを入れ茎を作出するB1類（4点）、基部の両側辺に浅い抉りを入れ茎を作出するB2類（2点）、基部に抉りを入れないB3類（1点）に細別される。

B1類はいわゆる「有茎石鏃」である。B2類は全体形が菱形状となり、茎が長いものと短いものがある。B3類は基部が丸みを帯びる丸凸基である。B1・B2類は両側辺が直線的、B3類は両側辺が外湾する形状である。第154図12は他の石鏃と比較して極端に厚く、未完成の可能性がある。

C類：平基のもの（6点）。両側辺が直線的なものと両側辺が外湾するものがある。

〔石錐〕二次加工により作出した尖頭部（錐部）をもち、その先端が厚みをもつもので、3点出土している。錐部は回転穿孔の機能を有していたと考えられる。凹基の石錐を転用したもの（第154図19）、両面加工で棒状のもの（第154図20）が出土している。

〔石匙〕両側辺に抉りを入れて作出したつまみ部を有するもの。3点出土しているが、完形品はない。つまみ部に対して刃部が歯長になる縦型石匙で、刃部には主に片面に二次加工が施される。

〔尖頭器〕二次加工により作出した尖頭部をもち、石鏃に比べ大型で厚く、基部に抉りのないものを尖頭器とした。2点出土しており、小型で三角形状のものと大型で木葉状のものがある。

〔楔形石器〕対向する縁辺に両極打法による剥離面（両極剥離痕）が認められるもので、5点出土している。対になる2辺1組に認められるものと2辺2組に認められるものがある。

〔打製石斧〕末端に刃部を有する打製の石器で、主に粗粒の石材を利用し、基部整形の二次加工がやや粗い。両面加工と片面加工（第154図26）のものがあり、平面形は短冊形または方形である。8点出土している。

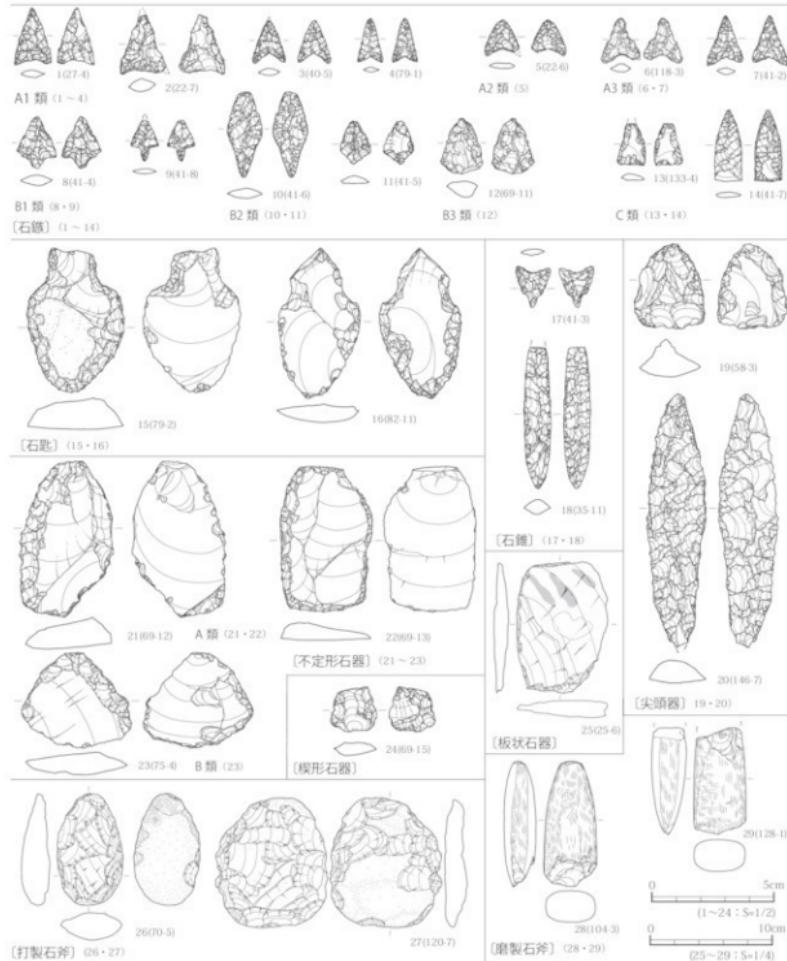
〔板状石器〕粘板岩の剥片の周縁に二次加工を施し、板状に成形したもの。平面形は不定形で、粗い二次加工により縁辺（刃部）を作出している。4点出土している。

〔磨製石斧〕末端に刃部を有する石器で、器体の全面を研磨して成形しているもので、3点出土している。側辺が刃部に向かってやや開くものとあまり開かないものがある。

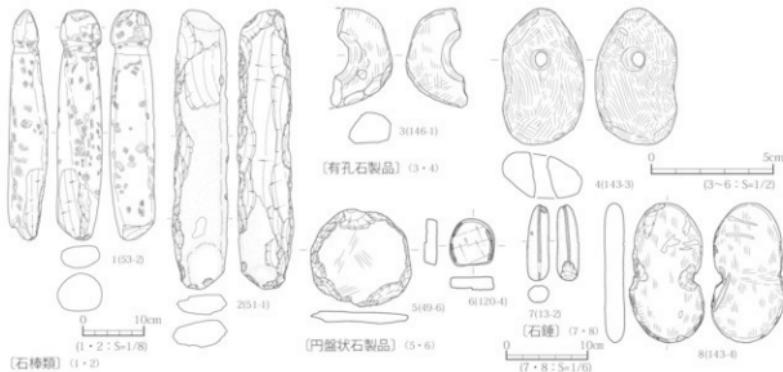
〔不定形石器〕二次加工が施された打製石器のなかで、上記の定形的な石器の定義に該当しないものを不定形石器として一括している。21点出土しており、スクレイバー・エッジ（バルブの発達し

第9表 石器・石製品出土点数表

全石器・石製品 (665)									
全石器 (644)									
全剥片石器 (339)									
剥片石器 (75)									
定形石器 (44)									
石鏟	石刀	石鋸	尖頭器	打製石斧	板狀石器	橢圓石器	不定形石器	剥片	チップ
28	3	3	2	8	4	6	21	256	6
剥片点数									2
石核	石磨	石鋸	尖頭器	打製石斧	板狀石器	橢圓石器	不定形石器	剥片	チップ
21	2	2	2	8	3	3	8	29	0
複合点数									0



第154図 石器分類図



第155図 石製品分類図

ない平坦地奥まで入る幅の狭い剥離が縁辺に重なって連続するもの (A類) (11点)、二次加工により尖頭部を作出しているもの (B類) (3点)、縁辺の一部に粗い二次加工がみられるもの (C類) (8点) がある。A類は縦長剥片を素材とし、主に長辺に二次加工が施されている。  
 〔磨凹敲石類〕 円窪、楕円窪、角窪などを素材とし、ほとんど加工されず磨面、敲打による凹み、敲打痕が認められるもので、179点出土している。磨面、凹み、敲打痕が単独で認められるもの、複合しているものがあり、これらの使用痕の組合せによって、磨石、磨凹石、磨敲石、磨凹敲石、凹石、敲石に分類した。

〔石皿〕 比較的扁平な素材を用い、平坦あるいは緩やかに凹む磨面をもつて、113点出土している。  
 脚付 (二脚) のものが1点ある (第13図4)。

〔砥石〕 滑状の凹み (磨面) を有するもので、10点出土している。

〔石棒類〕 剥離・敲打・研磨によって成形された棒状の石器で、7点出土している。半円形状の端部をもち全体を研磨したいわゆる石棒 (第155図1) と、扁平で長い蹠を素材とし、両側辺が粗い二次加工により直線的に成形された石刀 (第155図2) がある。

〔円盤状石製品〕 扁平な蹠の縁辺を剥片剥離、敲打、研磨等により円盤状に成形したもので、6点出土している。剥離や敲打等による成形は粗く、平面形は円形のものから多角形のものまである。

〔有孔石製品〕 扁平な蹠に貫通孔が穿たれているもので、3点出土している。楕円形の蹠を素材とするものと円形の蹠を素材とするものがあり、前者は上端部中央に貫通孔が穿たれ (第155図4)、後者は中央に貫通孔が穿たれている (第155図3)。

〔その他の石製品〕 石鍤が2点、容器状の石製品 (第118図5) が1点出土している。石鍤は蹠の一部に溝状の刻みや抉りを施すものである。第155図7は蹠の長軸方向に溝状の刻みが施されている。第155図8は、蹠の中央両側面に抉りを入れている。

## B. 石材

石器と石材の関係をみると、剥片石器には頁岩 (珪質頁岩・黒色頁岩)・珪化凝灰岩・磨製石斧に

は閃緑岩・ドレライト、礫石器には凝灰岩・砂岩が主に使用されている。

剥片石器及び石核の石材に注目すると、頁岩・珪化凝灰岩が圧倒的に多く、剥片・チップを含めてもこの傾向は変わらない。他の石材としては、黒曜石・碧玉がある。頁岩や珪化凝灰岩は剥片・チップが多数出土していることから、遺跡内で頁岩・珪化凝灰岩を素材とした石器製作が行われたと考えられる。

### C. 石器の出土状況

石器の出土状況をみると、土器と同様に大半が遺物包含層、竪穴建物跡、土坑から出土している。特徴的な出土状況としては、3区SB187掘立柱建物跡、4区SI63C竪穴建物跡の剥片集中が挙げられる。SB187では、北西隅柱穴から頁岩製の剥片が23点出土している。これらは2つの母岩からなるもので、一部の剥片には接合関係が認められる。SI63Cでは、主柱穴とみられるP12の検出面より数cm上の浅いくぼみから同一母岩とみられる碧玉製の剥片8点と頁岩製の剥片2点が出土している。これらの剥片集中は石器素材となる剥片を貯蔵したものと考えられる。いずれも建物に伴うとみられ、年代は中期末葉と考えられる。阿部勝則氏は岩手県内の剥片集中遺構を集成し、剥片は同一石材で頁岩やチャートが多いこと、住居内出土事例の8割が中期末葉を中心とする時期であることを指摘しており(阿部 2003)、本遺跡でも概ね同様の傾向が認められる。

#### ④動物遺存体

##### A. 試料の採取・抽出

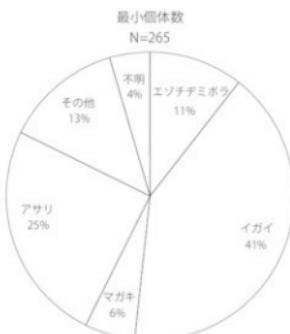
4区の丘陵西斜面にひろがるSX65遺物包含層には小規模な貝層が形成されていた。大型の貝類は調査時に目視で取り上げたほか、貝層土壤を土糞袋で9サンプル採取し、重量を計測した。土壤サンプルは最小1mmメッシュで水洗篩にかけ、4mm・2mm・1mmメッシュで試料を分離した。

上記の試料から、同定対象として貝類殻頂・魚骨・獸骨を抽出した。目視・4mm試料は全てを抽出対象としたが、2mm・1mm試料は、1つの土壤サンプルのみを抽出対象とした。その際、2mm試料は全量を対象としたが、1mm試料は1/3を対象とした。抽出点数は計578点で、ほぼ貝類で占められる。

##### B. 同定結果

貝類は不明を含めて21分類群を同定した(第10表)。主体となるのはイガイ・アサリである。個体数組成でみるとこれら2種で66%を占める(第156図)。イガイは2mm試料からも一定量検出されており、実際はより大きな比率を占める。マガキ・ウチムラサキ・オオノガイは大型の貝類で、試料中に破片が目立つ。イガイは70%以上で被熱し灰色化している。他の貝類では被熱はほとんど認められず特異な状況である。

魚類はクロダイの前上顎骨を検出した。1mm試料中にタイ類の脱落歯が含まれていたが、それ以外は破片も含め全く認められなかった。



第156図 SX65貝層の貝類組成

第10表 SX65貝層の動物遺存体出土状況

種	学名	部	試料	同定試料数		被熱数	被熱率	最小 個体数	生息地
				L	R				
<b>軟体動物門 Mollusca</b>									
多板綱 Polyplacophora									
ヒザムガイ									
腹足綱 Gastropoda									
イシナガガイ	<i>Monsonta labio</i>	殻面	日射・4mm	1	1	1	1	1	潮間帶の岩礁
スガイ	<i>Turbo cornutuscoreensis</i>	殻面	日射・4mm	3	3	3	3	1	潮間帶の岩礁
タマノミガイ	<i>Littorina brevicornis</i>	殻面	日射・4mm	6	6	6	6	1	潮間帶の岩礁
ワメガイ	<i>Glossaulax didyma</i>	殻面	日射・4mm	1	1	1	1	1	潮間帶の砂底
オカツヨウラクガイ	<i>Ocenebra inornata</i>	殻面	日射・4mm	1	1	1	1	1	潮間帶の岩礁
エゾナガミボラ	<i>Prenopurpura freycineti</i>	殻面	日射・4mm 2・1mm	27 1	27 1	2	0.07	27	潮間帶の岩礁
不明者A									
不明者B									
不明者C									
二枚貝綱 Bivalvia									
イガイ	<i>Mytilus coruscus</i>	殻面	日射・4mm 2・1mm	93 10	99 20	140	0.73	99	潮間帶の岩礁
ホタケガイ	<i>Patinopecten yesoensis</i>	殻面	日射・4mm	1	1	1	1	1	浅海の砂底
マキモ	<i>Crassostrea gigas</i>	殻面	日射・4mm	15	8	23	15	15	潮間帶の岩礁か砂裡底
ウナギサカ	<i>Saxidomus purpurata</i>	殻面	日射・4mm	7	5	12	7	7	潮間帶～浅海の砂裡底
ハマグリ	<i>Meretrix lusoria</i>	殻面	日射・4mm	2	1	3	2	2	潮間帶～浅海の砂泥底
オニナツリ	<i>Prontochacta jedensis</i>	殻面	日射・4mm	2	2	2	2	2	潮間帶～浅海の砂泥底
アサリ	<i>Ruditapes philippinarum</i>	殻面	日射・4mm 2・1mm	65 1	60 1	125	65	1	潮間帶～浅海の砂泥底
ミルクイ	<i>Tresus keenae</i>	殻面	日射・4mm	2	2	2	2	2	潮間帶～浅海の砂泥底
オオナツリ	<i>Mya arenaria ostosugi Makiyama</i>	殻面	日射・4mm	8	5	13	8	8	潮間帶の砂泥底
不明二枚貝A									
不明二枚貝B									
<b>節足動物門 Arthropoda</b>									
蟹脚綱 Maxillopoda									
フジツボ	<i>Balanomorpha spp.</i>	殻片	日射・4mm	111	111	7	0.06	-	潮間帶の岩礁
		殻片	2・1mm	2	2				
<b>脊椎動物門 Vertebrata</b>									
硬骨魚綱 Osteichthyes									
クロダイ	<i>Acanthopagrus schlegelii</i>	前上顎骨	日射・4mm	1	1	1	1	1	
チクイ		腹鰭面	2・1mm	10	10	-	-	-	
哺乳綱 Mammalia									
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	角片	日射・4mm	1	1	1	1	1	
大型鼠		四肢骨片	日射・4mm	1	1	-	-	-	
		計	212	170	196	578	160	267	

節足動物はフジツボ亜目を同定した。種は同定できていないが2種以上が含まれていると見られ、チシマフジツボやアカフジツボの可能性がある。

哺乳類はニホンジカの角骨片および同種クラスの四肢骨片をごく少量検出した。

### C.まとめ

貝層の規模が小さく、貝類以外がほとんど出土していないことから、短期間の採取・廃棄活動を反映したものと考えられる。出土した種はいずれも潮間帶の岩礁～砂底に生息するものであり、遺跡周辺の磯浜が採取場所であったと考えられる。イガイの被熱率が非常に高く、他の貝類とは異なった扱われ方をされていたと考えられる。

### (2) 遺構

#### ①堅穴建物跡

縄文時代の堅穴建物跡は、建て替えも含めてⅡ区で1棟(SI101)、Ⅳ区で15棟(SI61、SI62A・B・C、SI63A・B・C、SI67、SI69A・B、SI71、SI72A・B・C、SI73)検出している。

#### A.時期

炉埋設土器の特徴から、SI71が大木9式後半期、SI72Aが大木10式古段階、SI63C・SI72Cが大木10式古段階後半、SI69Bが大木10式新段階に位置づけられる。SI101の時期は床面及び堆積

土出土土器の特徴から後期中葉と考えられる。SI61・SI62C・SI67の時期は堆積土から大木10式古段階後半の土器が出土していることから、大木10式古段階後半かそれ以前と考えられる。SI62A・SI62B、SI63A・SI63B、SI69A、SI72Bの時期は、建て替え後の建物跡の時期から、SI62A・SI62B・SI63A・SI63B・SI72Bは大木10式古段階後半かそれ以前、SI69Aは大木10式新段階かそれ以前に位置づけられる。SI73は時期が特定できる遺物は出土していないが、4区の他の竪穴建物跡の時期や炉の形態から大木9～10式期と考えられる。

## B. 特徴

SI101では炉、SI101を除く15棟では主柱穴、周溝、炉跡が認められる。

〔平面形・規模〕 平面形はいずれも円形を基調とする。規模は直径3.2～5.2m程度で、3.5m未溝のものが3棟、4～4.5m程度のものが8棟、5m程度のものが5棟ある。

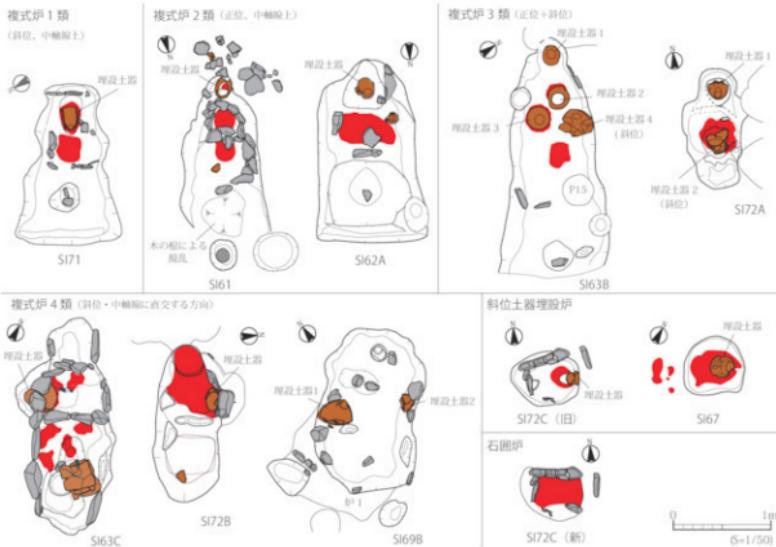
〔主柱〕 3本(SI62B・C)、4本(SI61、SI63A・B・C、SI71)、5本(SI69B、SI72A・B・C)で構成されるものがあり、外縁(SI63C、SI69Bなど)や複式炉掘り込み部の両脇(SI63B、SI73)に補助的な柱穴が付設される場合がある。柱構成をみると、複式炉を伴うものでは炉の長軸方向を対称軸とした配置になっているとみることができる。また、建物をほぼ同位置で建て替える場合、主柱の数が変わらない傾向が認められる(SI62B・C、SI63A・B・C、SI72A・B・C)。主柱の数と平面規模には特に相関関係は認められない。

〔炉〕 複式炉13基、土器埋設炉2基、石壠炉1基、地床炉1基がある。大木9～10式期は複式炉、土器埋設炉、石壠炉と多様な構造の炉が認められ、後期中葉(SI101)は地床炉に限られる。

複式炉は全体の構造がおおよそわかるものが9基あり、いずれも埋設土器を伴う。これらを埋設土器を中心に分類すると、炉の中軸線上に土器を斜位に据える1類(SI71)、炉の中軸線上に土器を正位に据える2類(SI61・SI62C・SI62A)、複数の土器を正位と斜位に据える3類(SI63B、SI72A)、炉の中軸線に直交する方向に土器を斜位に据える4類(SI63C、SI69B、SI72B)の4つに大別できる(第157図)。土器埋設炉はいずれも斜位の埋設土器を伴うもので、掘り込みの周間に石組を伴うもの(SI72C旧炉)と伴わないもの(SI67)がある。石壠炉は斜位土器埋設石壠炉を改修したもの(SI72C新炉)と複式炉4類に伴う副炉と考えられるもの(SI72B副4)がある。

第11表 竪穴建物跡属性表

遺構	最高径 (m)	形状	主柱穴	周溝	炉の方向	炉の構造	炉の形狀	炉の規模 (長軸(m) × 短軸(m))	埋設土器		時期
									方向	位置	
SI61	4.1	円形	4(5)	あり	N47°E	複式炉(2個)	鉄錐形	17 × 11	正位	中軸線上	大木10式古段階後半以前
SI62A	4.3	円形	3°	あり	N27°E	複式炉(2個)	鉄錐形	17 × 11	正位	中軸線上	大木10式古段階後半以前
SI62B	4.3	円形	3	あり	N27°E	複式炉	鉄錐形	18 × 0.7以上	-	-	大木10式古段階後半以前
SI62C	5.2	円形	3	あり	N47°W	複式炉(2個)	鉄錐形	24 × 13	正位	中軸線上	大木10式古段階後半以前
SI63A	4.4	円形	4	あり	N16°E	複式炉	鉄錐形	20 × 11	-	-	大木10式古段階後半以前
SI63B	4.7	円形	4	あり	N58°W	複式炉(2個)	鉄錐形	25 × 11	正位2° 斜位1°	中軸線上(2) 斜位1	大木10式古段階後半以前
SI63C	5.0	円形	4	あり	N26°W	複式炉(4個)	ダム形	22 × 1.0	斜位	中軸線上に直交(左右)	大木10式古段階後半
SI67	3.2	円形	?	あり	N57°E	土器埋設炉	円形	0.7	正位	中心	大木10式古段階後半以前
SI69A	4.9±0.1	円形	5*	あり	N28°E	複式炉	円形	1.0±0.1 × 0.7	-	-	大木10式新段階以前
SI69B	4.9±0.1	円形	5	あり	N44°E	複式炉(4個)	鉄錐形	1.7	斜位2°	中軸線上に直交(左右)	大木10式新段階
SI71	4.2	円形	4	あり	N58°W	複式炉(4個)	鉄錐形	17 × 11	斜位	中軸線上	大木10式新段階
SI72A	3.4	円形	5	あり	N27°E	複式炉(2個)	ダム形	12 × 0.7	正位+斜位	中軸線上(2)	大木10式古段階後半以前
SI72B	4.1	円形	5	あり	N54°W	複式炉(4個)	ダム形	16 × 0.9	正位	中軸線上に直交(右)	大木10式古段階後半以前
SI72C	3.8±0.1	円形	5	あり	N27°E	土器埋設炉	鉄錐形	0.7 × 0.6	正位	中心	大木10式古段階後半
SI73	5.2	円形	4°	あり	N47°E	複式炉	ダム形	0.8 × 0.5	-	-	大木10式古段階後半以前
SI101	3.5	円形	なし?	なし	-	地床炉	円形	0.6	-	-	後期中葉



第 157 図 中期後葉～末葉の堅穴建物跡に伴う炉

これらの炉の時期をみると、大木 9 式後半期：複式炉 1類、大木 10 式古段階前半：(複式炉 2類)、大木 10 式古段階後半：複式炉 2類・3類・4類・斜位土器埋設炉・石窯炉、大木 10 式新段階：複式炉 4類となる。また、大木 10 式古段階後半に位置づけられる炉のうち、SI63B・C では複式炉 3類→4類、SI72A・B・C では複式炉 3類→4類→斜位土器埋設石窯炉→石窯炉への造り替えが認められる。

複式炉の類例をみると、1類で土器埋設部に方形の石組を伴う炉は、田柄貝塚第2住居跡（第158図1）（宮城県教育委員会1986）、岩手県下閉伊郡山田町沢田I遺跡RA197住居跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000a）があり、いづれも大木9式に位置づけられる。2類で土器埋設部に石組を伴う複式炉の類例は、岩手県北上市柳上遺跡G22住居跡（第158図2）・D24住居跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1994）、上野平遺跡RA03C住居跡（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000b）などがあり、大木9式～10式古段階後半に位置づけられる。3類で斜位埋設土器が竪穴の中軸線に直交する方向に据えられるもの（SI63B）の類例は、仙台市沼遺跡第6号堅穴住居跡（仙台市教育委員会1992）、涌谷町長根貝塚第1号堅穴住居跡（宮城県教育委員会1969）、女川町内山遺跡SI66B堅穴建物跡（女川町教育委員会2017）、岩手県花巻市高畑遺跡GD03住居跡（第158図3）（岩手県教育委員会1980）、斜位埋設土器が竪穴の中軸線上に据えられるもの（SI72A）の類例は、観音堂遺跡第24号住居跡1号炉（第158図4）・第7号住居跡（大迫町教育委員会1986）などがあり、大木10式古段階後半～新段階に位置づけられる。4類で



第 158 図 複式窯の類型

土器埋設部に石組を伴う炉の類例は、貝畠貝塚 19 号住居跡（陸前高田市教育委員会 1985a）、長谷堂貝塚 RA62 竪穴住居跡（第 158 図 6）（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004）、館 IV 遺跡 IC-14 住居跡（第 158 図 5）（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993）などがあり、大木 10 式古段階後半～新段階に位置づけられる。また、千葉直樹氏は斜位土器埋設複式炉の構築された時期や地域について検討しており、岩手県南部から宮城県北部の北上川下流域では斜位土器埋設炉（複式炉 4 類）が大木 10 式古段階後半に主要な炉の形態として確立し、大木 10 式新段階まで主体的に構築されることを指摘しており（千葉 2005）、本遺跡でも同様の傾向が認められる。

## ②掘立柱建物跡

3 区北で 1 棟、4 区北で 3 棟検出しており、4 本柱のものが 2 棟（SB244・245）、6 本柱のものが 2 棟（SB187・243）ある。6 本柱のものには東西に棟持柱（張出し）をもつ東西棟掘立柱建物跡（SB243）、東西 1 間、南北 2 間の南北棟側柱建物跡がある。いずれも年代が特定できる土器は出土していない。SB245 は大木 10 式新段階に位置づけられる土器が出土している SK242 土坑より古いことから、大木 10 式新段階以前に位置づけられる。また、SB243 のような六角形（亀甲形）の建物は山元町谷原

第 12 表 掘立柱建物跡属性表

遺構	位置	構成 柱数	平面形	棟持柱	規模 東西 / 南北	棟方向	延長(m) / 測定柱列 / 柱間寸法(m)		方向	柱穴の 平面規模(cm)	備考		
							東西	南北					
SB187	3区北	6	四角形	なし	1間	2間	南北棟	27	北	27	4.3 東	21-22	N57°E 32-60 SB187→SK166
SB243	4区北	6	六角形 あり(東西)	なし	1間	1間	東西棟	21	北	21	2.1 西	21	N82°W 28-50
SB244	4区北	4	四角形	なし	1間	1間	-	1.6	北	1.6	2.3 東	23	N3°W 34-40 SB245→SK242
SB245	4区北	4	四角形	なし	1間	1間	-	2.2	南	2.2	2.2 東	22	N24°W 29-35

遺跡（山元町教育委員会 2016）、柳上遺跡（岩手県文化振興事業団 1994）などに類例があり、これらは中期末葉～後期前葉に位置づけられている。

### ③竪穴状遺構

3 区南で 1 基 (SX152)、4 区北で 2 基 (SX70・87) 検出している。SX152 は中央に地床炉を 1 基、SX70・87 は柱穴を各 1 基伴う。SX70・SX87 は東側が削平されているが、竪穴建物跡の一部の可能性が考えられる。SX70 は床面出土遺物から大木 9 式期に位置づけられ、SX70 を切る SX87 は大木 9 式以降に位置づけられる。SX152 は年代が特定できる遺物が出土していないため、時期は不明である。

### ④土坑

出土遺物や堆積土の特徴から縄文時代と考えられる土坑は、1 区で 22 基、3 区で 10 基、4 区で 42 基、5 区で 6 基検出している。

1 区・4 区では、平面形が最大径 1.1 ~ 2.1m の円形状、断面形がフラスコ状や逆台形となる形態の貯蔵穴と考えられる土坑を 29 基検出している。これらのうち 16 基 (SK03 ~ 08) が 1 区東、12 基 (SK52・53・55 ~ 57) が 4 区南に位置し、群集して分布する傾向がみられる。これらの土坑の時期は、機能時のものと考えられる土器がないため堆積土出土土器から年代を推定すると、SK01 が中期後葉、SK57・SK58 が中期末葉、SK02 が中期末葉～後期初頭、SK12・15・24・25・29・76・82 が後期初頭、SK21・22・59・75・79 が後期前葉に相当すると考えられる。また、遺物が出土していない 12 基の年代については、周辺の特徴が類似する土坑の時期から、中期後葉～後期前葉頃と推定できる。これらの土坑には底面にピット（小穴）もつものが 21 基あり、中央にピットを 1 個もつ A 類が 13 基、壁寄りにピットを 1 または 2 個もつ B 類が 6 基、中央と壁寄りにピットを複数もつ C 類が 2 基ある。1 区東では A 類 4 基、B 類 6 基、C 類 2 基 (SK07・24) が認められ、4 区南のものはいずれも A 類である。当該期の類例としては、気仙沼市高谷遺跡（気仙沼市教育委員会 2017）、仙台市山田上ノ台遺跡（仙台市教育委員会 1987）、岩沼市北原遺跡（宮城県教育委員会 1993）などがあり、貯蔵穴として利用されたと考えられている。また、貯蔵穴と考えられる土坑には、堆積土中に炭化物や焼土を含む廃棄土層がみられるものがあり (SK15・21・24・25・29・35・79・99)、これらは貯蔵穴の機能を果たさなくなった後に、ごみ捨て穴として再利用されたと考えられる。

5 区では、長軸 2m 以上、短軸 0.6 ~ 0.8m の長楕円形で、長軸方向の断面形がフラスコ状、短軸方向の断面形が V 字形の土坑を 4 基 (SK301・302・303・322) 検出している。いずれも丘陵の北から入る沢の底部に位置し、土坑の長軸方向は沢筋に直交する。これらは沢筋に沿って直線的に配置された縄文時代の落し穴と考えられる。土坑から遺物が出土していないため時期は特定できないが、丘陵部に集落が存続する中期後葉～後期中葉頃の可能性が高いと考えられる。

その他の土坑について、堆積土から出土した土器から時期を推定すると、3 区 SK166 が中期末葉～後期初頭、4 区 SK85・202 が後期前葉、3 区 SK156・158・154 が晚期後葉～末葉に相当すると考えられる。

### ⑤遺物包含層・貝層

4区北の丘陵西斜面際でSX65を検出している。1層は土器・石器の出土量が多く、特に3ヶ所の遺物集中で土器・石器がまとめて出土しており、廃棄された状況が保たれている。2層は貝類が主体の小規模な貝層、3層は地山漸移層で、2・3層からは土器・石器は少量しか出土していない。1層の年代は、主体を占める2群土器の年代から大木9式と考えられる。2層（貝層）は1層底面の遺物集中1に近接して分布しており、出土した地文のみの小破片が1層出土の土器と差異がみられないことから、2層の年代は大木9式と考えられる。SX65とその下方の丘陵西斜面は、大木9式期には居住域に隣接する捨て場になっていたとみられる。

### (3) 遺構の変遷

前項で検討した各遺構の年代は、中期後葉（2群）、中期末葉（3群）、後期初頭（4群）、後期前葉（5群）、後期中葉（6群）、晩期後葉～末葉（7群）に分けられる。主な遺構の時期と重複関係を第13表に示した。

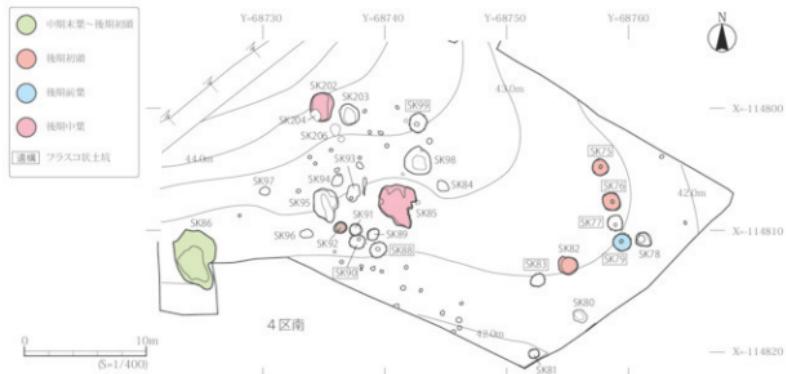
中期後葉には、1区東の貯蔵穴と考えられる土坑1基（SK01）、4区北のSX65遺物包含層・貝層、SI71堅穴建物跡、SX70堅穴状遺構が該当する。中期後葉には丘陵上に集落が営まれ始め、丘陵平坦面の北西奥（4区北）が居住域、北西奥の西斜面が捨て場、丘陵平坦面の南東部（1区東）が貯蔵域として利用されたと考えられる。

中期末葉には、1区東の貯蔵穴と考えられる土坑2基（SK57・58）、4区北の堅穴建物跡15棟、掘立柱建物跡1棟、土坑1基（SK242）が該当する。中期後葉から継続して4区北が居住域、1区東が貯蔵域として利用されたと考えられる。同時期に存在した堅穴建物跡は、遺構の重複関係や出土遺

第13表 繩文時代の主な遺構の時期と重複関係

	1区	2区	3区	4区
中期後葉	SK01		SX65 SI70 SI71	
中期末葉	SK57 SK58		SI63A SI63B SI63C SI72A SI72B SI72C SI69A SI69B	SI73 SI62A SI62B SI62C SK242 SB245
後期初頭	SK02 SK25 SK12 SK15 SK24 SK29	SK166	SB187	SK86 SK76 SK82 SB243 SB244
後期前葉	SK59 SK22 SK21			SK75 SK79 SK85 SK202
後期中葉		SI101		
晩期後葉～末葉			SK156 SK164 SK158	

〔主な時期決定の根拠〕  墓設土器・床面出土土器  堆積土出土土器  重複関係など



第 159 図 4 区の遺構変遷図

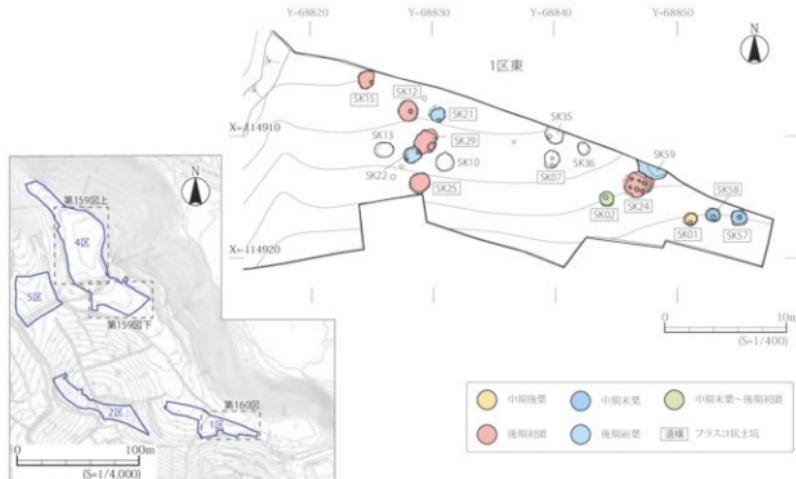
物の特徴から、最大で4～5棟と考えられる。堅穴建物跡に伴う炉をみると、複式炉（正位・斜位土器埋設）、単式斜位土器埋設炉、石囲炉があり、形態に多様性がある。

後期初頭には、1区東に貯蔵穴と考えられる土坑5基（SK12・15・24・25・29）、4区南の貯蔵穴と考えられる土坑2基（SK76・82）が該当する。1区東は継続して貯蔵域として利用されており、4区南は当該期（または中期末葉）から貯蔵域として利用されたと考えられる。

後期前葉には、1区東の貯蔵穴と考えられる土坑3基（SK21・22・59）、4区南の貯蔵穴と考えられる土坑4基が該当する。1区東と4区南が貯蔵域として利用されたと考えられる。1区東は中期後葉から後期前葉の前半期（5群A類）、4区南は後期初頭から後期前葉の後半期（5群B類）にかけて貯蔵域となっている（第159・160図）。4区北には中期末葉～後期前葉の可能性がある掘立柱建物跡が2棟あるものの、中期後葉～末葉に存在した堅穴建物跡はみられなくなる。

後期中葉には、2区東の堅穴建物跡1棟（SI101）が該当する。平成28年度に実施された復興事業に伴う調査では、2区の北側にあたる丘陵南斜面で後期前葉～中葉の土器・石器を多量に含む遺物包含層が発見されている（気仙沼市教育委員会 2016）。丘陵中央部の南緩斜面から裾部に後期中葉の小規模な集落が展開したとみられる。

晚期後葉～末葉には、3区の土坑3基（SK156・158・164）が該当する。遺物の出土量が少なく、土坑の機能も不明確であるため、集落の様相は不明である。



第160図 1区東の遺構変遷図

## 2. 古代以降

### (1) 平安時代の遺構と遺物

2区東の谷部に近い緩斜面で堅穴建物跡（SI105）が1棟検出されている。遺物は床面直上で土師器壺、土師器壺、堆積土下部で土師器壺が出土している。土師器壺（第37図2・3）はロクロ調整で、体部から口縁部にかけてやや内湾ぎみに立ち上がり、口径は外傾する。底部の切り離しは回転糸切りで、再調整は施されていない。内面はヘラミガキ・黒色処理が施されている。土師器壺はロクロ調整で、口縁部から体下部にかけて残存しており、口径は22.0cm、残存高さ16.5cmである。口縁部はく字形に外径し、口縁端部は上方につまみ上げられており、最大径が口径に位置する。体上部がやや膨らみ、やや寸胴形となる。器表面の残存状況が悪いが、器面調整は主に、外面ではロクロ調整の後に体部下半にヘラケズりが施され、内面ではヘラナデの再調整が施されているとみられる。

土師器の壺の類例としては、陸前高田市友沼Ⅲ遺跡3・4号住居跡出土土器（陸前高田市教育委員会 1990）・小泉遺跡出土土器（八木 2004）などがある。これらの土器は9世紀中頃～後葉に位置づけられていることから、SI105出土土器の年代は9世紀中頃～後葉と考えられる。これらの土器は床面出土遺物ではないが、SI105の周辺では当該期の土器は出土していないことから、SI105の年代についても9世紀中頃～後葉と考えられる。

SI105の中央で炉を確認している。炉底と炉体の一部が残存しており、炉本体は馬蹄形である。平成28年度に実施した調査では、2区の北側にあたる丘陵裾部で平安時代の鍛冶炉を伴う堅穴建物跡2棟や鍛冶関連遺物が発見されている（気仙沼市教育委員会 2016）。SI105から鍛冶関連遺物は出土していないが、鍛冶炉であった可能性が考えられる。

### (2) その他の遺構と遺物

平安時代より新しい時期の遺構としては、中世陶器が出土した3区SK154土坑のほか、2区の金の採掘に関わるとみられるSX107遺構、4区北の江戸時代以降の墓跡38基、炭窯跡1基がある。また、2区のSX106自然流路跡の堆積土からは、縄文土器・石器や須恵器壺のほか、中世陶器、羽口・鉄滓、炉壁が出土している。羽口・鉄滓、炉壁については年代は特定できないが、鍛冶炉を伴う可能性があるSI105と近接していることや平成28年度調査調査の成果から、平安時代の可能性が考えられる。

## 3.まとめ

台の下遺跡は、広田湾を望む丘陵上に立地している。遺跡の時期は縄文時代前期～晚期、平安時代、中世、江戸時代以降に分けられるが、主体は縄文時代中期後葉から後期前葉である。以下、要点をまとめる。

- ・検出した遺構は、縄文時代の堅穴建物跡16棟、掘立柱建物跡4棟、堅穴状造構3基、焼土遺構1基、貯蔵穴と考えられる土坑28基や落し穴と考えられる土坑4基を含む土坑80基、遺物包含層・貝層1ヶ所、平安時代の堅穴建物跡1棟、中世の土坑1基、江戸時代以降の炭窯跡1基、墓跡38基などである。
- ・出土した遺物は、縄文土器・土製品（三角墳形土製品・斧状土製品など）、石器（打製石器、磨製石器、

縄石器)、石製品、動物遺存体、平安時代の土師器(墨書き土器)、中世陶器、江戸時代以降の古錢、煙管である。このうち縄文時代中期後葉～後期前葉の縄文土器・石器が主体を占める。

- ・縄文時代中期後葉～後期中葉に堅穴建物跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴と考えられる土坑、捨て場などで構成される集落が存在したことがわかった。
- ・縄文時代中期後葉～末葉の堅穴建物跡の炉は、複式炉(正位・斜位土器埋設)、単式斜位土器埋設炉、石閉炉があり、炉の形態に多様性が認められる。
- ・縄文時代中期後葉の小規模な貝層があり、遺跡周辺の磯浜で短期間のうちに採取したと考えられる貝類が発見されている。
- ・平安時代の堅穴建物跡1棟を検出しており、墨書き土器を含むロクロ調整の土師器が出土している。中央で検出された炉は、鍛冶炉の可能性が考えられる。

#### 引用文献

- 相原淳一 2005 「宮城県における複式炉と集落の様相」『日本考古学協会 2005年度福島大会シンポジウム資料集』 pp.97-116
- 阿彌賀則 2003 「岩手県における縄文時代中期の洞窟集中造構について」『紀要』XX II .pp.1-16. 岩手県文化振興事業団理義文化財センター
- 阿彌賀則 2004 「縄文時代中期の三角彫形石製品・三角彫形石製品について」岩手県出土事例の統計』『紀要』XX III .pp.23-40. 岩手県文化振興事業団理義文化財センター
- 伊東信雄 1957 「古代史」『宮城県史』宮城県史刊行会
- 伊東信雄・須藤隆 1985 「山田川道路調査記録」宮城県一町道教育委員会
- 橋本晃嗣 2008 「前田式土器」『佐原縄文土器』pp.536-543
- 今井富士雄・磯崎正彦 1968 「十勝内道路」『岩木山』pp.316-388
- 岩手県教育委員会 1980 「東北新幹線開闢理義文化財調査報告書V」(酒ノ果館道路、高畠道路、白沢道路) 岩手県文化財調査報告書第49集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 1993 「館IV道跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第187集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 1994 「館上道跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第213集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 1996 「牧田貝塚発掘調査報告書」県営ふるさと農道緊急整備事業関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第241集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 2000a 「伊田I道跡調査報告書」三陸自動車道(山田道路)関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第318集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 2000b 「土野平道路発掘調査報告書」緊急地方道路藤沢・津谷川線整備事業関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第333集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 2002 「清水道路発掘調査報告書」一般県道芦衣川線緊急地方整備事業関連調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第382集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 2004 「長谷堂貝塚発掘調査報告書」県営長谷堂アパート建設事業関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第434集
- 岩手県文化振興事業団理義文化財センター 2006 「松山前道路発掘調査報告書」大船渡広田隣前高田線緊急地方道路整備事業関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第484集
- 岩手県文化振興事業団 2017 「西と野I道跡発掘調査報告書」土地地区整理事業高台IV関連道路発掘調査 岩手県文化振興事業団理義文化財調査報告書第669集
- 岩手県理義文化財センター 1984 「川内道路発掘調査報告書」気仙沼地区からかいで排水事業関連道路発掘調査 岩手県理義文化財センター文化財調査報告書第82集
- 大河内町教育委員会 1986 「般音堂道路-第1次～6次発掘調査報告書」大迫町理義文化財調査報告書第11集
- 女川町教育委員会 2017 「内山道路-女川町東日本震災復興事業関連道路調査報告書I-」女川町文化財調査報告書第6集
- 加藤孝・後藤勝彦 1975 「登米郡南方町青貝塚発掘調査報告書」『南方町史』資料編 南方町史編纂委員会
- 北上市教育委員会 1986 「九年橋道路発掘調査報告書」北上市文化財調査報告書第42集
- 熊谷常正 1986 「門前式土器の横討」岩手県立博物館研究紀要第4 pp.39-61
- 気仙沼市教育委員会 2013 「I. 気仙沼市震災発生地跡」平成25年度宮城県道路調査会発表会発表要旨』pp.1-5
- 気仙沼市教育委員会 2016 「資料発表2. 気仙沼市台下道路」平成28年度宮城県道路調査会発表会発表要旨』pp.61-64
- 気仙沼市教育委員会 2017 「気仙沼市震災復興事業関連道路発掘調査報告書I 平成24年度東日本震災復興交付金理義文化財発掘調査事業に伴う個人住宅I関連道路発掘調査」気仙沼市文化財調査報告書第10集
- 小牛田町教育委員会 1976 「山前道路」
- 後藤勝彦 2004 「南境貝塚調査の層位の成果I - 7トレンチの場合-」『宮城考古学』第6号 宮城県考古学会
- 後藤勝彦 2005 「南境貝塚調査の層位の成果II - 8トレンチの場合-」『宮城史学』第24号 宮城教育大学歴史研究会

- 胸本野智寛 2004 「模式的分析の研究－岩手県における後式歩道の地域別分布傾向とその分析－」『紀要』XXIII, pp.41-60. 〔前田市文化振興事業団編文化財セミナー〕
- 胸本野智寛 2005 「模式的分析の地域的諸相」岩手『日本考古学協会 2005年度福島大会シンポジウム資料集』pp.65-80
- 佐々木正彦 2004 「小泉遺跡と出土遺物」〔前田市立博物館紀要〕第9号, pp.1-30
- 志村泰治・桑月輝 1991 「宝くじ票」財政收入収録報告会編
- 白鳥一也 1974 「仙台市三洋茶道路の調査」〔北北の考古学・歴史論集〕平成道先生還暦記念会
- 菅原智文 2007 「東北地方中期鐵文化における地域性の研究－宮城県登米市浅貝塚出土土器の分析を中心として－」『考古学特集』pp.213-237. 須藤謙一著任記念文集刊行会編
- 鈴木克彦 2004 「門前土器様式の偏年学的研究」考古学雑誌 88巻4号, pp.25-34
- 須藤謙一 2007 「前田本紀文、弘生時代集落の発展と地域性」
- 仙台市教育委員会 1980 「三神峯道路」仙台市文化財調査報告書第25集
- 仙台市教育委員会 1987 「山田上ノ古道跡－昭和53年度発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第100集
- 仙台市教育委員会 1992 「福井道跡－仙台市上岡地区の古墳整理事業関係調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第166集
- 仙台市教育委員会 1995a 「高柳遺跡－高柳道跡発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第190集
- 仙台市教育委員会 1995b 「伊古田遺跡－仙台市高速鉄道開通調査報告書Ⅲ－」仙台市文化財調査報告書第193集
- 仙台市教育委員会 2000 「三ノ塚道跡」仙台市文化財調査報告書第249集
- 仙台市教育委員会 2010 「上野道跡第6・7・8次発掘調査－都市計画道路「富沢山田線」開通道路発掘調査報告書－」仙台市文化財調査報告書第365集
- 千葉樹樹 2005 「北北地方における斜化土器埋設技術」〔宮城考古学〕第7号, pp.115-136. 宮城県考古学会
- 荒町教育委員会 2005 「銀沢道路 ふるさと農道緊急整備事業に係る町道木ノ2号橋改良工事に伴う発掘調査報告書」荒町文化財調査報告書第18集
- 道立教育委員会 2005 「段戸道路」道立文化財調査報告書第4集
- 曳尾光元 2014 「前の前貝塚」「発見された日本貝塚」2014年4月7日 朝日新聞出版
- 松島町教育委員会 2008 「西の浜貝塚」松島町文化財調査報告書第1集
- 宮城県教育委員会 1969 「宮城文化財緊急発掘調査概報－長沢貝塚－」宮城県文化財調査報告書第19集
- 宮城県教育委員会 1978 「上栗沢道路－北東自動車道関係道路調査報告書1」宮城県文化財調査報告書第52集
- 宮城県教育委員会 1980 「道戸道路」宮城県文化財調査報告書第68集
- 宮城県教育委員会 1982 「青木畠遺跡」東北自動車道遺跡調査報告書VI-1 宮城県文化財調査報告書第83集
- 宮城県教育委員会 1984 「北北自動車道調査報告書VII-1 宮城県文化財調査報告書第99集
- 宮城県教育委員会 1986 「田柄貝塚I 造跡・土器縫・氣仙沼ハイウェイ関係道路発掘調査報告書」宮城県文化財調査報告書第111集
- 宮城県教育委員会 1988 「大栗川遺跡・小栗川遺跡・石器縫・レッドダム開通道路発掘調査報告書IV」宮城県文化財調査報告書126集
- 宮城県教育委員会 1993 「北岸遺跡」宮城県文化財調査報告書第159集
- 宮城県教育委員会 2007 「田山の道跡はか（横代時代編）－三陸県真賀車道建設関連遺跡調査報告書VII－」宮城県文化財調査報告書第214集
- 宮城県教育委員会 2010a 「黒岩の道跡」宮城県文化財調査報告書第222集
- 宮城県教育委員会 2010b 「北小松遺跡はか－一尻田西部地区は場整備事業に係る平成19年度発掘調査報告書－」宮城県文化財調査報告書第223集
- 宮城県教育委員会 2014 「北北松道路－一尻田西部地区は場整備事業に係る平成21年度発掘調査報告書－」宮城県文化財調査報告書第234集
- 村木志伸 2004 「小泉遺跡の黒石土器」〔前田市立博物館紀要〕第9号, pp.43-58
- 八木光則 2004 「小泉遺跡出土土器の編年式」〔前田市立博物館紀要〕第9号, pp.31-42
- 山元町教育委員会 2016 「谷坂道路2－常磐自動車道（県境～山元間）建設工事に係る発掘調査報告書」山元町文化財調査報告書第13集
- 前前高田市教育委員会 1974 「門前貝塚発掘調査概要」
- 前前高田市教育委員会 1979 「大陽台貝塚」
- 前前高田市教育委員会 1985a 「貝塚貝塚発掘調査概報」〔前前高田市文化財報告書第8集〕
- 前前高田市教育委員会 1985b 「中津貝塚発掘調査概報！」〔前前高田市文化財報告書第9集〕
- 前前高田市教育委員会 1988 「中津貝塚発掘調査概報III」〔前前高田市文化財報告書第11集〕
- 前前高田市教育委員会 1988 「中津貝塚発掘調査概報IV」〔前前高田市文化財報告書第12集〕
- 前前高田市教育委員会 1990 「古沼Ⅱ遺跡」〔前前高田市文化財報告書第14集〕
- 前前高田市教育委員会 1992 「門前貝塚－堤成広田半鳥跡の改修に伴う緊急発掘－」〔前前高田市文化財調査報告書第16集〕
- 前前高田市教育委員会 1994 「史跡中津貝塚」〔前前高田市文化財調査報告書第17集〕
- 前前高田市教育委員会 1997 「前の前貝塚発掘調査報告書I－西浦貝塚道緊急整備事業農道久立山線改工事－」〔前前高田市文化財調査報告書第18集〕
- 前前高田市教育委員会 1998 「中津貝塚発掘調査報告書II」〔前前高田市文化財調査報告書第19集〕
- 前前高田市教育委員会 1999a 「前前高田市内道路発掘調査報告書1 中沢貝塚」〔前前高田市文化財調査報告書第20集〕
- 前前高田市教育委員会 1999b 「前の前貝塚発掘調査報告書II」〔前前高田市文化財調査報告書第21集〕
- 前前高田市教育委員会 2000 「〔前前高田市内道路発掘調査報告書1－中沢貝塚－〕〔前前高田市文化財調査報告書第22集〕
- 前前高田市教育委員会 2001 「〔前前高田市内道路発掘調査報告書3 中沢貝塚発掘調査報告書－平成9年度発掘－骨角器・自然物編－」〔前前高田市文化財調査報告書第23集〕
- 前前高田市教育委員会 2003 「〔川内道路発掘調査報告書〕〔前前高田市文化財調査報告書第25集〕
- 前前高田市教育委員会 2007 「〔前前高田市内道路発掘調査報告書〕〔前前高田市文化財調査報告書第27集〕
- 前前高田市教育委員会 2010 「袖野I遺跡」〔前前高田市文化財調査報告書第28集〕
- 前前高田市教育委員会 2015 「花鮑跡発掘調査報告書 土地造成事業関連道路発掘調査」岩手県文化振興事業団編文化財調査報告書第638集
- 前前高田市教育委員会 2017 「中沢道路発掘調査報告書 防災復旧移転促進事業泊地川開道路発掘調査」〔前前高田市文化財調査報告書第32集〕

# 写 真 図 版



1. 台の下遺跡遠景（南東から）



2. 調査地点全景（南東から）

写真図版 1



1. 1区東側（西から）



2. 1区東側（東から）



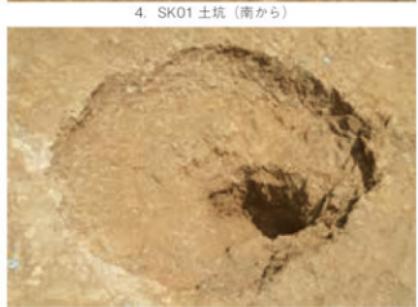
3. 1区東側土坑群（北西から）



4. SK01 土坑（南から）



5. SK57 土坑（南西から）



6. SK58 土坑（南から）



7. SK02 土坑（南西から）

写真図版 2



1. SK24・59 土坑（北から）



2. SK24 土坑遺物出土状況（南から）



3. SK24 土坑（南から）



4. SK07 土坑（北東から）



5. SK35 土坑（南東から）



6. SK35 土坑遺物出土状況（西から）



7. SK09・10 土坑断面（東から）



8. SK25 土坑遺物出土状況（東から）

写真図版 3



1. SK21・22 土坑（南西から）



2. SK21 土坑遺物出土状況（南西から）



3. SK21 土坑（北から）



4. SK21 土坑（北東から）



5. SK21 土坑断面（北東から）



6. SK15 土坑遺物出土状況（南東から）



7. SK15 土坑（南西から）



8. 1区西侧（東から）

写真図版 4



1. 2区全景（南東から）



2. SI101 積穴建物跡（南から）



3. SI101 床面遺物出土状況（南から）



4. SI105 積穴建物跡（南西から）



5. SI105 炉跡と土器模出状況（南西から）



6. SI105 炉跡（南西から）



7. SI105 土器出土状況（南西から）

写真図版 5



1. 2区全景（北西から）



2. SX106 自然流路跡（北西から）



3. SX106 №1・№2 サブトレンチ（南東から）



4. SX106 №3 サブトレンチ断面（南東から）



5. 3区全景（南西から）



6. 3区全景（南東から）



7. 3区全景（北西から）



8. SK154 土坑（南西から）

写真図版 6



1. SX152 穴状遺構（北から）



2. SX152 炉跡（西から）



3. SK155 土坑（南東から）



4. SK155 土坑断面（北から）



5. SK156・165 土坑（南から）



6. SK157・158 土坑断面（東から）



7. SK159 土坑（東から）



8. SK160 土坑断面（南から）

写真図版 7



1. SK164 土坑（北から）



2. SK167 土坑（西から）



3. SK169 土坑（東から）



4. SD151 溝跡（西から）



5. SK166 土坑（北東から）



6. SB187 捜立柱建物跡（北東から）



7. SB187 北西隅柱穴断面（北から）



8. SB187 南西隅柱穴断面（北から）

写真図版 8



1. 4区・5区遺跡（西から）



2. 4区 SI61・62・63竪穴建物跡（南から）



3. SI61・62竪穴建物跡（西から）



4. 5区上段全景（北から）



5. SI171竪穴建物跡周辺（北西から）

写真図版 9



1. SI61 穴建物跡（北から）



2. SI61 -複式炉（北東から）



3. SI61 - P1 剖面（西から）



4. SI61 - P2 剖面（北から）



5. SI61 - P5 剖面（西から）

写真図版 10



1. SI62C 壁穴建物跡（北から）



2. SI62A - 複式炉（西から）



3. SI62B - 複式炉（南から）



4. SI62C - 複式炉（南から）



5. SI62C - P8 断面（北西から）



6. SI62C - P9 断面（南西から）



7. SI62A 完掘状況（東から）

写真図版 11



1. SI63 壁穴建物跡完掘状況（南から）



2. SI63A -複式炉（北から）



3. SI63B -複式炉（南から）



4. SI63B -複式炉遺物出土状況（北西から）



5. SI63C 壁穴建物跡（南から）



7. SI63C -複式炉埋込み部土器出土状況（東から）



6. SI63C -複式炉（東から）



8. SI63C -複式炉土器埋設状況（南から）

写真図版 12



1. SI67 穴跡 (東から)



2. SI67 - 土器埋設炉 (西から)



3. SI67 - 土器埋設炉断ち割り (北から)



4. SI67 遺物出土状況 (東から)



5. SI67 完振状況 (西から)

写真図版 13



1. SI69A 穴建物跡完掘状況（西から）



2. SI69B - 複式炉（西から）



4. SI69 - P22 断面（南から）



5. SI69 - P11・P13 断面（東から）



3. SI69B - 複式炉埋設土器 1 断ち割り（東から）



6. SI69B - P5 断面（西から）

写真図版 14



1. SX70 壁穴状遺構（西から）



2. SX70 断面（西から）



3. SI71 壁穴建物跡（北から）



4. SI71 南西部周溝断面（北から）



5. SI71 北西部周溝断面（西から）



6. SI71 一複式炉（北西から）



7. SI71 一複式炉埋設土器（北東から）



8. SI71 - P2断面（西から）



9. SI71 - P1（南から）



1. SI72A 竪穴建物跡（南から）



2. SI72A -複式炉（南から）



3. SI72A 一複式炉断ち割り（西から）



4. SI72A 完掘状況（南東から）

写真図版 16



1. SI72B 積穴建物跡（西から）



2. SI72B 一複式炉（南から）



3. SI72B 一複式炉土器埋設状況（南から）



4. SI72B -炉 4（北から）



1. SI72C 堪穴建物跡（北西から）



2. SI2C - 炉（旧）（東から）



3. SI72C - 炉（新）（南から）



4. SI72C - 炉（新）埋設土器（南から）



5. SI72C - P10 断面（南から）

写真図版 18



1. SI73 穴穴建物跡発掘状況 (南から)



2. SI73 -複式炉 (南から)



3. SB243 振立柱建物跡 (南から)



5. SB243 -北西隅柱穴 (西から)



6. SB243 -北東隅柱穴 (西から)



4. SB243 建物跡と周辺のピット (南から)



7. SB243 -西側棟持柱 (西から)



1. 4区南東部全景 (南東から)



2. 4区南東部全景 (北西から)



3. SK76・77・78・79 (西から)



4. SK75 土坑 (東から)



5. SK76 土坑 (北から)



6. SK77 土坑縁出土状況 (東から)



7. SK79 土坑 (西から)



8. SK83 土坑 (西から)

写真図版 20



1. SK88・89・90・91・92 土坑 (南西から)



2. SK88 土坑 (南から)



3. SK89 土坑断面 (南から)



4. SK90 土坑 (南から)



5. SK92 土坑断面 (北から)



6. SK99 土坑 (東から)



7. SK95 土坑 (西から)



8. SK98 土坑断面 (南から)



1. SK85 土坑（西から）



2. SK86 土坑（南から）



3. SK202 土坑（南から）



4. SK203 土坑立石検出状況（北から）



5. SX70・87 穴状遺構と SK74 土坑（西から）



6. SX87 穴状遺構と SK74 土坑（西から）



7. SK66 土坑断面（南から）



8. SK68 土坑（北から）

写真図版 22



1. SK200 土坑遺物出土状況（南から）



2. SK209 土坑断面（北から）



3. SK210 土坑断面（北から）



4. SK211・212 土坑（北から）



5. SK214 土坑断面（北から）



6. SX236 焼土遺構遺物出土状況（南から）



7. SK242 土坑（南西から）



8. SK242 土坑遺物出土状況（西から）



1. SX65 遺物包含層・貝層 (南西から)



2. SX65 遺物集中1 (西から)



3. SX65 遺物集中2 (西から)



4. SX65 遺物集中3 (南西から)



5. SX65 貝層とベルト断面 (南から)

写真図版 24



1. 4区中央近世の墓跡検出状況（南東から）



2. ST201 墓群（南西から）



3. ST201 墓跡検出状況（北東から）



4. ST201 墓跡断面（東から）



5. 4区中央 SR215 炭窯跡（南東から）



6. SR215 煙道部分閉（南から）



7. SR215 煙道部断ち割り(南西から)



8. SR215 断面（西から）



1. 5区全景（北西から）



2. 5区全景（東から）



3. SK301 土坑（南東から）



4. SK301 土坑断ち割り（南から）

写真図版 26



1. SK302 土坑（西から）



2. SK304 土坑（北から）



3. SK303 土坑断面（西から）



4. SK303 断ち割り（南から）



5. SK321 土坑（東から）



6. SK321 土坑（東から）



7. SK322 土坑（南から）



8. SK322 土坑断ち割り（北から）



1. 1区東側調査状況（西から）



2. 1区 SK15 土坑調査風景（南東から）



3. 4区南検出作業風景（北西から）



4. 4区南土坑調査風景（南西から）



5. 4区 SI63B複式炉調査状況（南から）



6. 4区 SI63 雪の日の作業風景（北から）



7. 現地説明会風景（4区 SI61）



8. 現地説明会風景（4区 SK88～92）

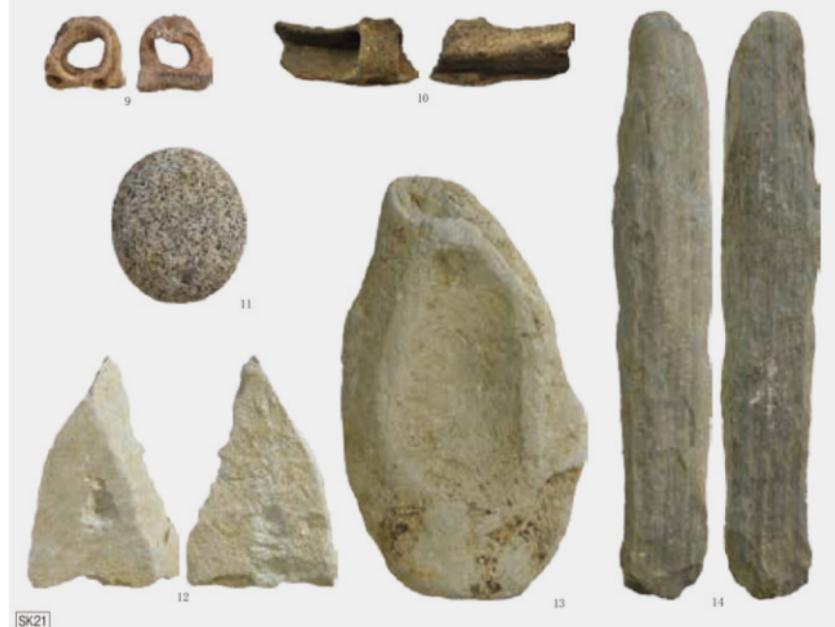
写真図版 28



写真図版 29 1区 SK01・02・07・13 土坑出土遺物



SK12



SK21

写真図版 30 1区 SK12・21 土坑出土遺物

(1 ~ 3・5 ~ 14 : S=1/3, 4 : S=2/3)



[SK15]

(1 ~ 6・9 ~ 14 : S=1/3, 7・8 : S=2/3, 15・16 : S=1/2)

写真図版 31 1 区 SK15 土坑出土遺物



SK24

(1 ~ 7 : S=1/3, 8・9 : S=2/3, 10 ~ 12 : S=1/2)

写真図版 32 1区 SK24 土坑出土遺物



SK24

1

2

3

4

6

7

8

5



9



10



11



12



13



14



15



16

SK22

(1 ~ 16 : S=1/3)

写真図版 33 1区 SK22・24 土坑出土遺物



写真図版 34 1区 SK25・29 土坑出土遺物

(1 ~ 5・9 ~ 18 : S=1/3, 6 ~ 8 : S=2/3)



(1 ~ 21・23 ~ 25 : S=1/3, 22 : S=2/3)

写真図版 35 1 区 SK35・36・38・43・57・58・59 土坑、遺構外出土遺物



(1 ~ 10 • 14 ~ 16 : S=1/3, 11 • 12 : S=2/3, 13 : S=1/2, 15b : 縮尺任意)

写真図版 36 2区 SI101・105 穫穴建物跡出土遺物



SX106



遺構外

(1・2・4～8・18: S=1/3, 3・9～17: S=2/3)

写真図版 37 2 区 SX106 自然流路跡、遺構外出土遺物



SX152



SB187

(1・4・5 : S=1/3, 2・3・6 ~ 13 : S=2/3)

写真図版 38 3区 SX152 竪穴状遺構、SB187 挖立柱建物跡出土遺物



(1 ~ 12 : S=2/3)

写真図版 39 3 区 SB187 捜立柱建物跡出土遺物



(1 ~ 6・8・9 : S=1/3, 7 : S=2/3)

写真図版 40 3区 SK154・156 土坑出土遺物



(1・3・4・6・7 : S=1/3, 2 : S=1/2, 5 : S=1/4)

写真図版 41 3区 SK155・156 土坑出土遺物



(1 ~ 3・5 ~ 9・11 ~ 16 : S=1/3, 4 : S=1/2, 10・17・18 : S=2/3)

写真図版 42 3区 SK158・159・160・164・166 土坑、遺構外出土遺物



SI61



SI62

(1 ~ 19 : S=1/3, 20 ~ 22 + 24 ~ 30 : S=2/3, 23 : S=1/2)

写真図版 43 4 区 SI61・62 竪穴建物跡出土遺物



写真図版 44 4 区 S162 積穴建物跡出土遺物

(1 ~ 11 : S=1/3)



(1 ~ 4 : S=1/3, 5 ~ 15 : S=2/3)

写真図版 45 4 区 S163 積穴建物跡出土遺物 (1)



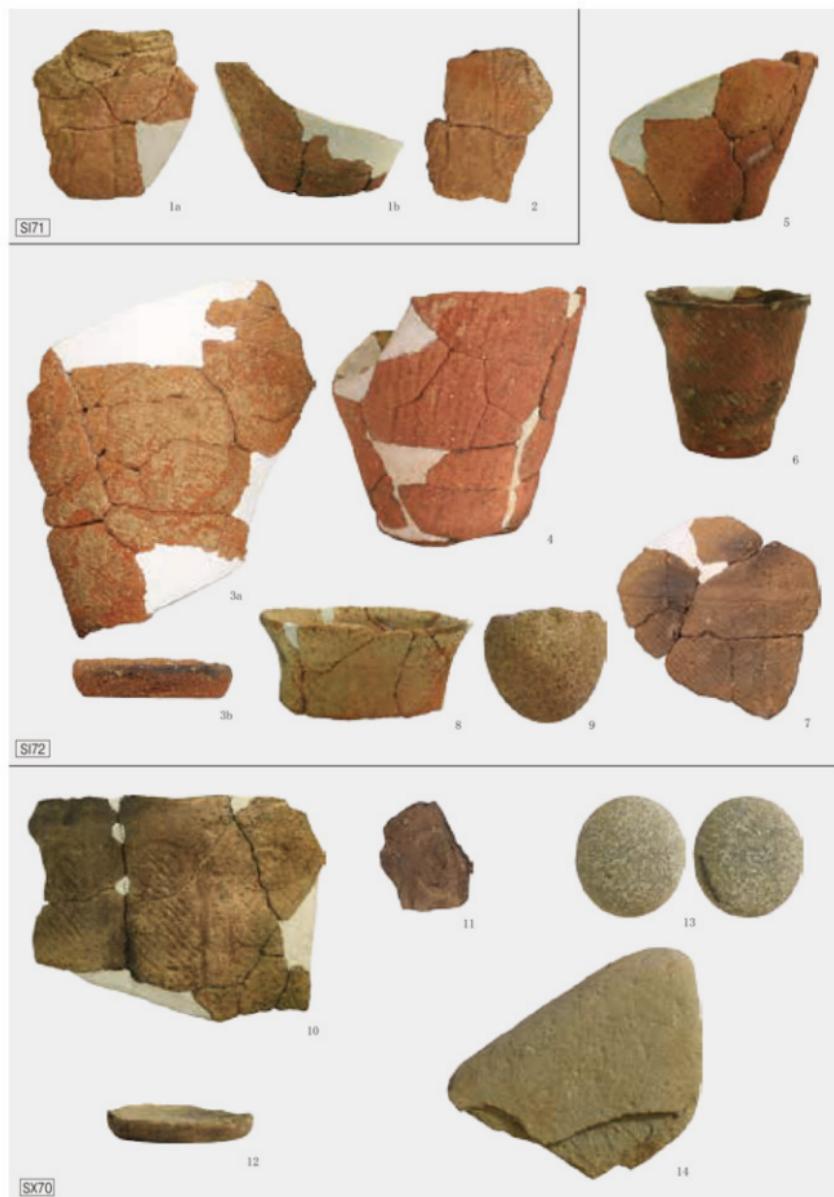
(1・2・8～10 : S=1/3, 3～7 : S=2/3)

写真図版 46 4 区 SI63 竪穴建物跡出土遺物 (2)



(1 ~ 8 • 12 ~ 18 : S=1/3, 9 • 10 : S=2/3, 11 : S=1/2)

写真図版 47 4 区 SI67 積穴建物跡出土遺物



(1 ~ 14 : S=1/3)

写真図版 48 4 区 S71・72 竪穴建物跡、SX70 竪穴状遺構出土遺物



SI69

SK78

(1・2・4～7:S=1/3, 3:S=2/3)

写真図版 49 4 区 SI69 竪穴建物跡、SK78 土坑出土遺物



写真図版 50 4区 SK75・77 土坑出土遺物

(1・2・4～8 : S=1/3, 3 : S=1/2, 9・10 : S=1/4)



写真図版 51 4区 SK76・79 土坑出土遺物

(1 ~ 12 : S=1/3)



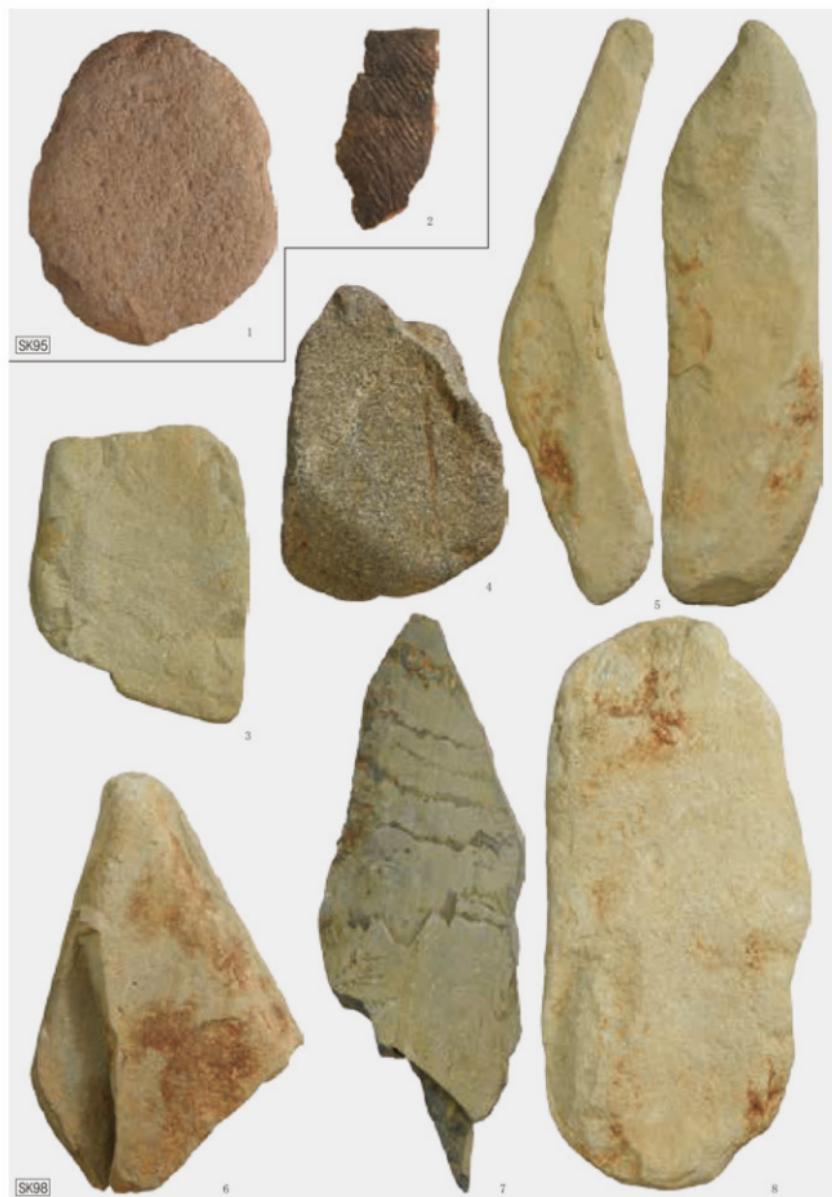
(1 ~ 15 : S=1/3)

写真図版 52 4 区 SK83・88・89・90・91 土坑出土遺物



(1・2・6 ~ 17 : S=1/3, 3・4 : S=2/3, 5 : S=1/2)

写真図版 53 4 区 SK85・92・99 土坑出土遺物



写真図版 54 4区 SK95・98 土坑出土遺物

(1 ~ 4 : S=1/3, 5 ~ 8 : S=1/5)



(1 ~ 3・7・8 : S=1/3, 4・6・9 : S=1/2, 5・10 : S=1/4)

写真図版 55 4区 SK200・202・203・206 土坑出土遺物



(1 ~ 4 • 6 ~ 9 • 12 • 13 : S=1/3, 5 • 10 • 11 : S=2/3, 14 • 15 : S=1/4)

写真図版 56 4区 SK66・211・242 土坑出土遺物



(1 ~ 11・13 ~ 16 : S=1/3, 12 : S=1/2)

写真図版 57 4 区 SK86・210・212・214 土坑、SX65 遺物包含層出土遺物



写真図版 58 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (1)

(1 ~ 7 : S=1/3)



(1 ~ 14 : S=1/3)

写真図版 59 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (2)



(1 ~ 15 : S=1/3)

写真図版 60 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (3)



(1・10: S=2/3, 2: S=1/2, 3～9・11・12: S=1/3)

写真図版 61 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (4)



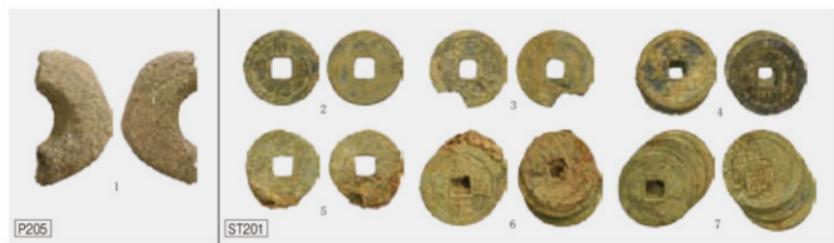
1: 小タテガイ、2: ミルクイ、3: マガキ、4: ウチムラサキ、5: オオノガイ、6: ハマグリ、7: オニアサリ、8: アサリ、

9: イガイ、10: ツメタガイ、11: スガイ、12: タマキビガイ、13: イシダタミガイ、14: エゾチヂミボラ、

15: オウヨウラクガイ、16: ヒザラガイ、17: フジツボ、18: クロダイ (前上顎骨)

(1・2: S=1/2, 3~18: S=2/3)

写真図版 62 4 区 SX65 遺物包含層出土遺物 (5)



写真図版 63-4 区その他の遺構、遺構外出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	だいのしたいせき					
書名	台の下遺跡					
副書名	防災移転促進事業・災害公営住宅整備事業（大沢A地区）に伴う発掘調査報告書					
シリーズ名	気仙沼市文化財調査報告書					
シリーズ番号	11					
編著者名	古田和誠・西村力					
編集機関	気仙沼市教育委員会					
所在地	〒988-8502 気仙沼市魚市場前1番1号 TEL 0226-22-3442					
発行年月日	西暦 2018年3月23日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	世界測地系	調査期間	調査面積	調査起因
台の下遺跡	気仙沼市 唐桑町 字台の下	04205	63009	38度 57分 47秒	141度 37分 37秒	(1~5区) 2013.07.22~ 2014.01.24
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
台の下遺跡	集落跡	縄文時代	堅穴建物跡16、掘立柱建物跡4、堅穴状造構3、焼土道構1、土坑80、溝跡1、遺物包含層・貝層1	縄文土器、土製品、石器、石製品、動物遺存体	中期後業～末葉の複式炉を伴う堅穴建物跡13軒。	
		平安時代	堅穴建物跡1	土師器、須恵器		
		中世	土坑	中世陶器		
		江戸時代以降	炭窯跡、墓跡	古銭、煙管		
要約	<p>台の下遺跡は、宮城県東部の三陸沿岸に位置し、広田湾を望む丘陵上に立地している。今回の調査では、縄文時代、平安時代、中世、江戸時代以降の遺構・遺物が検出された。</p> <p>縄文時代は、堅穴建物跡、掘立柱建物跡、堅穴状造構、焼土造構、貯蔵穴や落し穴を含む土坑、溝跡、遺物包含層・貝層を検出しており、前期～晚期の縄文土器、土製品、石器、石製品、動物遺存体が出土している。中期後葉～末葉には、堅穴建物跡15軒、掘立柱建物跡、貯蔵穴と考えられる土坑、遺物包含層・貝層1ヶ所などで構成される集落が形成されたことがわかった。堅穴建物跡は複式炉(正位・斜位土器埋設)、単式斜位土器埋設炉、石圓炉を伴うものがあり、炉の形態に多様性が認められる。貯蔵穴と考えられる土坑は群集しており、中期末葉～後期前葉に亘って構築されている。中期後葉の小規模な貝層は、遺跡周辺の磯浜で短期間のうちに採取したと考えられる貝類が一括廃棄されたものとみられる。後期中葉には堅穴建物跡1棟が発見されており、小規模な集落が形成されていたと考えられる。</p> <p>平安時代は、堅穴建物跡1棟を検出しており、墨書き土器を含むロクロ調整の土師器が出土している。中央で検出された炉は、鍛冶炉の可能性が考えられる。</p> <p>中世は、土坑を検出しており、中世陶器が出土している。また、近世以降は、炭窯跡、墓跡、金の採掘に関わるとみられる遺構を検出しており、墓跡から古銭や煙管が出土している。</p>					

気仙沼市文化財調査報告書第11集

台の下遺跡

防災集団移転促進事業・災害公営住宅整備事業  
(大沢A地区)に伴う発掘調査報告書1

発行日 2018年3月23日  
編集・発行 気仙沼市教育委員会  
宮城県気仙沼市魚市場前1番1号  
印 刷 双葉印刷株式会社  
宮城県気仙沼市内松川41-1